

私たちの

山旅

2015

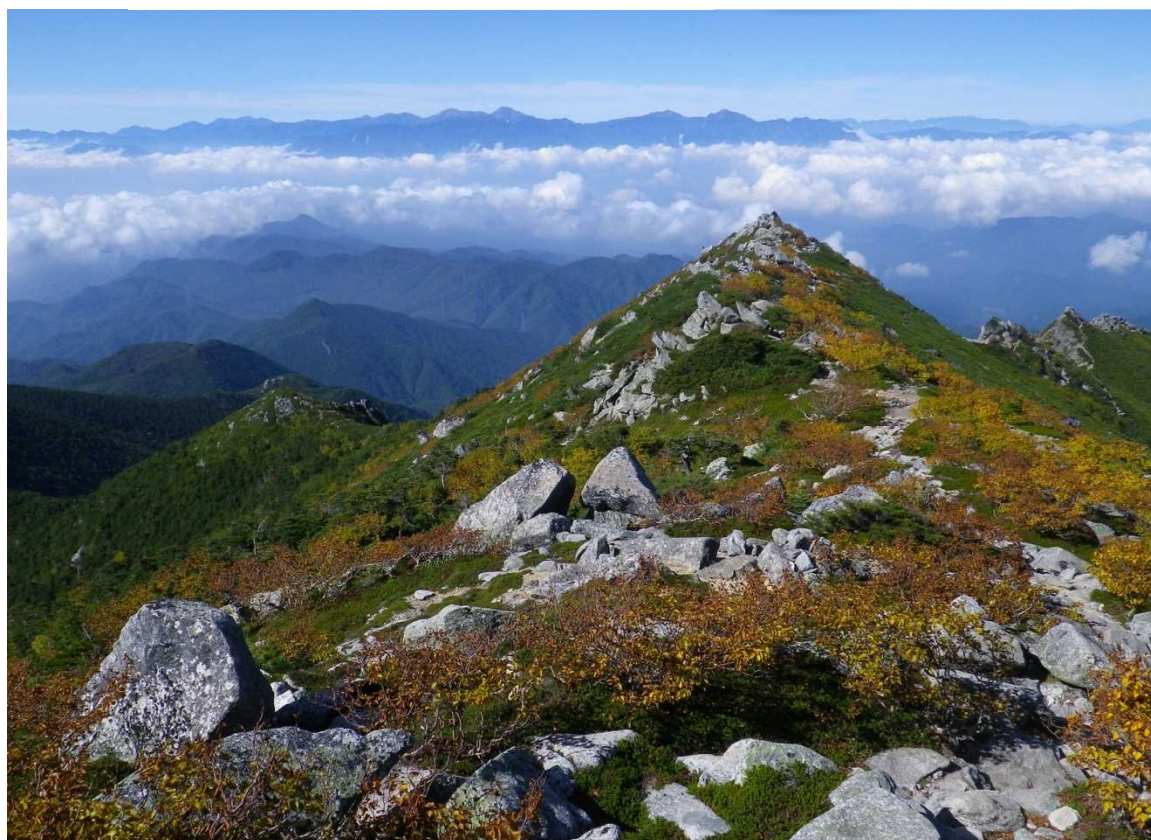
10.24



熊谷トレッキング同人

私たちの山旅

2015



金峰山から南アルプスを望む

no.24

熊谷トレッキング同人



竜ヶ岳(山梨県)



霧ヶ峰



葛根田川(岩手県)



北岳稜線より



秩父御岳山



大平山・秩父市浦山



インドヒマラヤ（上左右）



男体山と中禅寺湖とシロヤシオ



薬師岳（上下）



ヒナザクラ（秋田駒ヶ岳）



イワウチワ（坂戸山）



上:松手山

右:立山



日光白根山



大戸沢岳



白馬岳



四阿山

目 次

はじめに	6
------------	---

活動経過	7
------------	---

I 基礎講座

ミツバチとハチミツの話	菅谷 孝道 9
-------------------	---------

II 山行記録

《海外レッキング編》

2015 インドヒマラヤ 概略および記録	福田和宏 井上貴裕 15
----------------------------	--------------

《登山・ハイキング編》

愛鷹山	福田和宏 21
晩秋の金城山	福田和宏 22
新雪の蓬峠	宮田幸男 23
都県境尾根縦走	駒崎裕美 木村哲也 24
川苔山	新井浩二 25
秩父御岳山	高橋武子 26
総会記念ハイク竜ヶ岳	橋本健一 27
百蔵山	軽石昭夫 27
八ヶ岳、稲子湯から硫黄岳	山口文江 28
高柄山	新井浩二 29
大坊山 なべ山行	並木利夫 30
日だまりハイク 仏果山	須藤俊彦 軽石昭夫 31
霧ヶ峰・車山	高橋 仁 32
御荷鉾山	杉山千恵子 33
大平山	駒崎裕美 33
小川・東秩父 花めぐり	滝澤健次 34

谷川岳マチガ沢雪上訓練.....	橋本健一	35
高尾山、景信山.....	新井浩二	36
カタクリ探訪ハイク 武川岳.....	相澤健二	37
足尾植樹.....	堀 初子	38
石裂山.....	駒崎裕美	38
社山・黒檜岳.....	相澤健二 高橋武子	39
愛鷹連峰縦走.....	木村哲也	40
赤城・鈴ヶ岳.....	新井 勇	41
丹沢主脈縦走.....	新井浩二	42
御座山.....	高橋 仁	43
甲武信ヶ岳.....	駒崎裕美	44
八海山山麓 山菜山行.....	豊島千恵子	45
白神岳・森吉山.....	高橋 仁	45
乾徳山.....	橋本義彦	47
乳頭山・駒ヶ岳.....	新井浩二 駒崎裕美	48
礼文島・利尻山.....	花森正雪 黒澤 孝	49
四阿山.....	根岸啓介	51
至仏山.....	駒崎裕美	52
火打山～焼山縦走.....	駒崎裕美	52
苦土川井戸沢遡行.....	栗原聡子	54
南アルプス 北岳、間ノ岳、農鳥岳縦走.....	高橋 仁	55
南アルプス白峰三山縦走.....	宮田幸男	56
焼岳、西穂高岳.....	駒崎裕美	59

夏のアルプス薬師岳集中

A パーティー 薬師岳往復 先発組	相澤健二	59
B パーティー 立山室堂～薬師岳～双六岳縦走	浅見政人	61
雲ノ平～黒部五郎岳周回.....	木村哲也	62
黒部源流、奥の廊下遡行.....	栗原昌史	63
黒部五郎、野口五郎、高天原、雲ノ平	高橋 仁	65

笠ヶ岳、槍・穂高縦走.....	新井浩二 駒崎裕美	67
行くぜ東北! 葛根田川に癒やされる.....	浅見政人	69
火打山.....	須藤俊彦	70
鳳凰三山.....	駒崎裕美	72
有明山.....	新井浩二	72
奥秩父主脈縦走.....	高橋仁 駒崎裕美 木村哲也	73
二王子岳.....	新井浩二	76
秋のヘイズル沢遡行.....	栗原昌史	77
蓼科山・北横岳.....	駒崎裕美	78
きのこ・木の実山行	新井 勇	79
天狗原山・金山・雨飾山.....	橋本健一	80
白峰南嶺縦走.....	宮田幸男	80
鳳凰三山～早川尾根縦走.....	木村哲也 駒崎裕美	83
八海山.....	新井浩二	85

<個人山行記録>

西日本・九州を巡る山旅 2015.....	高橋 仁	86
屋久島宮之浦岳.....	山口文江	88
羅臼岳.....	石川邦彦	89
仙丈ヶ岳	菅谷孝道	90
風雨に見舞われた 唐松岳&五竜岳.....	金子元希	91
白毛門.....	相澤健二	92
聖岳、赤石岳、悪沢岳縦走	高橋 仁	93
上越朝日岳.....	宮田幸男	94

《山スキー編》

立山初滑り.....	宮田幸男	96
立山初滑り<2回目>.....	宮田幸男	97
西大嶺.....	福田和宏	98
小日向山.....	橋本健一	99
前武尊山.....	宮田幸男	100
西山イシゴネ沢.....	木下宏文	101

松手山.....	宮田幸男	102
忘年山行・鬼面山.....	宮田幸男	103
かぐら.....	大嶋 博	103
西山.....	栗原昌史	104
荷鞍山.....	宮田幸男	104
北東北遠征 秋田八幡平 後生掛温泉から国見台・梅森・焼山	栗原聡子 宮田幸男 石川邦彦 橋本義彦	105
2015 山スキー訓練・赤倉山.....		108
前武尊山.....	石川邦彦	114
日光白根山.....	宮田幸男	115
ニセコ遠征.....	豊島千恵子	115
草津白根山 石津硫黄鉱山跡ルート.....	宮田幸男	116
角間山.....	木村哲也	118
大戸沢岳.....	菅谷孝道	118
霊仙寺山.....	福田和宏	119
稲包山.....	宮田幸男	120
セバトノ頭.....	宮田幸男	122
博士山.....	菅谷孝道	123
小野岳.....	栗原聡子	124
県連山スキーネット 四阿山.....	木村哲也	125
佐渡山.....	福田和宏	127
妙高前山.....	新井浩二	127
蓬沢.....	宮田幸男	128
仙ノ倉山ダイコンオロシ沢.....	宮田幸男	129
浅草岳と坂戸山.....	新井浩二	130
鳥海山.....	栗原聡子	132
至仏山.....	花森正雪	133
秋田駒ヶ岳.....	駒崎裕美 高橋仁	134
GW 白馬岳周回.....	金子元希 橋本健一 栗原昌史	136
飯豊本山本社ノ沢.....	宮田幸男	139

<個人山行記録>

三国山.....	宮田幸男	142
伊吹山.....	林 貴志	142
森吉山.....	石川邦彦	144
宝川源流ナルミズ沢(大鳥帽子山・朝日岳).....	宮田幸男	144
蓬峠イイ沢、コマノカミ沢	宮田幸男	146
妙高山.....	宮田幸男	147
羊蹄山・積丹岳.....	石川邦彦	148
尾瀬・笠ヶ岳	宮田幸男	149
燧ヶ岳一筆書き.....	宮田幸男	150
乗鞍岳.....	宮田幸男	151
白馬岳.....	宮田幸男	152

[コラム・ コーヒータイム]

親子の挑戦.....	金子元希	14
熱く燃えた夏.....	宮田幸男	20
私の冒険小史.....	橋本義彦	54
趣味あれこれ.....	浅古 剛	95
福井の休日.....	青木 理	126
パリの街角で.....	菅谷孝道	141



はじめに

熊谷トレッキング同人

会 長 大 嶋 博

今年で会結成 18 年目になりました。10 周年事業は 10 年目と 11 年目にかけて、東京学芸大学の小泉武栄先生を迎えての記念講演と記念パーティー(2006 年 11 月 11 日)、故村越元会長 7 回忌法要インドヒマラヤトレッキング(2007 年 7 月 27 日～8 月 10 日)、熊谷から荒川を遡ろう(2006 年 4 月～2007 年 6 月)、熊谷から見える山を登ろう 30 座以上(2006 年 11 月～2007 年 9 月)、そして記念誌の発行(2008 年 12 月 10 日)等多彩な事業に取り組みました。今年の総会で 20 周年事業の具体的な取り組みを話し合いましょう。

ところで今年はいつもの八木橋デパートのオープンギャラリーで第 16 回同人写真展(4 月 9 日～14 日)を開催しました。出品数 37 点(出品者 27 名)で参観者は 510 名でした。海外トレッキングは 4 年ぶりに 2 名(福田・井上)がインドヒマラヤのチャンドラタールへ行きました。キナバル山トレッキングは残念ながら地震のために延期となりました。

また会の運営面では、自家用自動車山行管理規定の改正(ハイブリッド車の普及のため)と新規入会への対応について新しいルールを決めました。とくに後者については、会の存続発展にも関わることであり、今後もより良い方向に模索していきたいと思います。

わが会は約 60 名の会員と 30 才から 80 才代までの幅広い年齢層を擁しています。「より高く、より深く、より陰しく、より長く」のスローガンの下、海外トレッキング、ハイキング、山スキー、縦走登山、沢登り、雪山登山等多様な登山に取り組んでいます。これを保障する安全の確保とリーダー体制の強化が望まれます。いろいろと課題がありますが、みんなの知恵と協力で乗り越えて行きましょう。

お陰様で「手作りのヒマラヤ旅行」から数えて 24 集を刊行することが出来ました。この一年間の私たちの活動を一読して頂ければ幸いに思います。

同人の活動経過（2014. 12～2015. 11）

例会など		山 行	
2014年 12月	12/13～14 同人第19回総会 （旅館若富士）23名	12/ 5 西大巖山スキー	2名
		12/ 7 奥多摩川苔山	2名
		12/ 7 小日向山山スキー	4名
		12/ 7 秩父御岳山	15名
		12/ 14 記念ハイク・竜ヶ岳ハイキング	19名
		12/ 17 前武尊山スキー	2名
		12/ 20 尾瀬西山山スキー	4名
		12/ 21 富士展望・百蔵山	7名
		12/ 23 松手山山スキー	3名
		12/ 26 かぐら山スキー	3名
		12/ 28 ～29 南八ヶ岳硫黄岳	6名
		12/ 30 鬼面山山スキー	3名
2015年 1月	1/17 第1回例会 36名 学習：「ビーコン机上講習」 講師：木下	1/ 3 尾瀬西山山スキー	4名
		1/ 4 かぐら山スキー	2名
		1/ 4 黒姫山山スキー	3名
		1/ 6 尾瀬荷鞍山山スキー	2名
		1/ 10 ～12 秋田八幡平山スキー	14名
		1/ 12 足利大坊山	2名
		1/ 18 妙高赤倉山・雪崩ビーコン訓練	14名
		1/ 23 前武尊山スキー	2名
		1/ 24 高柄山	2名
		1/ 25 大坊山鍋ハイク	12名
		1/ 25 日光白根山山スキー	2名
		1/ 30 ～2 ニセコ遠征山スキー	5名
		2/ 1 草津白根山山スキー	3名
		2/ 7 角間山山スキー	3名
		2/ 7 大戸沢岳山スキー	4名
		2/ 11 霊仙寺山山スキー	5名
		2/ 11 丹沢仏果山	18+2名
		2/ 14 稲包山山スキー	2名
2月		2/ 21 セバトノ頭山スキー	2名
		2/ 28 ～1 博士山&小野岳山スキー	4名
		2/ 28 ～1 初級冬山・霧ヶ峰	13名
		2/ 8 県連山スキーネット 四阿山	14+5名
		3/ 12 佐渡山山スキー	2名
		3/ 15 御荷鉾山	11名
		3/ 15 妙高前山山スキー	3名
		3/ 15 蓬沢山スキー	3名
		3/ 21 大平山	2名
		3/ 21 仙ノ倉山ダイコンオロシ沢山スキー	3名
3月	3/7 第2回例会 35名 学習：「一人ひと企画をす めよう」 講師：木村	3/ 31 小川、東秩父 花めぐり	9名
		3/ 8 県連山スキーネット 四阿山	14+5名
		3/ 12 佐渡山山スキー	2名
		3/ 15 御荷鉾山	11名
		3/ 15 妙高前山山スキー	3名
		3/ 15 蓬沢山スキー	3名
4月	4/4 第3回例会 27名 学習：「雪山机上講習会」 講師：浅見 4/9～14 第16回写真展 来場者 510名	4/ 5 谷川岳マチガ沢雪上訓練	12名
		4/ 12 高尾山	2名
		4/ 12 平標山山スキー	4+2名
		4/ 18 武川岳カタクリ探訪ハイク	10名
		4/ 18 ～19 越後坂戸山カタクリハイク&浅草岳山スキー	6名
		4/ 18 ～19 鳥海山山スキー	5+1名
		4/ 25 至仏山山スキー	4名
		4/ 26 足尾植樹祭&吾妻山	7名
		4/ 26 石破山	2名
		2/ 1 県連ハイキング委員 会講演会 木村	3名
		2/4 公民館団体説明会 瀧澤	
		2/26 県連理事会 木村	
		2/26 県連北部ブロック 石川	
3月		3/16 県連救助隊総会 木村	
		3/25 県連理事会 木村	
		3/29 県連第47回定期総会 大嶋・石川・木村	
		4/22 県連理事会 木村	

例会など		山 行	
5月	5/9 第4回例会 30+3名 学習：「ミツバチ」 講師：菅谷	5/ 2 ～5 秋田駒ヶ岳&乳頭山山スキー・ハイク 9名 5/ 2 ～5 白馬岳、雪倉岳山スキー 6名 5/ 17 日光・杜山、黒檜岳 8名 5/ 17 飯豊本山本社ノ沢山スキー 3+3名 5/ 23 愛鷹連峰縦走 3名 5/ 23 ～24 立山山スキー 2名 5/ 24 赤城・鈴ヶ岳 8名 5/ 30 ～31 丹沢縦走 2名	5/30 県連理事会 木村
6月	6/13 第5回例会 27+1名 学習：「山菜を食べる」 講師：橋本 義	6/ 1 御座山（おぐらさん） 2名 6/ 7 北部クーンハク・長瀬金ヶ嶽 16名 6/ 7 甲武信岳 2名 6/ 10 山菜山行・八海山山麓 12名 6/ 26 ～28 白神岳、森吉山 12名	6/21 県連遭難防安教会議 &評議会 木村 6/24 県連理事会 木村
7月	7/11 第6回例会 25+2名 学習：「ロープワーク講習」 講師：木下	7/ 4 乾徳山 5名 7/ 4 ～5 乳頭山、秋田駒ヶ岳 2名 7/ 10 ～13 利尻山 5名 7/ 12 大菩薩小菅谷本谷沢登り（中止） 7/ 19 至仏山 3名 7/ 19 四阿山 10名 7/ 25 ～26 火打山～焼山縦走 2名 7/ 26 苦土川井戸沢遡行 3名 7/ 26 ～28 白峰三山縦走 2名	7/29 県連理事会 木村
		8/ 1 ～2 焼岳、西穂高岳 2名 8/ 1 ～2 白峰三山縦走 2名 8/ 2 武甲山 3名 8/ 6 ～10 夏のアルプス・薬師岳集中 12名 8/ 7 ～9 黒部源流奥ノ廊下 2名 8/ 12 ～16 笠ヶ岳～槍・穂高縦走 3名 8/ 14 赤城山長七郎山（下見） 1名 8/ 21 ～23 葛根田川沢登り 5名 8/ 22 鳳凰三山 2名 8/ 22 ～23 火打山 10名 8/ 23 ～24 上高地徳沢テント泊トレーニング（中止）	8/26 県連理事会
9月	9/5 第7回例会 29+2名 学習：「百名山一人旅・西日本編 &北海道編」 講師：高橋 仁、石川	9/ 12 有明山 2名 9/ 16 ～26 インドヒマラヤチャンドラタールトレッキング 2名 9/ 19 ～23 奥秩父主脈縦走 3名 9/ 19 ～20 二王子岳 3名 9/ 21 ～22 奥利根ヘイブル沢 4名 9/ 27 蓼科山、北横岳 2名 9/ 28 キノコ山行 9名	9/30 県連理事会 木村
10月	10/3 第8回例会 30+2名 学習：「屋久島の自然と 人々」 講師：秋又AL 殿塚 明	10/ 4 天狗原、雨飾山周回 5名 10/ 10 ～12 鳳凰三山～早川尾根縦走 2名 10/ 10 ～12 白峰南嶺縦走 2名 10/ 18 八海山 2名 10/ 24 ～25 苗場山赤湯温泉 4名 10/ 25 岩菅山 8名 10/ 25 黒姫山 2名	10/28 県連理事会 木村
11月	11/7 第9回例会 32+2名 学習：「事故対応とヘリコプ ター救助」 講師：宮田	11/ 1 御正体山 4名 11/ 1 赤城山 12名 11/ 14 奥多摩・大岳山（中止） 11/ 21 ～23 立山初滑り① 5名 11/ 22 三頭山～笹山 4名 11/ 28 ～29 立山初滑り② 4名	11/29 県連海外委員会交 流会 11/29 安全登山講演会
12月	12/12～13 同人第19回総会 (河口湖温泉 旅館若富士)	12/ 13 記念ハイク鉄砲木ノ頭ハイキング	

I 基礎講座

ミツバチと

ハチミツの話

菅谷 孝道

この文章は 2015 年 5 月 9 日例会での講演を文章化し、その後補足したものです。

<はじめに>

今日はミツバチとハチミツについて山行との関係も考えながら話をしたいと思います。

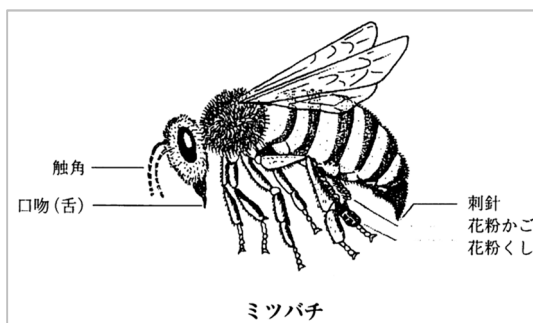
私はハチミツ屋に勤めています。会社は創業 48 年、現在年商およそ 9 億円程度です。ハチミツを主とする蜂産品や健康食品の生産と販売をしています。採蜜地は世界各地ですが、ハチミツはすべて熊谷工場で充填生産しています。通信販売、店舗販売、インターネット販売の小売業のほか、学校給食や物流業への卸販売などの扱いがあります。近年、日本国内のハチミツ供給量は 90% 以上が外国産で、そのうち約 80% は中国産です。残りはアルゼンチン、カナダ、ニュージーランド等々です。中国は国土が広いので、北東部からモンゴル、山東省や河南省をはじめ長江以南の南部でも採蜜しています。約 20 年前に日本企業としてはいち早く、中国産蜂蜜を信頼の置けるシステムで生産するために、山東省に自社工場を造りました。その時中国語と英語が出来る人間を捜していたところ、北京の大学に留学経験のあった私に就職の話が来たのが入社のきっかけでした。当初は現地工場に行ったり、中国の産地をめぐるたりと中国と日本を行き来する仕事をしていましたが、現在は国内の小売事業部で 14 店舗を統括する責任者をしています。

<ミツバチについて>

まずミツバチの話から始めます。山行中に見か

けるミツバチは、マルハナバチかセイヨウオオマルハナバチだろうと思います。尻が丸くて長い毛が沢山あって、黒い。このミツバチはトマトやナスの交配のために輸入したものが、ビニールハウスから逃げ出して繁殖、野生化したものといわれています。普段は穏やかで土の中に巣を作ります。滅多に人を刺すことは無いようです。しかし巣が襲われると攻撃的になります。

ハチミツを採るために飼育されているミツバチは、ニホンミツバチとセイヨウミツバチです。ニホンミツバチは『日本書紀』によれば西暦 600 年代推古天皇の時代に百済大使が日本に持ち込んだと言われていますが、気まぐれで、少し気が荒くて飼育が難しいと考えられています。里山などで太い丸太をくり抜いて逆さにして飼育しますが、気が付くと知らないうちにどこかに引越してしていなくなってしまう事も多いです。スズメバチに対しては強くて、集団で立ち向かい、多数で取り囲んで身体が出す熱で熱殺してしまいます。ところがハチミツの収穫は多収ではありません。



セイヨウミツバチは、おとなしくて、よく働き多収です。特にアフリカ・イタリアン種が有名です。およそ 2 千万年前に生まれて、古くから人に飼われて、2000 年以上前の古代エジプト文明の文献にも登場しています。昔から人はハチミツを貨幣として使用していたようですから、その糖度の高さは大切な稀少価値だったと思われます。

日本に導入されたのは、明治時代にアメリカから養蜂業のミツバチとしてだったと言われています。

普通見るミツバチの巣箱には約 10 枚の巣枠が入っていて、2 万から 5 万匹のミツバチが暮らしています。ミツバチは巣枠にあらかじめ用意された人工の巣礎の上に、自らミツロウを分泌して六角形の巣穴をたくさん作ります。そこにハチミツをためこんで、卵を産み、幼虫を育てています。

なぜ蜂の巣は六角形なのか。限られたスペースの中で出来るだけ多くの幼虫を育て蜜を貯めるには六角形がもっとも合理的です。また沢山蜜を貯めるためには巣に強度も必要です。六角形の巣は強度の点でも最も優れています。初めて巣箱にミツバチの集団を入れる時には、巣箱に少し蜜や液糖を入れておきます。ミツバチはこれを食料としながら、外から花蜜と花粉を採集してきて、次第にコロニーを大きくしていきます。

ニュージーランドに行くと、ミツバチの巣箱が 5 段、6 段と重ねられているのを見ます。これは最下部の巣箱が幼虫を育てるエリア、上の段が蜜を貯め込む部分になっています。

巣箱の中には、役割によって以下のようなミツバチがいます。

① 女王蜂 1コロニーに 1 匹だけいます。生まれは働き蜂と同じ卵ですが、ローヤルゼリーを与え続けると女王蜂に成長します。女王蜂は 1 回交尾ただけで、1 日に 1, 000~1, 500 個の卵、一夏におよそ 20 万個の卵を産みます。女王蜂は身体も大きいし、寿命も 4, 5 年と長いです。

② 働き蜂 みんな雌蜂です。幼虫には餌としてローヤルゼリー食べさせますが、これを途中でやめて花粉やハチミツを与えると働き蜂になります。若い個体は、最初は卵の世話、巣の中で蜜の受け渡しなどをして、後には花蜜を集めたりしますが、羽がすり切れても補修・再生することはありません。

寿命は 1~6 ヶ月とされています。

③ 飼育蜂 若い働き蜂が卵や幼虫の飼育の仕事を行います。幼虫には若い蜂が頭の部分（下咽頭腺）から分泌するローヤルゼリーを食べさせます。

④ 建設蜂 腹部のワックス腺からミツロウを出して口でこねて巣を作ります。

⑤ 掃除蜂

⑥ 兵隊蜂

⑦ 女王の世話蜂 幼虫にローヤルゼリーを与え続けると女王蜂になります。成虫になった女王蜂にはローヤルゼリーを与え続けます。

これまでが全部雌蜂です。様々な役割分担は羽化した月齢で決まると考えられています。

⑧ 雄蜂 秋頃生まれて巣箱の中で冬越しをして、春になったら 5 月頃女王蜂と交尾します。交尾することだけが役割で、寿命は数ヶ月と考えられます。英語でドローンといいます。

これらの役割を持った 2 万から 5 万匹ものミツバチが、指示を出す司令塔もないのに超個体として整然と役割を果たしながら、卵を育て、ハチミツを貯めて、コロニーを成長させて行くのです。

コロニーが十分に成長して巣箱が手狭になると、5 月頃新しい女王蜂が生まれて、古い女王蜂は巣の外に出ます。この時 2 万~3 万 5 千匹の働き蜂と一緒に巣から出て女王と行動を共にします。これを「分蜂（分封）」と言います。沢山の蜂が丸く固まりになって樹の枝などにぶら下がっていることがあります。養蜂家はこの集団をいち早く捕獲して、新しい巣箱に収容します。この時ミツバチたちは 10 日程度生きられるほどの蜜を体内の袋（蜜胃）に入れて巣立つそうです。従って分蜂後 10 日以内に新しい巣に収納してやる必要があります。新しい

巣箱にはハチミツや液糖を少し入れてやると、ミツバチたちはこれを食料にして蜜を集める仕事を再開して、コロニーを大きく育てていきます。

普通は蜂場に巣箱を 5~10 箱、多いときには 100 箱以上も並べておきますが、蜂は自分の巣箱を間違えることはありません。ただ花蜜が少ないときなどには、隣の巣箱に入って、蜜を盗むということがあるそうです。

ミツバチが花蜜を採取して巣に戻ると、入口で待ちかまえている「受け渡し蜂」に口移しで蜜を渡します。受け渡し蜂は蜜を巣穴に貯め込みます。ミツバチはこのあと入口で「8 の字ダンス」をして、花の方角、距離を他の蜂に伝えます。すると他の蜂もこの情報をもとに花に殺到します。蜜の量が多く質も良いと、ミツバチが頻繁に巣に戻って、入口は大混乱になりますが、この様子を感じ取って、飼育蜂などが急遽「採蜜蜂」に変身して、外界に出て花をめざします。

花も不思議なもので、周りの花が蜜を出さない時にはあまり蜜を出さず、周りの花が沢山流蜜する時期には沢山流蜜するのだそうです。そうして沢山のミツバチに蜜を提供して受粉を助けて貰うということでしょうか。自然はうまくできています。

＜CCD（蜂群崩壊症候群）＞

最近、各地で巣箱のミツバチが消えてしまうという奇妙な事件が起きています。このような現象を「CCD」と呼んでいます。CCDは『ハチはなぜ大量死したのか』（注）によれば 2005 年 1 月のアメリカ・テキサスで最初に報告されています。現在は北米各地、ヨーロッパ、日本にも広がっています。原因について様々な意見がありますが、①農薬原因説 ②感染症説 ③電磁波原因説 ④遺伝子組み換え植物説 ⑤ミツバチ多忙・ストレス説などがあります。

農薬について言えば、ネオニコチノイド系の農薬は種子を浸して蒔くと、植物体全体に殺虫効果が生

まれて、害虫が付きにくくなります。このような植物の蜜を吸ったミツバチが、神経系をやられて方向感覚を失って巣に帰れなくなっているのではないかと言うのです。特に日本は農薬の許容量が大変ゆるい国です。

原因は特定できていませんが、上記の要素が複合的に重なって原因をつくっているという考えが有力です。

セイヨウミツバチがいなくなったら、部分的には自然界の他のハチが代用するでしょうが、セイヨウミツバチに交配を頼っている農業分野では大きな影響が出るのが考えられます。原因はいずれも人間起因、商業的農業起因ですから、社会のあり方、農業のあり方を考え直すことも大切です。

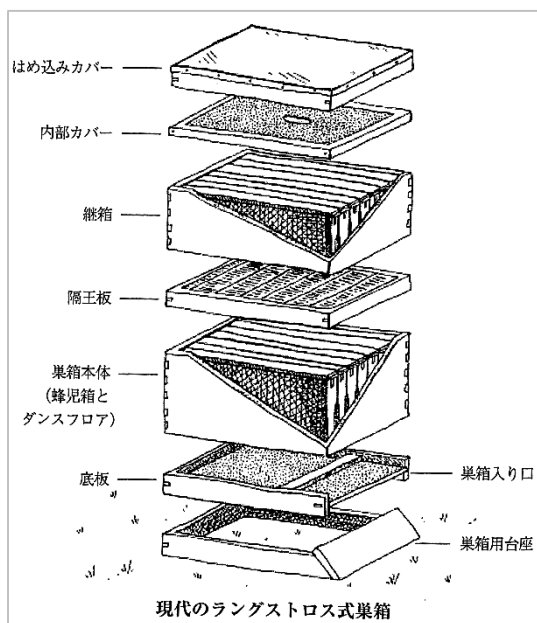
注：『ハチはなぜ大量死したのか』ローワン・ジェイコブセン著 文藝春秋社 2009 年 1 月 30 日刊 最近ハヤカワ文庫で文庫版が出ています。

＜ハチミツについて＞

ハチミツの話をする前に、ミツバチの巣枠を見てください。空の巣枠はこのように人工の板（巣礎）がはめられていて、ハチが巣を作りやすいようにへこみが付いています。ここにミツバチがお腹のワックス腺から分泌したミツロウを口元でこねて巣を作ります。巣穴の形は六角形です。これがもっとも無駄のない形だと言われています。

一方こちらは実際にミツバチが蜜を貯めた巣枠です。空のものに比べてずっしりと重いです。蜜がたれないようにラップでおおっています。廻して見て貰いますが、嘗めないで下さい（笑）。ミツバチが貯めた蜜＝ハチミツは、花の蜜＝花蜜とは違います。ミツバチが花蜜を自分の体内の袋に吸い込んで、消化した物をハチミツと言います。巣に貯め込む過程、貯蔵している期間に蜜の水分も蒸発して、糖度も高くなっています。日本では、ハチミツは水分量が 18~21% あるものと決められています。

では、実際にハチミツを試食してみましょう。最初は①シロツメグサ（クローバー）のハチミツ、ニュージーランド産です。



次は②アカシアのハチミツ、中国産です。

なぜクローバー、アカシアの蜜と分かるのかというと、養蜂家が巣箱をおいた場所と時期で判断します。また花粉量でも分かります。ニュージーランドでは、ある時期見渡す限りクローバーの花が咲いている牧場があるし、中国にはどこまでもアカシアの花が咲いている森があるのです。だからそう言えます。中国でもアカシアにわざわざ農薬を撒きませんから安全です。混ぜ物をしていない純粋なものです。

次に③熊谷産のハチミツを味わってください。ナタネの菜の花、レンゲソウ、ミカンの花の時期のものです。熊谷周辺には他にも色々な花が咲いていて、何の花の蜜か特定しにくいので、「百花蜜」と言っています。

次は④グレードの高いアカシアのハチミツ、中国産です。アカシアの花が最盛期のもので純度が高いハチミツです。

次は再び⑤アカシアのハチミツで色の薄い、水分量の高いハチミツです。

これまで色々なハチミツを味わってもらいましたが、それぞれ味、香り、色の違いがあるのがわかりいただけたかと思います。一さじ食べただけで、何のハチミツか判別することが出来る熟練の養蜂家もいるようです。

次にローヤルゼリーを味わってください。これは少々高価なものなので、みなさんに試食して頂くのは、耳かき程度の量になります（笑）。ローヤルゼリーはハチミツと違い甘くはありません。ちょうどヨーグルトが腐ったような匂いがします。お店では30gで3000円程度します。ローヤルゼリーは、そのアミノ酸が身体に良いと言われていて、古代から珍重されてきました。今回の試食だけでは頭髪が生えて来るかどうかは分かりません（笑）。単純計算ですが、一群に一匹の女王蜂がいて、200～300mg作りますから、採蜜用の巣では1gのローヤルゼリーを作るのに約15万匹のミツバチが働いていると言われています。

ではローヤルゼリーをどう作るのか。巣箱の台座に女王蜂用の大きめの筒状の台、王台を人工的に作っておきます。ミツバチはその上に大きめの巣を作って女王になる卵を生み付けます。そしてその巣に働き蜂はローヤルゼリーを補給しつづけます。時期を見計らって養蜂家は人工王台の中の女王蜂の幼虫を取り除いて、ここにたまったローヤルゼリーを耳かきみたいなスプーンで採取するのです。ローヤルゼリー生産用の巣箱には人口王台を複数入れますが、それでも1つの王台からは少量しか採れません。そのうえ生で扱うのはなかなか難しいのです。今ではこのような手間のかかる作業は日本国内では行われず、全て外国産です。

＜山でスズメバチに刺されないために＞

蜂の活動期間は春から秋にかけての温暖な時期ですが、私たちが特に注意しなければならないのは、8月から10月にかけての蜂の攻撃性が高ま

る季節です。厚生労働省の調べでは年間およそ 20 人の方が蜂刺されにより亡くなっています。8 月をピークに発生し、山や森、農場での事故が多く報告されています。一般には体の大きいスズメバチやアシナガバチに刺されることにより、蜂毒アレルギーで起こるアナフェラキシーショックによるものです。

この時期は登山で人気の季節ですが、スズメバチなどの危険な生き物に遭遇するリスクも高くなる時期です。蜂や巣に近づかない事が一番の防御策ですが、登山道で知らずに蜂の巣に近づいていることがあるかもしれません。蜂は巣を守るために外敵を攻撃する習性があるので、巣に近づいただけでも危険です。中でも特に凶暴で毒性の強いスズメバチは森の木の上だけでなく、地面や木の根の組み重なった空洞などにも巣を作るので、足元にも注意が必要です。休憩で腰を下ろした岩の下や樹の切り株周辺なども同様です。巣の周りには必ず数匹の偵察蜂がいるので、人や動物が近づくと、カチカチと特有の音を鳴らしながら威嚇してきます。スズメバチがいるのを見たら、とにかく近づかないでその場からそっと静かに立ち去ることが一番重要です。

白っぽい服装をして、黒い物は持たず、においのある整髪料や香水、化粧品などはなるべく避け、甘い香りのする物や花柄の物も身に着けず、肌の露出も避けることが望ましいと言われています。蜂毒は匂いがバナナに似ていると言われていますから、バナナを食べながら蜂に近づくのは危険です。そして注意していても一度スズメバチに外敵とみなされてしまうと、どんな服装をしていても手遅れです。顔や首、頭をめがけて蜂毒を噴射しながら攻撃してくるので、とにかく急いでその場から退散することが重要です。怖くなって手で振り払うと余計に蜂を刺激してしまいます。噴射してくる毒液が目に入っても危険です。頭を低くして、声を荒げず、速やかに逃げることです。もたもたしていると噴射した毒液に含まれるホルモンのにおいを嗅ぎ付け、仲間の蜂がたくさん集まって来て大変な事になります。

す。

そうはいつでも刺されてしまったらどうすれば良いのでしょうか。やはり直ちに最寄りの医療機関を受診し、医師による適切な処置と治療を受けることが基本です。ところが登山中の場合、そう簡単に下山することが出来ない状況も多いです。一般に蜂毒アレルギーによるアナフェラキシーの症状が発生して心停止が起こるまでの時間は、10 分から 15 分といわれています。もしも自身に蜂毒アレルギーがあり、今回刺されるのが二回目だったらもう手遅れなののでしょうか。最悪死んでしまうのか…。

蜂に刺された場合に、蜂毒アレルギーがなければ、刺された箇所に軽い痛みやかゆみ、腫れなどの局所症状が起こり数日で消えていきます。二回目以降も初回と同様の局所症状が前回より少し強めに現れます。ところが、二回目以降に蜂毒アレルギーを持つようになる可能性もあるようです。そして蜂毒アレルギーを持つ人が二回目以降刺された場合、8~9 割で一回目と同様の局所症状が前回より少し強めに現れます。そしてそのうちのおよそ 10% の方にアナフェラキシーの症状が起こり、このうち、さらに数パーセントの人が急激な血圧低下や意識障害を起こし、生死に関わるような危険なショック状態であるアナフェラキシーショックに陥ると言われています。アナフェラキシーの症状は、全身性の蕁麻疹などの皮膚症状、嘔吐、浮腫、息苦しさ、呼吸困難、血圧低下などがあります。これらの症状が刺されてから 30 分以内に複数発症していればアナフェラキシーの疑いがあり、ショック状態に陥ってしまう前に適切な処置が必要だということです。

蜂に刺された場合は、まず傷口を流水で洗い、ポイズンリムーバーなどで毒を絞り出します。そして傷口に抗ヒスタミン系成分を含むステロイド系軟膏を塗り、傷口を冷やして安静にするのが一般的な応急処置です。おしっこをかけると良いと聞いたことがあります。これは俗説らしく効果は無いようです。蜂毒はタンパク質であり、尿の中のアンモ

ニアでも中和できないことが現代では分かっています。これらは前提として、もしもアナフェラキシーの症状が発生した場合、エピペン（アドレナリン自己注射薬）を太ももの前外側に注射して、救急車（救助ヘリ）を呼び、嘔吐物等で窒息しないよう顔を横に向けショック体位にし、安静にして救助を待つことです。

蜂毒アレルギーの有無については血液検査や皮膚検査で調べることが出来るので、最寄りの医療機関で確認してみると良いと思います。医師の診断で蜂毒アレルギーと分かれば、アナフェラキシー

ショックの症状を緩和する緊急時の補助治療剤としてエピペンを処方してくれるようです。心配でしたら事前に確認しておくことをお勧めします。

初めて蜂に刺された場合でもアナフェラキシーショックになる場合もあれば、複数回刺されてもならない場合もあるようです。常に蜂は集団で襲ってきます。特にスズメバチは毒針が抜け落ちるミツバチと違い、獐猛で一匹が一度に何か所も刺すのでより注意が必要です。刺されてからの短時間でパニックに陥らないためにも、事前にこれらのリスク管理をしておくことも重要なかもしれません。



コーヒータイム

親子の挑戦

金子元希

10月下旬、帰宅してテーブルを見ると、小学校で実施した「体力・運動能力調査」の結果が置かれていた。「スポーツテスト」として知られるもので、50メートル走やボール投げ、反復横跳びなど8種目ある。

小学4年の息子は5段階で真ん中のC評価。普段の振る舞いからは妥当だろう。小1の娘は最高のA。全国平均との比較では、偏差値71という。短距離走はクラスの女子でトップ。一部の種目は兄と同等か上回っていた。

そんな2人とよく山に出掛けている。今年は岩場歩きを目標にした。娘は身のこなしが軽く、何より怖がらない。息子が慎重に足場を探すなか、背の低い娘がスイスイと歩いていた。

秩父・両神山のトレーニングに続いて、7月末に鹿島槍ヶ岳を歩いた。扇沢からの縦走路を使ったが、快晴に恵まれたので南峰から先の吊尾根を少し歩いてみた。子どもは5ミリ・5メートルの補助ロープで確保した。

親子の力量が問われたのは、8月半ばに1泊で歩いた唐松岳・五竜岳だ。唐松から五竜に至る稜線の岩場が子どもには難所と踏んだ。8ミリ・20メートルの補助ロープを新調し、息子には大人用のクライミング用ヘルメット、娘には自転車用のヘルメットをかぶらせた。トラバース中心でロープ

に頼る場面はなかったが、度胸の差は出た。泊まった五竜山荘で、小1の娘を連れた家族に出会った。彼らは2泊の日程で、八方から1日で歩いたことに驚かれた。

翌朝は大雨だった。風も強い。標高2500メートルから、吹きさらしの遠見尾根を下らなければならない。スマホで気象庁サイトを見て雨が小康状態になる時間帯を待ち、一気に下山した。幸いにして、事故なく歩き通した

調子に乗り、娘とは新潟・八海山にも挑んだ。雨が降り、一緒に同行した大人2人も怖がるハツ峰だった。完全に鎖に頼る場所が連続したため、さすがに筋力の面から6歳には厳しく、引っ張り上げることや完全にロープに体重を預けさせることもあった。

思いのほか岩場に時間がかかり、下山に使うロープウェイの営業終了時刻が迫ってしまった。コースタイムを大幅に縮めて駆け下りたが、最後まで父親から離れずに歩き通した。

我が家には携帯ゲームもコンピューターゲームもない。その代わりになるのかはわからないが、夏は山に、冬はスキーにと自然に連れ出す機会が多い。トータルを経費的には、ゲーム機代を上回るだろう。10月、燧ヶ岳の山頂に立ったとき、娘に「2年前にここ（尾瀬ヶ原）を歩いたことを覚えている？」と聞いてみた。「覚えていない」と言われてしまった。でも、そんな投資が将来につながってほしい。次は穂高岳を見据えている。

Ⅱ 山行記録

＜海外トレッキング編＞

2015 インドヒマラヤ

概略

福田和宏

5年ぶりにインドに行ってきました。村越先生のケルンに詣でるのは、7年ぶりになります。チャンドラタールの美しさは、以前のままでした。自然ではなく私たちの手によってつくられたケルンは、この7年の時の流れの中で風化しつつありましたが、チャンドラタールを見おろす丘の上にその痕跡をしっかりと残してくれていました。形ある物はいつかは消えて無くなるのがさだめなのかもしれません。いつの日か自然に戻るときがくるでしょうが、未永く有り続けて欲しい。そう強く願って、これからもこの地に立ち続けたい。そう思っています。

今回は、井上くんがつきあってくれました。7年前は金子くんと共に新聞記事を持ってケルンを訪れました。村越先生がお亡くなりになったのが2002年の2月。その年に、たくさんの仲間たちでこの地に遺骨を埋葬しケルンを築きました。あれから13年を迎えます。63歳で先立ってしまった先生は、今76歳です。もっと、一緒に山に登ったり、山スキーをしたり、海外旅行に出かけたり、お酒をいっぱい飲みたかったな。

この地に立つと、心が洗われる思いがします。この地に立つまでの道程の中で、たくさんの懐かしい人たちに会います。これからたくさんの方々と共に訪れ続け、仲間の絆をさらに深められたらうれしいな。

また来年、必ず来ます。お酒とビールとピースを持って。そう約束してケルンを後にしました。チャンドラタールを囲む山々には今年の新雪が降り



積もっていました。

記録

日程：2015年9月16日(水)~9月25日(金)

参加者：L 福田、井上

9/16(水) 記録：福田

6:00 長野発

9:30 成田空港第2ビル着

10:00 福田・井上合流

12:30 成田離陸

17:30 Delhi 着

18:30 迎えの車に乗る

19:30 Sanjay-san 宅着 Dinner

23:00 就寝

無事、10:00 に成田空港で合流。保険加入・両替を済ませて出国審査へ。

出国後、免税店でウォッカとジンとタバコ(Peace)を仕入れて搭乗ゲートへ。

On time で搭乗案内、離陸。

機内では、飲み物、昼食、軽い夕食をサービスされ、満腹状態で Delhi 着。

On time で Delhi 到着。荷物を受け取り、両替。Mahesh-san と Rajev-san と合流。Rajev-san の車で Sanjay-san 宅へ。

19:30 Sanjay-san 宅に着き、Bobby-san の出迎えを受ける。味噌汁(Miso soupe)と、パスタ、King Fisher、Pepsi で乾杯。心づくしの夕食をいただき、日本からのお土産を渡す(Made in Japan)。思い出話に花を咲かせつつ、夕食をいただく。かつての Shaurya-san の勉強部屋を借りて就寝準備。明日の予定を確認し、荷物整理、シャワーを浴び、すっきりとして今晚の締めくくり。

日本時間より3時間半、長い一日が終了。



9/17(木) 記録：井上

6:00 起床
8:00 Siri Fort Sports Complex へ
10:30 朝食兼昼食
13:00 Dilli Haat へショッピング
15:00 Bobby-san 来られる
16:15 Sanjay-san 宅発
17:15 バス乗り場(Majnu Ka Tilla)
18:45 バス発
22:00 Chandigarh 手前で休憩
26:00 休憩、場所不明

6:00 起床。家が隣接しているためか、室内はまだ暗い。Lalit-san のコールがあるまで室内で荷物の整理。

8:00 前、Bobby-san がお迎えに来る。そのまま Siri Fort Sports Complex へ。バドミントンで軽く汗を流したのち、施設内を案内していただく。一部の富裕層向けの施設で、彼らはこのように仕事前に汗を流すのを日課としているようだ。事実、ここに来たときはたくさんの車が停まっていたが、出るころ(9:30 頃)には車が少なくなっていた。

朝食兼昼食は、chowmen 風味のラーメン、中華風のカレー、同じく中華風の野菜炒め。意外とおいしい。11:30 に Bobby-san とお別れ。

部屋でくつろいでいると、Rajev-san がお迎え。Dilli Haat にショッピング。ここは日本で言うフリーマーケットのような場所で、出店料は 4000Rs とのこと。決して安くはないので、どの店も客引きがすごい。井上はカシミヤ 4 枚購入。

15:00 Bobby-san が再度来られ、フルーツのおやつ。

16:15 に Rajev-san の運転で Sanjay-san 宅を出る。バス乗り場まで約 1 時間。バス乗り場は、ISBT 近くで Majnu Ka Tilla という場所らしい。

バスに無事に乗車できたものの、まったく出る気配なし。何度も売り子がバスに入ってきてちよつとしつこい。Rajev-san と Lalit-san はバスが出るまで待ってた。待っていてもらって申し訳ない。

あとはひたすらバスの旅。途中、何回か休憩を挟んで夜の闇に入っていた。

9/18(金) 記録：福田

6:00 ドライブインで休憩
9:00 Bhuntar 空港脇通過
10:30 Manali のバスターミナル到着。Andu-san の出迎え
11:00 Ashram 着。Sampel-san、淳子さん、Gyartzen-san の出迎え
14:00 バザールへ出発
16:00 Andu-san 宅で Liguzin-san 家族にご挨拶
18:00 Ashram 着。
19:00 夕食
21:00 就寝

深夜の夜行バスはそれなりに快適であった。真夜中のドライブインでの休憩時、私はバスが停まったこと自体気が付かなかった。

マナリのバスターミナルは、バザールより下 1km。Andu-san が 3 時間も待ってくれていたとのこと。恐縮である。Delhi をバスで出発するさいも、Rajev-san と Lalit-san がバスの出発を見届けるまで一緒にいてくれた。恐縮しっぱなしである。安全・安心・快適に旅ができるのも、みな、インドの仲間たちのおかげである。

Liguzin-san 宅ではみなさんの歓迎を受けた。Liguzin-san も大変お元気な様子。ストックを使わずにしっかりと歩いて部屋まで案内してくれた。Liguzin-san の奥さん(Sampel-san、Andu-san のお母さん)、Andu-san の奥さん、二人のお子さん(Angmo-san(11)、Rinchen-san(11))、それに加えて、Sampel-san の二人のお子さん(Angmo-san(8)

[Andu-san の娘さんと同じ名前。日本語表記は"杏萌"]、Taishi-san(5)[日本語表記は"太志"]も上手な日本語を話しながら登場。これには驚かされた。8歳で日本語と英語とヒンディー語を使い分けている。日本語しか話せない自身が恥ずかしく思えた。

帰り道、以前、一緒にチャンドラタールを訪れた Padam-san(Bara Sonam-san の息子：Sonam-san はすでに亡くなられたとのこと)のお店に顔を出す。5年振りに訪れたにも関わらず、憶えていてくれた。しきりに中に入れとのことであったが、Ashram に帰らねばならず、次回寄ると約束する。

夕食後、Sample-san と淳子さんを交えて Gyartzen-san の心づくしの料理、ビールも進んで上機嫌で部屋に戻り、就寝。村越先生がこの場にいらっしやらないことが残念でならない。

9/19(土) 記録：井上

6:00 起床

7:00 Chai

7:30 朝食

8:30 Ashram 発

9:30 Marhi 村で chai

10:30 Rohtang pass

12:45 Chhatru

13:15 テント場

18:00 夕食

Gyartzen-san の"チャーイ"の声で部屋を出る。懐かしい声だ。天気は曇り。時々青空が見える程度。朝食はチャパティとサラダ、ウィンナー。おいしい。

朝食中、Andu-san とガイドの Prakash-san、コックの Binod-san が迎えに来る。

8:30 Ashram 発。道は順調。途中で Police の検問が何か所かあった。ドライバーの Manohar-san がしきりに許可証のようなものを見せている。後で知ったことであるが、環境保護のためか、一日に通過できる台数を制限しているらしい。

Marhi 村で Chai time。オフシーズンなのか、客はまばら。ちょっと活気がない。Rohtang pass までも順調。峠で写真撮影。

Gramphu への下りの途中で道崩れがあったらしい。渋滞があったが、難なく修復。インド人はすごい。この辺りから雨が降り始める。Dry area だと思っていたが、期待を裏切られてしまった。

本格的な bumpy road に入る。車が跳ねるが我々は爆睡。途中、子供達を乗せたジープとすれ違ったが、女の子が窓から嘔吐していた。インド人もこの道は辛いのだろうか。

Chhatru での昼食は、Fuji...ではなく、おにぎり。淳子さん特製である。唐揚げもいただいた。(欧米人が我々のおにぎりを見て"Fuji"と言っていたので、どうやら"おにぎり"="Fuji"らしい)。

Chhatru からテント場までは 30 分。雨が強くなり、小降りになるまで車中で待機。埒が明かないので、スタッフはテント設営開始。雨の中、ありがたい。

テント設営後、休憩。それにしても寒い。

18:00 夕食、完食。コックの腕が いい の だ ろ う 。
おいしかった。

9/20(日) 記録：福田

6:30 モーニングチャイ

7:00 朝食

8:00 出発

8:30 Chhota dara(3760m)

9:30 Batal

9:50 分岐(クンザンへの)

10:20 村越先生遺影の地

10:40 チャンドラタール parking

11:10 チャンドラタール 第一ケルン

11:50 チャンドラタール 第二ケルン

12:25 湖のほとり

12:50 チャンドラタール出発

13:30 分岐(Kunzum pass への)

13:45 Batal(昼食)

15:20 Chhota dara

15:50 テント場

18:15 夕食 キッチンテントでスタッフ全員と

本日はいよいよメインのチャンドラタールへ。心がけがよかったのか、外は雨・・・。

Binod-san の昨夜の夕食をおいしく適量いただ

いたので、二人とも体調は万全。

この雨の中では Manohar-san の運転もさぞかし注意を必要とするだろう。

出発するころには、小雨となりラッキーであった。Batal に到着するころには陽もさしてくる。茶屋のおばちゃんとおじちゃんは健在。宮田君から預かっていた写真をプレゼントしたら嬉しそうに見入っていた。

遺影の地で、井上君、Prakash-san、それぞれ村越先生のポーズを決める。私用の遺影の写真も今日の写真で更新されることだろう。

チャンドラタールの丘の上、ケルンは基礎がしっかりしていたおかげで健在。ただし、上部、中部は崩壊していた。Prakash-san がケルンの中の石を掻き出すと、なんと線香の燃え残りがでてきた一同驚き。ビール、日本酒、たばことコインを新しいお線香と共に供えして三人で久しぶりに先生に会いに来たことを報告。その後三人で一生懸命修復作業をした。今後 20 年は丘の上に立ち続けていることであろう。村越先生のケルンの隣には金子くんのおじいさんのケルンもきちんと残っていた。

丘をやや下って、第二ケルンへ登る。こちらは建立当時のままの姿で残っていた。Mulkila は見えなかったが、チャンドラタールが美しかった。昨夜の雨は 4500m ラインで新雪となっていた。

短い日程で最低限の 10 日でチャンドラタールまで到達できたことはインドの仲間達に感謝感謝である。二人とも「また来ます」と約束をし、ケルンを後にした。チャンドラタール、ケルン巡りの折は晴れ間も覗いていた。村越先生もさぞ喜んでくれたことと思う。

なお、森田先生が設置してくれたマニ石はチャンドラタールのほとりに逆さまになってはめこまれていた。Prakash-san が上下を逆にしてくれた。村越の文字がきちんと刻まれていた。

9/21(月) 記録：井上

6:30 チャイ

7:00 朝食

8:40 テント場発

9:00 Chhatru

9:20 Chhatru 発

10:20 Gramphu

10:50 Rhotang pass

11:30 Marhi 着 昼食

12:00 Marhi 発

13:00 Ashram 着

19:00 夕食

22:00 就寝

朝、最終日にしてやっと晴れ間がのぞく。が、つかの間でガスに巻かれる。

朝食はキッチンテントの前でスタッフと共に。山の中でこれだけの食事をいただき、感謝。

記念撮影をスタッフとともに撮り、テント場発。道は昨日のチャンドラタール行きよりも悪くない。車が適度に跳ねるのでなぜか気持ちよい。

道中、難なく Rohtang pass を通過。山々は昨日の雨の影響だろうか、雪がまた降った様子。

Rohotan-pass のすぐ下の滝見スポットではたくさんの方々が居た。みなスキーウェアを着ており、一見して地元の人でないことはすぐにわかる。Marhi 村で昼食。相変わらず人が少なく、寂しい。いつもの Himalaya Dhaba へ。

途中で道路工事につかまるも、13:00 に Ashram へ。Binod-san、Prakash-san に Ashram まで荷物を運んでもらう。本当に 3 日間ありがとうございました。

Ahsram 到着後、自由時間に。井上は洗濯と両替へ。

Sharam を出るときに、過去、熊トレ隊のコックをやられていた Latan-san が来られて、福田さんと懐かしい話に花を咲かせたようだ。

井上は街へ両替に。どうやら政府の Bank はもう両替はしないとのことなので、民間の Bank へ。T/C はいろいろと申請が大変なようで、あまり Bank 側も受け取りたがらない様子。T/C=62Rs/1\$、Cash=65Rs/1\$。夜は淳子さん、Sampel-san、我々二人で談笑。Sampel-san と福田さん二人で King Fisher のビン 6 本と、500ml 缶 2 本を空けていた。それにしてもインドの友人たちと、この礎を築いてくれた村越先生に感謝です。いつでも酒のネタになる村越先生は偉大でした。

9/22(火) 記録：福田

7:00 モーニングチャイ

8:00 朝食

11:30 Ashram 発

12:00 チョップスティックで昼食会

14:00 Ashram 着

16:00 Ashram 発

16:30 バス On time

18:40 Bhuntar

21:50 スンダ・ナガル(スベル不明)

雨音で目が覚める。昨夜は少々飲みすぎ、反省。Gyartzen-san がチャイを持ってきてくれ、2F のテラスで二人で Tea time。雨のマナリの森もしっとりとしていて、いいものだ。

朝食はしっかり残さず食べる。おいしい食事をつくってくれる Gyartzen-san に感謝。昨夜、せっかくのごちそうを平らげられなかったことをお詫びする。

日本を出発し、一週間。村越先生のケルンにお参りする目的を達成。二人とも実に健康。インドの仲間たちのおもてなしに感謝です。

雨の中、昼食会に向けてチョップスティックに出発。オートリクシャーを捕まえてバザールまで送ってもらう。

チョップスティックでは 6 人でランチタイム。(Namac-san 、 Andu-san 、 Prakash-san 、 Binod-san、井上君、福田)

Andu-san が声掛けをしてくれて、私が 30 年前初めてトレッキングをした時のガイドさんである Namac-san も顔を出してくれた。今は、登山学校の校長先生とのこと。30 年の時間が一気にさかのぼる思いであった。Namac-san は今月でリタイアするそうで、次期校長はなんと Negi-san とのこと。今は山に入っていて、顔を出せないとの由であるが、あっという間に時間が過ぎていったのだなと感慨深い。

秋も深まり、冬が近づいている Manali にたくさん思い出を刻んで後にする。

一路 Delhi に向けて、皆の見送りを受けて出発した。

9/23(水) 記録：井上

7:30 Majnu Ka Tilla

8:10 Sanjay-san 宅着

9:30 朝食

11:00 Rajev-san お迎え

11:30 Central Cottage

13:00 マクドナルドで昼食

15:15 Sanjay-san 宅に向けて出発

16:30 Sanjay-san 宅着。チャイ

18:00 Bobby-san が来られる

19:45 Mugal Mahal レストランで夕食(with Boddy-san、Anuj-san)

Manali からの道中は雨 or 晴れですっきりしない天気。Delhi に近づくにつれ、皆、目を覚ましていく。バスは休みを取る様子もなく、結局、7:30 に Delhi に着くまで Non-stop であった。

バスは荷物の輸送も兼ねているようで、大量のリングが積んであった。我々も Sanjay-san's staff のために Manali Ashram のリングを積んでいたが、途中で降ろされないかヒヤヒヤしていた。

7:30 Majnu Ka Tilla という、Manali 行きのバスに乗った場所に着いた。Mahesh-san がバスに乗って合図してくれたおかげで、ここが下りる場所だとわかった。どうやら 6:00 から待っていてくれたらしい。Thanks.

11:00 Rajev-san にピックアップされて、Central Cottage へ。ここは正規価格なので安心して Shopping ができる。

付近のマクドナルドで昼食…というか休憩。守衛はいなくなっただけ。どうも India に来ているのか錯覚してしまう。

15:00 までフリータイム。井上は Central Cottage 付近の土産屋で Taj Mahal の Tea pack を購入。Delhi emporium でも茶葉を購入。

Bobby-san が仕事を終えて 18:00 過ぎにきた。Anuj-san を拾って Mugal Mahal というレストランへ。バターチキン、サグ・パニール、ダルカレーとナンで夕食をとる。Sanjay-san から友人たちの輪が広がって、India とは切っても切れない関係になった。

9/24(木) 記録：福田

6:00 モーニングチャイ

7:00 フルーツ Breakfast

8:00 Green Park 周辺の散策 with Mahesh-san.

高台(Hauz Khas)から湖を見下ろす。バドミントン、ハムスター、ウサギ、鹿、モンキーなどを飼育、クッターもいっぱい

9:30 朝食 3F のレンタルルームの青年と一緒に

10:30 Ahluwalia-san 出現。30 年来の思い出話

13:00 3F にて昼食。お別れ会。

15:30 All staff の見送りで Sanjay-san 宅を後にする。

16:30 IGI Airport Terminal 3 到着

19:35 Departure on time

いよいよ最終日。あっという間だった。10 日間、充実した時間だった。今日、Sanjay-san 宅の昔の Shaurya-san の部屋にこもって今回の旅を振り返っている。実に飲んだ。

この 3 年半に亘ってうつ病に悩まされてきた日々。5 年振りにインドを訪れたくさんの友人に再会し、すっかり自分を取り戻せた思いである。

悩ましい過去がすっかり洗い出されたように思う。また来たい。いや。私たち熊谷のグループを待っていてくれる人たちが居る以上、こななければならない。村越先生も喜んでくれているに違いない。



コーヒータイム

熱く燃えた 2015 夏

宮田幸男

今年の夏、自分の母校である熊谷高校が夏の甲子園埼玉県予選で 33 年ぶりのベスト 8 に入りました。熊高生はもちろん、多くの熊高 OB 達や関係者に、久しぶりに夢を見させてくれたでしょう。高校野球を取り巻く環境は、33 年前とは比較にならないほど大きく変わっているので、公立進学高が私立シード高と互角に渡り合ったことは、あの昭和 57 年大会、熊谷じゅうを沸かせた甲子園出場以来の快挙だったと思う。

息子は 4 月の試合で足首を骨折し、大会前には復帰したものの登録選手としてはグラウンドに立てなかったが、汗と泥にまみれながら、白球に青春をかけた 3 年間は、高校時代の大きな思い出として、また、これからの人生にもきっと力となるはずです。

自分は父母会会長として野球部の活躍を支えたが、子供達の野球に打ち込む直向きな姿、真剣勝負をずっと身近で見続け、そして最後の大会となるこの夏、球場につめかけた大勢の OB 達や在校生とともに、毎試合、学ラン姿で勝利の伝統で先導する応援団とスタンドから熱い声援を送りました。一球一球、固唾をのんで白球の行方を追い、みんなで肩

を組んで、何度、校歌や応援歌を唄っただろう。これほど校歌を唄ったのは、在学していた当時以来でした。そして試合が終わった瞬間、他の父母達と何度、肩を抱き合って、歓喜や感動の涙を流したことだろう。

惜しくも準々決勝で敗れてしまったが、全国大会を見ようと息子とふたりで甲子園球場にも足を運びました。来年はおそらく大学生となって、親元を離れていくだろう。自分にとっても、息子といっしょに過ごせた、この熱く燃えた夏は一生の忘れられない思い出となりました。みなさんに感謝です。

くしくも今年は、熊高創立 120 周年、熊高野球部創部 100 年の記念すべき年でした。選手や顧問の先生方は、勝ち進むたびに、熊高の伝統が見えない力になってくれたと口々に話されました。先日も祝賀会に出席し、伝統の大きさをひしひしと感じました。

熊トレも早いもので創立 20 周年を迎えます。伝統というには少々おこがましいですが、されど 20 年、これまでの活動は十分に誇れるものです。今後もオールラウンドの活動を進め、安全登山にも十分配慮し、会がまとまって、歩んでいくことを願っています。

<登山・ハイキング編>

愛鷹山

福田和宏

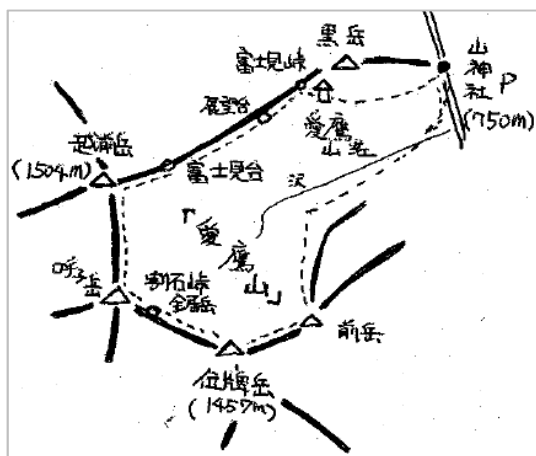
山域山名：富士南麓・愛鷹山(静岡県)

期日：2014年11月3日(月)

参加者：L宮田、福田(計2名)

行動記録：北本(4:00)=山神社 750m(6:40/7:00)→
愛鷹山荘(7:25)→富士見峠(7:30)→鋸岳展望台
(7:50/8:00)→富士見台(8:20/8:30)→越前岳
1504m(8:45/9:10)→呼子岳(9:45)→割石峠(9:55)
→天狗の畑(10:00)→蓬莱山(10:05)→鋸岳→位牌
岳 1457m(11:35/12:15)→前岳(12:35)→東沢→山
神社(13:55/14:10)=ヘルシーパーク裾野(14:20/
15:20)=北本(17:50)

<天候晴れ>



星空の美しい北本を4時に出発。まずは、セブン・イレブンで目覚めのコーヒを。圏央道に入り狭山パーキングで小休止。そこから、1時間も走るともう東名高速道路への海老名ジャンクションだ。便利になったことを痛感する。足柄パーキングで小休止、雪をかぶった富士山がすでに目の前に迫っている。裾野インターを6時10分に通過。途中の道

端で、ちょうど太陽が富士山に光を差し込んできて、しばしの撮影タイム。山に登る前の段階で、すでに私はもう十分楽しんだといった感じである。6時40分、順調に山神社登山口の駐車場へ到着。数台の車がすでに停まっていた。

快晴無風。しばらく、新鮮な空気を吸いながら森の中を進む。時折、富士のすそ野にある自衛隊の『東富士演習場』からだろうか、「どすん、どすん」と砲術訓練でもしているような音が響く。鋸岳展望台からは、これからたどるルートが見渡せる。紅葉もまだまだ見頃である。それにしても鋸岳の稜線はまさにその名の通りのこぎりのようであることに感心させられた。所どころ、『越前岳』へ誘う標識が目に入る。そのたびに私には、「なんで越前なのだろう」との思いがよぎる。福井の青木くんが、黄色いタグをつけてかに歩きをしている様子がなぜか連想され、笑いをかみしめていた。この後、鋸岳の稜線の鎖場で蟹歩きを実際にするようになる予兆だったのかも知れない。越前岳からは、雪をかぶった富士山、遠くは南アルプスを遠望。南を向けば太平洋・駿河湾。伊豆半島もその輪郭を望むことができた。

鋸岳縦走ルートは、確かに崩壊が進んでいた。簡易ハーネスを身体にまとい、ヘルメットのあごひもを一層きりりとしめ、ストックは短くしてザックにくくりつけた。私にとっては山スキーではよくあることなのだが、それ以外でスリルを味わうのは、黒部の「下の廊下」以来だと思う。踏み外して落下した私を、宮田くんが大変な思いをしてロープで引きずりあげてくれる姿が目につかぶようだ。スリリングな岩稜を、起こしてはならない事故を起こさず、設置されている鎖の助けも借りながら慎重に切り抜けた。その姿はまさに這いつくばって歩を進める、蟹さんのようだったに違いない。

一息つくのも束の間。昼食をとった位牌岳からは、一気に下る。これは、道なのだろうかとの疑念をいだかせるような見事な下りつぶりであった。私が持参していたウン十年前のエアリアマップには、その存在すら書かれてはいなかった。先々週の二岐山の地獄坂にも勝る勾配で、必死に下っているうちに無事、山神社登山口に到着した。

毎回のことであるが、登山も充実しているうえに、アフター登山もこれまた実にいい。裾野の湯につかり、餃子が日本一好きな市民と自負しているという裾野の「揚げ餃子」なるものを美味しくいただき帰路へついた。内容盛りだくさんの楽しい一日を過ごすことができ、感謝・感謝である。

晩秋の金城山

福田和宏

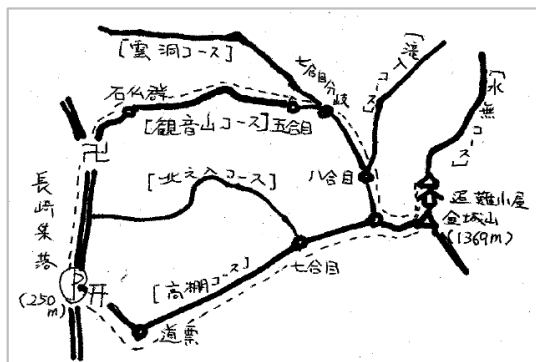
山域山名：越後・金城山(新潟県)

期日：2014年11月12日(水)

参加者：L宮田、福田(計2名)

行動記録：北本(4:30)=長崎集落・駐車地点
250m(7:15/7:45)→道標(8:20)→七合目手前(9:25)
→八合目付近(10:20/10:45)→金城山
1369m(10:55)→避難小屋(11:00)→北東頂(11:05)
→避難小屋(11:10/11:50)→八合目(12:35)→七合目
分岐(13:00)→五合目(13:15)→石仏群(14:00)→下
山口(14:15)→登山出発地点(14:45)=越後湯沢「山
の湯」(15:10)=越後湯沢駅そば「越後や」(16:15)=
北本(19:00)

<天候曇り一瞬にわか雨>



前日の雨も降り止んだ北本を4時半に出発。当初は、丹沢あたりとの心づもりであったが、山梨・神奈川は天候の回復が遅れる見込みとの宮田リーダーの判断。より天気恵まれそうな越後方面へと出かけることになった。平日早朝の関越自動車道を一路北へと向かう。関越トンネルを抜け、湯沢で一般道へ。朝もやが美しい。巻機山とともに、こ

れから登る金城山が間近に迫る。

今回は周回コースを歩くことになるが、まずは長崎集落の下山口「槻岡寺」周辺を確認する。そこから車で3分も進むと、林道の入り口の登山口となる。帰りはこの車道を30分弱、てくてくと歩くこととなる。駐車場が整備されていなかったため、稲穂を刈り取った後の田んぼの脇のちょっとしたスペースに停めさせてもらった。準備をしていると、地元のお年寄りが通りかかりしばし談笑。この場から登ることを珍しく思っているようだ。看板には、ユルキャラで人気の「くまモン」に、似ても似つかないリアルな怖そうな表情をした熊が描かれており、出没注意を呼びかけていた。歩き出しの林道は、土砂崩れの後が残り荒廃していた。

高棚コース。登りだしは急坂が続く。ほとんど今は人が入っていないようだ。そのために、案内の目印はほとんど無く、あっても朽ち果てるままだになっているように思えた。谷川稜線は雲の中。廃道化しつつある尾根を登り下り繰り返す。所によっては、やぶを漕ぎながら進むこととなる。どこが登山道かわかりづらい場所も。パンダが喜びそうな新鮮な笹が生い茂っている。

山頂付近は土砂崩れの発端となった崩落箇所が随所にあつた。なかなか立派な巨大な岩もあって、恐る恐る岩の端に近づき下を見下ろそうとするが、吸い寄せられるようで足がすくんでしまった。要所には、鎖も設置されていた。避難小屋はなかなか立派な佇まいである。お湯をわかし、熱々のカップラーメンが実にいい。小屋の気温は2℃であつた。

銀音山コースは下り初めは急峻な尾根で、足を滑らせながら苦戦したが、懐の穏やかなブナの美人林の中を紅葉を愛でながらのコースでした。

今回の登山を終えた後の楽しみの一つ目は、温泉。川端康成も浸かった、地元の人たちにも愛されているという源泉「山の湯」へ。急勾配の坂道を上がった駐車場のスペースは少なかったが、運良くすんなり入る。浴場はシャワー設備がないため、洗髪には多少時間がかかったが、素朴ないい温泉でした。途切れることなく、人々が温まりにきていました。楽しみの二つ目は、料理。以前美味しく

いただいたそば屋さんがお休みだったので、はす向かいの「越後や」さんで、へぎそばを味わってきました。もう一つおまけで、谷川岳パーキングエリアによって、「おいしい湧き水」をペットボトルに入れてお土産としました。

新雪の蓬峠

宮田幸男

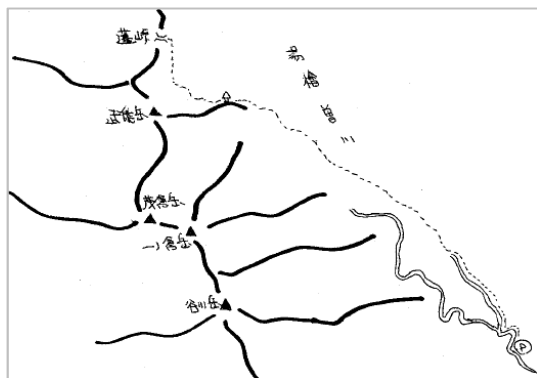
山域山名：上越国境・蓬峠(群馬県)

期日：2014年11月16日(日)

参加者：L 宮田、福田(計2名)

行動記録：土合駅 760m(7:30)～虹芝寮(8:40/8:50)～白樺尾根鉄塔(10:50/11:00)～白樺避難小屋(11:25)～蓬峠 1529m(13:05/13:50)～白樺避難小屋(14:40/14:45)～芝倉沢(15:55/16:00)～土合駅(17:10)

<天候：曇り、稜線は霧>



強い冬型になった週末、新雪の山を歩きたくなり上越国境に向かった。紅葉シーズンも終わったので、早朝の土合駅に他の車はない。駅舎越しに見上げる白毛門はまだ雪雲に覆われていたが、尾根は下の方まで真っ白だ。湯曽川にかかる土合橋たもとの清水街道新道分岐から蓬峠まで、ちょうど10kmの標識が立っていた。

林道は冬季に入ったためか、すぐに通行止めのロープが張られていた。さらに1kmほど行くと林道は終わり、ほどなく落ち葉に新雪が積もったマチガ沢出合に出た。谷川岳稜線は厚い雪雲に覆われていたが、マチガ沢の岩壁は冬の装いだ。

一ノ倉沢出合を過ぎると真っ白になったが、何やら怪しい足跡が…ついていて。慌ててラジオを鳴らして笛を吹く。先行者(熊)は、夏道の上を奥へ奥へと進んでいた。雪が積もってなければ人間は気がつかないが、彼らはいつも通っている道なのだろう。新雪が積もり落葉したブナの森はモノトーンカラーで、紅葉の頃の派手さはないが、山を歩くには静寂の初冬が一番のお気に入りだ。

JR 巡視小屋と虹芝寮が建つ芝倉沢に出ると、急に視界が開けて、幽ノ沢と堅炭岩が覆いかぶさるようで圧倒的に迫る。その先で消えていた先行者の足跡が再び現れたが、足がさっきより小さめなので違う者のようだ。新道は所々岩壁迫る湯曽川右岸を高巻き気味に行く。水量が多かった武能沢も問題なく渡渉し、白樺尾根に取り付く。ここまでずっと付いていた先行者の足跡は、やっと森の中へ消えていった。

白樺尾根に入るとグッと積雪が増えて、鉄塔付近の積雪は30cm超だ。もはやラッセルトレーニングとなり、目標は武能岳だったが蓬峠に変更だ。小雪が舞う白樺避難小屋で誰も来ないね、と話していたら、トレースにつられて単独の女性が登ってきた。この後は3人で交代しながらラッセルする。

小沢を2本越え、白樺沢出合では滑りやすい岩が隠れているので、足場を確認しながら斜面を進む。次第に視界がなくなり、峠下の吹き溜まりでは膝上の激ラッセルへ。何とか蓬峠に到達し、休まずに峠の北方に建つ蓬ヒュッテへ向かう。ヒュッテの入口は簡易カラビナでロックしただけだったので、小屋の中に入って休憩する。外気温はマイナス2度だったので、ゆっくりできる小屋はありがたい。

初冬は夕暮れが早いので、休憩もそこそこ下山開始。午後になっても天候は回復せず、深い霧のなかを下る。避難小屋までくると空も少し明るくなり、湯曽川対岸に連なる朝日岳大倉沢とその右には笠ヶ岳の頂きが姿を見せた。湯曽川沿いの樹林帯は、日中も日差しがなかったので、雪はほとんど融けなかったようだ。急ぎ足で下ったが、土合駅に到着する頃には薄暗くなっていた。

都県境尾根縦走

駒崎裕美 木村哲也

山域山名：雲取山・長沢背稜(埼玉県・東京都)

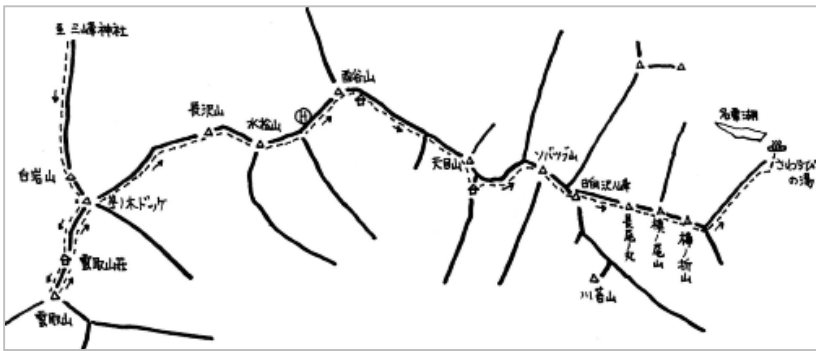
期日：2014年11月22日(土)～24日(月)

参加者：L 木村 駒崎

行動記録：

11/22(土) 三峰神社(11:05)→霧藻ヶ峰(13:00)→
前白岩山(14:15)→白岩山(15:15)→雲取山荘
(16:20)

<天候:晴れ>



今回は周回する為、電車・バスを利用する。三峰口駅から三峰神社行きバスは、増便されていたが混んでいて立つことになる。工事中で迂回して行った為予定よりかかる。神社下のもみじがとてもきれいでした。

予定より少し遅れての出発。途中お昼を摂り、右手に和名倉山の展望を楽しみながら進みます。休憩を何度かとり、明日行く長沢背稜の分岐を確認して小屋に着く。テントがいっぱいで小屋前も人ばかりです。この寒い時期にこれほど集まるとは、この山の人気は何えます。小屋のスタッフは対応に追われ、中には入れてもらえず、明日の朝は凍ってしまうから(朝も出ていました)と先に水を汲むように言われる。確かにホースからちょろちょろ程度、我々は明日の為に4リットル、水汲みの為に並んでいる人達の目がとても気になります。体が冷え切ってしまいましたが、部屋にこたつがあり助かりました。8畳真ん中こたつで8人でした。夕食は2回目、こたつに足を入れて寝ました。(駒崎記)

11/23(日)

雲取山荘(6:40)→雲取山(7:05/7:40)→雲取山荘
(8:00/8:30)→芋ノ木ドッケ(9:30/9:35)→桂谷ノ頭
(10:20/10:30)→長沢山(11:05)→水松山(11:40
/12:20)→行福ノタオ(13:35)→西谷山(13:55/14:15)
→ハナド岩(15:50)→天目山(16:25/16:35)→一杯水
避難小屋(16:55)

<天候:晴れのち曇り>

朝食は出遅れ2回戦になったため、山荘で日の出を見てから、まずは空身で雲取山頂を往復した。何度も来ている山頂だが、やはりよい景色だ。お茶を淹れてゆっくり景色を楽しんだ後、山荘に戻る。

身支度を整えた後、再出発。芋ノ木ドッケの分岐まで戻り、長沢背稜の稜線へ。ここからが今回の山行のメイン。7年振りだが、やはり静かな登山道で気分よく歩ける。おおむね樹林帯の中だが、落葉後ということもあり、木

立の間から石尾根や三峰への稜線が望める。桂谷ノ頭付近は露岩に木の根が張り出していて歩きにくく、若干注意が必要。

水松山で昼食休憩を取り、ここからが私は未踏のルートだ。このあたりは二重山稜になっていて、水松山のピークからは道の無い方の尾根に誘い込まれやすく迷いやすいのではないと思われる。西谷山への道は、主に東面を巻くように付けられており、手入れがよくされていて歩きやすい。長沢背稜の内、登山者が少ないのは芋ノ木ドッケ～水松山間ということだろう。滝谷の峰付近には、緊急時用の立派なヘリポートがありビックリ。西谷山山頂は樹林の中だが、石尾根側は展望が得られる。

ここで時間的には山頂直下の避難小屋泊もあったが、明日の天気予報がイマイチなのと、小さな小屋に結構人がいたので、予定通り一杯水までがんばることにする。一杯水までの道も、ほぼ南面を巻いているが、時々秩父市街や武甲山が左手に見え、だいぶ歩いてきたんだなど実感。途中にハナド岩という展望地があり、ここからの石尾根

の景色はすばらしかった。出発が遅くなった分、夕暮れが迫ってきており、何とか日没までに天目山には着きたいと、最後は駆け上がるように山頂にたどり着いた。

天目山山頂も北西方向を除いて展望が開けており、はるか遠くになった雲取山の東に日が沈む景色を楽しんで一杯水避難小屋へ。小屋に着くころにはほとんど真っ暗だった。ちゃんと早立ちしないといけないと少し反省。小屋は我々の他に単独が2名。トイレはあり、フロアも広めでそれなりに快適な小屋でした。

11/24(月)

一杯水避難小屋(6:50)→仙元峠(7:50)→蕎麦粒山(8:05/8:20)→日向沢ノ峰(9:00/9:10)→長尾ノ丸(11:15)→槇ノ尾山(11:45)→棒ノ折山(12:05/12:45)→さわらびの湯(14:20)

<天候:霧・曇り、時々晴れ>

今日も予定より出発が遅くなってしまった。明け方は景色も望めていたが、出発するころには濃霧に包まれてしまった。出発してすぐの所にある水場は、ホースが引かれているものの流れている感じが全くしないが、この時期でなければ水が出ているのだろうか。仙元峠までは、昨日と違い尾根上を忠実にたどるようにルートが付いている。霧で何も見えないが、晴れていれば秩父側の景色の変化を楽しみながら歩けるのだろうかと思像しながら進む。1時間少々で蕎麦粒山に到着し小休止。

蕎麦粒山から棒ノ折山分岐までは、防火帯の切り開きになっている。日向沢の峰手前の分岐で川苔山方面との道を分けると、とたんに道が細くなり、落ち葉の積もった急坂も何力所かあり気が抜けない。似たような地形の場所が多くて、自分たちがコースのどの辺にいるのか同定するのが難しい。いくつかにセピークに騙されながら長尾ノ丸、槇ノ尾山と経由して、ようやく棒ノ折山に到着した。これで都県境尾根の主たる部分が踏破できた。予定では下山してから昼食をと思っていたが、時間的にお昼になってしまったので昼食を兼ねてゆっくりしてから下山した。下山地のさわらびの湯で汗を流した後、飯能行きのバスに乗り帰路に就いた。(木村記)

川苔山

新井浩二

山域山名：奥多摩・川苔山(東京都)1364m

参加者：新井浩、駒崎

期日：2014年12月7日(日)

行動記録：

熊谷市江南(5:00)⇒奥多摩町営氷川駐車場(6:30/7:05)⇒奥多摩駅バス(7:27)⇒川乗橋(7:39/7:45)⇒百尋の滝(9:35/9:50)⇒足毛岩の肩(11:07)⇒川苔山(11:45/13:00)⇒本仁田山(14:45/14:50)⇒安寺沢集落(16:10)⇒氷川駐車場(17:00)

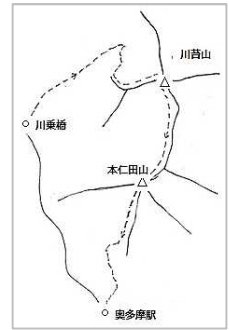
<天候:晴れ>

朝の奥多摩は空気がひんやりしており、かなり冷えているようだ。町営氷川駐車場(無料でした)に車を置き、奥多摩駅へ向う。役場の駐車場はコインパーキングになっていた。バスは7:27の日原行。電車が到着すると、

ぞろぞろ登山客が降りて来て、バス待ち列があつという間にでき、席がちょうど埋まる人数で出発する。川乗橋で降りたのは6人程度。残り的人達はどこに行くのだろうか。

準備運動をして、舗装された林道を歩き始める。細倉橋からの登山道は、橋が流されているために迂回路を歩くようにとの指示で、しばらく林道を進みやっと登山道へ入る。沢に降りるように進み、落ち葉と霜柱の登山道を少し行くと百尋の滝が現れました。これだけの滝が間近で見られるのはなかなか無いと思います。日影で寒いので写真を撮った後はすぐに歩きだす。

途中の分岐を足毛岩方面に進み、急登を越えるとやっと川苔山の山頂。今までほとんど人に会わなかったが、山頂はにぎやかです。豪華なあたたかな昼飯(豚汁におじゃ)で満腹。休んでいる間にも次から次に登山者が登って来ます。若い人が多くカラ



フルなウエアが目立ちます。富士山も見えました。ちょっとのんびりしてしまい、予定に 30 分遅れて出発。

奥多摩駅へ戻るようにルートを取り、本仁田山へ向う。計画ではもう着いてもいい時間だが、なかなか着かない。計画書作成時に時間を間違ったようだ。1 時間 15 分遅れて本仁田山に到着。この後もまだ有るので休むのもそこそこに急いで下山する。落ち葉で地面が見えないので急坂を慎重に下り、やっと民家が見えて来た。ハンター達が集まっていた。鹿が悪さをするので、仕留めているとのこと。舗装路を約 1 時間歩き、朝出発した駐車場へ暗くなるギリギリで戻って来ました。

今回のコースはかなり歩き応えが有りました。冬枯れの木立の中を落ち葉を踏みしめて歩くのもなかなかいいものです。今回は計画書の作成ミスもあり、今後は良く確認が必要と感じました。

秩父御岳山

高橋武子

場所：秩父・御岳山

期日：2014 年 12 月 7 日(日)

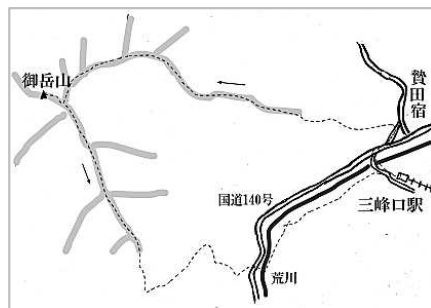
参加者：CL 石川 SL 高橋仁 並木 白根 栗原 幸 逸見 高橋武 橋本義 渡辺 黒沢 須藤俊 豊島 平岡 新井弘 根岸(15 人)

行動記録：熊谷駅(7:09)→三峰口駅(8:43)→賛川町分登山口(9:06)→休憩(9:34/9:41)→休憩(10:33/10:41)→たつみち(11:06)→休憩(11:38/11:44)→頂上・昼食(11:52/12:55)→杉の峠(14:04/14:07)→強石登山口(14:37)→国道強石(15:00)→三峰口駅(15:40)

快晴、風も穏やかな日だまりハイク。ナラの木など一部葉を付けている木もあったがほとんど裸木になっている。枯葉をかきこさせながら登り始める。枯葉の下は土がまだ凍っているが、水分が少ないらしく霜柱は短い。体が温まったところで衣服を 2 枚も脱ぐ。でも道が北側に回るとそれほど風が強いわけでもないのに冷えてきて 1 枚着直す。道は杉の美林の中に入り、下生えにはイノモトソウ

が生えるところもある。たつみちを過ぎ最後の急登を過ぎると今日の下山路と合わさり尾根を横這いするとすぐ頂上となる。

頂上には秩父御嶽山神社がまつられている。木曾御嶽山の王滝口をひら



いた普賢霊人はこの麓の生まれとか聞く。頂上には狭いが他に 2~3 パーティーもいて、手ごろな山と見え盛況である。社への急な階段にて昼食。展望が良い。秩父の山並みが武甲山、蕎麦粒、酉谷、雲取、白石、雁坂、破風、木賊、甲武信、三宝、白泰、両神、二子、毘沙門と連なり、後ろに子持、赤城、手前に城峰、そして日光連山へと見渡せる。下に目を転ずると二瀬ダムが見える。



下りはやせ尾根を一気に下る。ロープが張ってあり助かった。麓の強石部落に入ると車道をよけて、道しるべに従って細道を国道 140 号まで下れる。ここからは、交通量の多い国道を避けて万年橋で対岸に渡り三峰口駅に向かった。

楽しい山旅でした。お世話になりました。有難うございました。

総会記念ハイク竜ヶ岳

橋本健一

山域山名：富士山麓 竜ヶ岳(山梨県)

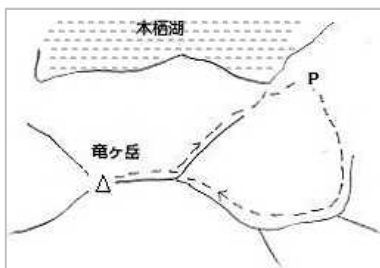
期日：2014年12月14日(日)

参加者：CL 新井浩 SL 木村 八木、堀、白根、栗原幸、逸見、高橋武、山口、石川、黒沢、橋本義、豊島、駒崎、花森、福田、宮田、橋本健、菅谷(計19名)

行動記録：本栖湖青少年スポーツセンター(9:35)→東屋のあるビューポイント(11:20/12:00)→竜ヶ岳(12:50/13:15)→本栖湖青少年スポーツセンター(14:45)

(天候:快晴)

前日は富士吉田の若富士にて23名参加で総会が行われ、翌日の記念ハイ



クには19名が参加した。記念ハイクは、昨年曇ってしまって展望の得られなかった竜ヶ岳で行われた。当初は車デポを活用して端足峠の北側から上がって本栖湖青少年スポーツセンターまで周回する予定であったが、本栖湖畔の道が冬期通行止めのため、スポーツセンターから登ることとなった。

この日は冬の気圧配置がビシッと決まり、キリリと凍てつくような朝の空気の中での出発となった。登山道は、最初のうちは樹林の中を行くため、凍ってはいるが歩きやすかったが、登るにつれて樹林が開け、日差しで溶けてぐちゃぐちゃになった泥道に変わり、非常に滑りやすく、歩きにくい道となった。

東屋のある富士山ビューポイントで昼食休憩を取り、その後、終始富士が見える好展望の道(ただグチュグチュ)を山頂まで登り上げる。

山頂には12:50到着、明るく開けた山頂からは、樹海を従え裾野を大きく開いた富士、遠く駿河湾の水平線まで見え、展望を満喫することができた。風もほとんど無く、気温は低いものの穏やかな日であ

った。

下りはグチュグチュの道を敬遠し、東面の樹林の中の道を下降する。これが正解で、道は固く凍結し、とても歩きやすかった。また道の脇にたくさんある霜柱は10cm以上あろうかという長大な見事なものであった。下ってゆくと、落ち葉を敷き詰めた歩きやすい道に変わり、近づいてくる本栖湖を終始眺めながらの下りとなった。出発地には14:45に到着し、それぞれ帰路についた。

百蔵山

軽石昭夫

期日：2014年12月21日(日)

参加者：CL 新井勇、SL 軽石、堀、栗原幸、大嶋、黒沢、高橋仁(計7名)

記録：熊谷(7:00)=R20 宮下橋南(7:11)黒沢氏合流=大月総合グラウンド駐車場(9:00/9:10)～尾根展望所(10:13/10:25)～稜線鞍部(10:55)～百蔵山頂(11:15/12:00)～車道(12:55)～駐車場(13:15)

前夜遅くまで降っていた雨もあがり、青空のもと、風もなくまずは絶好のハイク日和となった。百蔵山は中央道大月分岐のあたりから北に見える山だ。標高は1003mとある。

大月総合グラウンドの駐車場は山裾の途中にありそこから出発する。急斜面の住宅の造成地の道路を行く。10数分で早くも汗ばむと上着などを脱ぎだした。集落の最後にな



ぜか美術館がある。樹林帯の登山道になってようやく緩やかになった。杉木立から陽射しがこぼれて意外に明るい。

尾根に出るとそこは展望休憩所になっている。真っ白な富士と富士吉田市街が、眼下には中央道と大月の街が見える。ここからはさらに緩やかな明るい道が続く。両側にはアカマツと広葉樹が競い合っ

稜線に出て、今度は薄暗い杉、檜の尾根道を少し行くと広い百蔵山頂に着いた。たくさんのハイカーが憩っている。展望は南にあり、富士が御正体山など前衛の山塊越しに望める。ただしその手前に市街に近い山の上に団地が造成されていて、平地が少ない大月とはいえその点は幾分興ざめた。11時を過ぎており、お昼休みにちょうど良い。湯を沸かし、お茶・コーヒーを愉しみ、12時に下山とした。

尾根を東に辿り、扇山への分岐を南に折れ下る。ロープがつけられている辺りは急斜面でしかも落ち葉が多く慎重に下った。こちらは登りの西ルートに比べて急なだけで変化に乏しい。1時間ちよつとで駐車場に着いた。

まだ午後早い時間なので、近くの猿橋を見学をして帰ろうとなった。この名勝文化財は日本三大奇橋のひとつなのだそうだ。私を含めほとんどの人がはじめてだったようだ。深い谷にかけた木造橋の美しさはやはり特別なもの、皆、大いに感銘を受けました。

八ヶ岳、稲子湯から硫黄岳

山口文江

山域：長野県、八ヶ岳(硫黄岳)

山行形態：ワカン、アイゼン、ピッケルによる雪山登山

期日：2014年12月28日(日)、29日(月)

参加者：浅見(CL)、木村(SL)、高橋仁、橋本、駒崎、山口 〈計6名〉

12/28(日) 〈晴→夜、雪〉

熊谷集合・出発6:00 = 花園IC = 佐久南IC 7:45 = 稲子湯 8:50/9:42 ~ (休 20 分) ~ しらびそ小屋 11:50/12:00 ~ 本沢温泉 13:45 (→テント設営終了 14:55)

朝6時、熊谷市江南駐車場に集合。浅見車と駒崎車に荷物と人を振り分けて、即出発。いつものように、途中コンビニで朝・昼食を買い、一路、佐久

南ICを目指す。ICを出てから再びコンビニで落合い、その後はノンストップで稲子湯へ。稲子湯には8:50に到着。

駐車料金2日分の支払いを済ませ、共同装備の分担、靴やウェアや装備の準備、パッキングにとりかかる。駐車場にはトイレもあるので済ませ、約50分後、9時42分に登山口を出発した。

この日は樹林帯に行く。年末で人が沢山入っているおかげで、まだ固まっていないたっぷりの新雪にバケツ(踏み跡)がしっかりついている。稲子湯が標高1500mで、テント場の本沢温泉が2110mだから、標高差は610mだ。冬山コースを紹介した本では、コースタイムが、稲子湯～しらびそ小屋2.10、しらびそ小屋～本沢温泉1.30、計3.40となっていた。

樹林帯の登りがかなり続き、しらびそ小屋に着く。小屋の前のミドリ池は一面の雪景色で、その先には樹林の向こうに、雪をかぶった大きな硫黄岳が堂々とそびえている。

ちょうどお昼の時間なので、各自で昼食を兼ねた行動食をとる。まだここは風もなく、いいお天気で、お陽様に当たると雪原の中なのに暖かいほどだ。

そこからはトラバース気味の道を進み、1時45分に本沢温泉のテント場に到着。早速、テントの設営場所を決め、雪面を踏み固め、テント2張りを設営。トイレはテント場上方の本沢温泉の小屋裏に設営されている。いちいち登って行かなくてはならないので、ちょっと不便だが仕方ない。

片方のテントを炊事・食事のテントと決め、荷物を残りのテントに移して、お茶、お酒、食事と進んで行く。夕食はリーダーの浅見さんが殆どのを自ら用意してくれて、チーズフォンデュと鳥肉団子鍋・うどんという贅沢なメニューだ。野菜もたっぷりで、いつもジフーズ食に慣れている者にとっては、信じられないようなご馳走で、それがまた味が良いのだからたまらない。

本沢温泉は、冬もやっている一番高いところにある温泉(露天風呂?)だとかだったが、予報通り、夕食頃からかなりの雪が降り始めたこともあってか、誰も入らなかった。

12/29(月)〈雪→曇り〉

起床 4:30 本沢温泉 7:50 ~ 夏沢峠 9:40/10:05
~ 硫黄岳への途中まで 11:05 ~ 夏沢峠 11:40
/12:00~本沢温泉 12:45 →テント撤収作業終了・
出発 13:50 ~しらびそ小屋 15:45/16:00 ~稲子湯
17:10/ ~ 熊谷市江南 20:30

前夜に起床予定を 30 分早めて、4 時半起床。雪が降りしきる中、出発準備をする。7 時 50 分、テント場の上部にある本沢温泉小屋を出発。昨夜から降り続けている雪で、踏み跡も埋まっているが、先行パーティーもいくつかある。

夏沢峠着 9:40。登山道をはさんで隣り合って建つ 2 つの小屋、山びこ荘とヒュッテ夏沢はともに冬期閉鎖中。ここで、雪が降る中、アイゼンを付ける。ワカンとはまとめて小屋の軒下にまとめてデポしておくことになった。

夏沢峠を 10 時 05 分に出発。出発にあたってリーダーから、「行動は 11 時 30 分までで切り上げ!」と確認の声が飛ぶ。足がしっかりしていれば、ギリギリ頂上まで到達できるかもしれない時間だ。最初は樹林帯に行く。メンバーが遅れ、先行の 4 人との距離が離れてしまうが、リーダーが最後尾を固めてくれている。

樹林帯が終わり、岩稜帯に出ると、一気に風が強くなった。降る雪の量は少なくなってきたが、風と一緒に吹き付けて来て頬に粒が当たる。少し行ってから目出帽を着けるが、山口は汗と呼吸で曇ったメガネが凍ってしまって、視界が失われてしまう。仕方なくメガネを外して進むが、今度は先行メンバーの踏み跡も見えにくい位の視力しかない。しかも裸眼でいるために、雪の粒が何かが入ったようで、左目に痛みが走る。

11 時 5 分、風雪の強さ、視界の悪さ、気温の低さからリーダーの判断で撤退が決まった。先に行っている 4 人をリーダーが呼びに行き、全員で下山となった。

夏沢峠に戻り、昼食兼行動食をとり、12:45 に本沢温泉のテント場に着。約 1 時間でテント撤収作業を終わり、下山開始。途中、しらびそ小屋で、遅れているメンバーの装備の一部を他のメンバーが分担して下りることになった。稲子湯まで 1 時間

10 分で下り、17 時 10 分に駐車場に到着した。

帰りは横川 SA で夕食と会計を済ませ、熊谷市江南に 20 時半頃着、解散となった。

高柄山

新井浩二

山域山名：山梨県上野原・高柄山 733.2m

参加者：新井浩、駒崎

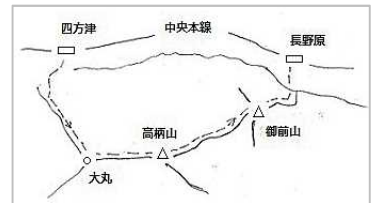
期日：2015 年 1 月 24 日(土)

行動記録：熊谷市江南(5:30)⇒上野原駅南桂川河川敷駐車場(7:03/7:18)⇒上野原駅(7:55)⇒四方津駅(7:58)⇒大丸山(10:33)⇒高柄山(11:24/12:52)⇒御前山(15:00)⇒駐車場(16:00)⇒秋山温泉(17:00/18:45)⇒熊谷市江南(20:00)

<天候晴れ>

冬の低山歩き&鍋&温泉を楽しむために企画。

嵐山小川 IC から上野原 IC までは高速を使い、82km 1 時間半で上野原の桂川(相模川)の河川敷駐車場に到着。



支度をして上野原駅に歩いていくが、寸前のところで予定していた電車(7:28)が行ってしまう。次の 7:55 まで待つ。一駅目の四方津駅で降りる。何人かのハイキングの人が見える。ここから扇山へ行くルートもあるらしい。舗装された道を相模川を越えて集落の中を進み、40 分ほどで登山道に入る。北側の斜面を登るため時折雪が残っているが、アイゼンを出すほどでは無いがちょっと滑る。尾根道は日差しを浴びて快適なハイキング道。途中新しい林道を作っており興ざめ。大丸山、千足峠を通過。アップダウンを数度繰り返し、高柄山へ。上野原の街並みが一望出来て休むのには最適。風もなく暖かい日差しで、餃子鍋とラーメンを食べてのんびり。数人の登山者のみで静かな山頂です。下山途中の鶴鉾泉に電話するが、休みで温泉には入れないとのこと、残念。暖かいためのんびりしすぎて、やっ

と重い腰を上げて先に進む。少し進むと踏み跡が少ないのに気が付く。地図を確認すると、西側に伸びる違う尾根を進んでいるようだった。今回のコースは完璧なまでに標識が完備されていますが、それも確認せずに感覚だけで山頂から歩き始めたのでした。間違いに気付き山頂へ戻り、標識を確認しました。地図を出し、コンパスで間違いを再確認。道迷いはこうして発生するんだと反省。その後はコンパスを使い、現在地を常に確認しながらの地図読み山行となりました。矢野根峠、御前山を通り、集落の中を歩いて、桂川を渡って駐車場に戻りました。その後秋山温泉に立ち寄り帰路に着きました。

低山では有りますが、電車を使い、アップダウンも有り、かなり歩き応えのあるコースでした。

今回の道迷い、終始眼下に街並みが見えている里山ですが、間違えればとんでもない方向へ進んでしまう典型的なミスコース(道迷い)でした。思えば、山頂での昼休み時に、来た方向と同じ方向へ出発していく登山者に、ピストンかなと思っていたところが間違いの出発点でした。幸いにもロスタイム5分程度で済みましたが、里山は踏み跡があちこちに多くミスコースしやすいので、地図読みは確実にしなければならぬと痛感。

大坊山 なべ山行

並木利夫

山域：足利市大坊山

期日：2015年1月25日(日)

参加者：Aコース CL 新井 大嶋 渡辺 杉山 石川 黒澤 高橋仁 並木

Bコース 軽石 相澤 堀 高橋武

行動記録： 熊谷駅南口 8:30～大山祇神社 P 10:15～大坊山 10:40～ツツジ山 11:10～絶壁 11:40～山頂番屋 11:55/13:10～足利病院駐車場 13:45～熊谷駅南口 15:05

毎年恒例の鍋山行は今年は栃木県足利市の大

坊山で行うことになった。

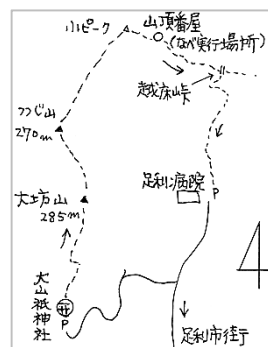
熊谷を出てまず足利病院駐車場へ直行し、参加者全員がここに集合した。行動は2班に分かれ、炊事担当の4名は食材と炊事道具などを持って、昼食場所の番屋へ直登し、他の8人は車で大山祇神社の駐車場へ廻り、ここから番屋へ向かう計画である。

神社の脇から大坊山への登山道が付いていて常緑広葉樹のカシ類の疎林の中をジグザクに暫く登るとやがて尾根道に出て視界が急に開け、眼下に足利市の町並みや麓のゴルフ場、渡良瀬川の川筋などが望めた。

やがて鳥居をくぐりその先の石段を登った先に大坊山の山頂があった。山頂は広く今は社殿はなく、礎石だけが残る境内である。休憩の後尾根伝いに北上し、一つ先のピークがつつじ山、さらに先のピークが碎石の採掘で削られ絶壁の上にかろうじて残っている崖である。この下に番屋があり、先回りした炊事班により既にナベも出来あがり、本体の到着を待っていた。

番屋はこの山一帯を所有し採掘している関野鉦山が開いていて、登山者の休み場になっている。小屋から少し下ったところに置いてあるワナ(鉄の檻)の中には1m位の痩せたイノシシが捕まっていた。最近この辺の山ではイノシシはじめニホンカモシカやタヌキなどの野生動物が増えているそうである。熱々の芋煮と味のしみこんだうどんを頂き、冬の寒さを忘れました。炊事担当の皆さんのおかげで楽しいなべ山行ができました。ありがとうございました。

13時20分には下山を始め、急な下りを10分ほどで越床峠に着き、さらに15分ほどで足利病院の駐車場に着いた。ここで解散となり車ごとにそれぞれ帰路についた。



日だまりハイク 仏果山

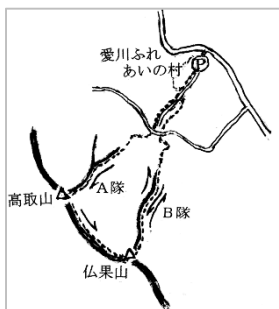
須藤俊彦 軽石昭夫

A 班

期日：2015 年 2 月 11 日(水)

参加者：SL 高橋、SL 相沢、渡辺、須藤(俊)、黒沢、豊島、杉山、サンペル、甘利、宮内

記録：熊谷南口 7:00=愛川 IC=9:20 駐車場=愛川ふれあいの村 9:40=11:30 高取山 11:40=12:15 仏果山 13:05=14:15 愛川ふれあいの村=駐車場 14:50=狭山 SA で 16:15 解散会



今回は総勢 20 名であったので A、B 班各 10 名に分けての行動であった。メンバーのうち黒沢車はサンペル、甘利、宮内各氏をピックアップし駐車場で合流、

B 班を含め 9 時 20 分全員集合。

出発して間もなく仏果山を直接目指す B 班と別れ杉の生い茂る山腹の道を鹿除けの柵を何度かぐりながら登っていく。日陰に雪が目につきだすころ休憩ベンチのある東の平につく。ここで 5 分ほど 2 回目の休憩をとり高取山を目指す。雪で滑りやすい急な道を注意して登るのは疲れる。やがて葉を落とした木々の間から頂上の展望台が認識できるようになり間もなく高取山頂に到着。頂上は眺望がきかないので展望台に登ると正面に丹沢山塊の中心部の山々が、その下には青い宮ヶ瀬湖が輝いている。反対側は平野部が遠くまで見通せる。

心地良い微風下、早春の眺望を満喫し仏果山に向かって南側の稜線を下る。やがて雪道になり対向者はほとんどがアイゼン着装。最後は、ロープのある急坂を登ると展望台がある仏果山山頂だった。B 班は 15 分ほど前に到着した由、すでに昼食準備中であった。A 班も少し離れたテーブルで暖かいお茶と昼食をとった。その後 20 人全員で記念

撮影し B 班はアイゼン装着で下山開始。A 班も展望台を楽しんだり、おしゃべりしたのち、B 班情報からアイゼンをつけ出発した。快調に歩を進めやがてアイゼンを外している B 班に合流、A 班も脱ぎ泥だらけのアイゼンを持って余しながら先に出発。杉、ヒノキの林を抜け出発地のふれあいの村に到着。アイゼンを洗ったり、トイレ等で時を過ごし B 班と合流した。

素晴らしい天候に恵まれた事もあり、皆行動に余裕があり楽しい山行であった。(須藤)

B 班

参加者：CL 新井勇、SL 軽石、大嶋、並木、白根、八木、堀、栗原幸、逸見、高橋武

記録：熊谷駅南口 7:00=東松山 IC=相模原愛川 IC=愛川ふれあいの村 8:40/9:45~登山口 9:53~高圧線下休憩 10:30/10:40~仏果山 11:45/12:55 下山~休憩地 13:30/13:40~登山口 14:13~ふれあいの村 P14:30

今日は A 班、B 班合わせて 20 人になった。高齢者組の B 班は山頂直行往復コースとし、元気な A 班は高取山を経由して仏果山に至る周回コースである。

好天のもと、関越道を南下、下りの渋滞を横目にスイスイと圏央道は初の相模原愛川 IC まで行き戻る形になり愛川ふれあいの村に到着、すでに黒沢車の 4 人が先着していた。

施設のトイレを借りる際、入園目的や所属名、人数を記録させられた。

9:40 頃にスタート、すぐに直進の A 班と別れ左に下る。民家の先で狭い車道を右に行くと日陰には先日降った雪がかたまっている。高架道をくぐると登山口とあり尾根への取り付けきとなっている。暗い杉、檜の樹林帯をしばらく行く。そこへ、薄着でほとんど無装備の団が小走りに下ってきた。都度道を空けてやらねばならない。トレイルランナーたちのトレーニングのようだ。当然みな若い、聞けば 3 回ほど山頂との往復を予定しているのだそうだ。我等には理解しがたい世界だ。明るいところで一休み、この先は雪道のようだ。

樹林の階段状は明らかに氷結している。氷面を

避け白い雪の上を慎重に登った。滑りそうなところを踏みとどまりアイゼン無しで山頂に着いた。昼食休憩中に 15 分あとに A 班が到着した。この山頂には鉄骨作りの展望所があり、10 数米の高さがあり確かに 360° の展望がある。すぐ西に大山はじめ丹沢の白い山並みが近い。雲取山から鷹巣そして奥多摩の石尾根、大岳山もはっきり。東側は手前に低い山並、その向こうに関東平野が広がっている。ただ、新宿や横浜の高層ビル群や相模の海はうっすらとしか見えない。

A、B 合同の集合写真を撮って下山、今度はほぼ全員が軽アイゼンを着用した。やはり安心と安定が全く違う。登りの時の休憩地点でアイゼンをはずした。そこから少し下ったところで太腿にけいれんを起こした人がある。芍薬甘草など即効性のある薬を誰も持ち合わせがなく、ただ痛がる人を傍観してるのみの他者は、あれこれいうものの余り役に立つとも思えない。数分で痛みも収まったが薬品セットの中にこの、芍薬甘草は常備すべきではないか、と思った。これはぜひ実現してもらいたいものだ。

2 時過ぎには駐車場に戻ることができた。帰路、4 台が別々の方角に散ったのだが、ほぼ同時刻に狭山 PA に集結、精算をして解散とした。(軽石)

霧ヶ峰・車山

高橋仁

山域：霧ヶ峰高原

期日：2015 年 2 月 28 日(土)～3 月 1 日(日)

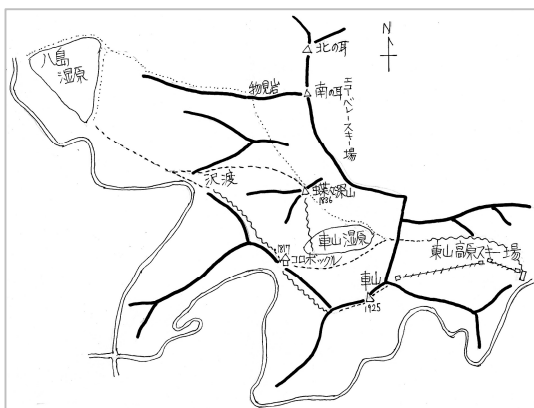
参加者：スキー組 CL 大嶋、豊島、駒崎、新井(浩)、木村、高橋(仁)

ワカン組 SL 軽石、八木、堀、栗原(幸)、逸見、山口、黒沢

行程：

2 月 28 日(土)晴

熊谷駅南口 7:00=車山高原スキー場 P10:30/11:15
→リフト→車山頂上 11:45→コロボックルヒュッテ
12:20/12:50→沢渡 13:15→八島湿原 13:45→蝶々深山
15:00→車山湿原 15:35→コロボックルヒュッテ 16:00



ツルリとした蓼科山の山頂を見ながら、白樺湖を過ぎ車山高原スキー場に到着。ピーナスラインが交通止めで宿までいけないので、予定変更してスキー場リフトを乗り継いで車山山頂へ登ることにした。最奥の駐車場から送迎バスでスキー場へ。気象観測ドームがある山頂は 360 度の展望で、蓼科や八ヶ岳は間近に迫る。しばし山座同定を楽しみ、写真を撮ってからコロボックルヒュッテに滑降。ワカン組の到着を待って昼食。

明日は悪天になるので、予定変更して今日のうちに八島湿原から蝶々深山(チョウチョウミヤマ)を周回してヒュッテに戻ることにする。ワカン組と分かれて、閉鎖リフトを左に見ながら気持ちの良い斜面を沢渡まで滑降。シールを付けて八島湿原入口へ。霧ヶ峰や八ヶ岳山麓は石器時代から人が住み、ここで産出した黒曜石が広く流通していたと云う、古代のロマンに思いを馳せる。



ここから引き返して青空の中になだらかに広がる蝶々深山に向かう。昔からカヤの刈り取りや野焼きも行われて草原化したと云う高原は、解放感にあ

ふれた広大な景観が素晴らしい。山頂から気持ちの良い南斜面を滑降し、車山湿原をぬけてヒュッテに戻る。(湿原をぬけてから「積雪期も立ち入り禁止」の看板が……反省!) ヒュッテは貸切り状態で、宴会と豪勢な弁当の夕食で盛り上がった。

3月1日(日)吹雪

ヒュッテ 8:40→車山乗越 9:40→スキー場 10:20/11:40→駐車場 12:10

未明から小雪が降り、風も出て視界は全く効かない。スキー組もワカン組も、車山乗越からスキー場にゲレンデを下ることにして出発。GPSでコースを確認しながらゲレンデに下るが、上のリフトは止まっていて下のリフトでようやく人影が見えて来た。昨日の混雑から一変して静かなスキー場で、ワカン組の到着を待って昼食を取り、バスで駐車場へ。途中サンピア佐久の温泉で汗を流し帰路へ。

御荷鉾山

杉山千恵子

山域：西上州 御荷鉾山

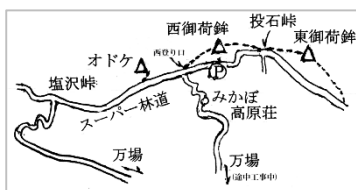
期日：2015年3月15日(日)

参加者：L 新井勇 軽石 並木 堀 白根 高橋 仁 須藤 逸見 杉山

行動記録：熊谷駅 7:00=西御荷鉾山登山口 9:06～西御荷鉾山山頂 1286m 9:55～投げ石峠 10:55～東御荷鉾山山頂 1246m 12:10～駐車場 14:00～オドケ山山頂 14:30～駐車場 14:50=御荷鉾山山荘 15:10=熊谷駅 17:30

登り口までの景色はまだまだ灰色の様です。その中で白く咲いている梅は、これからの山の季節を感じさせるものでした。いろは坂の様なカーブを何度も通り抜け、埃が舞って車体が真っ白になってきます。道の端に西御荷鉾山登山口がありました。

登りはじめは見上げる様な急斜面でした。運転



者の軽石さん、高橋仁さんには駐車場に車を移動してもらい、他の7名は落ち葉を踏みしめ、滑らない様に気をつけながら歩き始めます。肌に感じる空気は思ったより冷たいです。天候は薄曇り、遠くの山々も白っぽく見えます。足下は歩くたび落ち葉がガサガサ音を立て、そうかと思うと日陰には雪が残り凍っていたり。なるべく避けながら滑らない様に歩きます。

程なく西御荷鉾山山頂に到着。軽石さん、高橋さんと合流しました。風も穏やかでした。お茶を沸かして休憩後、東御荷鉾山に向けて出発します。雪を想定して軽アイゼンがすぐ出せるようにとの呼びかけに、準備をして歩き出します。投げ石峠を経て車道に下り、再び山道へ戻り歩いていきます。途中少し休憩を入れて、急坂もありましたが、雪の程度はアイゼンを付けるほどでもなく12:10に東御荷鉾山山頂に到着しました。付近は木が切られ広々としていました。薄曇りでしたが多少の景色は眺めることが出来ました。昼食休憩後、記念撮影をして下山しました。

急な下りに気をつけながら同じ道をたどり、再び車道に下り歩くこと30分、駐車場に着きました。この後、オドケ山頂を目指し、落ち葉に覆われた山で黒いコロコロした動物の糞を避けながらあつという間に山頂へ。御荷鉾三山の中では一番低い山との事です。

帰りながら御荷鉾山荘に寄り、男性陣は全員お風呂につかり疲れを癒し、女性陣3名は休憩室を借りて休ませていただきました。山道では他のハイカーに1人も会わずほんとに静かな山でした。雪も所々ありましたが軽アイゼンも使うことなく皆無事下山できました。皆様お世話になりました。

大平山

駒崎裕美

山域：大平山

期日：2015年3月21日(土)

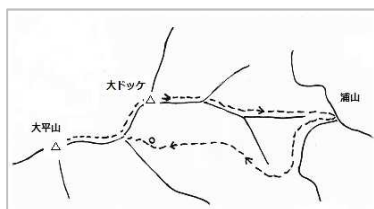
参加者：新井浩 駒崎

行動記録：浦山大日堂 P(7:45)→福寿草自生地

(10:35/11:00)→大平山(12:30/13:40)→大ドッケ
(15:20)→大日堂 P(17:30)

<霧雨のち曇のち晴れ>

大ドッケ
の福寿草
がそろそろ
見頃になる
かと思っ
てきまし



た。最近ではネットで紹介されていて、多くの人が入っているようです。

5〜6 台置ける駐車場は先客 2 台でほっとする。午前中は晴れ間があると予想していたが、雨が少しあたるので雨具を着ての出発となる。一度来たことがあるのでエアリア上に登山道は無いが問題なく行けます。橋を渡り、集落を抜けて 61 号鉄塔標識のところを上がっていきます。杉の植林をしばらく歩くと廃墟が現れます。さらに鹿避けネット沿いに進み、ザレた斜面をトラバースして沢に入ります。昨年大雪の影響か、以前より登山道は荒れています。沢の水量は少ないが苔むした石がゴロゴロしていて、残雪、倒木もあり、歩きにくいです。傾斜が緩んでくると現れてきました。福寿草の花園です。

それまで冬色、茶色の世界だったのが、ここだけが少し緑が入った黄色に覆われています。でも見頃の時期ですが、花はつぼんだままです。日にあたらないと開かないのです。空はどんよりしていて、雨も止みそうにない。後から何組かのパーティーも来て混雑してきたので、少し写真に収めて、太平山を目指すことにする。

沢を登り尾根に出ます。道はなく、枯れた鈴竹と落ち葉の急な斜面を音を立てながら踏みしめ、ジグザグに登っていくのは、まるでスキーのシール登行のようです。尾根に出て尾根沿いに進む。初めは狭く、残雪はまばら、尾根が広くなり凍った斜面を緩やかに登ると直ぐ脇に地図にない林道が現れ、広いブナ林に出ます。地面は雪で覆いつくされ、霧雨は細かい曇に変わり、風はないですがガスってきて真冬状態です。残雪は緩んでいてやわらかく踏み跡がないので、はまります。ワカンが欲

しくなります。赤いテープは少しありますが GPS でも確認しながら進み山頂到着。じっとしていると寒くなるので防寒して、カレーうどんを食べてあたたまり、下山します。

後から来たのは西谷小屋へ行くという単独の方と二人組だけでした。下山はお花畑から上がった稜線まで戻り、そこから独標、大ドッケ、61 号鉄塔を目的地にして尾根を下ります。独標あたりから急速に天気は良くなり快晴、標識といえるものは、独標に小さな古いのがあったくらいで赤テープもなし。良い機会なのでコンパスと地図で進むことにする。地形、発生尾根を確認しながら、出発点の橋にぴったり下ることが出来ました。

花は開いてなくて残念でしたが、地図読みをしながらしっかり歩いて良い山行でした。

小川・東秩父 花めぐり

滝澤健次

期日： 2015 年 3 月 31 日(火)

参加者：CL 山口 SL 橋本義 並木、白根、栗原幸、新井勇、逸見、高橋武、滝沢

行程：熊谷駅南口集合 8:30→小川町伝統工芸会館 P・・・(1)下里地区のカタクリとニリンソウ自生地・・・伝統工芸会館 P→(2)八幡古墳・・・山口さん方→(3)桃源郷散策→(4)埼玉県秩父高原牧場・昼食→(5)花桃の郷(東秩父村大内沢)→(6)橋本さんの山小屋(寄居町風布)→熊谷駅南口 16:00

時間通りに熊谷駅南口に集合、荒川大橋を渡って小川町伝統工芸会館駐車場に到着、一番奥の川沿いに車を停めました。

(1) 歩きで槻川沿いを少し下って一本橋を渡ると、すぐにカタクリの群落が見られました。低い丘陵の東斜面、もとは竹林におおわれていたらしいが、竹を整理して草を刈り込んであるから、花がよく見えます。集落の間近にこれほどのカタクリ大群落があるのは珍しい。ゆっくり写真を撮ってから、散歩道を北にたどり曹洞宗西光寺の満開の桜を楽しみました。その後、川を渡り返して工芸会館の駐車場に戻りました。

(2) 次は車で穴八幡古墳を見学。場所は小川町増尾地区。丘陵の尾根の末端を利用して作られた 7 世紀後半の方墳。横穴式石室の入口は秩父系の緑泥片岩の切石を組み合わせてあります。開いている石室をのぞくと、石棺があったあたりに石造りの社が安置されていて、八幡様が祀られています。古墳のてっぺんには大きな杉の木が立っています。

西へ回ると発掘で判明した 2 重の空堀が復元されていました。ここからは南側に小川の盆地が見下ろすことが出来る。古墳建造当時は遙か下の集落から石におおわれた立派な古墳が仰ぎ見られたことでしょう。

古墳から山口さん宅が近いというので、寄らせていただきました。山口邸はここも高台で、周囲に野菜畑がめぐる閑静なお宅でした。

(3) いわゆる桃源郷は、古墳から車で 10 分ばかり南に行った所。松郷峠入口の信号から南に入った山裾にあります。山の斜面ともと棚田であった場所にハナモモとサンシュユが植えられていて、両方とも満開でした。近所の農家の老夫婦がシートを敷いてお花見をしていたが、他に人はいない静かな所です。一番上に車を停めて、下まで歩いてゆっくりお花見を楽しみました。サンシュユの花は黄色の小さな花で、私は初めて見ました。

(4) 車で東秩父へ出て、埼玉県秩父高原牧場へ行きました。よく知られた所だと言いますが、ここも私は初めてでした。秩父・三沢と東秩父を結ぶ粥新田峠の北側に広がります。牧場の道ばたにあるベンチに陣取って、昼食を食べました。秩父に雪が降ったときに、熊谷から白く見えるのはこの辺りの斜面に違いありません。

(5) 次に東秩父村大内沢の「花桃の郷」に移動しました。ここは集落の棚田や桑畑、みかん畑だった所にハナモモ・桜を植えて、切り花を出荷し、観光花見客を呼び込もうとしているらしい。どうやら近年売り出し中らしくて、狭い駐車場、屋台の売店、真新しいトイレなどが初々しく見えます。山裾を見上げると遙か上の方から下流まで花に覆い尽くされています。

駐車場に車を停めて、車道を歩いて登りながら花を楽しみました。その後駐車場脇にある高台につ

くられた「展望台」に登りました。なるほど谷全体の花を見渡すことが出来て絶景でした。山村の高齢化が深刻となる中では、急傾斜の畑でみかんをつくるより、花観光で人を呼ぶ方が手っとり早いのかも知れません。

(6) 最後に寄居町風布にある橋本義彦さんの山小屋に寄らせていただきました。波久礼駅方向から登って行って、風布の集落に入る手前、左側に山小屋があります。狭いが中にはイス、ストーブなど整っていて、ここで本格コーヒーをご馳走になりました。橋本さんに依れば、当初は今の山荘の裏側に平地を大造成しようとしたが、断念したそうです。でも狭いなりに楽しい我が家、快適でした。

今回はカタクリ、古墳からハナモモまで、近場でのどかな里山風景を案内して貰いましたが、いずれも花の時期がうまく合致して、素晴らしい花めぐりとなりました。また来年も満開の花にめぐり会いたいと思いました。

谷川岳マチガ沢雪上訓練

橋本健一

山域：谷川岳

目的：雪上訓練

期日：2015 年 4 月 5 日(日)

参加者：CL 浅見、大嶋、石川、豊島、橋本義、

花森、菅谷、平岡、福田、木村、金子、橋本健
行動記録：(天候 曇り時々雨)

谷川岳ロープ P8:00ーマチガ沢出合い 8:40/14:20
ー谷川岳ロープ P14:50

天気予報はあいにくの雨の予報。山行ならいざしらず雪上訓練ならば、雨もまた訓練。自分は山スキー以外に冬山も少々やったことがあるが、このような訓練は初めてなので、ワクワクである。

谷川岳ロープ P から歩き始め、登山指導所のすぐ先でアイゼンを装着し、マチガ沢出合いへと進む。こここのところの高温傾向で雪解けは早まったようだ。この春の賞味期限は短いかもしれない。

マチガ沢出会いはマチガ沢への入山規制ロープが張られている。実際この日も大きな雪崩音がして雪崩れていた。

いざ訓練開始。まずは滑落停止の訓練である。斜面を滑りながらピッケルを斜面に突き刺していく。前向き、後ろ向き、頭から、転がりながら……。いろいろな体勢で試みる。終わりの頃には体が慣れてきて、初めよりスムーズに刺せるようになってきたが、この日はやや腐れ雪、カチカチのアイスバーンではどうなることか、不安は残る。

手と体はずぶ濡れになってしまったが、続いてハーネスを装着してのロープワ



ーク訓練。ムンターヒッチ、クローブヒッチ、エイトノットを使って木を支点に懸垂下降、引き上げの訓練。これは自分一人の問題では無いので、より重要である。10mm ザイルに体重をかけ、きちんと停止するのか、スムーズに降ろせるのか、確認しながら練習していく。

最後にセルフビレイ(スタンディングアックスビレイ)の練習。下降したいところに都合のいい木がない場合にはこの方法となるので重要だ。雪面にさしたピッケルが支点となるので意外なほど荷重はかからなかった。

ひとしきり練習したら、ツェルトを張って、その中で昼食。家形に張るタイプのツェルトは綺麗に張れていたが、自分たちの班のはモノポールタイプ(?)のツェルトであったためか、上手く張ることができなかった。個人で持っているツェルトは張り方など確認済みだが、共同装備で持つものはツェルトに限らず予めよく確認しておくことが必要であると痛感した。

休憩が終わったらロープワークの続き。今度はコンティニュアスの練習。1本のザイルに4人連結

して、歩きながら誰かが滑落したとの想定で、訓練である。予めザイルの輪を作って持っておき、落ちた瞬間にそこにピッケルを突き刺して滑落者を停止させる。実際の場面になると「落ちた瞬間に」が難しそうである。ただ適切に使えば、上手く停止させられることがわかった。

訓練が全て終了し、マチガ沢出会いを後にする頃には、見えていなかった白毛門やマチガ沢上部も見えてくるほど天候が回復していた。

この日に使った技術はそうそう使うものではないのかもしれないが、知っているのと知らないのとでは大違いであると思う。これからも技術、特にセーフティ技術の習得に励んでいこうと思った一日であった。

高尾山、景信山

新井浩二

山域山名：高尾山、景信山

期日：2015年4月12日(日)

参加者：駒崎、新井浩

行動記録：江南 5:30⇒日影沢 P7:00/7:10⇒小下沢
⇒登山口 8:00⇒景信山 9:20/9:35⇒小仏峠⇒城山
10:20/11:15⇒高尾山 12:10/12:30⇒日影沢 P13:35
<天候:晴れ>

春の花を愛でに、反時計回りで高尾山を周遊して来ました。

前日までの雨も上がり、まぶしい朝陽が登って来ました。関越、圏央道を走り高尾 IC で降りていつもの



日影沢に向うが、駐車場はあふれており、奥の路肩に停めました。今回の登り始めは小仏川の支流の小下沢を経由して景信山を目指します。中央本線のガードをくぐり標識に従い右折して中央高速の下を過ぎると小下沢の梅林です。梅の花はすで

に散っており人影は有りませんでした。林道をしばらく歩くと、待ってましたのスマレ攻撃。いろいろなスマレが咲いていますが解るのはエイザンスミレくらいです。沢を見るとニリンソウや咲き終わったハナネコノメ。山側にはヤマルリソウがいっぱい咲いています。のんびり写真を撮りながら歩いていると後ろから早足の団体さんが抜いていきます。その先の小下沢の景信山登山口にたくさんの人が集まっていました。「高尾の森づくりの会」の植樹祭とあとから解りました。山道に入り、ジグザグに沢沿いを登ると、過去の植樹の標識があり、先ほどの人たちが毎年植樹を実施しているようです。やがて尾根に上がり、少し登ると景信山の山頂 727m です。まだ人がまばらな時間。かげ信小屋では、名物の山菜天ぷらを揚げていました。相模湖、中央道、これから進む高尾山が眼下に見えます。今日は写真展の当番(16:00 から)なので先を急ぎます。小仏峠を経て城山で昼休憩。一昨年来た時は桜が満開であったが、今年は寒いのかまだつぼみです。大変なにぎわいで山にいるとは思えないくらいの人、人です。さすが東京の山。テーブルに座り昼休憩をして、記念写真を撮って高尾山に向います。城山～高尾山の間の尾根道はきれいに整備されてまるで公園の中を歩いているようです。尾根伝いの桜の下には、お昼時に重なったこともあり、みなさんシートを敷いて休憩中です。さらににぎやかな高尾山の山頂を通過し、ひっそりとした日影沢に下りました。最後の目の保養に、タカオスマレとヤマルリソウを見てから帰路につきました。

カタクリ探訪ハイク 武川岳

相澤健二

山域：奥武蔵・武川岳(1052m)

目的：新緑の山と春先の花を楽しむ

期日：2015年4月18日(土)

参加者：CL 新井、SL 軽石、白根、堀、栗原、渡

辺、山口、黒澤、相澤、輪湖(会員外)計10名
行程：熊谷駅南口 7:00→秩父→武川岳登山口
8:50/9:00→妻坂峠 10:00/10:15→武川岳山頂
11:05/11:55→妻坂峠 12:20/30→武川岳登山口
13:00

生川(うぶかわ)の一の鳥居の駐車場は、登山者の車で目一杯に詰まっていた。芝桜が最盛期を迎えており武甲山への登山が多いと思われる。沿道も数珠繋ぎに駐車しており、武川岳登山口まで上りどうにか停めることができた。

春の柔らかい陽射しを浴び、沢のせせらぎを聞きながら気持ちよく歩く。杉林に入るとつづら折りの道をひたすら登る。この杉林を抜けると雑木林へと開け、足



下にカタクリの可憐な花が目に入ってきた。傍らで二輪草と一人静がひっそりと咲いていた。少し先へ進むとハシリドコロの群落にぶつかる。クロユリを小さくしたような花で、一面にみごとに咲いていた。花を楽しんでいるうちに妻坂峠に到着。ここで休憩を取る。

妻坂峠を越えるとカタクリの花があらちちと目立ってきた。雑木の中から武甲山が望める。登山道は急な登りがしばらく続く。尾根道に入ると平坦な道となり、頂上へと向かう。頂上は広くいくつかの登山グループが到着しており、ベンチは埋まっていた。

下山は急な坂を足下に注意しながら降りる。しばらく歩いていると前方から見慣れた人が登ってくる。石川さんと出会う。奇遇である。武川岳から大持・小持山を経て武甲山へと登るとのこと。下りは、スムーズに降りることができ、無事に登山口へ。帰路は黒澤さんに先導していただき脇道に逸れ、芝桜観光の渋滞に巻き込まれず家路へ。天候に恵まれ、楽しい山行となった。お疲れ様でした。

足尾植樹

堀初子

山域：足尾銅山・春の植樹デーと吾妻山

期日：2015年4月26日(日)

参加者：CL 木村、栗原(幸)、高橋(武)、逸見、相澤、杉山

行動記録：熊谷市役所(7:00)→親水公園駐車場(9:35)→植樹(9:50/12:20)→(昼食)→吾妻公園駐車場(14:20)→登山口(14:45)→トンビ岩 15:05→山頂(15:35/15:50)→駐車場(16:15)→熊谷市役所

天候にも恵まれ、恒例になった足尾の植樹デーに参加した。今年で20周年を迎え記念すべき年となった。昨年に引き続き戸四郎沢の上部、Bゾーンへ植えることになった。先頭は最高峰あたりに見えるが、下の方は足踏み状態でなかなか順番が回ってこない。漸く中程に登れた頃には植樹を終え下山する人たちが賑わった。3本の苗木を植え下山する。

昼には豚汁をいただき、足尾町出身のサクセス奏者ジミー中山さんの懐かしい曲等を耳にしながら楽しい時を過ごしました。

吾妻山へ移動。さわやかな若葉の中清々しく咲くアオダモの白花と朱花に染めたツツジの花の景色に思わず息をのむ。隣接する墓地、竹林を通り哲学の小道を抜け、整備された階段・歩道を登りきると、尾根の分岐に出る。右折して進むと陸橋があり、渡る。しばらく登るとベンチのある広場に出る。大きな器があり細く長い白いお札の様なものが入れている。よく見ると植物名が書かれている。不思議に思う。



ここからが本格的な登山が始まる。石がゴロゴロした急峻な道を行くと、トンビ岩に出る。目の前に一本のキンランの花が。桐生市は絹織物の街、白滝姫について記された立て札もある。桐生の町並みが一望できる。

さらに急斜面を登ると緩やかな稜線に出る。ここでも白くさわやかな花が咲いている。第1、第2

の男坂、女坂と別れ、右コースに辿る。急登できついが一気に登ると山頂になる。ここには吾妻大権現を奉る祠がある。

眼下には、渡良瀬川と桐生川に挟まれる様な町並みが、南側には秩父連山、東側には足利の山々が一望できる。帰路は来た道を辿る。

石裂山

駒崎裕美

山域山名：石裂山(前日光、栃木県)

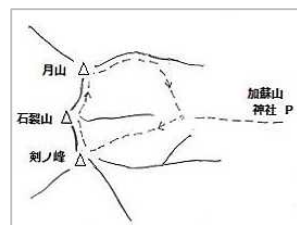
期日：2015年4月26日

参加者：新井浩、駒崎

行動記録：江南(5:30)→加蘇山神社 P(8:15/8:35)→千本桂の木(9:25)→石裂山(11:11)→月山(11:24/12:40)→加蘇山神社 P(14:05)

<天候:晴れ>

以前より気になっていた山で、花の百名山と知り、丁度花の時期に当たると思い行ってきました。この山



は信仰の山で岩山です。真新しいハシゴや鎖があり、きちんと整備されていて、休憩の東屋も2箇所あり大勢の人が入っているようです。お目当ての花、フタバアオイは歩き始めて10分ほどの登山道脇に群落が見られ、他ハルトラノオの群落やエイザンスミレがところどころに見られました。

加蘇山神社の下に10台位車が置ける場所がありほぼ満車です。出発するとヤマブキの黄色が目に入ってきます。登山口は神社の左脇で、沢沿いに花を見ながらのんびりと進みます。竜ヶ滝休憩場所あたりに来ると人工のフェンスにもサルオガセが付いているのがみられ不思議です。

月山から下りてくる分岐を過ぎて、さらに天然記念物のりっぱな千本桂に会い、鎖、ハシゴと上に進んでいきます。奥の宮に立ち寄り稜線にでます。長いハシゴを下って登りかえすと石裂山です。お昼は10分位行った月山にします。見頃と思っていた

アカヤシオは遅い感じでしたが、花が舞って落ちてくる大きなヤシオの木の下で食べることが出来ました。

下山の最後に山菜のミズを取って帰りました。

社山・黒檜岳

相澤健二 高橋武子

山域：社山・黒檜岳(栃木県)

目的：中禅寺湖南岸尾根の縦走

山行形態：無雪期一般登山

期日：2015年5月17日(日)

参加者：(縦走組) CL 木村、SL 新井(浩)、駒崎、栗原(聡)、相澤

(往復組) SL 新井(勇)逸見、高橋(武)

【縦走組】

行動記録：熊谷駅南口(4:30)→立木観音 P(7:20/7:40)→阿世潟峠(9:20)→社山(10:30/11:10)→黒檜岳(13:30)→千手ヶ浜(15:45)→竜頭の滝 P(17:10)→立木観 P(17:20/45)→熊谷駅(20:50)

熊谷駅を発つ頃は太陽に雲が掛かり、どんよりとした空模様であったが、中禅寺湖畔の立木観音 P についた時は雲一つない晴天に変わっていた。中

禅寺湖周

辺は5月

の連休

後とあっ

て、旅行

客はほと

んどなく、

釣り人がチラホラと目に付く程度で、湖はわずかに漣が立ち、湖畔は静かな佇まいを見せていた。前方に男体山を望み、湖畔には三つ葉ツツジが咲き、これらの景色を楽しみながらゆったりと歩く。阿世潟峠・半月峠分岐で竜頭の滝 P に車を回送した木村・駒崎両名が追いつき、往復組とはここで別れる。登山道を囲むブナ、カエデ、ナラの木々の新緑が瑞々しく、心地よく歩く。

阿世潟峠を越え尾根道に入る。ここから眺める中禅寺湖はすばらしい。目の前にシロヤシオが咲き

誇り、前方には緑がかかった男体山を望む、中禅寺湖の色は絵の具を流したよう風合いで、グレー



ブから「絵はがきのようだ」との声があがる。シロヤシオがあちこちと目立ってくる。淡い緑のカラマツも美しい。尾根道からは右側に男体山・中禅寺湖が、左側は足尾の山々が眺められ、白ヤシオの花とカラマツの若葉を楽しみながら歩く。やがて笹原になり、シャクナゲの花が目に入ってきた。笹に囲まれた道をしばらく歩くと社山頂上に着いた。頂上では記念写真を撮り、少し離れた先の広場で昼食をとる。広場からの展望は良く、皇海山、白根山が望め、周辺ではシャクナゲが咲いていた。休憩後、黒檜岳に向かう。尾根道は深い笹に被われ、登山道がはっきりとわからず、登山道らしき道を、笹をかき分け進むとはっきりと判る尾根道に出くわした。ここから歩いて来た道を振り返って見ると本来の登山道とはずれているのが判る。更に進むとダケカンバやコメツガの樹林帯に入った。ここも登山道がはっきり判らず、樹木に取り付けられた赤黄のブリキ板と赤いテープを頼りに歩く。時々見つからず苦労するが、どうにかこうにか黒檜岳頂上らしき所に到着。鬱蒼とした樹林帯の中でここが頂上かといった感じの場所である。休憩を取っていると、鹿を発見。鹿は逃げずに近寄り、一定の距離を置いて止まった。耳をあちこち動かし注意をはらっている。何か食物を欲しがっている様子である。

ここから千手ヶ浜に向かう。変わらず樹林帯の中、かなりの急坂を苦労して降りるが、登山道を囲むようにシャクナゲが群生し、又、点々とアカヤシオが咲いているのが見え、しばらくそれを楽しみながら歩く所もあった。登山道は荒れており、樹木の根が剥き出し、樹木が倒れている箇所も多く、そこを潜たり、跨いだりしながら進む。又、土砂崩れで道が塞がり、崖淵を歩く場面もあった。登山道を下

りに下るがなかなか中禅寺湖は見えない。予定時間をかなりオーバーする。

やがて中禅寺湖が見え、湖畔に到着。湖に流れ込む清流にはマスの稚魚の群れが見える。中禅寺湖にはヒメマス、ニジマス等の 6 種類位が生息しているとのこと。平坦な湖畔をしばらく歩くと千手ヶ浜へ。ここで少し休憩をとり、往復組に予定より遅れることを連絡する。

竜頭の滝 P へ急ぐ。湖畔道はずっと平坦と思っていたが、起伏する箇所はいくつかぶつかる。そこに木製の階段が設けてある。下山したことで、気持ちが緩んでおり昇り階段は結構足腰にこたえた。再び気持ちを引き締め歩き続け、竜頭の滝 P に到着。車に乗り込み往復組が待っている立木観音 P へ向かう。今回の山行は天気恵まれ、登山道からの景色もすばらしく、花木もアカヤシオ、シロヤシオ、シャクナゲ、三つ葉ツツジが思っていた以上に咲き誇り、楽しい一日を過ごすことができた。お疲れ様でした。(相澤記)

【往復組】

行動記録：立木観音前駐車場(7:35)→阿世潟(8:45/9:00)→阿世潟峠(9:25/9:35)→社山頂上(昼食)(11:35/12:45)→阿世潟(14:10)→旧イタリア大使館別荘(14:55/16:30)→立木観音前駐車場(16:45)→縦走組と合流(17:20)

快晴、風がさわやかな日和。阿世潟から阿世潟峠への登る途中から縦走組と別れ、のんびりと登る。カラマツの緑がきれい、葉がまだ伸び切らず、切りそろえたようでかわいらしい。ミズナラやダケカンバはやっと芽吹いたところ。シロヤシオはきれいに咲いている木もあったが、蕾だけをビッシリつけている木もあった。木によってかなり個体差があるが今年は花つきがよい方か？アズマシャクナゲが咲いていて展望も良いところに出たのでカメラ休憩。左下には、先日、植林に行った足尾が見える。右手には中禅寺湖が青く広がり、遊覧船が白く走り、湖岸も白く、周囲は新緑に囲まれ美しい。そして、その向こうには戦場ヶ原が広がり、竜頭の滝、湯の滝が白く見える。日光白根には雪が見える。ここからはさすがに男体山はどっしりと見える。この後も

中禅寺湖を見ながらの登りで天気も良く、絶景の中気持ちの良い山行だった。所どころ風の通り道があり、一枚羽織る。

頂上で昼食、静かな山行になると思っていたが、人気があるらしく他パーティーが何組も登っていた。頂上のちょっと先にアズマシャクナゲの群落があり日光白根をバックにきれいに咲いていた。袈裟丸山、庚申山、鋸山、皇海山など山座同定もする。帰りは同じ道に戻る。どんなに見えても中禅寺湖と新緑が美しい。水をバックにダケカンバの白い幹肌が光る。阿世潟からの湖畔沿いの道は時々アスファルトもあり、帰りはやけに長く感じる。往きは「あつ、シロヤシオが咲いている」とか、気持ちもわくわくしていたのに、帰りは疲れてしまったらしい。旧イタリア大使館別荘により、まずはソファーにゆったり腰掛け、昔の波打つように見えるガラス越しに中禅寺湖を眺めながら休ませていただく。ゆっくりしてから 2 階へも見学に足を延ばす。往時がしのばれる。建物を出て湖畔側に回ると、木のテラスが 3 段になっていて湖畔まで降りられる。ここでもゆっくり風景を楽しむ。ブナの葉の明るい緑が美しい。ハウチワカエデは小さな赤い花穂を下げ早いものは実になりかけている。縦走組と連絡を取り、ころ合いを見て駐車場へと戻る。駐車場では小さなトキワナズナが可愛く咲いていた。

美しい新緑の中ゆったりとした楽しい山旅でした。お世話になりました。有難うございました。(高橋記)

愛鷹連峰縦走

木村哲也

山域山名：愛鷹山(静岡県)

期日：2015 年 5 月 23 日(土)

参加者：L 駒崎 新井浩 木村

行動記録：山神社駐車場(7:15)→富士見峠(8:00)→黒岳(8:20/8:30)→富士見峠(8:50)→鋸岳展望台(9:15/9:25)→富士見台(10:05)→越前岳(10:35/10:50)→呼子岳(11:55/12:30)→位牌岳(14:35/15:00)→前岳(15:35/15:45)→駐車場(17:00)

昨年
の秋に宮田さん達が行った記録を見て気になっていた愛鷹山に、同じルートで行ってきました。



駒崎邸に集合し出発。圏央道の八王子JCT以南を走るのは私は初めてだが、厚木辺りまでの所要時間がとても短い。これまでアプローチに時間がかかるため敬遠していた表丹沢も、これなら今後色々計画できるな～と思いながら車を走らせ、7時には登山口の駐車場に到着した。

準備を済ませ早速出発。杉の美林の中をしばらく登り、広葉樹林になってくると愛鷹山荘に着いた。古いが手入れが良くされており感じの良い小屋だが、水場は浸み出した水が何とか溜まっている感じで心許ない。小屋のすぐ上で富士見峠に出て、せっかくなので黒岳にも足を延ばす。展望台からの富士山の眺めは今回随一だったが、常時自衛隊の演習場からの砲声が聞こえ、複雑な気分になる。越前岳へは樹林帯の中を進んでいくが、道は深くえぐれている所が多く少々歩きづらい。鋸岳の稜線と同じく土壌が脆いせいであろう。鋸岳展望台、富士見台でそれぞれ展望を楽しんで、越前岳山頂に到着した。山頂からは駿河湾の海岸線も望む事ができた。



越前岳から呼子岳の間は、特にツツジが咲き盛っていて綺麗だった。ミツバツツジに混じって、花が一回り小ぶりで色が濃く葉の付き方が違うものも目

立つ。これがおそらくアシタカツツジであろう。呼子岳で昼食休憩をとり、ここからが今山行の核心部だ。蓬萊山手前でヘルメットを装着し、ロープ・カラビナ類をすぐ出せるようにして鋸岳の稜線へ踏み込んだ。この稜線は確かに崩壊が進んでいた。そのせいで手掛かりの乏しい急登・急下降が多く、そのような場所は古い鎖やロープを頼りに進むことになるのだが、鎖はともかくロープはいつ千切れてもおかしくない状態と思われ、通過は冷や冷やものだった。近々ロープの持参なしでは通過出来なくなるだろう。原則通行禁止なものも納得である。慎重に歩を進めて、無事位牌岳に到着した。

位牌岳で一息ついて前岳へ。位牌岳山頂には前岳への道標は無いので方角を確認の上進んだほうが良い。前岳からはかなりの急坂の下り。道は細く、切り開かれてからまだそれほど年月が経っていない感じで、その分立木を頼りに下れて思ったより膝に負担がかからなかった。やがて林道に出て、そこから30分程で駐車場に到着した。

下山後は近くのヘルシーパーク裾野へ。三人とも明日も休みなので、ゆっくりと温泉と食事を楽しんだ後、帰路についた。

赤城・鈴ヶ岳

新井勇

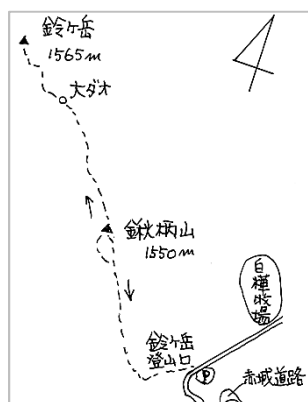
山域：群馬県赤城山・鈴ヶ岳 1564.7m

期日：2015年5月24日(日)

参加者：CL 軽石 SL 大嶋 堀 栗原幸 新井勇 逸見 豊島 杉山(8名)

行動記録：熊谷 7:30=(上武道路)=登山口 9:15/9:30
～鋸柄山 10:23/10:35～鈴ヶ岳(昼食)11:35/12:27
～鋸柄山 13:20/13:30～登山口 14:15=大沼湖畔
14:40/15:15=17:00 熊谷

好天のもと熊谷駅南口から軽石車、大嶋車に分乗して一路赤城山へ。みずみずしい新緑を眺めながら最後の急坂を切り切って白樺牧場の一角に出ると、そこが今日の登山口。標高は1400mあまり。牧場はレンゲツツジの名所で、6月中旬頃には大勢の観光客で賑わう。今はまだつぼみだがかなり



赤みが目立っている株もあちこちに見える。

赤城山は上部がカルデラになっており、カルデラの底に大沼がある。今日のコースは、登山口から西側の外輪山のなだらかな尾根を北へ歩き、

まず外輪山の一角鉾柄山(クワガラヤマ 1560m)へ登る。鈴ヶ岳は外輪山の少し西にあるピークで、鉾柄山から一旦100m余り下り、再び登り返して山頂に至る。

赤城山はとてもツツジが多く、このコースもツツジやその他の花々に親しみながら春の山を快適に存分に味わうことが出来た。新緑の前に真っ先に咲くミツバツツジは花が終わっていたが、最後の花が少し残っている木もあった。赤いヤマツツジはつぼみの株が多いが、時々七、八部咲いている株もあり目を楽ませてくれる。レンゲツツジも時々見かけ、こちらは少し赤みが出てきたところ。それでも気の早い花もあって一輪だけ「あれ! 咲いている!」と叫んでしまう場面もあった。

この山行、体力が落ちた高齢者でも楽しく歩けるコース、行程で、ウグイス、時にホトギスなどの歓迎の声を聞きながら、新緑と花を十分に堪能することが出来た。山行終了後は大沼湖畔の飲食できる店に寄って会計を済ませ、5時に熊谷に戻った。

丹沢主脈縦走

新井浩二

山域山名：丹沢 袖平山、蛭ヶ岳、檜洞丸、大室山

期日：2015年5月30日(土)～31日(日)

参加者：駒崎、新井浩

行動記録：

5/30(土) 東松山(5:00)⇒神ノ川ヒュッテ P(6:50/

7:15)⇒風巻ノ頭(8:45)⇒袖平山(10:10/10:20)⇒姫次(10:35)⇒蛭ヶ岳(12:20/13:00)⇒白ヶ岳(14:20/14:45)⇒青ヶ岳山荘(16:25)

<天候:晴れ>

日曜日の天候が危ぶまれたので、直前にコースを変更。初日に長いコースとし、初日と二日目のコースを逆にした。



神ノ川ヒュッテ手前の駐車スペースにちょうど1台スペースがあり車を停める。ここまで2時間弱の所要時間、丹沢も近くなった。少し先にきれいなトイレがあり、登山口にするのはもってこいの場所だ。ここから15分ほど歩くと、袖平山への登山口があり、東海自然歩道の標識の通り良く整備された登山道がのびている。急登1時間半で風巻ノ頭を通過し、明るいアセビの中を歩くと、富士山と本日のゴール地点の檜洞丸の眺めがいい。

なだらかな山頂の袖平山1,432mでは、トレランの人たちがにぎやかに休憩中だ。姫次までは、明るい尾根歩き。南へ進路を取って蛭ヶ岳に向う。途中の地藏平付近には、ニリンソウに似た小さな白い花が一面に咲いている。後から分かったのですがツルシロカネソウという花でした。蛭ヶ岳の急登の尾根には目当てのシロヤシオはちらほらしか咲いておらず、一週間程度遅かったようだ。

春ゼミが賑やかな尾根を進むと丹沢の最高峰蛭ヶ岳1673mに到着。丹沢の山々が一望でき、木陰で昼休憩。檜洞丸へ向う道に立つと、これから向かう稜線がはっきりと見える。はるか向こうに明日登る大室山がでかい。ミツバツツジが咲いている急坂を降りると細い尾根の連続。時折崩壊してい

る沢筋を抜けると、ぶなの林。やがて白ヶ岳。シカ除けネットが張り巡らされており、丹沢の山はみんなこんなのだろうか。



休んでしばらく進むと、踏み跡が妙に少なくなってきた。周りの山の関係からすると道を間違っていると気が付く。またやってしまった。白ヶ岳の山頂まで戻り、地図とコンパスで確認。標識もちゃんと有るではないか。思い込みとは恐ろしいものだ。約 20 分のロスで済んだが、また反省事項が増えてしまった。17 時までには小屋に入らなくてはと少し焦っていたせいもある。休憩時には地図で確認を怠らないようにしなくては。

その後は順調に進む。ぶな林、山ツツジの咲く尾根、崩壊地を黙々と歩き、青い壁の青ヶ岳山荘が見えて来た。さっそくビールで乾杯、うまい！夕食後、檜洞丸山頂に足を延ばし、夕焼けを見たかったが、焼けずに残念。早々と寝床に入るが、ゆらゆらと地震！スマホが圏外のため情報得られず。

5/31(日)青ヶ岳山荘(6:00)→檜洞丸(6:15)→犬越路(8:45)→大室山(10:45/11:40)→鐘撞山(13:10)→林道(14:10)→神ノ川ヒュッテ P(14:40)

<天候晴れ>

朝食は 5 時から。水場の無い小屋らしく、ごはん茶碗でお茶を頂く。後かたづけが楽なのであろう。外に出ると快晴で、小屋の周りの新緑が青空に映える。檜洞丸 1601m の山頂で写真を撮り、富士山の眺めを堪能する。

犬越路に向う尾根を富士山とこれから向う大室山を眺めながら進む。ミツバツツジがいて感じている。犬越路には、ベンチときれいな避難小屋が建っている。トイレも綺麗だ。大室山までは標高差 500m の登り。暑くなって来たので、先が思いやられる。登り始めは急登が続いたが、尾根

に乗るとなだらかな明るい林を進む。ミツバツツジも満開で咲いている。神奈川県の高校の登山大会ということで、高校のチーム毎にすれ違う。この山の南面のこのコースはなかなかいい。今の季節、紅葉の季節もいいだろう、また登りたい。

大室山 1588m の山頂はにぎやかだ。高校の登山大会の折り返し地点らしく、到着したチームがしばらく休んでは出発していく。大室山からは破線のコースで、鐘撞山に向う。トリカブトが非常に多い林間を抜け、やがて植林のなかへ。非常に分りにくいルートで地図とコンパスと標高を確認しながら進むが、確信が持てずに進む。里山特有の山歩きだ。派生尾根も多く、現在地がつかみにくい。なかなか楽しいルート探し。なんとか鐘撞山 900m に到着。下山の標識があるが、『**建設に至る』なんて表示で地図に出ているわけ無い。コンパスでルートを確認し、無事林道に出ました。林道を 30 分歩き車に到着。

帰りは、来るときに聞いた林道工事で、17 時まで通行止めなので、昼寝をして時間調整し、帰路につきました。

御座山

高橋仁

目的：佐久の名山・御座山の展望を楽しむ

山域：長野県・御座山(おぐらさん・2,112m)

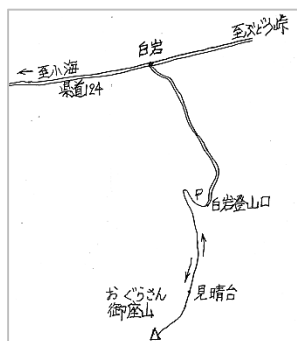
期日：2015 年 6 月 1 日(月)

参加者：L 並木、高橋仁

行程：熊谷駅南口 5:30=北相木村白岩登山口 P7:50/8:05 →1810m 見晴台 9:30/9:35→1992m 前衛峰 10:20/10:35 →山頂 11:30/12:50 →1992m 前衛峰 13:25 →1810m 見晴 13:50 →登山口 P14:45/15:00 →熊谷 17:30

長期予報が雨だったので計画を 1 日伸ばして実行した。平日で道路が空いていて予定より早く登山口に到着。標高 1450m の登山口まで高原野菜の畑と作業道が入っている。マップには「マイカーは自粛」と書いてあるが、平日で車はいないので、ここを登らせてもらう。P には長野県車が一台だ

け。唐松林の下草は草ソテツみたいなシダが一面に群生している。うるさいほどの春蟬の声を聞きながら、つづら折りの急斜面を登り尾根に取りつく。この尾根は山頂まで南へ南へと続く長い尾根だ。唐松から白樺やダケカンバ、



櫨、リョウブなどに混じってヤマツツジの花がちらほら

と出てくる。ミツバツツジはすでに終わりだ。

西側が開けた見晴台には 1750m と記したプレートがあり、手書きで「1800m です」と書き加えてある。やがて樺の原生林や石楠花が密生してトンネル様の道になるが、最盛期は過ぎて、花数も少なく少し期待はずれ。それでも淡いピンクや清楚な白い花に慰められながら急坂を登る。1997m 前衛峰から一旦下り、登り直すと避難小屋に出た。新しくきれいな小屋で 20 人くらいは楽に泊れそうだ。小屋のすぐ先はゴツゴツと岩場が続き一番奥が 2112m の山頂だ。信州特有の黒い串団子に白い文字を入

れた様な山頂標柱が立っている。足元にはあちらこちらにイワカガミが咲いている。



写真を撮り、昼食を食べ、コーヒーを飲みながら、並木さんと二人で山座同定。南東の秩父方面が樹木で見えないだけで、ほぼ全方向が眺望できる。南に奥秩父の甲武信ヶ岳、国師ヶ岳、金峰山、小川山、瑞牆山など、西の八ヶ岳は雲に隠れて裾野だけ、北に四方原山、茂来山、荒船(経塚山)から西上州の鹿岳、赤久縄山、オドケ山、西・東御荷鉾山、東に諏訪山、帳付山、両神山などが確認できた。浅間山や南アルプス、富士山は残念なが

ら見えなかった。

気がつくと1時間以上も経っていた。帰りは往路を軽快に歩き、一気に登山口まで下る。ずっと樹林の中なので、涼しく歩きやすいコースだった。

甲武信ヶ岳

駒崎裕美

山域山名：甲武信ヶ岳 2475m(埼玉、長野、山梨)

期日：2015 年 6 月 7 日(日)

参加者：新井浩、駒崎

行動記録：毛木平 P(5:15)→千曲川ナメ滝(7:17)→水源地標(8:50)→甲武信ヶ岳(9:40/9:50)→三宝山(10:35)→三宝山(10:40/11:25)→大山(13:44)→十文字小屋(14:40/14:55)→毛木平 P(16:10)

<天候：晴れのち曇り>

石楠花の時期に千曲川から周回して十文字峠へ下ってみたいと思い行って来ました。今年は5月の暑さからか例年より10日ほど開花が早かったようでした。



前夜に満車の毛木平駐車場に入る。朝は晴れて寒いです。駐車場斜面の満開のレンゲツツジを眺めながら朝食を摂り出発する。歩き出すと直ぐに十文字峠の分岐になり、右手千曲川源流へ進む。登山道脇はシロバナヘビイチゴの群落がみごとでキバナノコマノツメがところどころに顔をだす。小さな花が多く、足がとまります。木々にはサルオガセがあり、苔むした原生林の道を進んでいきます。ナメ滝を過ぎ、緩やかに沢沿いに登ると沢はしたいに細くなり千曲川信濃川水源地標に着く。大勢の人が休んで水を飲んでいる。我々も休憩して頂く。その先はジグザグの急坂を 20 分位登ると稜線の縦走路に出る。この辺りから石楠花の木々が多く見

れるが、花芽はなく咲く気配なし、左に少し進むと岩が現れ、登りきると甲武信ヶ岳山頂です。この頃になると曇り空になり霧がかかったりして山頂からの展望は無かったですが原生林には霧が似合います。

山頂は賑やかなので直ぐに下山開始、登ってきたまま少し進んでしまい、直ぐに気がつき戻り、下って三宝山へ向かう。少し登ると平らな山頂に着くが、三宝岩の展望が良いので戻りそこでお昼にする。岩上に立つと甲武信ヶ岳はガスがかかっていますが気持ち良く見渡せます。

三宝山から尻岩という巨岩まで樹林帯を下り、武信白岩山へと登りになります。今回初の石楠花(二株)を見ていると、すれ違う方に白岩先がきれいと言き、まだかと石楠花探しをして少し藪に入る。登山道に戻り岩場の小ピークを越えると、山頂登山禁止のロープがあるので山頂は踏まず進む。

ありました。アズマシャクナゲの群落、見頃でとてもきれいです。ゆっくり見てから下山、岩がゴツゴツした展望の良い大山(石楠花が少し残っている)で休憩して十文字小屋に下ります。石楠花の木は多いですが花は無く、小屋周りも咲き終わりで跡だけです。ここからカラマツ林を緩やかに下り出発点の毛木平に到着。

帰る時見た、駐車場を出た直ぐ脇のベニバナイチヤクソウの大群落はとても見事でした。

アズマシャクナゲは隔年結花で、2年に一度、花の良い年になります。

十文字峠～武信白岩辺りのアズマシャクナゲは6月、この上はハクサンシャクナゲが多くなり花時は7月のようです。花に時期に合わせるのは難しいです。

(11:15/12:00)→採集終了地点→広堀川ゲート(12:35)=岩原スキー場(13:25/15:20)=赤城SA(16:05解散)

参加者:CL 橋本義 SL 石川 八木、堀、白根、川辺、栗原幸、逸見、高橋武、瀧澤、豊島、平岡

当初の目的地八海山スキー場はゲートが閉まっていた、「水・木休み」「山菜狩禁止」の看板が出ている。やむを得ず幾つかの候補の中からすぐ近くの沢沿いの道に入ってみる。暫く進むと沢の入り口があったが、滑りやすく登山靴では危険なので、登山道に戻る。

既に採られた後だったのか、思うようには採れなかったが、それでもミツバ、ワラビ、ウド、ミツバアケビの蔓、コシアブラなど少しずつだが採取できた。

11 時駐車場に戻り広堀川に向かう。堰堤を過ぎ道路の終点で早めのお昼。天気もいいし長閑なひと時。橋本さんがオカトラノオをサッと茹で、水で晒し手際よく試食させて下さった。味をつけたように酸っぱいが、なかなか美味。

昼食を終え出発するとすぐに溪流釣りのおじさんに会う。魚籠の中のイワナを嬉しそうに披露してくれた。山菜情報を聞いたが、俺は釣りだからなーと頼りない。ともかく行ってみましょうと出発したが、ワラビとフキが少々と収穫が少なく早々に戻り、最後の手段で岩原に移動決定。1台の車が湯沢 IC を見過ごし水上から戻るハプニングがあったが、何とかワラビとウドを沢山収穫できた。

山菜取りは時期と場所がピタリと合わない大変。リーダーの苦勞に感謝です。ともかく、天気に恵まれリフレッシュできた1日でした。

八海山山麓 山菜山行

豊島千恵子

山域: 八海山山麓

期日: 2015 年 6 月 10 日(水)

行動記録: 熊谷駅南口(6:30)=八海山スキー場ゲート(9:35)→付近沢(9:50/11:00)=広堀川ゲート

白神岳・森吉山

高橋仁

山域: 白神岳・森吉山

山行形態: 無雪期登山

期日: 2015 年 6 月 26 日(金)～28 日(日)

参加者(12 名)CL 大嶋、SL 軽石、八木、堀、白根、

栗原幸、新井勇、高橋武、豊島、橋本義、駒崎、高橋仁

行程：

6月26日(金)曇

大宮 6:58 発(こまち 1 号)=秋田 10:24/10:48(しらかみ 3 号)=十二湖駅 13:02=送迎バス=アオーネ白神 13:30=十二湖散策 14:00~15:45=アオーネ白神 16:30

出発前のハプニングで新幹線を次の便にした T さんを除く 11 名は、秋田で乗り換えて五能線・十二湖駅に到着。送迎バスでアオーネ白神へ荷物を置き、十二湖の王池まで送ってもらう。越口の池、落口の池、鶏頭場の池、青池、沸壺の池と巡り、十二湖庵で休憩。

カツラやミズナラなどが混交したブナの原生林の中に点在する湖(池)は全部で 33 個あるそうだが、崩山が大崩れして川がせき止められてできた池を、当時は十二しか確認できなかったのが十二湖と呼ばれたと云う。有名な青池は、透明度が高いのに濃いブルーの不思議な水がわき出ている。きっと、新緑・紅葉の時期は息を飲むほどきれいだろうな。

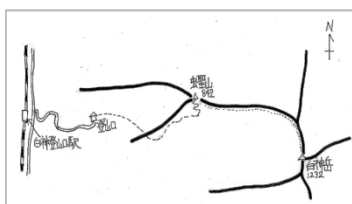
王池に戻り、送迎バスでアオーネ白神へ。フィンランドからの輸入材木で作ったと云うコテージは、ゆったりとしたスペースだ。ここで T さんと合流して、温泉に入り、食事をしてくつろぐ。

6月27日(土)雨

アオーネ白神 5:00=白神登山口 5:30→二俣分岐 6:20→蛭山 8:00→二俣分岐 9:15→登山口 10:05/11:05→白神登山口駅 11:45=タクシー=十二湖駅=五能線=ウエルスバ椿山 12:30=送迎バス=不老死温泉 12:40/13:40=送迎バス=五能線=東能代 15:23 着=レンタカー=森吉山荘
登山組:大嶋、軽石、白根、豊島、橋本、駒崎、高橋仁

温泉組:新井、八木、堀、栗原、高橋武子

未明から降り出した雨は一日降り続きそうだ。白神岳登山組と不



老ふ死温泉組に分かれて、白神岳登山組は送迎バスで登山口まで送ってもらう。カップ、スパッツ、ザックカバーの完全武装で出発。旧登山口から山道に入り二股分岐に着いたが、二股への道はひもが張ってある。廃道状態になったのだろうか?

蛭山(まてやま)への登りは次第に急になり、ブナの倒木が道をふさぎ、アスレチックまがいの枝渡りを強いられた。ブナ林の中は風も弱い、上では枝がざわざわと唸り、交差した幹や大枝がゴツンゴツンと不気味な音をさせている。雨が靴の中や、ザックにしみ込んで、雨具の中も汗で濡れ出した頃に、蛭山に到着。これから先の稜線は風が強くなり、濡れた体が冷えてくる。「今日はここまで」のリーダー決断で撤退することに。長居は無用、昼食は登山口避難小屋で摂ることにして下山開始。

途中、蛭山の蛭の字は何だろう?虫の名前かな? いや、虫ではなく動物じゃないか?などと話しながら登った道を下る。後で調べたら蛭貝(マテガイ)の意味だった。海岸の砂に潜っている二枚貝の名前が山の名前と云うのも何とも不思議だ。

登山口避難小屋で食事していると、パトカーで来たお巡りさんが、風が強いので五能線が止まるかもしれないので、気を付けて行動するようにと云う。とりあえず登山口駅まで行き、タクシーで十二湖駅に行き、さらに五能線で不老死温泉に行き、温泉組と合流する。あわただしく温泉に浸かった後、引き返して東能代に向かう。ここでレンタカー2台を調達して、森吉山荘に到着。白神岳の山頂は踏めなかったが、「不老死温泉」と云う稀有なおまけを貰ったみたいで良かった。

6月28日(日)雨/曇

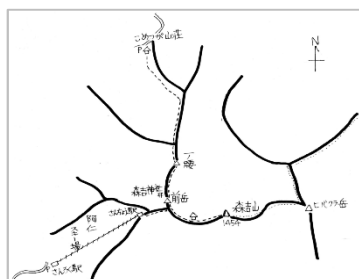
森吉山荘 5:00=こめつが山荘登山口 6:45/6:55→六合目 7:25→一ノ腰 8:20→森吉神社(避難小屋)9:00/9:20→石森(阿仁分岐)9:27→阿仁避難小屋 9:45→森吉山頂(向岳)10:25/10:35→阿仁避難小屋 11:00/11:15→雲嶺峠 11:55→六合目 12:33→登山口 13:00=角館駅 15:20/15:51 発(こまち 26 号)=大宮 18:38 着

こめつが山荘組:大嶋、白根、豊島、橋本、駒崎、高橋仁

阿仁 Gondola 組: 軽石、新井、八木、堀、栗原、高橋武子

こめつが山荘から登る組と、阿仁 Gondola で登る組に分かれて行動。コメツガ山荘駐車場は先着の車が一台。閉鎖ゲレンデの、石がゴロゴロした道をしばらく歩き、6 合目からブナ林の山道に入る。ミズキの白い花があちこちにたくさん咲いている。やがてアオモリトドマツの甘い香りがしてくると一ノ腰だ。緩やかな稜線になり、あちこちに湿原や池塘が現れて、山頂までの道端はマイズルソウ、キスゲ、チングルマ、ヒナザクラ、ショウジョウバカマ、シラネアオイ、イワイチョウ、イワカガミ、ウラジロヨウラク、コバイケイソウ、ハクサンチドリ、ハッコウダシオガマ、ツリガネニンジンなどの花畑が迎えてくれる。

前岳の森吉神社(避難小屋)を過ぎ、Gondola コースの合流点(石森)を過ぎ、阿仁避難小屋に到着。Gondola



ドラで来る団体で込み合う前にと、そのまま山頂に向かう。雨は上がり、時折ガスの切れ間から森吉山頂(向岳)、アオモリトドマツに覆われた一の腰や周りの山並みが見えてきた。ウラジロヨウラク、キスゲなどが咲く道を登れば山頂だ。「昼食は避難小屋に下ってから」とあわただしく頂上を後にする。バスツアーの団体がゾロゾロと登って来る中に、Gondola 組の 4 人が登って来た。もう 2 人は小屋にいて、後から山頂に向かった。すっきりにぎやかになった避難小屋で昼食を済ませて下山開始。

稜線から右を見れば、登りではガスで見えなかった森吉山が、はっきりと見えて、この稜線が森吉山の主峰、向岳の外輪山であることが分かる。雲嶺峠から一ノ腰を巻いて閉鎖ゲレンデを下って六合目に出る。石ゴロのゲレンデに飽きた頃、こめつが山荘に到着した。レンタカーで角館に向かい、二ツ井道の駅で Gondola 組の車と合流する。一般道を結構長く走ったが、信号も車も少ないので順調に

角館駅に到着した。新幹線に乗ってから、ワインで乾杯して打ち上げ。お疲れさまでした!

乾徳山

橋本義彦

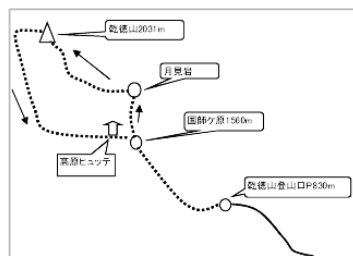
山域山名: 奥秩父・乾徳山(山梨県 200 名山 2031m)

期日: 2015 年 7 月 4 日(土)

参加者: L 橋本義 大嶋 黒沢 高橋仁 相澤
行動記録: 熊谷 5:40=R140 号雁坂トンネル經由徳和 P8:15/8:30→乾徳山登山口 8:45→扇平月見岩 11:00/11:10→乾徳山頂 12:20/12:50→下山道經由避難小屋 14:30/14:40→乾徳山登山口 15:50→徳和 P16:05=R140 号=熊谷 19:10

<天気:曇り後雨>

熊谷から 140 号を西に走り、秩父で最後の参加者を乗せて、さらに西に走る。荒川から



は急峻な谷に入り、滝沢ダムの湖畔、トンネルを数回抜け、奥秩父最深部の豆焼橋を渡り、長い雁坂トンネルを抜ける。7 月から 11 月は通行料無料。トンネルから数キロの徳和入口信号を西に曲がり、坂道を上り、細い道を抜けて徳和 P に着く。

天気予報だと降水確率 30%。下山まで雨が降らないことを祈りつつ登山開始。林道から登山道に入り国師ヶ原までは同程度の斜度で森の中である。杉林、元畑のような場所を抜け、尾根筋になると明るくなる。数人のグループと抜いたり抜かれたり、高校生のグループがぐんぐんと抜いて行った。沢筋には 2 ケ所水場(銀晶水、錦晶水)があり、この季節で水はたっぷりと流れている。林床には四枚葉のフタリシズカの群落が目立つ。尾根筋にはアカマツ、そして標高を上げるにつれカラマツが増える。国師ヶ原は平坦な南斜面でシラカバの白い幹が美しく高原の雰囲気である。ここを抜け、草原状

の扇平に登る。扇真ん中に月見岩があり、ここで一息入れる。風もなく気温も高くないが湿度が高いせいか汗をかく。扇平ではお花畑を期待していたのだが、ほとんど色のついた花はなく、ススキの原っぱである。レンゲツツジが少し咲く程度で、目立たない。途中で鹿3頭、4頭に会ったので、鹿の食害で高山植物が壊滅状態なのかと推測する。天気もどうにかもち、近くの稜線が動く雲の間から見え隠れする。

扇平からは約1時間で最後の登りである。道は大岩の連続、樹木は針葉樹、苔むした岩もあり奥秩父の雰囲気である。高さ数mほど大きな鎖の岩場が2箇所あり、ずんずん登る。2箇所目の鎖場を登りきるとそこが山頂である。岩ごつごつの山頂で広くはなく、数人の登山者が休んだり景色を眺めている。岩の間にピンクのシモツケソウや黄色の花がしっかりと咲いている。雲の間から西北方向の尾根に小さな突起が黒く目立つ。「金峰山の五丈石」では・・と話され、それに落ち着いた。この岩は八ヶ岳など周辺の山からも金峰山を同定するのに目印になる。昼食をとっているとぼつりぼつりと降ってきた。早々に昼食を済ませ、乾徳山の南側を周回する下山道に向かう。山頂付近には梯子場があり、慎重に下る。道標のある場所からは針葉樹の中の急なガレ場を下る。下っている途中からしとしとと雨が本格的に降り始める。途中で雨具を着け、避難小屋着。ここで改めて雨対策をする。この避難小屋は改装されトイレには電気も付き、床もきれいでストーブもある。白い建物でおしゃれな高原の山小屋である。

避難小屋からは一気に徳和Pまで下る。雨も降り続き、道には流れができるほどである。最後の杉林を抜け、林道を歩き、Pにはほぼ予定の時刻に到着した。

標高差1000mほどで登り甲斐のある山でした。登山道は樹林帯、草原、岩場と変化に富んでいました。眺望と花には不満が残りますが、この時期としては、また60歳以上のグループとしてはよい山行だったでしょう。翌週、利尻岳に挑戦する者にとってはよい事前の練習登山にもなりました。

乳頭山・駒ヶ岳

新井浩二 駒崎裕美

山域山名：秋田 乳頭山、駒ヶ岳

期日：2015年7月3日(金)～5日(日)

参加者：駒崎、新井浩

行動記録：

7/3(金)江南(13:15)⇒田沢湖高原休暇村駐車場(22:00) 556km

7/4(土)休暇村駐車場(5:15)⇒蟹場温泉登山口(5:35)⇒尾根(6:25)⇒田代平⇒田代平山荘(8:20/8:30)⇒乳頭山 1477.5m(9:20/9:40)⇒千沼ヶ原(10:55/11:20)⇒笹森山 1541.0m(12:05)⇒湯森山 1471.7m(14:05)⇒笹森山 1414m(15:00)⇒休暇村駐車場(17:00)

<天候：曇り一時雨>

金曜日、午前中まで仕事をして、集合場所まで急ぐ。羽生ICから東北道に乗り盛岡まで渋滞なく順調に進む。道の駅あねっこで温泉に入り、田沢湖高原休暇村駐車場に着いたのは22時。

翌朝4時に起床、朝食を食べて出発。5月に来たばかりの黒湯入口を通り過ぎ、蟹場温泉を目指す。乳頭山登山口は手前の大釜温泉のところにあり解りにくい。50分ほどで尾根に上がるが、雨がぱらついて来たので雨具を着る。なだらかな尾根を進むと田代平の湿原に出るころには雨は上がった。コバイケイソウが当たり年なのであろうかたくさん咲いている。ワタスゲが揺れている木道を進む。木道沿いには、ミツガシワ、ハクサンチドリ、ヨツバシオガマ、トキソウ、ヒナザクラなど湿原の花が一杯咲いてる。田代平山荘を過ぎ、先に進むとオノエランが非常に多い。こんなに咲いているのは初めて見た。いつしか森林限界を超え乳頭山の山頂に着く。ガスって周りが見えないのが残念。

乳頭山を下ると、ニッコウキスゲが咲き始めてちらほら。足元にはオオバキスミレとヒナザクラがこれでもかと咲いている。雨がぱらつき始め雨具を



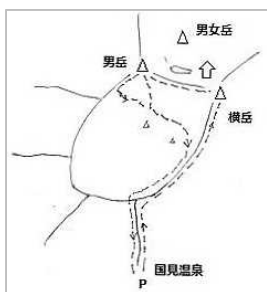
付ける。千沼ヶ原に着くと土砂降りになり、逃げ場がない湿原なので様子を見る。雨粒が池塘のなかで跳ねている。ヒナザクラは雨に打たれうつ向いてしまっている。雨が小ぶりになり、湿原をしばらく散策。かなり大きな湿原のようで、天気によければ端から端まで見てみたいが残念だ。笹森山へ向う登山道脇には、オオバクスミレ、ムシトリスミレ、ヒナザクラがたくさん咲いてる。さらに熊見平はコバイケイソウが主役の湿原。湯森山、笹森山は森林限界で高い木がなくなったらかで快適な登山道が続く。笹森山の山頂直下にはヒナザクラの群生があり、見応えのあるところでした。笹森山から休暇村へ向かう道は、途中笹藪がひどいところがあったが、下部はなだらかな明るいブナ林で旧乳頭スキー場に出て、そのまま下り休暇村駐車場へ。(新井浩記)

7/5(日)国見温泉駐車場(6:25/6:45)→横長根(7:35)
→横岳(9:15/9:30)→男岳(10:35/10:50)→五百羅漢
→ムーミン谷→駒池(11:50/12:10)→横長根(12:55)
→国見温泉(13:30)⇒国見温泉森山荘にて温泉
(14:25)⇒江南(22:10)

往復 1,128km

<天候:晴れ>

今朝は青空だ。休暇村駐車場から国見温泉に向かい、トイレの有る駐車場へ車を停める。続々と登山者の車が入ってくる。人気のコースのようだ。国見温泉登山口から登り始める。1時間弱で横長根。すぐに女岳が見えてくる。その次に横岳、小岳、男岳と秋田駒ヶ岳の全体が姿を現す。男岳と横岳との分岐をそのまま横岳に向かう。左手にはムーミン谷が見えてきた。足元にはコマクサとタカネスミレがザレた斜面に咲いています。横岳山頂からは男女岳、阿弥陀池が見えました。5月にスキーで来たばかりで、滑ったルートを目でトレース出来ました。遠くに昨日歩いた乳頭山から笹森山、笹森山のルートが手に取る様に解ります。男岳に向かう尾根は細くスリリング。



右手に男女岳、左に女岳を見ながら、そして足元には花がいっぱい咲いており、中でもエゾツツジがとてもきれいです。男岳の山頂はとても賑やかでした。いよいよムーミン谷へ下降、途中にも花がいっぱいです。今までの花に加えチングルマが加わり一面のお花畑。なるほど、なんとなく名前の由来がわかったような。木道を進むと駒池、ここで休憩し、横長根に戻り、登ってきた道を下山。国見温泉の緑色の温泉に浸かって疲れをとりました。(駒崎記)



礼文島・利尻山

花森正雪 黒澤孝

期日：2015年7月10日(金)～13日(月)

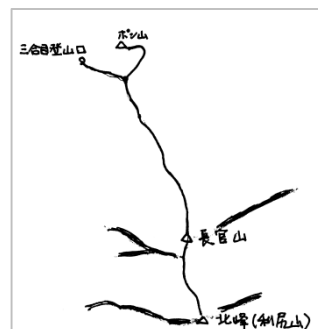
参加者：駒崎 高橋仁 黒沢 橋本 花森（計5名）

行動記録：

10 日(金) 稚内空港(12:45)→稚内フェリーターミナル(15:30)→礼文香深港(17:30)→宿(18:00)

<天候：東京晴れ 稚内 曇り>

飛行機からは
雲の切れ目より、
東北や北海道
の山々が見え
目を楽ませて
くれましたが稚
内空港では、風
が強いらしく着
陸でかなり大揺



れでした。シーズン到来なのか飛行機は満席と思える。稚内では少し寒さを感じ薄手のジャンパーを着ました。

空港・稚内駅間のバスも立ち席その上曇りで展望なし、駅近くのお土産屋で昼食、途中のコンビニ(ヤオコーのマークに似たセイコマート)で明日の行動食を買いフェリーターミナルに向かう。フェリーはそれ程の混雑はなかったが曇りでほとんど展望なしでしたが、時折利尻山が水墨画状態で見え写真に収めることができた。本来、前には雄大な利尻山が見える宿のはずが、霧で展望なしでしたが夕食だけはとてもおいしかったです。

11 日(土)宿(6:50)→北のカナリアパーク(7:20)→桃岩展望台コース入口(7:40)→桃岩(9:30)(10:00)礼文林道入り口(10:25)→礼文滝(12:30)(13:00)→礼文香深港(15:00)(16:05)→利尻鵜泊港(16:40)→宿(17:00)

天気予報では、北海道は快晴のはずがここ礼文島は霧でどんよりとしています。朝愛想のいい宿のおかみさんと記念撮影してお別れです、

予定の礼文林道が通行止めで本日の行動時間に余裕があり、北のカナリアロケ地を回ることにした、来てみると霧で特に撮影ポイントなし。記念に学校をバックに1枚と特に時間稼ぎになりませんでした。その後、霧の中桃岩展望遊歩道へ。歩道の前半は特に花は無いが中盤からは、お花畑なのでしょう、晴れていればさぞ目を楽しませてくれることでしょうか残念です。他には岸壁に咲き誇るお花畑も見ることではできませんでした。一般の観光客もハイキング気分ですれ違いますが、霧で残念です。桃岩も分かりません。来た証拠に案内板と1枚。礼文滝に向かいます。途中レブンウスユキソウの群生地、礼文滝途中のお花畑の全体は霧で見えませんでした、それでも見ごたえがありました。

礼文滝はそれほどありません。山行の途中で標高ゼロ?海に出る山行は少ないネとボヤキながら昼食をとる。礼文滝をバックに数枚写真に収め登山道を戻りフェリーターミナルへ。フェリーは利尻鵜泊港経由稚内港の為かすごく混雑しています。利尻では明日の買出と、夕食、散歩でくたくたにな

りずいぶん早く寝ました。(以上、花森記)

12 日(日)

天気:晴れ

行動記録:お宿マルゼン(4:58)＝登山口(5:03/5:10)→休憩(6:20/6:25)→第一見晴台(6:42/6:45)→第二見晴台(7:35/7:40)→長官山(7:55)→避難小屋(8:10)→九合目(8:35/8:40)→杓形コースとの合流点(9:05)→山頂(9:30/10:40)→杓形コースとの合流点(11:00)→九合目(11:20/11:30)→避難小屋(11:50/12:05)→長官山(12:15)→第二見晴台(12:25)→第一見晴台(13:00/13:10)→転倒場所(13:23/13:27)→甘露泉(14:25/14:40)→登山口(14:50/15:25/15:35)＝お宿マルゼン(15:40)

午前4時頃起床。各自用意した朝食を済ませ、宿の車で登山口まで送ってもらう。5分ほどで到着。すぐに登山準備をして5時10分山頂を目指し出発。外部から植物の種を持ち込まないよう用意されている水場で靴底を洗い山道に入る。歩き始めて10分ほどで甘露泉。鵜泊登山路ではここが最後の水場で、ここまでは舗装された山道だった。甘露泉を過ぎてほどなくポン山・姫沼コースに向かう分岐の標識。ここを過ぎたところに入下山者の自動カウンターが設置されていた。針葉樹林の原生林に覆われた道が続く。この針葉樹林帯を歩いている頃、利尻でなんというほどの蒸し暑さを感じていましたが、この日北海道は35度を超す猛暑日になっていたのでしたからその余波だったのでしょう。

1時間10分ほど歩いたところで5分休憩。ここから20分ほど歩いたところで第一見晴台へ。数分展望を見渡したところで先に進む。ここからはこれまでとは変わってジグザグ道の急登。あたりは木々に覆われていて展望はない。五分ほど進んだところにトイレブース。利尻山では環境保護のため携帯トイレ持参で用足しはトイレブースで。使用した携帯トイレは下山後所定のボックスに捨てる。トイレブースはこと避難小屋、9合目の三箇所。岩ゴロゴロの段々の急登の道がいつまでも同じように続きたたひたすら歩みを進めた。

小一時間ほどで第二見晴台。5分休憩。ここからさらに15分で長官山の頂へ。長かった急登もここ

まで。ここからさらに 15 分、木立に囲まれた避難小屋に到着。小屋にくっついて二つ目のトイレブース。ここを過ぎてから高山植物が多く目につくようになった。先頭を歩く高橋さんは突然歩みを止め後に続く我々が追いつくまでに花の写真を撮り、最後尾を歩く駒崎さんは花を撮るたびに離れては追いつくの連続。私は写真を撮る余裕などなく皆さんに遅れないようただひたすら歩くのみ。

避難小屋を過ぎて間もなくのところでは山頂に続く急峻な尾根が目の前に立ちはだかる。この尾根からガレ場となりザラザラと滑りやすく道は階段が多くなった。歩幅が大きく取られる急な階段に疲れてきた足が悲鳴を上げ始めてきた。太ももの筋肉に痛みが走り、ふくらはぎも何度かつりかかった。それでも歩きながら調整していると痛みも和らぎそれ以上には至らなかった。9 合目を過ぎると道はさらに滑りやすく浮き石も多くなり落石に注意する登りであった。大きくえぐれ切り通し状になった急な道を過ぎると山頂直下。右手奥にローソク岩が切り立って見えた。

ここから切り立った道を登ると間もなく山頂に到着した。4 時間 20 分の登山。山頂では昼食、記念撮影などで 1 時間余の休憩。10 時 40 分下山開始。登りで難儀した滑りやすい道は下りではさらに慎重に下りた。滑りやすいガレ場を過ぎると歩きは順調になった。避難小屋では所々で落ち合った静岡のパーティーと話が弾みちょっと長い休憩となった。

ほどなく長官山。ここから段々の長い岩道。快調に歩けたのだが約一時間の長い下り道はいつしか足にだいたい負担が来たようだ。第一見晴台では 10 分ほど休憩し下り始めたが、登りで最初の休憩をとったあたりで足を滑らし左足首あたりが軽い捻挫をしてしまった。頭では大丈夫と思っていても体がだいたいショックを受けたようで体のバランスが崩れふらふらな状態。ザックをを持ってもらい空荷で歩いたが甘露泉に着くまで回復しきれなかった。

高橋さんと駒崎さんの二人でポン山ピストンに行く。甘露泉でしばらく休んだのち残った三人で登山口に向かう。体はだいたい回復しザックを背負ってもバランスはだいたい良くなっていた。14 時 50 分登山口到着。15 時 25 分ポン山ピストンの二人も到着。

電話で宿から迎えにきてもらい 15 時 40 分宿に到着。足を痛め、ちょっと悔いを残すことになってしまったが 40 数年振りの念願になった登山でした。また、一昨日の飛行機では留萌を過ぎたあたりから雲が多くなり始め稚内空港が近づくにつれ見渡す限りの雲海となり利尻山だけが雲の上に姿を現し、広大な流氷に囲まれているかのように見えたのも一興でした。(黒澤記)

四阿山

根岸啓介

山域山名：四阿山・浦倉山

期日：2015 年 7 月 19(日)

参加者：CL 軽石、SL 大嶋、瀧澤、堀、白根、栗原幸、新井勇、逸見、須藤俊、赤坂、根岸

行動記録：熊谷駅(5:00)→パルコール姫恋リゾート/ゴンドラキャビン山麓駅(7:50)→山頂駅(8:32)→四阿山(11:03/11:37)→山頂駅入口(13:41)→浦倉山(13:50/13:54)～野地平湿原→山麓駅(15:26)～湖畔の湯→熊谷駅(20:11)

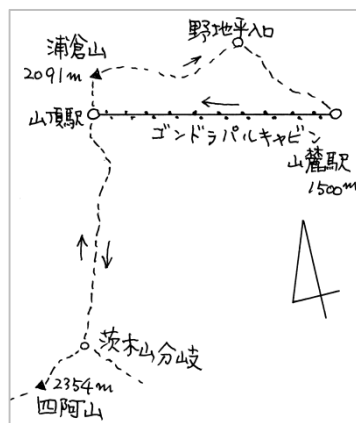
2,3 分遅刻する者もいたが、出発はほぼ予定通りだった。天気は数日前土砂降りの日もあったが、天気予報通り晴れてくれた。

姫恋リゾー

トまでは鬼押し出しのハイウェイやキャベツ畑を通り抜けた道順だったので、普通にドライブをしても楽しげであった。

山麓駅で山頂駅の気温が 11℃である表示があったが、ゴンドラを降りてみると思ったより暖かった。日差しがあるせいかな。

下着とシャツくらいの服装であったが暫く歩いて



いると暑くなった。冷涼な風が欲しいくらいだ。

前日まで雨だったので山道はぐしゃぐしゃだった。途中木道があったが、つるつる滑る。大嶋先生と話しながらかいたので、山道に生えている植物についてレクチャーを受けた。マイヅルソウは花をつけ、ギンリョウソウは白くひよろひよろと咲く。

その他シラビソとかも教えてもらったが、記憶力が悪いせいはいくつかしか覚えられない。

四阿山山頂近くで急勾配になって、鎖場があったが鎖がなくても登れた。山頂ではモヤがかかって麓の風景が見えなかった。下山途中風が吹き、モヤが晴れた。山々と麓の畑、バラキ湖と田代湖と美しい風景が広がる。

ゴンドラ山頂駅入口で浦倉山へ行くグループとゴンドラで下山するグループに分かれた。浦倉山へは5人で行き、10分くらい登山頂に着いた。道は笹が刈ってあり、比較的登山易かった。山頂で記念撮影して、下山した。道はゆるゆると下るだけの道がほとんどで歩きやすかった。ただ、木道は壊れているものが多かった。

途中、野地平湿原の辺りで雨がぱらつき始めた。最初は降ったり、止んだりで合羽も上着しか装着しなかったが、そのうち土砂降りになり、上下装着しなかったことを後悔したが、後の祭り。雨を無視して一気に山麓駅まで下山した。

下山後は近くにある婦恋バラキ温泉湖畔の湯で汗を流してから帰路についた。

尾瀬、谷川岳にしか咲かないオゼソウを見に行っていました。

戸倉の駐車場一杯で戸倉スキー場に車を停める。計画では、鳩待峠から至仏山のピストンだが、混ん



でいそうなので、山ノ鼻に行き、至仏山を登る周遊ルートに変更。賑やかな鳩待峠を下り、テントが一杯の山ノ鼻に着く。研究見本園の奥が至仏山の登山口。湿原のトキソウ、サワランを探しながら進む。茶色のガレた岩の間や木製階段を登り、山頂間近ではお花畑。ヨツバシオガマやジャコウソウのピンクが目立つ。山頂は予想していた通りに混雑。山頂を通り越し渋滞にはまりながら進み、昼休憩。のんびりした後、オゼソウを見に進む。咲いている場所は、小至仏山とオヤマ沢田代間の登山道脇。予定通り満開に咲いています。ハクサンイチゲ、ハクサンコザクラ、シナノキンバイに交じってニョロニョロ立ち上がって咲いている。写真を撮っているがほとんどの人は関心が無さそうに通り過ぎる。気が済むまで写真を撮って鳩待峠へ。帰りのバスは行列となっている。さほど待つこともなくバスに乗り、駐車場へ着きました。帰りはゆっくり入れるかけ流しの片品温泉ささの湯に寄りました。

至仏山

駒崎裕美

山域山名：尾瀬 至仏山

期日：2015年7月19日(日)

参加者：新井浩、駒崎、木村

行動記録：江南(4:30)→戸倉スキー場(6:45/7:10)→鳩待峠(7:40/7:50)→山ノ鼻(8:40)→至仏山(11:55/13:10)→小至仏山(13:50)→オヤマ沢田代(14:50)→鳩待峠(16:10/16:30)→戸倉スキー場(16:50)

<天候:曇り/晴れ>

火打山～焼山縦走

駒崎裕美

山域山名：火打山、焼山（新潟県）

期日：2015年7月25日(土)～26日(日)

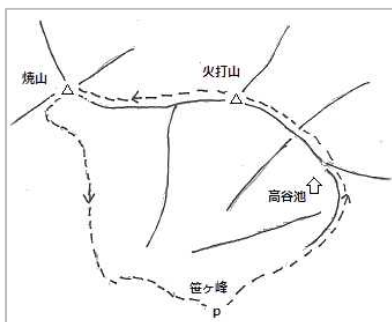
参加者：新井浩、駒崎

行動記録：

7/25(土)江南(5:00)=笹ヶ峰野営場(8:40/9:00)→富士見平(12:13/12:30)→高谷池(13:35/14:25)→天狗の庭(15:00)→高谷池テント場(16:15)

<天候:晴れ>

計画当初は、お花の時期に金山から雨飾山を考えたのですが、妙高小谷林道が通行止めとわかり、以前より気になっていた火打山の先に行く事にしました。二日目の行程が長いので水を持つ為、テント装備はなるべく必要最小限としました。



笹ヶ峰登山口駐車場は満車でその下のキャンプ場へ車を停める。登山口から樹林帯で富士見平までくると開けてきたので休憩。休憩中アサギマダラが回り飛び交い肩とかに止まる。(テント場でもいました。)今日の行程は短いのでゆっくり進み高谷池に到着。キャンプ場の水場は小さな子供たちが水遊びをしていて賑やかです。回りは池塘がありハクサンコザクラ咲いていてきれいです。

テントを張り休憩、天気が良いので、天狗の庭まで散歩する。コバイケイソウの群落が見事。登山道は雪溪で埋もれているところがある。日が暮れると寒くなりました。



7/26(日)高谷池ヒュッテ(4:45)→火打山(6:35/6:45)
→焼岳(10:10/10:30)→富士見峠(12:00)→杉野沢橋(16:20)→笹ヶ峰野営場(17:15)
<天候:晴れ>

朝食を簡単に済ませて、テントをしまい出発すると、空が少し赤く染まり始まります。昨日まで歩いた天狗の庭を過ぎ、少し登ると雷鳥平にでる。キャンプ場の子供たちの賑やかな声がする。頂上へ行ってきたとの事。視界は開けてマルバダケブキ、オタカラコウ、ヒメシャジンなどのお花畑の先に北アルプスが見える。さらに登るとウサギギクの群落、そして頂上。360度の展望を楽しみ、裏火打山へ向かう。

なだらかなお花畑の丘のようで山頂は、はっきりしないが、コバイケイソウの群落越しに山々が見え、まるでアルプスのハイジ的。ここから見る火打山は円錐形でりっぱです。

下り始めると少し煙をあげた焼山と金山が現れる。急降下するとヌルイ沢上に着く。沢筋はまだ残雪でつながっている。この辺りの登山道は草藪状態だが、登り返して焼山上部になると溶岩のザレ場になり上り詰めて右に行くと水蒸気の噴火口、ちょっとのぞく。左へ行くと山頂となる。展望を楽しみ金山方面へ下山。

下りはザレていて、岩場で少しルートミスして戻る。この岩はもろくて崩れやすいので要注意。下りきるとトラバース道になり樹林に入る。標識のない分岐(ここが泊岩避難小屋へ行く道?)を左へ行く。泊岩がわからず進むと、オオサクラソウを見つける。

少し行くと糸魚川登山口と富士見峠への分岐になり、峠へ。金山を右に見て少し登り小尾根を下る。この辺りからは雪溪が多くなり、雪解けの花々が咲いている。道も刈られていて(1週間前に刈ったそうです)歩きやすい。沢まで下ると沢沿いの道になり渡渉を何度か繰り返す。その2回ほどは靴のまま渡ることになる。(A氏は石伝いで濡れず)堰堤まで来ると広い整備された歩きやすい道になり、登山口の野営場に戻る。

花が多く、展望が良いルート、特に裏火打山から焼山が思った以上でしたが、暑くて水分を多く摂る必要や雪解けで水量が多めなどを考えると、秋の方が良いのかなと思いました。

コーヒータイム

私の冒険小史

橋本義彦

秩父の山奥で育ったせいか、山、川、自然が好きだ。幼少期は山野を駆け巡り、魚を取り、化石を掘り、アケビを昼食にし、竹で弓矢を作り遊んで過ごしていた。裏山に登ると秩父市方面にどっしりと武甲山が聳える。その手前には尾田蔭丘陵が横たわる。秩父盆地の周囲は全て山。あの山の向こうには何があるのか。冒険心が芽生えた。小、中、高とそれぞれに冒険した。小学校時代、隣町まで山の峠道を徒歩で往復した。中学校時代、自転車で 299 号正丸峠を越え（今の旧道）飯能まで行った。ベトナム戦争時で米軍機がうるさかった。高校時代、通学用のバイクで 2 泊 3 日長野・新潟の旅に出た。日本海を見て感激した。北アルプスの山が眩しかった。顔には排気ガスが黒く付いた。大学時代は貧乏だったが、1 週間も能登に旅した。友達と尾瀬・燧ヶ岳にも登った。

就職してから、思い切ってヨーロッパに旅した。スイスの山や氷河、飛行機からのピレネー山脈が忘れられない。帰路は北周りで、グリーンランドが見えた。アンカレッジ到着前にマッキンリー（現名称はデナリ）が見え、遭難した植村の冥福を祈った。

その後は仕事、子育てで忙しく、子どもと一緒にいくキャンプで冒険心を満たした。

気がつけば 50 台になり、退職も見えてきたので趣味に退職後も続けられる山を選んだ。漠然と行きたいと思っていた山に毎年夏休みに行くことにした。1 週間ほどのテント泊縦走に挑戦し、満足できる結果であった。転倒、道迷い、テント内 36 時間雨宿りなど苦い思いでもあった。

今、退職し時間はあるが、体力は少し落ちてきた。装備も揃い、技術や知識は向上してきた。人はそれぞれ違うのだから、自分にとって、安全な範囲内、自分の力の限界で冒険的な登山を続けたいと思っている。

苦土川井戸沢遡行

栗原聡子

山域山名：那須連峰（栃木県）

期日：2015 年 7 月 26 日（日）

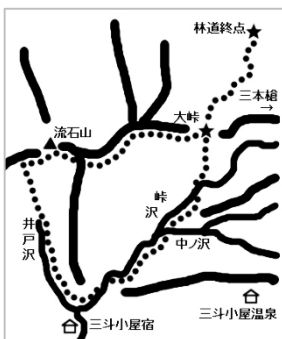
参加者：L 木下 栗原昌、栗原聡（計 3 名）

行動記録：大峠林道終点 1280m(9:00)～大峠 1460m(9:40)～（中街道）～中ノ沢 1120m(10:35/11:05)～井戸沢出合 1090m(11:20)～堰堤 1150m(11:30)～F2 1200m(11:50/12:25)～二股手前 1360m(13:00/10)～奥の二股 1440m(13:25)～稜線 1780m(14:30)～流石山 1821m(14:35/15:00)～大峠 1460m(15:40)～大峠林道終点 1280m(16:10)

過去数回の井戸沢遡行は、全て栃木県側深山湖奥の林道からだった。1 時間程の林道歩きが「かったるい」と主張する男性 2 名の意見により、今回初めて福島県側の大峠林道からアプローチとなった。

ゆっくりめの 8 時半過ぎに大峠林道終点手前の駐車場に到着、十数台は停められそうなスペースはすでに満車であった。この先林道終点にも数台停められるスペースがあったが、悪路のため車で進入するには勇気がいる。そのためか空いていたが、車高の低い車はやめておいた方が無難である。我々はデリカだったが、無理せず駐車場入口付近に路駐をすることにした。

林道終点から大峠まではゆるやかな登山道をひと登り、大峠からは会津中街道を下った。10 年程



前やはり井戸沢の帰りに中街道を通った事があるが、廃道化していてひどい笹藪漕ぎをした記憶がある。近年は刈払いされ整備されていると聞いていたが、見

違えるように歩きやすくなっていた。中ノ沢を 2 回目に渡渉する辺りで対岸の道が突如不明瞭になり、ここから中ノ沢を下降することにした。15 分ほどの沢下降で井戸沢出合に到着、中街道が不明瞭になったらさっさと沢装備に変えて中ノ沢を下降するのが時間的に無駄がないようだ。

ウッディな見た目の堰堤は左にトラロープがありそれを頼りに登ったが、景観保全の丸太が仇となりヌルヌルでこのトラロープがなかったら難易度アップだ。F2 (15m 滝) では右リッジをリーダーがトップでロープを出し後に続いた。中間部が若干ハング気味で、あれ?昔より難しくなった?と思っ

てしまった (が、それは私の登攀力低下のせいである)。ロープが必要なのはこの滝のみで、あとは落差のある滝を殆ど直登し快適に高度を上げた。稜線が見え水枯れすると窪状の沢筋を詰め、藪漕ぎ無しで登山道に出ることができた。そのまま木陰を求めて流石山まで行き、沢装備を解いた。流石山から大峠までの稜線は、ニッコウキスゲには少し遅かったが様々な色の花が咲き乱れお花畑の稜線散歩を楽しめた。照りつける初夏の太陽の下、沢初めとしては申し分のない 1 日を満喫することができた。

今回福島側からアプローチをしてみて、単調な林道歩きがなく沢装備を解くのが 1 度で済むのがメリットだが、その分車で移動距離は長くなるので全行程の時間短縮にはならないことが分かった。次に井戸沢へ行く時は、福島・栃木どちらからにしようか悩むところである。

南アルプス 北岳、間ノ岳、農鳥岳縦走

高橋仁

山域：南アルプス 北岳 3193m、間ノ岳 3190m、農鳥岳 3026m

期日：2015 年 7 月 26 日(日)～28 日(火)

参加者：L 高橋仁、相澤建二

行動記録：

25 日(土)晴 熊谷 18:00－奈良田駐車場 22:00(車中泊)

26 日(日)晴 奈良田駐車場 5:30＝バス＝広河原 6:15/6:50→二俣 9:04/9:20→ 2400m10:00→二俣 10:25/10:35→小太郎尾根分岐 13:15/13:50→肩の小屋 14:40

27 日(月)晴 肩の小屋 5:30→北岳山頂 6:20/6:30→北岳山荘 7:45→中白根 8:40/9:00→ 間ノ岳 10:15/10:30→農鳥小屋 11:20→西農鳥岳 12:20→農鳥岳 12:50/13:25→ 大門沢降下点 14:20→大門沢小屋 16:30

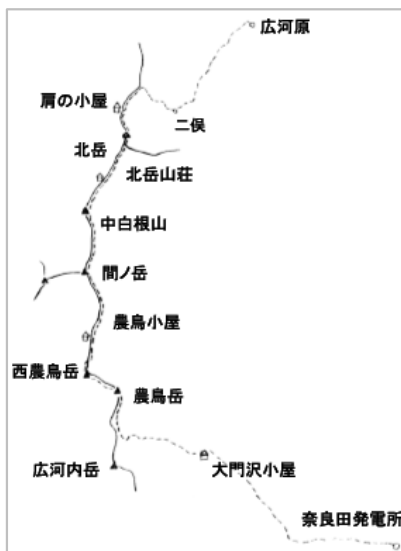
28 日(火)晴 大門沢小屋 5:20→大古森沢出合 7:05→休憩小屋 8:05/8:15→ 第一発電所 8:50→奈良田駐車場 9:35＝熊谷 16:30

25 日 台風 12 号が消滅して、下山まで好天が期待できそう。奈良田に到着すると、すでに入山している登山者の車がほぼ満車状態。一番奥のスペースに駐車して仮眠するが、パラパラと車が到着して、あまりよく眠れない。朝方までに何台かが、空きスペースに車を突っ込んで増えていた。奥の第二駐車場に向かった車も何台かいたようだ。

26 日 5 時 30 分の始発バスは増発して 2 台で広河原へ。北岳、仙丈、甲斐駒の入山者でごった返している。野呂川越しに北岳の山頂が良く見える。広河原山荘で入山届をして登り始める。素泊まりの装備でザックが結構重い。大樺沢に沿った登山道は、雪渓が消えるにしたがって上下に幾筋かの道が出来ている。下の道を歩いていたため、二俣分岐やトイレに気付かず、そのまま八本歯のコルに向かって進んでしまい、引き返したが 1 時間近くのロスになってしまった。

右俣コースは、北岳バットレスを仰ぎ、シナノキンバイが咲き誇るお花畑を眺めて登り、小太郎尾根分岐に着くと、仙丈ヶ岳と甲斐駒ヶ岳が目の前に飛び込んできた。奥には北アルプスやハゲ岳、東に眼をやれば鳳凰三山の白い山並み、振り返れば雲の切れ間に富士山が見える。疲れが吹き飛ばすような景観に暫し身をゆだねる。一時間半遅れで肩の

ジグザグの岩畳を下り、農鳥小屋に着くと、雑誌で見たことのある、小屋の深沢さんが「こんな時間にのんびりしてないで、さっさと行け! 」と追い立てる。一方的な物言いに少し腹が立ったが、遅れているのも事実なので素直に従うことに。西農鳥から農鳥は、北岳では少なかったキタダケソウや



地図を見ると、野呂川は甲斐駒、仙丈、間ノ岳、北岳の水を全部集めて広河原を通り、鳳凰三山の水も集めて、更に農鳥、広河内の水を集めて早川になる。そして身延で笛吹川と合流して富士川となって駿河湾に流れる。今回の縦走路の分水嶺は、(間ノ岳から農鳥の西面を除けば)左右のどちらへ流れてもすべてが早川に帰結すると云う事に気付いた。ずいぶん歩いたが、釈迦の手のひらの孫悟空のような気もする。山は大きい!

8/1 北本(22:00)=奈良田(25:00/5:30)=広河原
1520m(6:30/7:00)→大樺沢 2000m(8:05/8:10)→
二俣 2220m(8:35/8:50)→梯子下 2700m(9:50)

/10:10)→八本歯コル 2890m(10:30/10:45)→肩
3000m(11:10/11:25)→北岳 3193m(11:40/11:55)
→肩 3000m(12:05)→北岳山荘 2900m(12:40)

<天候:晴れ後霧>

8月最初の週末、天気も良さそうでどこに行こうか直前まで迷ったが、北岳には2回登っているが白峰三山縦走路は未踏だったので、南アルプス山麓の奈良田に向かった。前夜に北本を出て、圏央道、中央道、中部縦貫道を走り、早川町に入る。奈良田に入るのは初めてだが、想像したよりは道路状況もよく走りやすかった。深夜1時過ぎに奈良田着、車内で仮眠。

バス出発は午前5時30分だが、バスは5時過ぎに到着したので慌てて列に並ぶ。第2駐車場でも長蛇の列でバスは3台出たがほとんどが立って乗車していた。広河原バスターミナルも大賑わい。回りは百名山目白押しなので、この夏も週末ごとにすごいことになったらしい。

出発準備する人で賑わう広河原山荘から登り出すが、登山道はすでに数珠つなぎとなっていた。しかも相当ペースが遅く、先頭はまったく見えず抜くに抜けない。大人数の団体ツアーが休憩した時にやっと先に行け、あとは個人ばかりだったのでどんどん道を譲られる。何人抜いただろうか。

バットレスをバックにする二俣の河原も人々。ここから八本歯のコル直下までは、樹林が1本もない東方に開いた大樺沢沿いのルートとなるので、背後から容赦なく真夏の太陽が照りつける。まさにサウナ地獄のようだ。唯一の慰めは、足下の花と最後のツメにあった雪渓の上を吹いてきた冷風だった。梯子をいくつも登ると八本歯のコルに出た。気温が急激に上がったので、谷のあちらこちらからたくさん積雲が発生し、鳳凰や回りの尾根は雲に包まれようとしていた。

コルから稜線までは高山植物の宝庫でたくさんの種類の花が群落を作っていた。以前、6月の山開きに合わせてこの斜面に咲くシラネアオイを見に来たことを思い出す。稜線にザックはデポして北岳に向かう。東側の野呂川から上昇気流でガスが絶えず沸いているが、3000m稜線は西風に支配され晴れていた。

快適な岩の稜線を登ると北岳山頂だ。山頂の標識は、昔の標高から1m上がった3193mになっていた。これまで見えなかった甲斐駒が姿を現し、ぐると湾曲した野呂川左岸には、仙丈から三峰、塩見まで延々と続く仙塩尾根が見える。この尾根はまだ歩いていないので、山頂で腰を下ろしながら仮想縦走などしてみる。

コルまで戻り、北岳山荘まではすぐだった。まだ12時を過ぎたばかりで、小屋の中は空いていた。到着順が夕飯の順番になるシステムで、51番1回目16時からと書かれた札を渡される。ひとまず荷物整理をして食堂で乾杯!。外はガスで展望はないので、飲んだ後は、昼寝で時間をつぶす。次第に廊下を行き交う人が騒がしくなってきた。3時を過ぎた頃から続々と登山者がやってきて、受付はまたまた大混雑。あの樺沢の列が登ってきたのだから、しごく当然か。我々は寝具持参だったので適当な隙間(布団置き場)に収まったが、最終的には1枚に2名?で夕食は6回戦?くらいあったようだ。時間があつたので、テント泊と小屋泊まりの動きを見ていたが、テン泊登山者の方が、目的地に早く到着している割合が高いようだ。テン場確保、夕飯作りなどいろいろ要因はあるが、山の経験と何よりも体力、その他諸々の判断と総合力が理由だろう。

16時の夕飯後、外に出るとガスが薄くなり、北岳も霧の隙間から立派な山容が見え隠れする。下界は夕方でも30℃を越えているだろうが、ここアルプス稜線は12℃くらいで、天然クーラーで快適だ。大きな岩の上に大の字になりながら、しばし山を眺める。日没間際には、西の方向に寸光が甲府盆地を照らし、その右にはかすかに富士が浮かんでいた。

8/2 北岳山荘(4:05)→中白根山 3055m(4:30/5:05)→間ノ岳 3189m(5:40/6:05)→農鳥小屋 2804m(6:45/7:00)→西農鳥岳 3050m(7:35/7:50)→農鳥岳 3025m(8:20/9:00)→大門沢下降点 2830m(9:15/9:20)→大門沢小屋 1720m(11:00/12:00)→発電所 1120m(13:15/13:35)→広河内橋 890m(14:40)=奈良田(14:45)

<天候:晴れ後霧、雷雨>

3時起床、朝飯は自前で一旦外に出なくてはならないので、パッキングを済ませて自炊スペースに向かう。稜線を見上げると、早い登山者はすでに北岳山頂に立っていた。朝食を済ませ、ヘッドライトで4時に山荘を出発し、中白根山に着く頃には明るくなった。すでに多くの登山者が待機していた。ここで日の出を迎えよう。東の地平線には大きな富士山、この富士を眺めると日本人でよかったといつも思ってしまう。奥秩父連山の東側から太陽が上がる。仙丈の後ろには北アルプス全山がくっきりと見え、西には月と雲海に浮かぶ中央アルプス。見事な日の出だった。

中白根山をあとに間ノ岳へ向かう。快適な稜線をたどれば間ノ岳だ。どっしりとした山容と標高も北岳とほとんどかわらず、野呂川と大井川の分水嶺にある間ノ岳は、南アルプスのほぼすべてが眺められて、展望は南アルプス一番だろう。山頂は多くの登山者がいたが、北岳山荘からこの頂きを往復して広河原に戻る登山者が圧倒的に多い。南に連なる尾根は赤味がかかった黒い岩畳みの荒涼とした斜面を下る。雰囲気は赤石岳に似ているか。間ノ岳から農鳥岳稜線も絶景ルートだ。



40分でオヤジさんが有名な農鳥小屋へ。根はいい人らしい?ので、その姿を見かけたため声を掛けてはみたが、食器洗いに集中?していたのか返事はなかった。午前11時を過ぎて大門沢に向かう登山者が農鳥小屋を通過すると、「モタモタするんじゃない!」とやさしいお言葉をかけてくれるらしいが、健脚者以外は、雷の確率が高くなる午後3時までに大門沢小屋に着かない時間となるので、夏山の鉄則にはなっている。確かに、北岳山荘にも

午後6時を過ぎて入ってくる登山者がチラホラいた。夏山は3時までにテン場へ着くが鉄則で(学生時代にたたき込まれた)、昔に比べれば、山小屋入りの時間がかかなり遅くなっているのも事実。捻挫やケガなどアクシデントがあれば、すぐに暗くなる訳で、北岳山荘でも「やんわり」と注意していた。では一路平安(オヤジの看板)を願って農鳥岳へ向かう。

西農鳥岳までは急坂のザレ場と直下は細い稜線で高度感があった。西農鳥岳からは稜線南側に付けられた道を辿ると、変わった標識が目立つ農鳥岳山頂だ。眼下にはうねりながら3000m稜線に突き上げる大井川東俣、その東側には平行するように連なる白峰南嶺、いずれもいつかトレースしよう。農鳥岳から大門沢下降点に向かうと、分岐には大きな標識と鐘があった。ガスったら迷いやすいのだろう。ここから野呂川林道までは標高差2000mの大下りだ。

急坂ではあるが道はしっかり整備されていて快適、ノンストップで大門沢小屋へ。小屋は昔の風情そのまま、途中抜いてきたツアーの団体2組の予約が入っているらしく、今日は布団1枚に2名と書いてあった。高校生のバイトが3人もいて、いい収入源なのだろう。この小屋がなくなったら、白峰三山縦走はかなりの健脚者しか来れなくなってしまう。

小屋をあとに広河内沢を手製の木橋で渡る。登山道は沢沿いを離れて、樹林帯に付けられた小径風の斜面を下る。しかも落ち葉や腐葉土でクッション性抜群で、懸念した膝痛への負担はなく、意外や快適な下山だった。早川水系発電所を過ぎたら、大きな堰堤工事現場に出た。どれほど堰堤の効果があるか不明だが、昔の溪相の面影はいっさいなくなり、大きな吊り橋も渡る必要がなくなった。

すると急に雷雨に降られ、工事に合わせて作られた東屋で雨がおさまるまでしばし雨宿り。なかなか止まず、小降りになったところで、広河原から奈良田行きのバスを計算して下りたら、目の前でバスは行ってしまった。定刻より早いじゃないか?〜と停留所のおじさんに言ったみたところで後の祭り。「おじさん、行っちゃったね〜」と話していたら、トンネルの向こうからライトが見えて、「臨時便の連

絡ないけど来たかもよ?」と待ってみたら、その臨時便でした。ラッキー!! と、林道で雨に濡れて歩かずに奈良田へ到着。天候に恵まれて、大展望を満喫できた白峰三山縦走でした。

焼岳、西穂高岳

駒崎裕美

山域山名：焼岳、西穂高岳

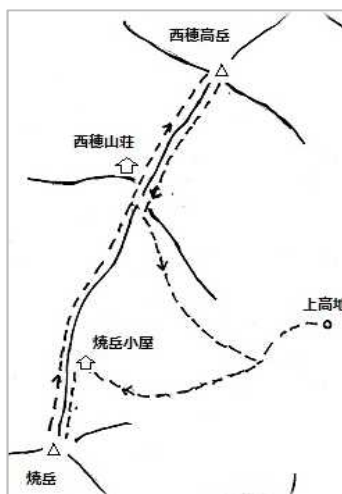
期日：2015年8月1日(土)～2日(日)

参加者：駒崎、新井浩

行動記録：

8/1(土)江南(5:00)⇒沢渡駐車場(8:35/8:50)232km
⇒上高地 BT(9:15/9:30)→焼岳登山口(10:15)→焼岳小屋(13:05/13:30)→焼岳(15:05/15:50)→焼岳小屋(16:50)

<天候:晴れ>



上高地バスターミナルからは穂高が青空をバックに良く見える。梓川沿いを歩き焼岳登山口へ。ひと気の少ない針葉樹林帯を進むと前方に崩落の進む沢が見えてきた。焼岳だ。垂直の長いハシ

ゴを登ると、笹原の中を歩く。後ろには霞沢岳。ジグザグに笹原を登りきると緑色の屋根の焼岳小屋だ。雰囲気の良い新中尾峠に立つ小さな小屋に受付をして、サブザックで焼岳に向かう。展望台からは穂高連峰の頭が見える。ザレた斜面を登り、硫黄臭と白い蒸気を噴き出している脇を通り山頂へ。山頂は静かで360度の展望。明日向かう西穂高岳までの尾根筋、その後ろには奥穂高岳、槍ヶ岳の絶景。のんびりした後には小屋に戻る。

8/2(日)起床(3:00/3:45)→槍見台(5:50)→西穂山荘(7:05/7:30)→独標 2701m(8:35/8:40)→西穂高岳 2908m(10:00/10:25)→独標(11:35/11:45)→西穂山荘(12:35/13:00)→西穂高岳登山口(15:10)→上高地 BT(15:30)

<天候:晴れ>

今日の行程は長いので、早起きをしてヘッドランプで歩きだす。尾根道のアップダウンを繰り返して、途中小屋の弁当で朝食を済ませる。上高地からの分岐を過ぎ、まるで街中のように賑やかな西穂山荘に着いた。西穂へは尾根をひたすりに進む。振り返ると赤い屋根の西穂山荘、その後ろに焼岳、そして乗鞍岳。左手には笠ヶ岳が大きい。たくさんの登山者と行き交いやがて独標 2701m。ここも賑やかで休んでいる人が多い。先に進むと急に静かになり、岩稜を進むようになる。幾つかのピークを越えて西穂高岳 2909m。ここまで来ると山屋さんの世界で静かだ。見回すと、焼岳までの続いている尾根や、上高地。笠ヶ岳、そして槍・穂高連峰。この展望がたまらない。来た道を西穂山荘まで戻り、上高地へ下山しました。

夏のアルプス薬師岳集中

A パーティー 薬師岳往復

先発組 相澤健二

山域：北アルプス 薬師岳(2,926m)

目的：夏のアルプスを楽しむ

山行形態:無雪期一般登山(小屋泊)

期日：2015年8月7日(金)～9日(日)

参加者:CL 石川, SL 大嶋, 白根, 豊島, 新井(弘), 相澤

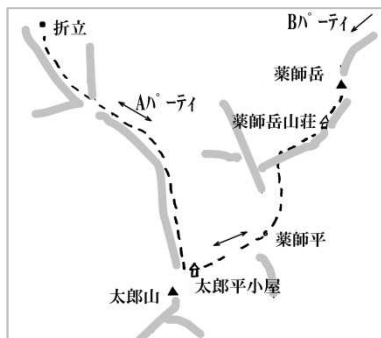
行動記録：

7日(金)熊谷駅南口9:00→北陸道立山IC(14:30)→折立キャンプ場(15:40)

8 日(土)折立キャンプ場 5:00→太郎平小屋 9:20/45
→薬師岳山荘 12:00

9 日(日)山荘 4:00→薬師岳頂上 4:50/5:20→山荘
6:05/7:15→薬師峠キャンプ 8:05/8:20→太郎平小
屋 8:40/55→折立キャンプ場 12:10

7 日 北
陸自動車道
立山 IC で
高速を降り、
折立キャン
プ場へ向
かう。キャン
プ場に近
づくとき道



沿いは車の列、駐車場も満杯、100 台以上はある
かと思われる。キャンプ場は芝が張りつめられ、
洗い場やトイレが設備され、暗くなると照明が灯り、
なかなか快適なキャンプ場である。そこに 2 基テ
ントを張る。夕食は豚汁とレトルトカレーを楽しみ、
山談義に花を咲かせる。

8 日 早朝 5 時に出発、登山道に向かう。登山
道入口は 1356M、近くに遭難者 13 名の慰霊塔、
13 重の塔が建立されていた。

登山道は笹やシダに囲まれ、鬱蒼とした樹林帯
の中を歩く。傾斜はかなりきつく、道は根が張り出
し、岩が剥き出し、石がごろつき、足場も悪い。
陽射しがなく、暑くないのが幸いである。樹林帯を
抜けると展望が開け、三角点に着く。ここで休息を
とる。ここからは穏やかな登り坂となる。再び樹林
帯に入るがすぐに抜け、一面草原地帯にはいる。
草原はアキノキリンソウやリンドウが咲き、チングル
マの風車が群生し、秋の気配を感じる。

やがて太郎平小屋に到着。ここからは植生保護
のため、木道となる。槍ヶ岳を眺めながらゆったり
と歩く。時々ま吹く風は冷たく心地よい。草原が切
れるころ下り坂となり、薬師峠キャンプ場を通過し
て沢に入る。急な沢沿いを歩く。やがては大きな
岩がゴロゴロした沢道となる。その中を踏ん張っ
て歩く。登山道がはっきりしない。一踏ん張りして

ここを抜けると穏やかな道となりチングルマ、ハク
サンイチゲのお花畑広がりこれらの花を楽しみな
がら歩く。薬師岳山荘は見え、まだ先かと思い
ながら尾根道に出るとすぐ下に薬師岳山荘が見え
た。予定通りの約 7 時間で到着。明日の登頂を控
え、小屋でゆっくりと過ごす。陽が沈む時を待ち、
夕焼けと雲海を楽しみ、これをカメラに収める。



9 日 早朝 4 時、満天の星を眺め、薬師岳頂上
を目指す。前方には登山者の灯りが点々と見える。
ザレ・ガレ場の登山道を慎重に歩く。頂上に着く頃、
空は明るくなり、頂上はご来光を待つ登山者で埋ま
っていた。頂上から眺望は素晴らしく、右前方に北
アルプスの山々、奥に薄らと富士山、遠くに御岳
山・乗鞍岳、左前方に立山・劔岳、背後に後立山
連峰が見える。立体地図を見ているようで、位置関
係が良く判る。十分に眺望を楽しみ、山荘へ戻る。

山荘で朝食を済ませ、7 時過ぎに山荘を出る。
薬師峠キャンプ場で水を補給し、顔を洗いサッパリ
した心地で太郎平小屋に向かう。ここで雲ノ平へ向
かう木村さんと別れる。途中の三角点で顔に包帯を
巻いた登山者に出会う。包帯に血が滲みでかなり
の出血している様子。転倒事故を起こしたのだろう
か。やがて救助に向かうヘリコプターが上空に見
えて来た。転倒事故が起きないように注意して下る。
木々の間から車が見えて来た。間もなく到着だ。キ
ャンプ場に着くと、すぐに冷たいコカ・コーラを一
気に飲み干し、車に向かう。

(A パーティー・後発組) 木村哲也

山域：北アルプス・薬師岳

期日：2015 年 8 月 8 日(土)～9 日(日)

参加者：菅谷、木村

行動記録：

7 日 行田(15:30)=有峰林道亀谷ゲート(22:30)

菅谷さんが予定より早く出発することが出来ることになり、午後 3 時半に菅谷邸を出発。途中、立山 I.C 近くの「湯めぐち」という温泉施設(深夜 0 時まで営業!) でさっぱりして有峰林道のゲート前へ。この時間なら、さすがに我々がポールポジションであった。久しぶりに熱帯夜から解放され、車中泊にもかかわらず割と快適に眠れた。

8 日 亀谷ゲート=折立(7:30)→1870.6m 三角点(8:45/9:00)→五光岩ベンチ(10:05/10:15)→太郎平小屋(11:00/11:40)→薬師岳山荘(13:15)

<天候:晴れ>

続々と到着する車の音で目が覚める。奥の廊下を遡行する栗原家は 5 番手にいた。朝食後、6 時きっかりにゲートが開き折立へ。通常の駐車場はほぼ満車で、200m 程手前の臨時駐車場に車を停めた。

若干の準備作業の後、出発。薬師峠までは栗原家と行動を共にする。樹林帯の急登を過ぎれば緩やかな登りが続き、強い日差しの中でもさわやかな風も吹き抜け、快適な登りである。この登りでは、高山植物は今年は気温がずっと高かったためか、すでに咲き終わり気味なものが多かった。11 時に太郎平小屋に着き、マムートジョッキの生ビールで乾杯。

昼食後、薬師峠にテントを設営する栗原家と一旦別れ、薬師岳山荘へ向かう。峠からの登り返しの最初が急登できつい。窪地状の地形の所では、ハクサンイチゲ・チングルマ等のお花畑がまた残っていた。1 時間半程で山荘に到着し、先発隊と無事の到着を祝う。程なく栗原家も上がって来て宴会に加わる。青空の薬師岳を眺めながらの楽しい時間を過ごした。五色ヶ原隊は栗原家下山 10 分後に入れ違いに到着。少し寒くなってきたので室内に場所を移し、宴会は続いた。夕食後は、皆で美しい夕焼けの景色を楽しんだ。

B パーティー

立山室堂～薬師岳～ 双六岳縦走

浅見政人

山域：北アルプス・五色ヶ原、薬師岳、黒部五郎岳、双六岳

期日：2015 年 8 月 6 日(木)～10 日(月)

参加者：宮田(9 日、折立下山)

浅見・橋本義(10 日、新穂高下山)

高橋仁(10 日、野口五郎小屋へ)

行動記録：

8 月 7 日(金)立山室堂(9:30)→龍王岳(11:00)→ザラ峠(14:00)→五色ヶ原山荘(15:00)

8 月 8 日(土) 五色ヶ原山荘(5:20)→越中沢岳(7:15)→スゴの頭(8:20)→間山(11:10)→北薬師岳(12:45)→薬師岳(13:40/14:00)→薬師岳山荘(14:30)

8 月 9 日(日) 薬師岳山荘(5:25)→薬師峠(6:15)→太郎平小屋(6:45)→北ノ俣岳(8:50)→黒部五郎岳(12:20)→黒部五郎カール(13:15/13:45)→黒部五郎小舎(14:30)

8 月 10 日(月) 黒部五郎小舎(4:00)→三俣蓮華岳(6:00)→双六岳(7:20)→双六小屋(8:20)→鏡平小屋(10:20)→新穂高温泉(13:30)

6 日 猛暑日の連続記録を更新した 8 月 6 日、大宮発 18:50 の北陸新幹線に乗る。富山まで 1 時間 48 分、快適な入山である。富山地方鉄道のレトロな電車に乗り換え 22 時 30 分に立山駅前「千寿荘」に着く。入浴後就寝。

7 日 朝食を食べて、チェックアウト。宿の直ぐ前から 7:40 発のパノラマバスに乗る。弥陀ヶ原の景色を眺めながら室堂まで約 1 時間。室堂で扇沢から入山した、高橋仁さん、橋本義さんと合流。

長い縦走が始まった。室堂山からはこれから向かう五色ヶ原や薬師岳がよく見える。縦走路から少

し外れた龍王岳のピークにも登る。ザラ峠は風の通り道ようで、富山側から雲が湧いて景色は見えなかった。五色ヶ原に登り返すと視界が開け高層湿原にお花畑が広がる。立山から5時間ほど歩くと、広々としたすてきな景色を見ることができる。五色ヶ原山荘は雪解け水を使った風呂があり、さっぱりできてうれしい。

8日 朝日の中を鳶山を目指して登る、眼下の五色ヶ原は池塘が輝いて美しい。この日は鳶山、越中沢岳、スゴノ頭、間山、北薬師岳、薬師岳を越えるが、薬師岳以外はあまり知られていないが、どの山容も大きく、体力を要すが、静かな縦走路である。北薬師岳から眺める金作谷カールは見事である。薬師山荘では折立からの8名と合流し、楽しい時間を過ごした。

9日 太郎山から北ノ俣岳の間は広々とした尾根にお花畑が広がりとても気持ちがいい。雷鳥の親子2組を間近に見ることもできた。黒部五郎の登りはつらいが、山頂からの眺めは北アルプスの真ん中といった感じ。少し降りたカールの水辺でコーヒーを入れて大休止。このひとときのために登ってきたと言ってもよい。小屋までは岩と灌木の道を下っていく。何度かダケカンパの枝に頭をぶつけた。

10日 この日の行程は長いので、宿の朝食を待たずに4時に出発。ヘッドランプをつけて三俣蓮華を目指す。早朝の山頂は若者のグループで賑やかだった。槍穂高のシルエットを見ながら歩く人気のコースは登山者が多かった。鏡池の水は濁っていたが、条件に恵まれれば、最高の撮影スポットだろう。新穂高では温泉に入って、疲れを癒やし、新

宿行きのバスに乗り込んだ。

天候と仲間に恵まれて、楽しく充実した縦走登山だった。

雲ノ平～黒部五郎岳周回

木村哲也

山域：北アルプス・薬師岳、雲ノ平、黒部五郎岳

期日：2015年8月9日(日)～11日(火)

参加者：木村

行動記録：

8/9 薬師岳山荘(3:50)→薬師岳(4:40/5:20)→薬師岳山荘(6:05/7:05)→薬師峠(8:05/8:20)→太郎平小屋(8:40/8:55)→薬師沢小屋(11:00/11:30)→アラスカ庭園(13:00/13:15)→祖母岳(アルプス庭園)(14:00/14:10)→雲ノ平山荘(14:25)

<天候：晴れ、3時頃夕立あり>

山頂からの日の出を見るべく、黒部五郎に向かうメンバーを除いて朝食前に皆で薬師岳山頂に向かった。山頂からは素晴らしい日の出の景色を堪能。特に朝日に輝くカールが美しかった。



山荘に戻り朝食の後、太郎兵衛平に向けて出発。今日も絶景を眺めながらの稜線歩きである。太郎兵衛平で下山組と別れ、ここからは単独行動。マイペースで景色を楽しみながら進んでいく。薬師沢小屋で昼食をとり、本日唯一の急登、雲ノ平への登りに取り付く。快調に高度を稼ぎ、雲ノ平の木道末端まで約1時間と、いいペースで登れた。アラス



カ庭園、奥日本庭園、アルプス庭園で、それぞれ景色を楽しんで雲ノ平山荘へ。山荘はかなりの混雑具合。以前訪れた時の静けさが嘘のようだ。

受付後、今日栗原家が雲ノ平キャンプ場に泊まるので行ってみたが、まだ到着していなかった。3時頃降雨があったため、仕方なく山荘に戻ってテラスでちびちび飲んでいると栗原家がやって来た。思いの外、遡行に時間がかかったとの事。山荘前で乾杯し、しばし歓談。夕方になると雨は上がり、今日も夕焼けの景色を楽しんだ。

8/10 山荘周辺散策(6:00/7:15)→祖父岳分岐(8:30)→祖父岳(8:50/9:00)→岩苔乗越(9:30)→ワリモ北分岐(9:40)→鷲羽岳(10:35/10:50)→三俣山荘(11:35/12:25)→三俣蓮華岳(13:15/13:25)→黒部乗越(13:45)→黒部五郎小舎(14:35)

<天候晴れのち曇り、夕方より雨>

今日はまず、朝食後アルプス庭園・ギリシャ庭園を空身でゆっくりと散策。朝日に輝く朝露に濡れたチングルマと周囲の名峰とが相まって美しかった。山荘に戻り、スイス庭園に向かう途中で、折立に下山する栗原家と別れの挨拶を交わす。スイス庭園からは水晶岳が目の前に大きく、眼下には水晶池もよく見えた。祖父岳山頂からも360°の展望を楽しむ。岩苔乗越では野口五郎に縦走する高橋仁さんと会えないかと思っていたが、雲ノ平でのんびりし過ぎて行き会えなかった。鷲羽岳では、今回も鷲羽池越しの槍ヶ岳を見る事が出来、満足する。

三俣山荘で昼食にカレーを食べて、三俣蓮華岳の登りへ。振り返る鷲羽岳はやはり秀麗だ。山頂に着くころにはだいぶ雲が多くなってきて、ガスの中を黒部五郎小舎へ。黒部五郎小舎もかなりの混雑だった。夕方からはまとまった雨が降った。

8/11 黒部五郎小舎(4:20)→黒部五郎岳(6:40/7:20)→2578m ピーク(8:20/8:30)→赤木岳(9:30/9:40)→北ノ俣岳(10:25/10:30)→太郎平小屋(11:55/12:30)→五光岩ベンチ(13:10/13:15)→1870.6m 三角点(14:10/14:20)→折立(15:20)

<天候晴れ時々曇り>

今日が一番の長丁場なので朝食は弁当にしてもらい、それを食べる。ポットのお湯が充分に用意されていて、ありがたく使わせてもらう。おかげで予定より早く出発できた。心配していた天気も高曇りで日も差す、まずまずの天気。黒部五郎のカールが見え始めるあたりで朝日が差し始め、黄金色に輝くカールが美しかった。前回、ガスで何も見えなかったカールの景色を存分に楽しみながら黒部五郎の山頂へ。山頂からの景色は雄大の一言。槍・穂高や笠ヶ岳との距離感からか、黒部源流の他の峰々とはまた違った感じでアルプスのど真ん中という印象だった。

黒部五郎の肩から急坂を下ると、後は比較的緩やかな稜線が続く。赤木岳からは眼下に美濃と聞く赤木沢が見渡せ、いつか来てみたいと思う。赤木平を流れる薬師沢左俣もちょっと興味をそえられる光景だ。北ノ俣岳の先のハクサンイチゲのお花畑は今回は終わってしまっているかと思っていたが、まだ充分に楽しめた。徐々に近づいてくる太郎平小屋の赤い屋根を見ていると、ここまで歩いて来た行程が思い起こされ感慨深い。ちょうどお昼に太郎平小屋に到着し、小屋の「太郎ラーメン」で昼食。

後は折立に下るのみ。後ろ髪を引かれつつ順調に下って無事下山。吉峰温泉で4日間の汗を流して帰路についた。終始好天に恵まれて自分のお気に入り入りの山域を満喫出来、黒部五郎のリベンジも果たせて、大満足の山行でした。

黒部源流、奥の廊下遡行

栗原昌史

山域山名：北アルプス・黒部源流奥の廊下（富山県）

期日：2015年8月8日(土)～10日(月)

参加者：L 栗原昌(記)、栗原聡

行動記録：

8/8 折立 1357m(7:25)～1869m(8:45/55)～五光

ちょっとしたトラブルがあって、30 分遅れの 7 時半前に出発。A パーティーはそれより少し遅れて出発。夏山最シーズンとあって最初は列を作って登っていたが、徐々にペースの違いが顕著になって、やがて周りには人影が見当たらなくなる。急登が終わる三角点のピーク手前で A パーティーが追いつき、三角点にて小休止。その後も順調に進んで、もう一回の小休止を経て 11 時前には太郎平に到着。目の前に夏山の景色が広がる。

空荷でテン場を出発。ちょうど1時間で薬師岳山

沢装備に着替えて 30 分後に入沢。水量は平水よりやや多めだが、遡行に支障をきたすほどではない。1 箇所だけ胸まで浸かるへつりがあったが、それ以外は問題なく、予定通り 1 時間後に赤木沢出合を通過する。ここから先は初めて行く場所だが、延々とゴーロ歩きが続く。沢登りというより、河原をただ歩いているようだった。途中登山者二人組とすれ違ったが、おそらく五郎沢から下降してきたのだろう。この沢は黒部五郎から太郎平までのショートカットルートにもなっているようだ。五郎沢出合、祖父沢出合と過ぎても川幅がやや狭くなったくらいで、斜度も水量もほとんど変わらない。さらに 1 時間ほど進むとようやく正面の展望が開け、鷲羽へ続く稜線が見えてきた。この辺りからちらほら雪溪が見え始めたが、登山道に出る直前の 2300m 付近には沢を埋めるように残っており、沢床はトンネルになっていた。右岸から簡単に巻くことが出来たが、もっと時期が早ければ通行困難だろう。やがて三

俣山荘と雲の平を結ぶ登山道に合流。ここまで入溪から5時間の長いゴースト歩きだった。

ここから直接雲の平に行くこともできたが、源頭の最初の一滴を求めて岩苔乗越を目指す。沢は完全に雪溪に覆われて遡行不能だったので、ここで沢装備を解いて並走する登山道に行く。水量はかなり上のほうまで豊富でなかなか枯れてこない。乗越まであと50mというところでようやく線が細くなってきたが沢の本流はワリモ岳へと続いており、結局どこが水源かは判らずじまいだった。

2時半に岩苔乗越に到着。ようやく今日の目的地にたどり着いた。時間に余裕があればここにデポして鷺羽を往復する予定だったが、それはパスして宿泊地へと急ぐ。祖父岳を経て、急斜面を下りきってテン場まで後10分というところで、まさかの登山道通行止。植生保護のためらしいが、東側のハイマツ帯を切り開いて迂回路が新しく作られていた。30分ほどの残業だったが、予期していなかっただけに疲れた体には堪えた。迂回路はテン場と小屋の間地点に合流していたので、先に小屋に行って受付を済ませることにした。

小屋は新しくなっており、夏山らしくたくさんの登山客で賑わっていた。木村氏が我々を出迎えてくれて、3人でビールで乾杯。30分ほど居て、暗くなる前にテン場へと戻った。テン場も大賑わいで更地は満席だったが、比較的ましな傾斜地があったのでそこに設営。行動12時間のハードな一日だった。

8/10 雲の平テン場 2560m(7:20)～薬師沢小屋 1912m(10:10/25)～太郎沢出合 2074m(11:50/12:00)～太郎平小屋 2328m(12:50/13:25)～1934m(14:40/55)～折立 1357m(16:05)

この日は帰るだけなので、ゆっくりめの起床で7時過ぎに出発。小屋へ向かっていると、小屋方向から来た木村氏と遭遇。彼も今日は黒部五郎小屋なので、ゆっくりで良いらしい。記念写真を撮って氏と別れる。小屋に立ち寄った後は薬師沢小屋まで一気に下る。途中防災ヘリが薬師沢小屋周りを旋回していた。事故か何かあったのだろうか。

薬師沢小屋で小休止後、昨日来た道を戻るが、

疲労がたまっていてさすがにペースダウン。加えて、実は雲の平から折立までは結構距離があって、たっぷり一日の重い工程なのだが、今日は下山だけだからと高をくくっていたので、よけいにつらく感じた。小休止の間隔を少し短めにして、ばてないようにゆっくり歩いた。途中聡子さんのソールが剥がれるアクシデントがあったが、テーピングで応急処置して、下山まで持ってくれた。

4時過ぎに折立着。天候に恵まれほぼ予定通りに行動できて充実した3日間だった。亀谷温泉で汗を流して、富山市内で寿司を食べ、安房トンネル経由で帰った。

黒部五郎、野口五郎、高天原、雲ノ平

高橋仁

北アルプス集中登山 黒部五郎、野口五郎、高天原、雲ノ平

目的：「熊トレ薬師岳集中山行」にに合わせて、室堂から奥穂高岳までの北アルプス大縦走。

その途中で野口五郎岳、高天原、雲ノ平に遊ぶ、9泊10日の山旅。

山域：北アルプス

期日：2015年08月7日(金)～16日(日)

参加者：高橋仁

<北アルプス縦走全日程>

6 木(晴) 新宿 23:00－夜行バス－扇沢 5:03

7 金(晴) 扇沢－室堂－浄土山－五色ヶ原山荘

8 土(晴) 五色ヶ原山荘－薬師岳－薬師岳山荘

9 日(晴) 薬師岳山荘－黒部五郎岳－黒部五郎小舎

10 月(晴) 黒部五郎小舎－黒部源流の碑－野口五郎岳－野口五郎小屋

11 火(晴) 野口五郎小屋－水晶小屋－高天原山荘－温泉－山荘

12 水(晴) 山荘－高天原峠－雲ノ平山荘－祖父・祖母岳－庭園めぐり－山荘

13 木(雨) 雲ノ平山荘－黒部源流の碑－三俣キャ

ンブ場ー双六小屋

14 金(雨) 双六小屋ー槍ヶ岳山荘ー槍ヶ岳往復ー山荘

15 土(晴) 山荘ー大キレットー北穂高岳ー穂高岳山荘

16 日(晴) 山荘ー奥穂高ー前穂高ー上高地=平湯=中尾高原口=熊谷

* 7日から9日、室堂から黒部五郎小舎泊までは、熊トレ夏のアルプス 室堂ー五色ヶ原ー葉師ー黒部五郎コースと同行。報告はそちらを参照。

* 14日から16日、双六小屋から槍ヶ岳、キレット、奥穂高岳、上高地までは、「笠ヶ岳、槍ヶ岳、穂高岳」パーティ(新井浩、駒崎)と合流し同行する。報告はそちらを参照

行動記録

10 日(月)黒部五郎小舎 5:00→三俣蓮華分岐 6:05→三俣キャンプ場 6:45→黒部源流の碑 7:15→ワリモ北分岐 8:25→水晶小屋 9:05/9:20→野口五郎岳 11:45/12:00→野口五郎小屋 12:10

11 日(火)野口五郎小屋 5:20→水晶小屋 7:45/8:00→ワリモ北分岐 8:25→高天原山荘 10:35→竜晶池、夢ノ平 11:10→温泉 11:45/13:00→高天原山荘 13:50

12 日(水)高天原山荘 5:30→高天原峠 6:20→雲ノ平山荘 8:30→祖父岳 9:20/9:35→スイス庭園 10:10→祖母岳 11:10→アラスカ庭園 11:35→雲ノ平山荘 12:20

13 日(木)雲ノ平山荘 5:30→黒部源流の碑 7:20→三俣キャンプ場 7:50→双六小屋 9:40

<10 日(月)晴>

黒部五郎小舎で浅見、橋本組と分かれ、三俣蓮華岳を巻いて三俣キャンプ場に出る。そのまま下って黒部川源流の碑に出る。時々黒部五郎岳を振り返りながら、沢を登り返して岩苔乗越に出る。ここは祖父岳、高天原、水晶小屋につながる十字路だ。水晶小屋は以前、赤牛岳から読売新道縦走で泊った小屋だ。相変わらず賑わっている。今日は裏銀座縦走コースを、左に水晶、赤牛、黒部湖、右に槍ヶ岳、表銀座、湯俣川を見ながら野口五郎岳に



向かう。なだらかな稜線の真砂岳や野口五郎岳は、花崗岩が寒暖の差と雨で風化して砕けた真砂に覆われ、雪が積もったように白く見え、僅かなハイマツ以外の植物は見当たらない。山頂で休憩して野口五郎小屋へ一番乗り。古く小さな小屋の二階の窓際に案内された。ここが一番良い場所らしい。時間があるので烏帽子岳方面にぶらりと歩いてくる。振り返ると野口五郎岳山頂に並んで歩く人影が見える。早く来ないと夕立に見舞われるよ!

<11 日(火)晴>

野口五郎小屋から水晶小屋へ引き返して、エネルギー補給とコーヒータイム。岩苔乗越から高天原へ下る。岩苔小谷添いの道は花の種類も数も豊富でとてもきれいだ。水晶池に寄り、山荘へ。荷を置いて温泉へ向かう。まず河原の温泉の脇を抜けて、トンボがいっぱい飛びかう竜晶池を巡る。さらに小さな湿原だが気持ちの良い夢ノ平へ。誰もいない秘密の楽園をこっそりと楽しむ。戻って温泉に入る。男女別の温泉と混浴露天がある。四日分の汗を流し、のんびりと体を休めていると、温泉沢の頭から下って来る人が2人、3人。聞くと相当ハードなコースらしい。山荘に戻り、5日分の汚れ物を洗濯する。新装したばかりの山荘は、物干場と乾燥室があり完全に乾いた。

<12 日(水)晴>

高天原峠から雲ノ平に登り返す。コロナ観測所を

抜けて山荘へ。明日は雨。天気の良いうちに祖父岳に登り、スイス庭園、祖母岳のアルプス庭園、アラスカ庭園を巡って山荘に戻る。どこを歩いても周りを取り巻く薬師、五郎、三俣蓮華、水晶、赤牛が、青い空にくっきりと望める。特にスイス庭園の先端は、左に薬師、右に赤牛、真ん中に高天原、右上を見上げれば水晶岳が大きく迫ると云う聞きしに勝る素晴らしい所だ。雲ノ平山荘も新しく快適だ。食堂ではクラシックが流れ、雲ノ平の四季や歴史を紹介するスライドを上映。「黒部の山賊」に登場する猟師の写真や、勤労者山岳会の結成登山で山荘前に百人が勢ぞろいした写真なども紹介され、とても感激した。

<13日(木)雨>

前夜から降り始めた雨は、いくらか小振りになっている。早めに出て、さっさと歩き、中まで濡れないうちに双六小屋に到着しよう。祖父岳を巻いて日本庭園から黒部川源流に下る。思ったより急でひどいゴーロ道を下る。後ろから来た人が転んで頭を打ったと言っていた。黒部源流から三俣キャンプ場に登山り返して巻道ルートを通り、双六小屋に到着。休憩なし、4時間くらいで着いたが、靴の中までびしょりだ。濡れ物を乾燥室に干し、自炊室で昼食とコーヒーを飲み、新井、駒崎パーティーの到着を待つ。雨は止みそうにない。明日は槍ヶ岳へ。天気回復すると良いが。

笠ヶ岳、槍・穂高縦走

新井浩二 駒崎裕美

山域山名：笠ヶ岳、槍・穂高岳

期日：2015年8月11日(火)～16日(日)

参加者：駒崎、新井浩、高橋仁(8/14～)

行動記録：

8/11(火)江南⇒中尾高原入口駐車場264km(23:00)

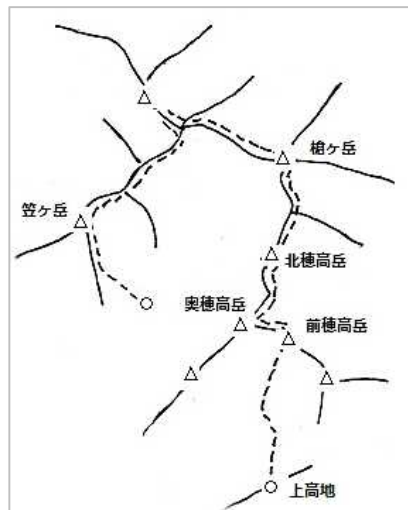
テント泊

8/12(水)中尾高原口駐車場(5:30)→笠ヶ岳登山口(5:45)→渡渉(6:35)→水場(10:05)→雷鳥岩(12:25)

→笠ヶ岳(15:25/15:40)→笠ヶ岳山荘(15:45)

<天候:晴れ/曇り>

前日に笠ヶ岳のクリヤ谷登山口がある中尾高原口の駐車場でテント泊。笠ヶ岳の登山口に向う途中、河原にある露天風呂「新穂高の湯」を橋の上から眺



める。よだれが出そうだが我慢。槍見館の手前に笠ヶ岳の登山口があり、計画書を出す。岐阜県は登山届が義務化されたようだ。クリヤ谷は明るい谷でなかなかいい感じ。振り向くと先週歩いた焼岳～西穂が良く見える。左手には錫杖岳の岩壁がそそり立っている。水場には夏の花が咲き誇っている。クリヤノ頭を過ぎ雷鳥岩。ホシガラスがガアガア飛び交った。ここまでは噂に聞いていたほどきつなく、眺めがいいので思っていたほどでは無い。ハイマツの中を進むと、槍ヶ岳に似た先の尖った笠ヶ岳が遠くに見えるようになる。右手にはこれから歩く槍穂高が素晴らしい。ここからが長く感じた。気持ちのいい稜線歩きなのだが、一向に近づかない。

ライチョウの親子に慰められて、やっと笠ヶ岳の山頂。北アルプス全体が見渡せ絶景。槍穂高を西側から見る機会は少ないので、しばし見とれる。眼下には今宵の宿笠ヶ岳山荘。部屋に入ると槍穂高が窓枠にはまった絵のように見える。水が無いらしく、テント場の下まで水汲みに行く。労山の割引無し。泊り客は少ないようで夕飯は1回戦のみで40名程か。

8/13(木)笠ヶ岳山荘(7:15)→笠新道分岐(8:35)→秩父平(9:35)→小池新道分岐(11:50)→双六小屋

(13:05) 高橋仁さんと合流

<天候:雨>

朝から雨。今日の行動は短いと、雨なのでのんびり出発。ほとんどの人が出た後で小屋の中は閑散としていた。晴れていれば槍穂高を眺めながらの稜線散歩のはずなのだが残念。笠新道分岐を過ぎ、お花畑が素晴らしい秩父平。ミヤマキンポウゲとコバイケイソウがこれでもかと咲いている。足元に動くものが。ライチョウでした。親子で散歩しているのであろう。親が子供を呼ぶ声がかワイイ。しばらく先導される形で親子の後をついていく。これが今日のトピックスでした。

小池新道の分岐を過ぎ、カラフルなテント場が見えて来た。雨の為双六小屋の前は閑散としている。小屋の中に入ると、高橋仁さんが笑顔で迎えてくれました。濡れたものを乾燥室に吊るし、談話室で仁さんから今までの話を聞く。他の人たちとも話して花が咲き、楽しい時間を過ごしました。夕食は豪華な天ぷらでした。労山割引 500 円有り。一人布団 1 枚でした。

8/14(金)双六小屋(6:10)→樺沢岳 2755m(6:40)→硫黄乗越(7:15)→千丈沢乗越(9:25)→槍ヶ岳山荘(10:30/11:15)→槍ヶ岳 3180m(11:35/11:50)→槍ヶ岳山荘(12:05)

<天候:小雨/曇り>

夜中は風雨が強かったようだ。朝もかなりの雨音で気持ちが落ち込む。5時から朝食を食べてから出発。小屋を出る頃には小ぶりになった。今日は西鎌尾根を槍ヶ岳までの行程。硫黄乗越、左俣岳を巻き、左俣乗越。時折青空が見えることもあり、大ぶりにならなくて良かった。途中ノウゴウイチゴの赤い実を頂く。晴れれば素晴らしいお花畑であろうが、雨模様では半減。それでもずっと続くお花畑には癒されました。いつしか細い尾根に変わり岩稜が続くようになる。やがて千丈乗越。岩稜が続く、足元にトウヤクリンドウのみごとな群生があった。人の声に気が付くと槍ヶ岳山荘に着いた。

受付を済ませ、時間が早いのでそのまま槍ヶ岳に向う。小雨の為ほとんど登る人が居ないので、あっという間に山頂。山頂では小雨もやみ雨具のフ

ードを取り、10 人と居ない山頂で記念撮影。展望はまったくないが、居合わせた人たちで万歳。

山荘に戻り、自炊場で一杯。偶然双六小屋で同室の親子と居合わせて歓談する。小さなころから山に入れるのはいいなあと話をするが本人はそうでもないらしい。小学生のうちにしか一緒に出かけられないので今の内だけと父親。17時から夕食。受付が早かったので 1 回戦目。広い食堂は 100 名はくたらないであろう。5 回戦はあるらしいので少なくとも見積もっても 500 名以上の宿泊者。素泊の人を合わせると、定員の 650 名は居るだろう。乾燥室はかなり手狭で間違いが多いらしく、頻繁に取り間違いの放送あり。持ち物には名前が必要ですね。労山割引 500 円有り。カイク棚の 2 階で一人布団 1 枚。(新井浩記)

8/15(土)槍ヶ岳山荘(4:40)→大喰岳 3101m(5:05/5:40)→中岳 3084m(6:10)→南岳 3033m(7:35)→南岳小屋(7:45/8:05)→長谷川ピーク(9:35)→北穂高小屋、北穂高岳 3106m(11:15/12:20)→最低コル(13:40)→涸沢岳 3103m(14:50)→穂高岳山荘(15:10)

<天候:晴れ>

朝、快晴、風があり肌寒い。小屋の前は賑やか。槍の穂先に向かって光のすじが見える。我々はそれを背にして出発。ガレ場を登り大喰岳で日の出を迎え、お弁当(ちまき)の朝食を頂く。朝日を浴びた縦走路は素晴らしい展望です。岩稜帯を進み中岳、天狗原を左の谷に見ながら、ガレ場の丘になっている稜線を緩やかに下って登ると南岳、その先に小屋。ここから大キレットになる。ヘルメット他装備を着け、気を引き締めて出発。絶景を楽しみながらハシゴなど順調に通過し、長谷川ピーク手前の小ピークで小休止する。長谷川ピーク先はナイフリッジになっていて岩なれしていないパーティーで渋滞気味になる。ピーク下のコルで休んでいる方が多いが我々は通過。クサリ、ハシゴを使いよじ登ったり、下りたりし、さらにトラバースして登ると頭上に北穂高小屋が現れる。

小屋前はすいていて、予定より早いのでラーメンなどを頼んでテラスでゆっくり休む。小屋に着くころ



沸いてきたガスは休憩中に無くなり、食事をしながらも展望を楽しむ。北穂高岳山頂は小屋のすぐ上で、写真を撮り、涸沢岳へ向かう。ここからも今までに劣らず緊張する。浮石に気をつけ進む。涸沢岳手前でヘリの轟音、かなり山に接近してホバリングしている。ヘリから一人雪溪に降りて写真を撮っている。(後で数時間前の滑落事故現場とわかる) 涸沢岳は小屋からピストンする人が多い。緊張の縦走も終わりほっとして小屋に到着。

8/16(日) 穂高岳山荘(4:45)→奥穂高岳3190m(5:30/6:15)→紀美子平(7:30)→前穂高岳3090m(8:05/8:30)→紀美子平(8:55)→岳沢パノラマ(9:35)→岳沢ヒュッテ(10:55/11:35)→上高地BT(13:20/13:25) <天候晴れ>

朝、風は無く昨日より暖かく感じられる。今日も小屋は朝早くから賑やか。奥穂高岳山頂は思ったほど混雑はなく、スムーズに登れる。途中で日の出を迎え、山頂を踏む。日の出を過ぎた為か、山頂を独占できる。山頂下に広いテラスを見つけ、お弁当(酢飯に鮎の甘露煮)の朝食を摂る。槍から焼岳への縦走路、岳沢、富士山も見えてすばらしい展望です。あと残すは前穂高岳、下りのクサリ場のある吊尾根を過ぎると前穂への分岐、紀美子平、ザックをデポして往復。頂上は平らなガレ場で展望が良いので北側の隅まで行き写真を撮る。紀美子平に戻り下山開始。初めはクサリ場で渋滞に会うがその後は岳沢の展望を楽しみながら重太郎新道を下る。岳沢ヒュッテに近づく樹林帯に入り、広いお花畑に出会う。シシウド、キオン、トリカブト、アザミなどきれいです。ガレ沢に出て、渡るとヒュッテに到着。皆でグリーンカレー辛口を注文して食べる。後は整備された道を上高地へ向かう、途中の風穴で涼んで下る。(駒崎記)

行くぜ東北! 葛根田川 に癒やされる

浅見政人

山域：岩手県雫石町・葛根田川

山行形態：沢登り

期日：014年8月21日(金)～8月23日(日)

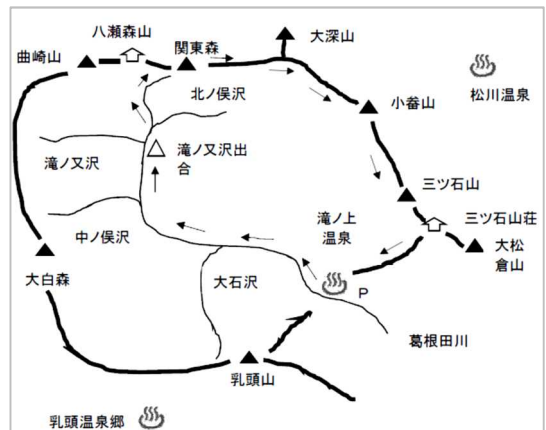
参加者：CL 浅見 SL 宮田 栗原昌、栗原聡、木村(計5名)

8/21 北本 3:00=滝ノ上温泉(9:30/10:10)→入渓点(10:50/11:05)→明通沢出合(11:40)→御函(12:40)→大石沢出合(13:10)→中ノ又沢出合(13:45)→葛根田大滝(14:20)→滝ノ又沢出合(15:10)

<天候：晴れ後曇り>

8月前半の北アルプス縦走では4日連続で晴天に恵まれたが、お盆過ぎから天気がぐずつくなか、南八幡平のブナ林の中を流れる葛根田川に勝手に優しいイメージを抱いて東北道をひた走る。初日にできるだけ遡行して2日目、3日目に余裕を持たせたいのでトイレとドライバー交代だけで時間を稼いだ。

盛岡ICで降りて、雫石に向かう。岩手山や三ツ石山の稜線には雲がかかっているものの晴れ間があるので期待が高まる。滝ノ上温泉の駐車場は広くきれいなトイレもある。対岸の斜面からはあちらこちらに噴煙が上がっている。はじめは葛根田地熱発電所の施設を眺めながら川に沿って舗装された林道を歩く。



約 30 分で林道は途切れ入渓。流域面積の広い葛根田の流れは豊かではじめからスクラム徒渉となった。堰堤を越えると、森の中の美しい溪流が我々を迎えてくれているようだ。川幅は広く傾斜も緩いので景色を楽しみながら進む。所々ナメ滝が左右から流れ落ちる。次第に川幅が狭まり「お函」と呼ばれるゴルジュ帯となる。深い流れの兩岸に河岸段丘のように一人ずつが通れるくらいのバンド帯がありその上 20 センチくらいの水量である。これより少ないとつまらないが、これより多ければ逆行は格段に難しくなる、ちょうどいい水量で楽しい。大石沢、中ノ俣沢の出合を過ぎると 2 段 15m の葛根田大滝があらわれる。水量の多い立派な滝である。左岸のルンゼから巻き落ち口へ慎重にクライムダウン。ゴーロ歩き 30 分ほどで滝ノ又沢出合に到着。

左岸水流から 2m 程上がったハウチワカエデの木の下にテントを 2 張、今日の宿とする。早速、流木を集めてたき火をする。フランクフルトソーセージを枝に刺してあぶり、ビールで乾杯、至福の時間である。

8/22 滝ノ又沢出合(5:00)→逆行できず→滝ノ又沢出合(5:10)→待機→停滞決定(11:00)

<天候:雨>

夜半からの雨で朝の水量が増え、昨日の穏やかな流れが白い飛沫をあげている。不安な気持ちで出発する。テン場周辺は川幅が広いが、出合を過ぎて北ノ俣沢に入ると水流激しく、へつりも徒渉もできない状況。

水が引くまで待機しようとテントを張り直す。雨は降り続いている。ラジオで盛岡地方に大雨警報が出ていることを知る。このまま明日まで降り続いたら、食料も休みも足りなくなるが、無理して動くことが一番危険だ。11 時にこの日の行動をあきらめる。幸いなことに降り続く雨にもかかわらず、少しずつ水量が減っている。「ブナ林は緑のダム」と言われるように豊かな森林土壌が雨を吸収してくれているようだ。

8/23 滝ノ又沢出合(5:00)→左俣逆行→20m 滝

(6:50)→関東森 1154m(8:45/9:15)→1283m 湿原(10:15/10:25)→八瀬森分岐(11:55)→小畚山 1467m(12:30/12:50)→三ツ石山 1466m(13:45)→三ツ石山荘(14:10/14:40)→滝ノ上温泉(16:30)
<天候:曇り時々雨>

朝、雨も上がり水流も落ち着いた。昨日あきらめた場所を通過でき一安心。すぐに二俣になり、左俣に入る。5m 程の小滝が連続するが右岸から巻いていく。関東森の稜線が見える。枝沢で飲料水を補給し稜線歩きに備える。初めは八瀬森湿原に出るつもりでいたが稜線歩きを短縮したいので関東森に突き上げる枝沢を選択する。15m の滝は右岸から巻くが、3m ほどの一枚岩がいやらしくロープを出す。トップは確保してもらい空荷で登り、立木にロープを固定してからザックを引き上げた。後続には固定ロープに結び目を作ってゴボウで登ってもらった。稜線に近づいても小滝が連続し、直登したり巻いたりして進む。水流は細くなっても稜線直下まで枯れなかった。ほんの少しの藪漕ぎで関東森の登山道にでた。

ここで沢装備を解くが、大深岳と小畚山を結ぶ登山道に出るまでは、ぬかるみと藪、倒木に悩まされる。小畚山 1467m が今山行の最高地点。森林限界を超えているが残念ながらガスで展望はない。三ツ石山に着くころから雨が降り出す。三ツ石山荘で一休みしてからブナの森の中を滝ノ上温泉に降りた。長い行程を終えて安心した後の一軒宿の秘湯は極楽。

不安な停滞の一日はあったが、やはり東北の山は優しい。また訪れたい山域である。

火打山

須藤俊彦

期日：2015 年 8 月 22 日(土)、23 日(日)

参加者:CL 新井勇 SL 軽石 相澤、白根、須藤俊、豊島、輪湖、杉山、赤坂、大嶋(計 10 名)

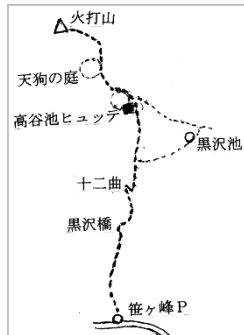
行動記録：

8/22 熊谷駅出発 6:00→笹ヶ峰駐車場 9:40/10:10
→黒沢出会い 11:15→十二曲 12:10→1970m

13:30/13:45→富士見平 14:00→高谷池ヒュッテ
15:00

予定の H さんにアクシデントがあり 30 分遅れて 10 名(花園 IC で輪湖さんをピックアップ)、3 台に分乗し熊谷を出発。途中で買い物、休憩を経て空模様に一喜一憂しながら登山口の笹ヶ峰駐車場(1310m)に到着。

予報通り小雨が降りだしたこともあり雨具着用(熟練者は傘)で出発。整備された緩やかな木道をのんびり歩き黒沢出会(1580m)に到着し小休止。沢を渡るといよいよ急な登り角が 12 連続する十二曲、更に続く急坂を雨具をつけて登るのはつらい。



足元は泥だらけ、雨具内は汗でびしょり。多汗は体力を消耗する事を再認識。熟練者はその中を傘をさしながら登っている。流石です。やっとの思い出で十二曲表示地点に到着。小休止の中夫々、エネルギー補給。それから尾根筋を進み 1970m 位の地点で昼食休憩。歩き出して間もなく分岐の富士見平(2065m)を通過し根曲がり竹に気をつけながら巻き道を更に進むと目の高さに三角屋根の高谷池ヒュッテ(2110m)が見える。ゴールが見えまた平坦である事から元気を取り戻し、コースタイムを大幅にオーバーしたがが無事到着。

2 階に各自 1 組寝具を割り当てられ安堵。5 時 15 分の夕食まで 1 階の食堂で歓談。夕食はカレーとハヤシライスのセルフ。美味しく盛替えた者多。窓越にはいつの間にか上弦の月が美しく光っており明日に期待を持ったが、それも一瞬で雲に隠れてしまった。7 時から火打の四季、植物のビデオがあり観賞、終了後床につく。私は 11 時半ごろに目が覚めトイレに行く。そこの窓から見上げると満天の星、流れ星も見える・・・これだけでここまで来た価値があると感激、しばし見とれる。

8/23 ヒュッテ 6:00→天狗の庭 6:30→ライチョウ平 7:12→火打山 8:12/8:25→ライチョウ平 8:55→ヒ

ュッテ 9:55/10:35→富士見平 11:30→十二曲 12:30→黒沢出会 13:10→駐車場 14:05

5 時 15 分からの中華の朝食。6 時出発。昨夜の星空が期待させた空模様では無いが小屋に掲示されていた「だんだん良くなる」との予報を信じスパッツだけ付け、全荷物を背負って出発。小屋前の高谷池池塘、天狗の庭と呼ばれる池塘の周りにはハクサンコザクラ、コウメバチソウ、リンドウ等が目に入る。コンパクトであるが密度は濃い。天狗の庭越しに見えるヒュッテはまるで絵葉書、カメラに収める。山頂は見えないが明るく期待を持って歩を進める。沢筋の残雪の白、ナナカマドの赤い実、群生するトリカブトの紫、コケモモの可愛い赤等を楽しみながらライチョウ平で小休止の後木道の連なる急坂を登りきり火打山頂(2462m)に到着。しかしガスで眺望はきかず。青空もチョコット顔を見せるがまた灰色に覆われる。しばらく好転しないと判断し記念撮影の後、下山開始。のんびり下る。

9 時 55 分にヒュッテに帰着。前庭に設置のテーブルで早い昼食。お茶を飲みながら各自持参した物を食べる。相変わらず眺望はきかず。小雨が降りだした中、雨具をつける人、予報を信じる人夫々で出発。富士見平手前で太陽が顔を出す中、快調に下る。十二曲の表示を過ぎると「えっ! 昨日こんな急な所を登ってきたの」と驚くような坂が続く。足元は悪いが雨具もつけていない事もあり余裕を持って下る。ブナやダケカンバの大木が目に入る。やがて沢音が聞こえると間もなく黒沢出会いに着き、休憩。駐車場に向かって木道を進む。登る時は気にならなかったが滑り止めの横木のピッチが歩幅に合わず、皆さん何か言いながら歩くうちに駐車場に到着。と同時に雨が降り出した。結局火打山を見る事はかなわなかったが色々勉強になった山行であった。

妙高高原 IC 近くの池の平日帰り温泉(ランドマーク妙高高原)で汗を流し東部湯の丸 SA で精算、解散式を行い、各車帰途につく。我々の車は熊谷駅に 7 時 20 分に無事到着した。皆さん、お世話様でした。

PS. H さんが一日も早く元気になられることをご祈念申し上げます。

鳳凰三山

駒崎裕美

山域山名：鳳凰三山(山梨県)

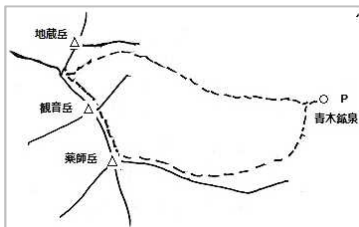
期日：2015年8月22日(土)

参加者：新井浩、駒崎

行動記録：駐車場(5:10)→青木鉱泉 1090m(5:24)
→中道登山道入り口(6:35)→御座石(10:11)→薬師
岳 2780m(11:39)→観音岳 2840.4m(13:15)→地藏
岳(14:46)→鳳凰小屋(15:25)→(ドンドコ沢コース)
→五色滝(16:20)→白糸滝(16:47)→駐車場(20:00)

<天候晴れ時々曇り>

初め猫又
山を計画しま
したが、北陸
の天気が悪
い為、以前よ
りホウオウシ



ヤジンが見たいと思っていたので変更しました。今
回は青木鉱泉より中道コースで登り三山を越えてド
ンドコ沢コースで下り鉱泉へ戻るルートです。

前夜泊して出発する。中道コースは地図では青
木鉱泉から車道を戻って橋を渡り林道を登る。一度
鉱泉に行く。そこに案内標識があり、ここからでも
行けるような標示、矢印が中道コースを示す方に
進む。(この矢印の方向の見間違いは下山後わか
る)キャンプ地を抜け登山道にはいる。地図の案内
板があり現在地を確認。ここで沢を渡るようだが沢
方向は道が途切れているようなので、ドンドコ沢を
進む。堰堤のある崩壊跡のある広い川原へでる。
このまま左岸を進むとドンドコ沢コースを進むこと
になる。沢の向こう岸にある尾根が中道コースと確
定でき、沢幅狭く水量は少ない為、沢を渡ること
にする。今回私は片足を沢に入れてぬれる。

右岸の林道からの尾根に登る道を探すが見つ
からず、一度林道を下りることにする。しばらくすると
下からの林道にぶつかり薬師岳への標示をみつけ
る(6:11)。林道の中はマルバタケブキの群落が見
事。しばらく行くと壊れた小屋近くに中道登山道の
標識がある。

ここから尾根に上がる。初め笹の生い茂るカラマ
ツ林をジグザクに登り、次はきのこが生えている苔
むした原生林、御座石を過ぎるとサルオガセが目
立つようになり石楠花の道になる。その上は開けて
きて白い花崗岩の岩が表れ、薬師岳頂上。

白いザラ地にはタカネビランジがあちらこちらに
ある。咲き終わっている株がほとんどだが観音岳
の間の白い斜面にコマクサの群落の様に咲いてい
る。そして、岩の間に隠れるように咲いている初め
て見るホウオウシャジンに感激。ここでA氏は眠気
で足取りが遅かった為昼寝休憩をとる。(天気は雲
が多いながら晴れ、安定している)時間は予定より
大分オーバーしていたが、花を見ながら観音岳、
地藏岳下を通過、鳳凰小屋に下りる。小屋の周り
はヤナギランがきれい。多くの人で賑やか。

この時点で下山は19時過ぎになると覚悟して
下る。雲無く良い天気、途中明るいうちに食料を補
給し、ヘッドランプを用意する。急な歩きにくい下
りを過ぎて、なだらかになった頃、暗くなり始め、早
めにヘッドランプをつける。夜の行動は久しぶり、
月が出ている。ゆっくり回りを見ながら進み、標識
を確認し無事に下りる。

予定より行動時間がかかった事は反省だが、鳳
凰三山固有の植生が良くわかった山行になりました。

有明山

新井浩二

山域山名：北アルプス・有明山(長野県)

期日：2015年9月12日(土)

参加者：駒崎、新井浩

行動記録：有明荘駐車場(6:30)→有明山北岳
(10:05)→南岳(10:40/11:50)→北岳(12:35)→
駐車場(15:30/15:55)⇒有明荘(16:00/17:00)

<天候晴れ>

有明荘(第3)駐車場の混み具合は、6時時点で9
割程度。トップシーズンに比べ空いているようだ。
6:30に駐車場奥の登山口から計画書をポストに入
れ登り始める。笹はきれいに刈られて整備は行き



とどいている。
やがてコメツ
ガやモミの樹
林帯でシャク
ナゲもかなり
多い。ハシゴ
やロープが
多く、トラバ
ースするよう

アップダウンが続きなかなか高度が稼げない。明るい尾根に出ると平坦になり、時々安曇野の街並み、田んぼが見える。大きな岩の上に立つと、燕岳～大天井岳の稜線、山小屋も確認できた。遠くに鹿島槍なども確認。安曇野の田んぼの稲が色付き始めている。やがて北岳、金属製のピカピカの鳥居。避雷針になっているらしい。そこから中岳、南岳に移動。ともに社が有り、信仰の山と知れる。南岳までは半分藪こぎ状態の道だが、良く踏まれている。静かな山頂でのんびりコーヒータ임。シロタマノキが真っ白な実をたくさんつけており、山頂付近は少し木々が色付き始め初秋の雰囲気でした。

下山は来た道を滑りぬように慎重に降りて、駐車場へ。今回の山行では10名程度しか会わなかった静かな山行でした。この後、有明荘でかけ流しの温泉に入りました。帰路に有明山の全景を田んぼ道から見る事が出来ました。なるほど、信濃富士と呼ばれる所以がわかりました。



奥秩父主脈縦走

高橋仁 駒崎裕美 木村哲也

山域山名：奥秩父主脈（雲取山～甲武信岳～金峰山）

期日：2015年9月19日（土）～23日（祝）

参加者：L 木村 高橋仁 駒崎

行動記録：

雲取山から金峰山までの奥秩父主脈縦走路は、一度は通して歩いてみたいと思っていたが、日数が必要なため中々計画出来ずにいた。今回、シルバーウィークの機会に同行者を得て、この長大なルートをトレースすることが出来ました。

9/19 東行田(7:21)＝熊谷(7:41)＝三峰口(9:09/9:35)＝三峰神社(10:30/10:50)→霧藻ヶ峰(12:30/13:10)→白岩小屋(14:35/14:50)→大ダワ(15:55/16:05)

→雲取山荘(16:30) (テント泊)

<天候：晴から曇>

秩父鉄道の電車に行田、熊谷、寄居から三人が乗り込んで、終点の三峰口へ到着。バスで三峰神社に向かう。車窓から眺める和名倉山が大きい。三峰神社でバスを降りて身支度を整える。楓がほんのりと色着いて秋の気配を感じさせる。予報通り好天が続くことを期待しつつ、4泊5日の長い縦走が始まった。装備と食料の詰まったザックはズッシリと重い。少し登ると奥ノ宮の鳥居があり、入山届けをポストに入れる。雲取山は若い頃に何度か登った事があるので、見覚えのある道だ。霧藻ヶ峰で昼食を取る。眺望は所々が雲に遮られるが、切れ間から両神山が現れた。白岩山手前の小屋は閉鎖され荒廃している。ここで和名倉山を眺めて休む。雲がさらに低く広がってきて、薄いガスの中は夕方のような気分だ。白岩山を越えて、芋ノ木ドッケで長沢背稜への縦走路を左に分けて進むと大ダワに着く。男坂・女坂は、男坂の方を登り雲取山荘に到着する。すでに何張りものテントが張られているが、手頃な平坦地を見つけて設営完了。山荘前のテーブルでビールとワインと焼酎で乾杯して、夕餉の支



持ちの良いロケーションだ。山の神土で和名倉山への道とトラバース道を分けて、真ん中の稜線の道を進む。さらにアップダウンを繰り返して笠取山頂（東）に出る。少し先の「山梨百名山」の標柱がある

度にかかる。混雑と云う程でも無く、空いていると云うほどでもない状況だ。小屋が消灯になるのでテントに戻って就寝。

9/20 雲取山荘(5:10)→雲取山(5:40/6:00)→北天のタル(8:30/8:40)→飛竜山(9:15)→禿岩(9:40/10:00)→将監小屋(12:10/13:05)→将監峠(13:10)→唐松尾山(14:25/14:40)→笠取山(16:10/16:35)→笠取小屋(17:10) (テント泊)

<天候：晴から曇>

今日は5日間中で一番長い。5時出発。しばらくはヘッドランプを点けて歩く。東の雲が赤く染まって来た。雲取山頂には、全国で三つしか残っていない原三角測点の角錐標柱石(注)がある。雲取の他に新潟県・米山と、2001年に発見された群馬県・赤久縄山の白髭岩にある。米山は6月に見て来たが、赤久縄は5月に登った時に白髭岩まで行かず、原三角点は見えていない。そのうち見に行こうと思っている。(注：明治初期に内務省地理局が大三角測量のために設置した。大三角点標柱石とも言う)

日の出は山でなく雲の中から現れた。予報ほどよい天気にはならない。笹道のアップダウンを繰り返し、踏み跡のショートカットを登って飛竜山頂に出た。樹林で景観もないので、飛竜権現に下って禿岩へ。ここの眺めはなかなかだ。南の大菩薩嶺から、将監、唐松尾、笠取の稜線、北に和名倉山が見渡せるのだが、飛竜権現で4本の道が複雑に交差していたので方向感覚が狂って、木村さんに教えられるまで山座同定が出来なかった。将監小屋で昼食を取る。水が豊富、新しいトイレ、草地の幕営地、峠への登りは防火帯の草原で、明るく気

る西山頂に出る。残念ながらガスが広がり、ここも眺望無し。笠取小屋に向かって下ると、開けた防火帯の中に「源流の道」「小さな分水嶺」の表示があり、荒川・多摩川・富士川(笛吹川)の分水嶺の標石がある。北は二瀬ダムから荒川に注ぎ東京湾、南は小河内ダムから多摩川に注ぎ東京湾、西は広瀬ダムから笛吹川に注ぎ駿河湾へ。いずれも太平洋に流れ出るのだ。日本海に流れる分水嶺はと云うと、まだずっと先の甲武信ヶ岳で日本最長の信濃川(千曲川)が荒川・富士川と水を分けることになる。笠取小屋は小さな小屋だ。外のテーブルで食事をした後、小屋のストーブで温まっていると、鹿が出てきた。半ば餌づけ状態らしく、ライトに照らされても逃げずに動き回っている。(9/19,20 高橋仁記)

9/21 笠取小屋(6:20)→雁峠(6:49)→燕山(7:30)→古礼山(8:43)→水晶山(9:12)→雁坂峠(9:50/10:00)→雁坂嶺(10:40/10:50)→東破風山(11:40/12:25)→西破風山(12:50)→破風山避難小屋(13:20)→木賊山(14:50)→甲武信小屋(15:10) (小屋泊)

<天候：曇り>

朝のうちは日が差すことがありましたが、今日も縦走路は霧に包まれていました。

朝食、テントの片付け、そして小屋下へ行動用の水を汲みに行き出発。昨日下った道を少し登り返し、雁峠へ向かう。途中使われていないような雁峠山荘を右手に見る。峠は広々とした笹原になっている。ここから一登りすると樹林の燕山。雁坂峠へは笹の尾根道になる。展望のよさそうな古礼山山頂を踏み、縦走路へ戻る。時折色づいた木々が目

に入る。次の水晶山は樹林の中、苔むした林を下ると笹原になり雁坂峠に着く。昨日までと違い、ここからは人に良く会うようになる。



小休止した後、登りつめると、雁坂嶺、ザックをおろして、一息ついて進む。縞枯れ林を抜けると東破風山、お昼にする。

ここからは所々大きな岩がゴロゴロする稜線歩きになる。林の中の西破風山を過ぎて少し下ると破風山避難小屋、水を汲みに行ってきた人に会うが、水汲みは大変だったようだ。ここから登りになり、花崗岩の砂地の賽の河原が現れ、さらに西沢溪谷への分岐を通過し、木賊山、そして甲武信小屋到着。一畳に二人という混み具合でした。夕食のカレーを頂いた後は、徳さん撮影の花、徳さん主演の笛吹川東沢遡行の上映会でした。

(駒崎記)

9/22 甲武信小屋(6:20)→甲武信ヶ岳(6:35/6:50)
→毛木平分岐(7:10)→水師(7:25/7:30)→富士見
(8:05/8:10)→両門ノ頭(8:35/9:10)→東梓
(9:55/10:05)→国師ノタル(10:40/11:35)→国師ヶ岳
(13:40/13:55)→北奥千丈岳(14:05/15:05)→大弛小屋
(15:45) (テント泊)

<天候：晴れ>

縦走四日目にしてやっと文句のない良いお天気。小屋の周辺の紅葉が朝日に映え綺麗だ。まず、小屋から急登をひと登りで甲武信ヶ岳山頂に着く。何度か来ている山頂だが、やはり景色は素晴らしい。国師ヶ岳への稜線は、これから歩くと思うとこれまでと違った印象で目に映ってくる。雲取山頂以来の富士山も見ることが出来た。

まだ気温が上がっておらず寒いので、予定より早めに山頂を後にする。急坂を下り毛木平への道

を分けると、ここからは私は未踏の部分だ。ほとんどが苔むした針葉樹林の中の道だが、昨日までと違って常に木漏れ日の中を進んで行けるのが嬉しい。腐葉土でふかふかしていて足にも優しい道だ。甲武信から国師の間はあまり歩かれていない縦走路なのではないかと思っていたが、踏み跡は明瞭で迷うような所はほとんど無い。笠取山頂で会ったトレイルランナーが、奥秩父主脈縦走路はトレイルラン的にメジャーなコースだと言っていたので(彼はこのコースを2日!)で走り抜けるとの事、そういう影響もあるのだろう。水師、富士見のピークは全く展望が無かったので、休憩もそこそこに先に進む。両門ノ頭に着くと山梨側が大きく開け、行程にも余裕があるので景色を楽しみながら大休止をとる。

この後はまた樹林の中を進んで行く。展望の無い東梓 2224m ピークとアップダウンをこなし、国師ノタルに着いたところで空腹を覚えたので少し早いが昼食休憩をとる。ここから 400m 程の登りを頑張ると、やがて国師ヶ岳の色付いた稜線が見えてきた。辿りついた山頂は南側が開け、北奥千丈岳の眺めが良い。しばし景色を楽しんだ後、今山行の最高地点、北奥千丈岳へ。こちらは国師ヶ岳にも増して景色が良く、金峰山への稜線、佐久の御座山、天狗山・男山、国師ヶ岳の向こうに甲武信ヶ岳などが眺められた。今日の目的地の大弛峠は眼下に見えているので、お茶を淹れながら 1 時間あまり、ゆっくりと景色を楽しんだ。

大弛峠への下山路は一般向けのハイキングコースになっているようで、立派な木製の階段がこれでもかと整備されていた。振り返る北奥千丈岳の西面は午後の光線を受けて紅葉が特に綺麗だった。夢の庭園を過ぎると観光客も大勢現れ、やがて車のエンジン音が賑やかになってくると大弛小屋に到着だ。ここのテント場は樹林の中の中々感じの良いロケーション。賑やかだった峠も観光客が帰ってしまえば後は静かな山やの世界だ。明日の朝食を残して食料をすべて調理して最後の晩餐を楽しんだ後、シュラフにもぐりこんだ。

9/23 大弛小屋(6:05)→朝日岳(7:15/7:25)→金峰

山(8:30/9:00)→大日岩(10:25/10:35)→大日小屋(11:00)→富士見平小屋(11:35/11:40)→瑞牆山荘(12:05/12:55)=増富の湯(13:17/14:47)=韮崎駅(15:45/16:23)=熊谷(19:36)

<天候：晴れ>

長かった縦走も本日が最終日。テントを畳んで出発する。ザックも初日と比べてとても軽くなった。大弛峠から金峰山への登山道は多くの登山者が歩いているので道幅も広い。朝日峠を過ぎてさらに登っていくと朝日岳の手前で露岩帯に出て展望が開ける。富士山・南アルプス、国師から甲武信への稜線などが眺められる。稜線の一番奥に見えているのは雁坂嶺だろうか、思えばずいぶん遠くまで来たものだ。朝日岳の標柱は壊れていた。西側の露岩からは五丈岩を頂いた金峰山が目の前だ。

ここから一旦下り、鉄山の北面を巻いて登り返すと森林限界を越え金峰山の稜線に出る。稜線からは、前述の山々の他、近くは小川山、瑞牆山、八ヶ岳、遠く中央・北アルプス、御嶽山、浅間山、赤城や日光の山々も見えている。眺望を楽しみながら進んで、ついに最終ピーク、金峰山の山頂に到着した。雲取山からここまで来ることが出来て感無量だ。五丈岩にちょっと登ったりしながら、しばし山頂でのひとときを楽しんだ。

後は下山を残すのみとなった。砂払いの頭までは森林限界上の稜線歩きで、展望を楽しみながら下る。一部鎖場や歩きづらい岩場もあり注意が必要だ。砂払いの頭からは樹林帯になり、雲の下にも入ってしまったので、ひたすら下る。大日岩は巨大で中々立派な岩塔だ。結構早めのペースで歩いているつもりなのにエアリアのコースタイムより遅れ気味になり、この辺のタイムはシビアに書かれていると思う。近年、営業小屋となり綺麗になった富士見平小屋を過ぎると、瑞牆山荘まではあとわずかだ。結局、後半頑張った甲斐あって、ほぼ予定時間にゴールすることが出来た。山荘では昼食をいただくと共に奥秩父主脈縦走路の踏破を祝して生ビールで乾杯。この一杯はたまらなく旨かった。

この後はバスに乗り、途中増富の湯で5日間の汗を流して韮崎駅へ。満員の特急あずさに揺られながら帰路についた。(9/22、23 木村記)

二王子岳

新井浩二

山域山名：二王子岳

期日：2015年9月20日(日)

参加者：大嶋、豊島、新井浩

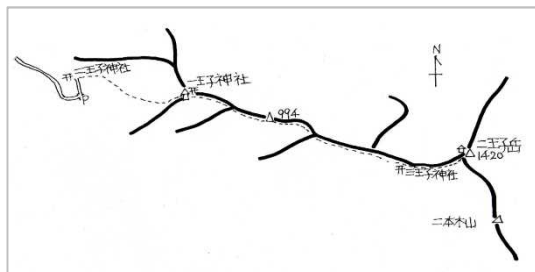
行動記録：

9/19(土) 熊谷(17:00)→道の駅加治川(22:00)

17時集合出発。夕焼けを見ながら関越道を北上。途中夕食を取り、道の駅加治川に着くころには雨が本降り。新潟のみ雨だとは……。売店の軒先にテントを張る。

9/20(日) 道の駅加治川(6:00)⇒二王子神社駐車場(6:35/6:55)→三合目(8:20)→五合目(9:30)→山頂(11:25/12:05)→駐車場(15:00)⇒あやめの湯(15:45/16:35)⇒熊谷(21:15)

<天候：雨/曇り>



雨音で眼が覚める。あ～雨だ～。このまま帰ってもいいかなと思いながら朝食、テント撤収。予報では雨は上がるとのことなので出発。標識にしたがって細い林道を車を走らせると、二王子神社の駐車場に到着。数台有るが、天気が悪いので少ないのだと思う。雨具を着こみ出発。すぐに立派な二王子神社があった。神社前の広場のすみのポストに計画書を入れ登山道を歩きだす。小さな沢沿いの綺麗に整備された登山道だ。植林の中を進み30分程度で小雨になり雨具を脱ぐ。明るいブナ林をぬかるみもなく快適に進む。途中に合目の表示があり、三合目が避難小屋、五合目が定高山。七合目をすぎるところには稜線の気持ちのいい登山道が続く。ナナカマドの赤い実がたくさんなっている。やがてオ

レンジ色の丸い屋根の避難小屋が見えて来て、その先が山頂。数人が休んでいる。

真っ白で視界無く飯豊の山々は見えませんでした。去年歩いた飯豊が見られると思っていたので非常に残念。折角来たので青春の鐘を鳴らす。小雨がパラついて来たので山頂避難小屋に入り休憩。

下山は来た道に戻る。登って来るひとと何人かとすれ違いますが、静かな山だ。皮肉なもので、下山途中に晴れて来た。下界の田んぼが色付き始めている。ブナの実、ナナカマドやオオカメノキの赤い実、ダイヤモンドソウなど秋の雰囲気を楽しみながら下山。あっという間に二王子神社に到着。帰路途中に新発田温泉あやめの湯に浸かりました。

秋のヘイズル沢遡行

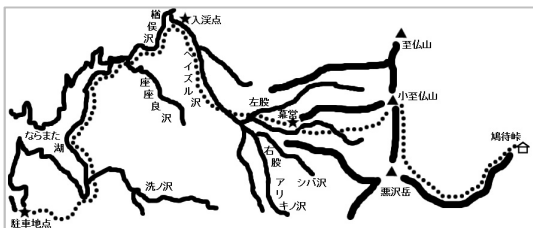
栗原昌史

山域山名：小至仏山（群馬県）

期日：2015年9月21日(月)～22日(火)

参加者：L 木下、SL 宮田、栗原聡、栗原昌(記)
9/21(月) 行動記録：

奈良俣ダムゲート 900m(7:25)～ヘイズル沢出合
950m(9:20/55)～1100m(11:50/12:15)～アリキノ
沢出合 1180m(13:00)～左俣出合 1200m(13:10)
～幕営適地 1400m(15:00)



今年の秋の一泊遡行は裏至仏とでも言うべきか、至仏山西側、利根川水系のヘイズル沢だ。過去の記録を探してみると、沢の楽しみが詰まった高評価なものも多く、期待が高まる。

奈良俣ダムの奥にある林道ゲート傍に車を止め、まずは8km、2時間の林道歩き。沢にアプローチは付き物だが、長い林道歩きを嫌ってか、他の沢パーティーの姿は無く、かえって好都合だった。林道はダム工事の際に作られたものなのか、奥に

行けば行くほど荒れてきて自然に振り返りつつあった。監視小屋と櫓俣川にかかる橋が見えるとそこが入渓点。沢装備を身に付け遡行開始。

出だしはナメとへつりと簡単な滝が交互にやってきて、どれもちょっと工夫すれば自力で突破できる、まるで誰かが難易度調整してくれたかのような、絶妙なレベルの岩と水のアスレチックが続き、次はどんなのがくるだろうという感じで飽きさせない。特にナメ滝はどれも素晴らしく、ここが名渓であることを証明していた。水量は平水かやや多めだが、9月も下旬になると水の冷たさが堪えるようになっていて、なるべく濡れないように進むが、日なたでは太陽のありがたさを切に感じた。1150m付近にある、二股の少し手前の10mの廊下状の滝だけは、見るからに直登が出来そうも無く、少し戻り踏み跡のある左岸を高巻いて滝の直上に出た。

連続する二股を左、右と進むと目的の右沢へ入る。奥の二股から少し登った1250m付近にある2段12mの滝が今日の核心だった。一見直登は無理に見えて、巻き道はないかと左右を見てみたが、兩岸も迫立っていて登れる気配ではなかった。総合的に考えて、水流を伝って登るのがホールドも多く一番危険が少ないと判断。まず木下リーダーがトップで登り、後続者はトップロープで上からビレイしてもらって登攀した。登りだすと確かにガバのホールドが至る所にあり、見た目よりずっと易しい。だが、登るルートは水流の中にあるので、あまり長考すると冷水に体温を奪われて危険だった。下で待っている間、掴むホールド順をイメージしておいて、滝に取り付いた後はあまり迷わず速やかに登り、出来るだけ水に掛かっている時間を短くするよう努めた。メンバー全員無事に登り切って一安心。ロープを使ったのはここだけだった。さらに美渓は続く。滝から1時間登って午後3時に1400m付近の幕営適地に到着。

日没まで十分な時間があつたので、焚き火をこし、担ぎ上げたビールとウインナーの炭火焼で乾杯。最高のひと時を味わった。日が暮れて寒くなった後、夕食はおでん。これがまた暖かくて美味しかった。7時過ぎに就寝。ポットラックでもまだ大丈夫な季節だった。

9/22(火)行動記録：

幕営適地 1400m(7:45)～第一堰堤 1610m(9:00)
～1720m(9:30/40)～1940m(10:25/45)～登山道
2140 m (11:25/45)～小至仏山 2162 m
(11:50/12:25)～鳩待峠 1591m(13:45)

5 時半起床。朝食は定番の味噌煮込みうどん。
堅い乾麺なので崩れにくく、また意外にあっさりし
ているので山の朝食向きだ。天気は今日も良好。
幕営撤収と身支度を済ませて 8 時前に出発。毎度
のことだが、この季節に濡れた沢装備を身に着け
るのは勇気がいるが、去年の恋ノ岐の時ほど寒く
はなかった。

歩き始めてすぐに 20mの大滝が現れた。水流沿
いは険しくて直登できないが、左際になんとか登
れそうなルートがあった。一段登った先にちよっ
といやらしい箇所があったが、空荷だったら問題なく
登れそうだったので、私と木下リーダーがまず登
って、他のメンバーのザックを引き上げた。この大
滝を過ぎると徐々に斜度が増してきて、それに伴っ
て水量もだんだん減ってきた。いくつかの小滝を越
えたと第一堰堤が現れた。こんな人気の無いところ
になぜこんなものかと思ったが、おそらくダム工事
のときに土砂流入を防ぐために作られたのだろう。
その後も第二、第三堰堤と続いた。しかしこの堰堤
のおかげで下流のヘイズル沢は土砂に埋まること
なく美溪を保っていられたのかもしれない。やがて
水流も細くなり、斜度もさらに増してくるとようやく
至仏の稜線が見えてきた。振り返ると昨日湖畔を歩
いたダム湖が遠くに見える。

二股を越えると水がようやく枯れてきて、沢旅の終
わりを感じさせる。少し登って完全に枯れたところ
で沢装備を解く。だがこの先稜線までは急な岩稜
歩きが続くので、念のためハーネスとヘルメットは
着けたまま登る。岩場とハイマツ帯の急な登りだっ
たが、藪漕ぎは無く、またルートファインディング
の楽しみがあってなかなか良かった。40 分ほどで
頂上直下の登山道に出た。

ちょうどお昼に今回唯一のピークである小至仏山
に到着。山頂は行楽シーズンとあって大勢の人で
賑わっていた。西側の岩に腰掛け、昼食をとりな
がら二日間登ってきた沢を見下ろして余韻に浸る。

あとは鳩待峠まで登山道を下るだけ。

鳩待峠には 2 時前に到着。すでに迎車タクシーが
待っていた。というのも、山頂にてあらかじめ予約
していたタクシーに連絡をとり、下山時刻を伝えて
いたので、待ち時間なくスムーズに乗ることが出来
た。1 時間程で出発地点に到着。見上げると今日
登ってきた山頂直下の岩場がよく見えた。湯の小屋
温泉で汗を流し、藤原の蕎麦屋で蕎麦を食べ帰路
につく。

期待以上の美溪に加えて、遡行レベルも簡単すぎ
ず、難しすぎずで、大満足の沢でした。また今回
は沢のみならず岩場登りも楽しめて、中身の濃い
山行となりました。企画立案してくださった木下リ
ーダーに感謝です。今年の沢はこれでおしまいで
すが、来年もまた秋に一泊沢旅に行ければと思います。

蓼科山・北横岳

駒崎裕美

山域山名：双子山、大岳、横岳、蓼科山(山梨県)

期日：2015 年 9 月 27 日(日)

参加者：新井浩、駒崎

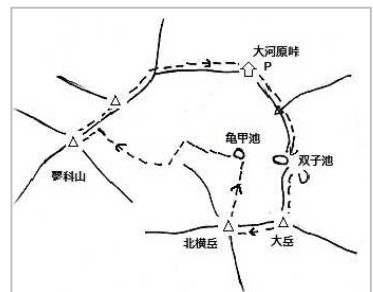
行動記録：大河原峠(7:20)→双子山(7:45)→双子池
(8:20/8:45)→大岳(10:25/10:30)→北横岳
(11:35/12:10)→亀甲池(13:15/13:25)→天祥寺原
(13:40)→蓼科山荘(14:55)→蓼科山(15:30/15:45)
→大河原峠(17:30)

<天候：曇りのち晴れ>

午後から
天気が良くなるようで、
コースタイムはほとん
ど変わらないので、蓼
科山から回

る予定を変更、逆まわりにする。

峠は蓼科に向かう 1 グループと数名程度、ガス
っていて山頂は見えない。蓼科を背に緩やかに登



ると直に笹原の丘の双子山。下り双子池ヒュッテ。双子池は雄池と雌池があり赤い紅葉が水面に写ってきれい。雄池での飲食禁止と立て札がある。雌池がキャンプ地でなるべく汚さない配慮でしょう。

ここから大岳の登りは大きな岩の間をぬうようにはい上がり、アスレチックのようです。

大岳は広々として、蓼科に少しガスがかかっているが回りが見わたせます。寒いので早々横岳へ向かう。北横岳ヒュッテと池が左下に見えてくる。池の周りは紅葉がきれいで、多くの人が見えます。登りきると北横岳山頂、かなり賑やかです。ガスっていて視界は良くない。ここでお昼休憩する。

後半は亀甲池へ下り、登り返して蓼科山へ。この頃から日が差すようになり、振り返りながら横岳斜面の紅葉を楽しむ。途中潤れ沢のもみじの紅葉はとてもきれいでした。午後の山頂は静かで、周りは雲がわいていましたが、青空で気持ち良かったです。

きのこ・木の実山行

新井勇

山域：秩父方面

期日：2015年9月28日(月)

参加者：L 橋本義 藤井 並木 栗原幸 新井勇
逸見 高橋武 瀧澤 石川

行動記録：＜天候 曇り＞

熊谷駅南口 7:00—風布橋本小屋 8:05/8:40—浦高百年の森手前 8:50/9:45—浦高百年の森
9:55/10:20—葉原峠周辺 10:25/11:00—野上コンビニ 11/15/11:30—不動峠 11/55/12:45—不動山頂上
13:00/13:05—不動峠 13:15/13:30—秩父華嚴の滝 14:20/15:00—満願の湯 15:10/15:55—国神
16:00/16:10—熊谷駅南口 17:20

熊谷を予定どおり7時に橋本車、瀧澤車で出発。波久礼で待っていた石川車と合流して、まずは橋本小屋付近で木の実を収穫。藪の中へ少し入るとマタタビが実を付け、キノコ、落ちているヤマグリ等も目につく。次いでミカンの実る風布の集落を通過して林道を葉原峠へ上って行く。所々にヤマグリ

実が落ちており、この季節、通る車は嫌でもこれを踏んで通過する。

上の稜線方面は浦高百年の森となっており我々はその少し手前で栗拾いのため停車。小さなヤマグリではあるが各自十分に拾い集める。橋本さん、藤井さんはキノコ探しにも当たったがあまり収穫はなかった。

この後、百年の森のメインの記念樹とロッジのある所に立ち寄った。上って行くと、車道の傍らで、5、6mの高さのネムノキにアケビとサルナシ両方の蔓が絡み付いて実をたくさん付けている。この場所も橋本さんが事前にしっかりと眼を付けており、我々を案内してくれたもので、アケビは実が割れているものも幾つかあり丁度食べ頃。橋本さんが今日のために急遽購入した高枝切器が大いに役立った。

さらに数百m走ったところでマタタビも採取した後、葉原峠付近の採取を終えて長瀬側へ下った。

野上のコンビニに寄ってトイレ休憩を取った後、次は間瀬峠から不動峠へ。ここは長瀬町と児玉（今は本庄市の一部となっている）の境の山波の稜線に作られた林道の一部で不動峠のすぐ近く。不動山（549m）は長瀬町の最高地点だという。峠のすぐ手前で高い木に絡み付いているサルナシの実をたくさん収穫。そして間もなく昼食予定地の不動峠へ。峠と言っても、樹林に囲まれた尾根上の所を通る車道。道端にシートを敷いて持参の昼食を食べた。

昼食後、ちょっと歩いて秩父盆地、長瀬方面を展望し、この日唯一の山登り、不動山のピークを踏んでまた、峠に戻った。と言っても、不動山は少し林道を歩いた後10分で頂上だ。また頂上は杉の樹林で展望はない。キノコ探しをした人もいるが近辺には目ぼしいものはなかった。

最後に、峠でキノコの同定を行い、木の実はいずれ適宜山分けして木の実収穫の山行を終えた。

プラスアルファの立寄り地、秩父華嚴の滝へ。滝の見学後、地元の石川さんはここまでとし、8人は満願の湯に寄って汗を流した。さらに当日になって希望の出た帰路途中の国神のポックリ観音に寄ってから熊谷へ。ほぼ予定どおり活動を終えた。

天狗原山・金山・雨飾山

橋本健一

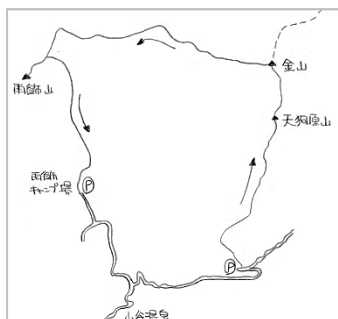
山域山名：頸城山塊・天狗原山、金山、雨飾山（長野県、新潟県）

期日：2015年10月4日（日）

参加者：CL宮田 SL栗原昌 福田、栗原聡、橋本（計5名）

行動記録：雨飾キャンプ場P（4:30）＝天狗原山登山口（4:50/5:00）→天狗原山（7:30/7:40）→金山（8:30/8:40）→雨飾山（12:00/12:20）→雨飾キャンプ場P（14:30）

熊谷の栗原邸に車を置かせていただいで出発。今回は登山口と下山口が違うので車2台で向かう。0時過ぎに雨飾



キャンプ場Pについてみるとほぼ満車。キャンプ場併設ということもあるが、紅葉ピークの100名山はすごい賑わいだ。

翌朝4時起床、テントを撤収して車1台を残し、天狗原山登山口Pに向かう。出発は5時、まだ真っ暗で星が瞬いている。ヘッドライトを点けて出発し、闇の帳の中を登っているとほどなく朝日が昇る。今日はいい天気になるだろうかと期待がふくらむ。だが登るうちにガスに巻かれ、7:30 天狗原山に到着。残念ながらガスで展望はない。続いて8:30 金山に到着。ガスがなければ焼山方面の素晴らしい展望が見えるのだろうが、今日は見えない。

ここから、エアリアマップでは点線の道に入るが、しっかり刈り払われて道幅も広く、すごく歩きやすい。笹の感じから毎年のように刈り払いが入っているようだ。この日は1600～1800mくらいの紅葉がピークだったようで、まさに紅葉のトンネルの中を

進む。進むにつれ時折ガスも晴れ、紅葉に染まった天狗原山や雨飾山が見えたりする。ただこの道、地図には載らないような微妙なアップダウンがとても多い。10mくらい登ったり降ったりを繰り返すので、精神的にも肉体的にも消耗する。

11:30 笹平分岐につくと、一気に人が増える。ここまでは1人しか会わない静かな道であったが、ここからは100名山メインルートだ。人通りが多いためか、さっきまでの落ち葉のフカフカもなくなり、足に堪える。

12:00 雨飾山到着。残念ながらガスで展望はない。しばし休憩ののち下る。下るにつれてまた紅葉のトンネルに突入する。途中荒菅沢を渡るところでは紅葉に染まった布団菱を見ることができた。まさに紅葉のピーク、素晴らしいものを見た。

その先は黄色く色づき始めたブナの森を歩き、14:35 雨飾山キャンプ場Pに到着。本日の登降標高差は約2200m、歩程は約17kmであった。

天狗原山登山口の車を回収し、帰りに小谷温泉の山田旅館で温泉に入ろうとしたが、15時受付終了で、残念ながら入れず。遠見の十郎の湯に入り、道の駅で白馬豚を食して帰路についた。

白峰南嶺縦走

宮田幸男

山域山名：南アルプス・白峰南嶺、伝付峠、黒河内岳、白河内岳、広河内岳

期日：2015年10月10日（土）～12日（月）

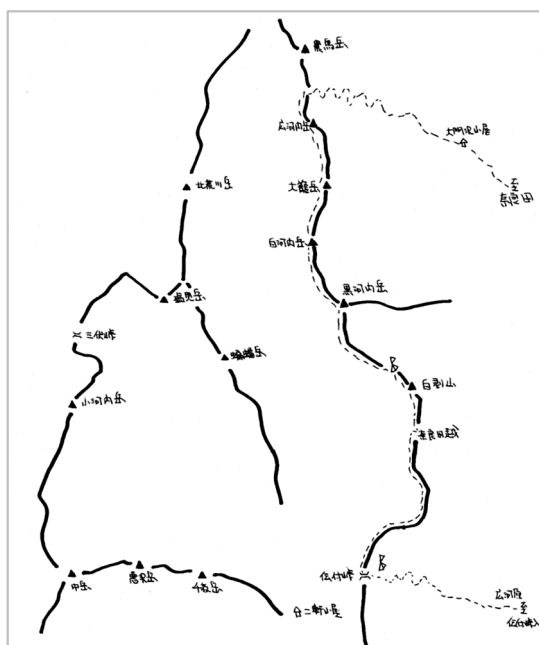
参加者：L 宮田、福田（計2名）

行動記録：

10/10 奈良田（6:35）＝バス＝伝付峠入口 500m（6:54/7:15）→広河原・田代発電所 850m（8:20/8:30）→八丁峠（9:15/9:30）→保利沢小屋 1310m（10:15/10:25）→伝付峠水場 1920（12:45/幕営）→伝付峠展望台往復＜テント泊＞

<天候：曇り>

東京新聞「岳人」廃刊時に編集部が『岳人100ルート』で“静寂のロングトレイル”と紹介した白峰南嶺。今夏に農鳥岳山頂から南下する長大な横



たわる山稜をみて、絶対に歩いてみたいと思った。さっそくこの秋の三連休にそのチャンスを得て、まさしく言葉どおり、静かな南アルプスの大展望ロングルートをトレースしてきました。

夜中に奈良田入りして、第1駐車場で仮眠。バスが3便しかなく下山時間を楽しむため、初日に奈良田から伝付峠入口までバスに乗る。他に乗客はなく、運転手さんと奈良田の話を聞かせてもらった。伝付峠入口で下車。登山口は橋を戻って、左手の駐車場奥のゲートからだ。その脇には糸魚川-静岡構造線の案内看板があった。そう、この辺りは大断層が早川の真下を通っているの、南アルプスが急峻な山稜をしている訳だ。

ゲートすぐ右手にある新倉の湧水で喉を潤してから出発する。しばらくは舗装された林道、昔はヘリポートまで車が入れたらしい。落石と荒れた林道を行くと、田代発電所入口へ。このまままっすぐ行くと旧道だが、斜面崩壊で通行止めなので新道を目指す。登山道に入ってすぐに渡渉する沢は大雨で荒れていた。新道が通る八丁峠へは、正面のガレ場の右岸側尾根に付けられているが、これがとてつもない急傾斜と両側がスパッと切れて、フィックスロープがたくさん張られて、まったく気を抜けない道だった。

登り着いた八丁峠には廃屋跡があった。旧道が通れた時代から、このルートは山師の道だったのだろうか。峠から道は、内河内川に向けて下る。最初の渡渉点には、立派？な木橋が架かっていた。川沿いに付けられた道は、いにしへの風情たっぷりだが、大雨の影響で、小沢を渡る橋は横を向いていたり、落ちていたり、朽ちたままもあり、道自体が崩れていたり、ここもまったく楽をさせてくれない。

2段の滝を過ぎると、東京電力管理小屋。周辺には資材が至る所に放置？されている。その上流にある取水堰までくると、木々も次第に色づいてきた。小滝の下が右岸側に渡り返す2回目の渡渉点だが、深い水流に所々出ている岩もヌルヌルと怪しげな感じ。靴を濡らしたくないので、石をいくつも投げつけて適当な足場を作ってから渡る。

再び道は右岸を行き、アザミ沢を渡渉をする。伝付峠尾根下にやっと出た。沢の流れの脇で、紅葉を眺めながらのんびりと昼食タイム。樹林帯には作業小屋？の残骸があった。尾根道はジグザクに作られているが、これまでのような悪場はなく、いいペースでグングン登れる。ほとんど人が通らないので、倒木の苔もまったく踏まれていない。尾根を境に北側にはからまつ的人工林が植えられていて、看板には昭和47年植林とあった。

稜線が近づくにつれて伝付峠の水場に出た。晩秋の渇水期なのに水量は豊富だ。すぐ隣にテン場があったのでここで幕営とする。設営後、伝付峠まで散歩に出掛ける。途中の笹原からはドカーンと富士山が大きい。伝付峠に出ると、立派な林道が通り、脇には朽ちたトイレ。峠を下りれば二軒小屋に通ずるこのエリアは、昭和の時代に列島改造とやらで山林開発した名残がたくさん見られる。

峠周辺がちょうど紅葉の見頃で、楽しみながら林道を歩いて、北側にある展望台に向かう。切り開きされていて見事な展望台からは、正面に荒川千枚岳と丸山、奥に悪沢岳、左手に赤石岳、兎岳と続き、聖岳の北斜面には雪が残っていた。しばらく南アルプス南部の名峰を眺める。

テントに戻って焚き火開始。ほとんど人が入らないので、薪はすぐに集められた。暗くなるまで赤い

炎を眺めて、たっぷり暖まった。明日は寒気を引き込む低気圧が接近、通過するので荒れる予報が出ているが、どうなるか。

10/11 午前荒天による停滞…伝付峠水場(12:20)→伝付峠 1990 m (12:30)→西別当代山肩(13:30/13:40)→広場(14:05)→奈良田越林道終点 1970m(14:40/15:00)→白剥山 2237m(15:45)→白剥山北方稜線ビバーク地 2290m(16:00)<テント泊>
<天候：雨のち曇り、終日強風>

予報どおり雨は夜半から降り初めて、明け方には本降りとなった。とても行動できる天候ではないので、そのまま寝ることにする。午前9時を過ぎても降り続けていたが、さすがに寝てられなくなったのでとりあえず寝袋を出る。朝食を取って、やることもないのでラジオを聞きながらゴロゴロするしかない。ちなみに、この白峰南嶺は、携帯(Docomo)がパッチリ入るので、ヤマテンや気象庁の情報がリアルタイムでチェックできたので非常に助かった(伝付峠と白剥山周辺はLTE受信でした)。昼頃には雨域が抜けそうで、午後は行動できそうだ。この半日が動けるかどうかで、広河内岳まで行けるか、黒河内岳(笹山)から奈良田に下山するかの分かれ目だ。

早めにランチして、テント撤収して出発。富士山もおぼろげに姿を見せていたが、悪沢岳は雪雲に覆われ、雲間の斜面には新雪も見える。空は鉛色の曇天で、時折、ゴーという烈風が吹き抜ける。展望が開けると、きれいな紅葉が回りに拡がり、先には今日迎える長い林道と遠くには黒河内岳の山容が見える。しばらく行くと、古い林道は崩落しているので、稜線東側に新しく作られた迂回林道に行く。昔は伐採と造林事業だったらしいが、この時代に何のための林道かはまったく不明だ。

稜線に付けられた林道は至る所で崩壊している。大きく崩れた場所には迂回の登山路が崩落斜面上に付けられているが、落石に注意すれば問題ないのでそのまま通過する。平坦地の林道はのり面から崩れた土砂が道を埋め、平場には幹を太くした樹木が立派に生えている。人の手が入らないと、こうして自然に帰るのだろう。林道が大きく逆戻りする

と、作業所の鉄骨が散在している奈良田越えに到着。こんな山奥に産業廃棄物(鉄骨だから有価物というかも?)が放置されたままでいいのだろうか?。大井川東俣流域もそうだが、社有林といえど、隣にきれいな看板立てている某社のスタンスはいかに。ちなみに南アルプス国立公園は、山頂付近の特別保護地区を除いて、社有地のほとんどが規制されていない。

奈良田越えで単独の若者と話す。茅ヶ崎山岳会に所属する彼は、農鳥岳から塩見、蝙蝠岳を越えて、転付峠から笹山までの南嶺をトレースして、明日、奈良田に下山するという。とても誠実な若者で、将来、きっといい山やになるだろう。三連休に白峰南嶺をトレースしたのは、我々とこの若者だけだった。

奈良田越えからは、鬱蒼とした森のなかの登山道をテープを見落とさないように進む。急斜面を登り切ると白剥山山頂に出た。16時になったので、暗くなる前には今日の幕場を探さなければならぬ。下った鞍部にちょうどいい適地があったので、そこにテント設営する。ここなら強風でテントを飛ばされることはないだろう。樹間から伝付峠方面を眺める。悪天の一日だったが、ここまで行動できてよかった。明日は、いよいよ南嶺のハイライトだ。

10/12 白剥山北方稜線ビバーク地 2290m(5:40)→窪地(6:30/6:40)→黒河内岳(笹山南峰 2717m(7:30/7:40)→笹山北峰 2733m(7:50/8:05)→白河内岳 2813m(9:00/9:15)→大籠岳 2767m(9:50/10:00)→池ノ沢コル(10:40)→広河内岳 2895m(11:05/11:55)→大門沢下降点 2830m(12:20/12:40)→2150m(13:40/13:50)→大門沢小屋 1720m(14:40/14:45)→早川水系発電所 1120m(16:15)→工事現場(16:30/16:40)→奈良田第一発電所 890m(17:00/17:25)=バス=奈良田(17:30)

<天候：快晴>

今朝は冷え込んで0℃。夜中じゅう、強風がフライを叩く音であまり眠れなかった。今日は長丁場、日の出前に気合いを入れて出発する。30分ほどで樹林にも陽が差ししてきた。今山行はじめての太陽だ。ルートは比較的明瞭だが、時々シャクナゲの

藪を漕ぐ。足下には先週積もった雪が少し残っていた。

鬱蒼とした樹林からいきなりハイマツ帯に出た。2800mラインから上部が雪化粧した荒川岳と塩見岳、そしてバックには雲海に浮かぶ富士山。最高の絶景だ。目指す黒河内岳（笹山南峰）へのルートは、稜線の西側に付いている。テープが枝に巻かれているが、分かりづらい場所多く、ガスしていると見失うだろう。笹山南峰直下でルートは稜線の反対側へ乗り換える。南峰直下には明るいテン場があった。

笹山南峰の頂きからは、白峰三山がまぶしい。なかでも北岳はひと際白かった。南峰から北峰までは、かなり下ってから登り返した。登り着いた北峰は、白峰南嶺で一番の展望台だろう。南アルプス主稜線はもちろん、鳳凰三山の奥に八ヶ岳から奥秩父連山、富士山の右手には伊豆半島と、360°の大パノラマを満喫する。展望の稜線を進み、白河内岳南面のゴースト帯へ。地図には迷いやすいと書いてあったが、広い平坦地に特徴のない岩とハイマツが斑状に広がり、案の定、ルートを見失って白河内岳直下で藪を漕いだ。

白河内岳山頂からは、8合目から冠雪した富士山がひと際輝く。北方には南嶺の起点、広河内岳の全容がやっと見えた。大籠岳まではこれまでと変わって、二重山稜の広い稜線。快晴、そして大展望の、誰もいない静寂の稜線、こんな素晴らしい稜線散歩があるだろうか。稜線東側の窪地は、風も当たらずテン場に絶好だろう。

コルから池ノ沢を見下ろす。池ノ沢池は沢が右に折れた少し先あたりか。次回にはぜひ訪れてみたい。コルから広河内岳の急登になった。さすがに疲労が蓄積して、最後は辛かった。やった～広河内岳の頂きだ。巡ってきた南嶺を眺める。ここまでホント長かったが、すばらしい縦走路だ。山頂は強風で寒いので、直下東側で富士見ランチの贅沢を味わう。

広河内岳からは岩稜のアップダウンで大門沢下降点へ。我々と入れ違いで白峰三山縦走2名が下っていったが、今日会った登山者は結局これだけだった。大門沢に向けて整備された道を下る。大

門沢は赤と黄が競うようで紅葉の真っ盛り。大門沢小屋は無人で、ご主人のアクシデントがあって例年より早く小屋閉めしていた。小屋からの下りは、夏の時よりも長く長く感じた。林道を歩いて、第一発電所からは広河原からのバスに揺られて奈良田に戻った。

今日一日だけで、歩行距離 21.5 km、累積標高差 +1747m、-3176m。3日間トータルでは、距離 43.8 km、標高差 +4898m、-4559m。秋の3連休、静かな南アルプス白峰南嶺を満喫しました。

鳳凰三山～早川尾根 縦走

木村哲也 駒崎裕美

山域山名：鳳凰三山・アサヨ峰（山梨県）

期日：2015年10月10日（土）～12日（祝）

参加者：L 駒崎 木村

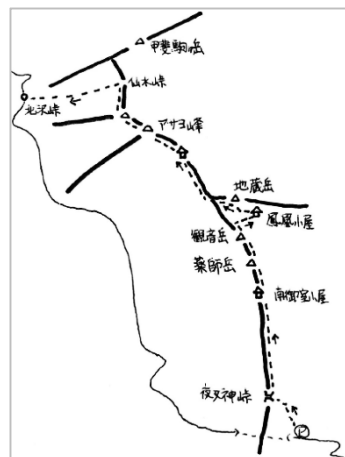
行動記録：

10/9 東松山＝夜叉神峠登山口

10/10 夜叉神峠登山口(6:20)→夜叉神峠(7:20/7:30)→杖立峠(8:40/8:50)→山火事跡(9:25/9:35)→苺平(10:10)→南御室小屋(10:40/11:30)→薬師岳小屋(12:40/12:45)→薬師岳(12:55/13:05)→観音岳(13:35/14:15)→鳳凰小屋(15:10)

<天候：曇り>

当初の予定では、裏越後三山（荒沢岳～中ノ岳～越後駒ヶ岳）であったが、連休の中日が日本海側の予報となったため、第2案として計画し



ていた鳳凰三山に向かった。2 日目が停滞となる可能性があり初日に出来るだけ進んでおきたいので、そのまま前夜発とした。翌朝はまだ青空が覗き、嵐の前の静けさといった感じである。朝一番のバスが満員の登山客を乗せて 5〜6 台通過していたが、夜叉神で降りる人はほとんどいなかった。広河原はどんな状況だったのだろうか？ 我々も準備を済ませ出発。

今回の行程の前半は、去年の合宿と同じ行程だ。登山道はよく整備されていて登り易いが、意外と斜度があるので、ペースが上がりすぎないように登って行く。この時間帯に登っていたのは他に学生 2 パーティーとあと数人で思ったより少ない。紅葉は若干早い感じで、あと 10 日後くらいがピークだろうか。夜叉神峠に着くころには空はだいぶ白っぽくなり、やはり天気は下り坂のようだ。南御室小屋で少し早いが昼食休憩。ここまで順調なペースで来ることが出来たので、鳳凰小屋まで行く事にする。

小屋裏から樹林帯の急登を 1 時間程で森林限界に出て、薬師岳小屋を経て少し登って薬師岳に到着。そこから白砂の稜線を進んで観音岳へ。だいぶ雲は厚くなってきたものの眺望は遮られておらず、両ピークとも白峰三山などの眺めを十分に楽しめた。観音岳を下りきったあたりから鳳凰小屋へのショートカット道に入り、思いのほか下らされた後、鳳凰小屋に到着した。

小屋は結構な混雑具合。青木鉦泉側から登って鳳凰小屋に泊まり、空身で鳳凰三山に登る人が多いようだ。テント泊か小屋泊か迷ったが、明日の荒天を考慮して今日は小屋泊とした。寝具なし素泊まりは 3 階の普段は布団置き場である場所が割り当てられ、天井は低いものの広くて快適だった（寝具有は一畳に二人）。小屋付近の紅葉は地蔵岳稜線の岩壁と相まって中々だった。おでんとカウドんで夕食として、7 時半消灯後、就寝。（木村記）

10/11 鳳凰小屋

<天候：雨のち曇り>

夜中から大雨の為、ゆっくり起床、外の炊事小屋で、朝食を摂り、出発準備をして、午後からの回復を待つ。小屋のこたつに入れていただき、スタッフ

のギターとオカリナ演奏を聞く。お昼前、南御室小屋より 22 人のツアー客が来る。稜線はみぞれで大変だったとのこと。お昼を過ぎると雨は止んだが、山はガスに包まれ、風が強い為、早川小屋まで行くのは中止し、今夜はテント泊にする。

10/12 鳳凰小屋(5:05)→地蔵岳(5:50/6:10)→高嶺(7:00)→白鳳峠(7:45/7:55)→広河原峠(8:48)→早川尾根小屋(9:15/9:35)→アサヨ峰(11:48/12:40)→栗沢山(13:25/13:35)→仙水峠(14:20/14:30)→北沢峠(15:25)

<天候：快晴>

朝 3 時 15 分起床。昨晚、小屋は 19 時消灯だったが、今日ほとんどのスタッフが下山する為か、22 時過ぎまで賑やかだった。小屋下にテントを張っていたので、寝不足気味。フライは夜露が凍ってバリバリです。

5 時過ぎにヘッドランプをつけて出発。霜柱の登山道を登り、地蔵岳で日の出を迎える。この先風が強いので、ニット帽をかぶる。稜線に上がると雪をかぶった北岳の姿が現れる。絶景です。強風に耐えて写真を撮る。

赤抜沢ノ頭、高嶺と展望の良い稜線歩きが続く。ハイマツの中を下り、樹林に入ると、白鳳峠、林を抜けて岩場の赤薙沢ノ頭へ登ると、また展望が開けます。アサヨ峰と甲斐駒ヶ岳が近づく。この先樹林に入ったところが、崩壊場所で下る迂回路があります。樹林帯を少し下ると広河原峠、早川尾根小屋に着く。小屋は林の中で最近では使われていないような雰囲気です。風も無く暖かなので、アサヨ峰の登りに備えて食料補給する。

樹林帯の急坂を登りきると、開けて展望の良い尾根道になる。ミヨシノ頭で一休みして、アサヨ峰到着。大展望です。富士山も見えます。オベリスクから歩いた峰々が一望出来てとても気持ち良く、風の寒さは感じられません。

大休止して北沢峠に向けて下山。栗沢山まで岩稜帯、ここまで来ると甲斐駒ヶ岳が目の前に大きくそびえ立ち、山肌の紅葉がきれいです。仙水峠を回って降ります。峠からは登山者が多くなり、カラマツの黄葉が見事。仙水小屋、北沢駒仙小屋を通

過し、北沢峠バス停到着。広河原行きのバスは 16 時まで 30 分間隔で発車予定でしたが、人数が集まっただけの出発で、待つ時間は山頂より寒く感じられました。

早川尾根は以前より歩いてみたいと思っていたところです。思っていた以上に展望が良く、静かで雰囲気がとても良く、また歩いてみたいと思いました。（駒崎記）

八海山

新井浩二

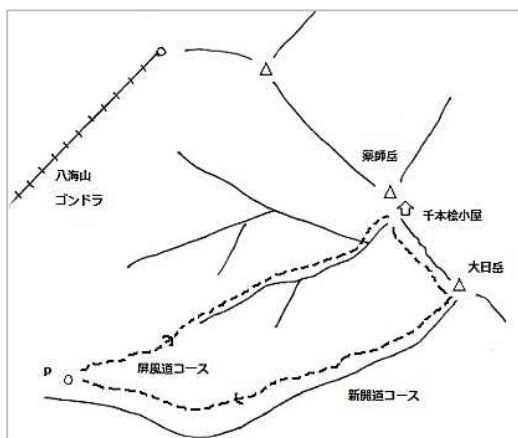
山域山名：八海山(新潟県)

期日：2015 年 10 月 18 日(日)

参加者：新井浩、駒崎

行動記録：二合目登山口(5:30)→五合目(7:15)→七合目(8:35)→千本檜小屋(9:40/10:45)→地藏岳(11:00)→迂回路→新開道分岐(11:40)→カッパ倉(13:05)→稲荷社(13:45)→二合目登山口(14:45)⇒五十沢温泉⇒江南(19:35)

<天候：晴れ>



二合目登山口の駐車場は全体で 20 台ほどしか置けないが、AM5:30 で 8 割程埋まっていた。今日のコースは、登りに屏風道、下りに新開道を時計回りに取る周遊コース。薄暗い中を出発し直ぐに屏風沢を渡渉。水は少なくまったく問題ありません。しばらくは樹林帯を進みます。小さな沢を数回渡り、四合目清滝小屋を過ぎると、本格的な鎖場で、かなり腕力を使います。岩が濡れて非常に滑りやす

い状態で、八合目まではずっと鎖場が続きました。上部には大きな滝（大滝と思われます）が見え、木々はかなり色付いているのが見えます。

登るにつれ紅葉の度合いが進んでいくのがわかり、1200～1500mの間が一番きれいでしょうか。上を見ると屏風岩がそそり立ち、草紅葉で色付いています。上下左右どこを見ても素晴らしい紅葉です。特に岩壁に張り付いている木々の紅葉は形容し難いくらい綺麗です。七合目で鐘を撞き、最後の鎖場を過ぎると、やっと尾根道で山頂が近くなります。振り返ると、巻機山や六日町、そして登ってきた沢筋の紅葉が絶景！千本檜小屋では数人が休んでおり、目の前には越後駒ヶ岳。到着時は小屋前の人はまばらでしたが、のんびり休んでいると続々と人が来ます。ロープウェイ山頂駅からのひとたちでしょうか。ハッ峰の地藏岳に登り、先を見ると鎖場渋滞が起こっているようです。ほとんどの人が迂回路を使わずにハッ峰縦走路に進んでいるので、必然でしょう。渋滞を避けて迂回路を選択して進みます。正解だったようで、ハッ峰を下から見上げると、人の列が確認できました。



迂回路は、名前からは想像もできないくらいかなりきわどい鎖場の連続でした。新開道で下りに入ってもしばらくは滑りやすい岩場が続きました。やっとのことで尾根道に変わり、紅葉を満喫。見上げる八海山が青空と真っ赤な紅葉とで絶景です。来た甲斐がありました。後半はブナ林の紅葉が始まっており、青空に柔らかな赤～黄～黄緑色がこれまた素晴らしい。登山口に戻り、五十沢温泉のかけ流しの湯に立ち寄りし帰路につきました。

公園 9:25—開聞岳 11:40/12:35—公園 13:35=指宿
SL=鹿児島 IC=えびの高原(車中泊)

指宿スカイラインの展望台で、たまたま桜島が大噴煙を上げているのに遭遇した。開聞岳も人気で大勢登っている。頂上の岩の上はパノラマだ。屋久島・宮之浦岳に種子島、桜島が良く見える。



5月20(水) 霧島山(晴れ)

えびの高原 5:20—韓国岳 6:28/6:50—硫黄山 7:24—えびの高原 7:50—高千穂河原 8:55—高千穂峰 10:05/10:40—高千穂河原 11:05=えびの高原=阿蘇山ドライブ=神原登山口(車中泊)

規制解除の硫黄山とミヤマキリシマが満開の高千穂峰を追加して登ろうと早めの出発。まぶしい朝日を受けながら韓国山頂へ。直下の大浪池は神秘的。新燃岳の噴火口は月面クレータに宇宙基地があるかのようなファンタジックな眺めだ。時折白い蒸気が立ち上る。



高千穂峰山頂の、剣を囲む柵と鎖は興ざめたが、パノラマの眺望は素晴らしく、火山砂礫の山腹に広がるミヤマキリシマも素晴らしい。駆け足下山。富士山の砂走りみたいだ。阿蘇・高岳にリベンジ再登山を! と思ったが時間がないのでパノラマラインを登り、火口・中岳・高岳を眺める。

5月21(木) 祖母山(晴れ)

登山口 6:07—国見峠 8:10/8:20—祖母山 8:58/9:45—国見峠—登山口 11:20=大分 IC=北九州 JCT=山陽道・三木 SA(車中泊)

明日も天気は持つので、今日中に神戸あたりまで移動することに。九州最後の祖母山は打って変わってブナ林の続く懐の深い山だ。国見峠がポツ

カリと広場になっている他は、山頂まで展望はないが山頂のそれは素晴らしい。今までに登った山々が遠くまで望めて、近くには傾山の顕著な頂きが、遠くには一房山のきれいな姿も望める。山頂を去りがたく一時間近くも眺めていた。

5月22(金) 大峰山・大台ヶ原(晴れ)

SA5:30=吹田 JCT=南阪奈道路=橿原市=行者還トンネル西口 8:00—弥山 10:17/10:40—八経ヶ岳 11:00/11:10—弥山→西口 12:50= 309 号=大台ヶ原ドライブウェイ=山頂 P15:50—日出ヶ岳 16:15/16:25—大蛇くら 17:16/17:23—駐車場 18:12=R169=宇陀路道の駅(車中泊)

明日は雨との予報に、大峰山・大台ヶ原の両方を登ることに。ツアー登山など大勢が登っている。稜線に登り、コバイケイソウの群落が続く中を一気に弥山まで登る。八経ヶ岳の展望は見渡す限り山、山、山また山だ。稜線の近くの山以外はどれがどの山か見当もつかないが、西に大台ヶ原を認めることが出来た。道路工事で2時間も足止めを食ったので、大台ヶ原Pに着いたのは4時。大急ぎで周回コースを廻り、戻ったのは6時。もう誰もいない。大蛇クラへの降り口で10頭以上の鹿の群れに遭遇。鹿の声に似せて笛を吹くと興味深々とこっちを見つめている。

5月23(土) 恵那山(晴れ)

道の駅 5:00=R25 針 IC=小牧 JCT=園原 IC=集落 P8:40—広河原登山口 9:29—稜線 10:22—山頂 11:35/12:05—登山口 13:18—駐車場 14:10=昼神温泉=飯田 IC=熊谷 19:20

天気が良いので恵那山を追加登山。登山口駐車場手前でがけ崩れがあり、戸沢集落から一時間の林道歩きだ。展望のない登りから顕著な尾根になると展望が開け、南から南アルプスが連なり、東北手前から空木・木曽駒が、北に白煙の御嶽山の姿も見える。山頂に展望台はあるが景色は見え。急いで下り、林道をテクテク歩いて、九日間の山旅は終わった。村営「ゆったりーな昼神」で汗を流し、NAビールを飲み干して熊谷へ。

屋久島宮之浦岳

山口文江

山域：宮之浦岳(屋久島)

参加者：山口

期日：2015年5月20日(水) 《5月14(木)~21日(木)滞在》

形態：ピストン

5月14日(木)

にフェリーで屋久島に入ったが、悪天候の中、待機を続けて、やっと20日(水)に、快晴の中、淀川登山口から宮之浦岳をピストンすることが出来た。

日程の記録は以下の通り。

《5月14日(木)》快晴のち雷雨

鹿児島港 8:30→宮之浦港 12:30 (フェリー)、民宿「八重岳荘」泊

夕刻から、激しい雷雨。夕食中に落雷で一帯が停電。自家発電とロウソクの灯りの中で食事。

《5月15日(金)》雨

午前10時頃、「白谷雲水峽は通行止め」の放送あり。淀川登山口から入山に変更。安房の「ホテル屋久島山荘」へ移動。午後、荒川登山口、淀川登山口も通行止めの放送。(→夕方、すべての通行止めは解除。)翌日は雨予報だが、1mm 予報なので、淀川登山口から縦走の予定で、タクシーを朝4時に予約。入山準備。登山届を逆のコースタイムで作直す。ホテルは夜のうちにチェックアウト。

《5月16日(土)》雨、曇り、雨

ホテル 4:00 タクシー→淀川登山口 5:00/5:11→淀川小屋 6:09→小花之江河 8:02→花之江河 8:11→投石平 9:03/9:05→淀川小屋 11:16/11:49→淀川登山口 12:30

淀川小屋での待機も射程に入れて、出発。途中、雨と風が強く、引き返すか何度も迷いつつ、投石平まで行ったが、そこから山頂まではコースタイム

で2時間、新高塚小屋まではさらに1時間だ。しかも、この先は樹林が無くなり、一層風が強くなる。9時05分、風に吹き飛ばされる可能性と低体温症の危険性を考えて断念。引き返して出直すことにした。花崗岩のためか、帰りの登山道はまるで川と滝のような状態。

明日の天候が分からないのと、雨でかなり装備が濡れていること、登山道に水が溢れていることなどを考え、淀川小屋には留まらず、ホテルまで戻り宿泊を頼み込んだ。衣類一切を洗濯・乾燥。

天候が安定しないので、翌日は、バスを乗り継いで行くことができ、吹きさらしの無い、より安全な縄文杉コースに決め、計画書を提出。ホテルで20Lの小さなザックをレンタル。

《5月17日(日)》曇り、小雨少々

牧野バス停 4:48→屋久杉自然館 5:00→荒川登山口 5:35/5:42→大株歩道入口 8:07/8:15→縄文杉 10:05 →(高塚小屋往復)→縄文杉 11:57→大株歩道入口 12:30→荒川登山口 14:45/15:00(バス)→屋久杉自然館 15:35→牧野バス停

縄文杉のすぐ先が高塚小屋。高塚小屋、縄文杉近くに1時間位いてゆっくりした。条件が悪い時には、この荒川登山口から高塚小屋入りするのが、縦走には一番入りやすいコースだと思った。

《5月18日(月)》雨、曇り、雨

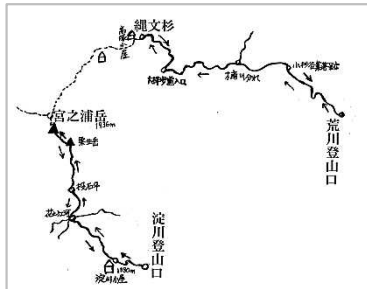
あと3日は雨が続きそうで、今回は諦めてまたの機会にしようかとか、先に他の九州の山をやった方がいいのではないかと、雑念に悩まされる。しかし、覚悟を決めて、せっかくなら好天の中で登ろうと最終的に腹をくくった時、予想より天気が早く好転し始め、20日(水)から4日間の好天続きの予報が出た。久しぶりに上空も安定していそう。翌々日の20日に登ることに決めた。縦走は止めて、宮之浦岳ピストンと決めて即、レンタカーを予約。

《5月19日(火)》雨のち曇り、晴

翌朝は暗い中での運転なので、念の為、借りたレンタカーで登山口までの道を途中まで下見。あとは滝の見学。中でも「千尋の滝」は、カムイミシタラの世界。神の舞台を見た思いがした。

《5月20日(水)》晴

ホテル 4:40→(レンタカー)→淀川登山口 6:00→淀



川小屋 6:40/6:52→小花之江河 8:04→花之江河
8:13/8:20→投石平 9:02/9:12→栗生岳 10:40→宮
之浦岳 10:59/11:53→投石平 1:32/1:43→花之江河
2:19→淀川小屋 3:35/3:42→淀川登山口 4:28

これ以上無い快晴の中、宮之浦岳に登ることができた。縄文杉コースの下りで右膝を痛めていたので、特にじつくりと登った。水と苔と巨木に覆われた奥深い中腹までと、突然姿を現す面白い巨岩をかかえた奥岳の頭。本当にほかのどの山とも趣の異なった山だ。頂上で一緒になった地元の若い女性の話では、この日は滅多にないほどの展望だという。彼女の説明で、遠く北には開聞岳、反対側にはトカラ列島、近くには硫黄島、永田岳の左裾野の向こうには噴煙が上がっている口永良部島などを確認できた。(その時は、噴火に至るとは思いませんでした。)

熊トレの仲間が去年見た、100年ぶりとか25年ぶりとか言われた見事なシャクナゲの花は、残念ながら、今年は裏年ということで、チラホラしか咲いていなかった。大きな株が沢山あったが、花数は少ししか付いていないのだ。しかし、これが全部咲いていたら、それは凄いことだと想像することは十分出来た。翌日、船に乗る前に訪れた環境文化村センターで、去年のシャクナゲを撮ったという素晴らしい写真集に出会うことができたので、せめてもと思って買い求めて来た。

宮之浦岳は、とても時間がかかったけれど、今までの中で一番じっと待ち続けて、忘れられない山になった。

羅臼岳

石川邦彦

山域山名：北海道知床半島 羅臼岳

期日：2015年6月21日(日)

参加者：石川(単独)

行動記録：知床野営場=岩尾別温泉～木下小屋
04:59～06:30 弥三吉水～06:42 極楽平～08:22 大
沢～09:07 羅臼平～09:18 岩清水～09:49 羅臼岳
11:06～11:47 羅臼平～12:09 大沢～13:26 極楽平

～13:35 弥三吉水～14:55 木下小屋

6月15日にフェリーで北海道に入り、今日は4座目の羅臼岳を目指す。ウトロの知床野営場を4時半に出て15分で岩尾別温泉に到着。早速仕度をして、木下小屋の前にある入山届に名前を記入して5時ちょうどに出発する。先行者は2名のようだ。

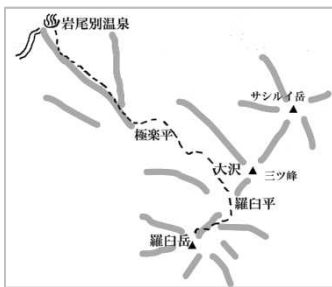
最初は標高が低いせいかわトマツが高く伸び、下は丈の低いササの中の歩きやすい登山道だ。しばらくすると尾根の北側に出る。急に視界がひらけ羅臼岳の先端が望め、眼下にはオホーツク海が広がる。やがて極楽平となる。見上げるといふ筋か雪渓の混じる仙人坂が迫っている。ダケカンパの枝や雪の重みで曲がった幹が登山道を覆うようになり、何度か頭をぶつける。ヘルメットをしていたので事なきを得た。

仙人坂をジグザグに登って行くと、時々急傾斜の雪渓を横断せねばならず、緊張を強いられる。また雪渓を横断した後に続く次の夏道の入り口が分かりづらく、何度か行ったり来たりしながら進んでいく。仙人坂を上りきったところに携帯トイレ用のトイレブースがある。ここで道を間違え少しロス。大沢に出ると羅臼平まで雪で埋まっている。結果的には雪渓上をひたすら詰めればよかったのだった。明瞭なステップのついた最後の急傾斜を登りきると羅臼平に至る。ここで一休みしていると二人に追い越される。視界がひらけ気持ちが良い。羅臼港や雲海に浮かぶ国後島が見える。

この後は標高差300メートルの溶岩ドーム部分の大きな岩がゴロゴロした急な登りだ。途中2箇所雪渓が混じる。上の雪渓で先程追い越して行った一人が滑って苦労している。ここはキックステップでつま先を蹴り込んで直登し再び先行。最後は両手を使ってハアハアいいながら岩をよじ登り山頂へ。先客は先行者の神奈川から来たと言う二人と、

追い抜いていった若者一人。自然と皆でこの最高の天気の日に登頂できたことを喜び合う。

展望はもう言



うことなし。未明までの雨で大気が澄み、寒気を含んだ高気圧におおわれていて見通しが良い。知床半島の山々、半島の両側のオホーツク海、国後島の山々、反対側の海別岳、昨日登った斜里岳、遙か東方には石狩山地、日高山脈が連なる。いつまでもながめていたい気分だったが、1 時間ほどいて下山開始。

急斜面を慎重に降りる。山頂へ向かう何組かとすれ違う。この日の入山者は 20 人強か。最後にすれ違ったのは大沢下部で正午過ぎごろ。山頂までは二時間はかかる所なので少し心配になる。

途中であった山岳ガイドさんによるとこの一週間ヒゲマがあらわれた兆候は無いとのこと。糞や足跡は見かけなかった。

行きはスルーした極楽平の下の弥三吉水で顔を洗い、うまそうなので飲んでみた。今日は最後まで雲が湧いたり遠くが霞んだりすることもなくクリアな天気で感動的な山行となった。

仙丈ヶ岳

菅谷孝道

山域山名：南アルプス・仙丈ヶ岳

期日：2015 年 7 月 25 日(土)

参加者：菅谷、会員外 1 名

行動記録：芦安駐車場＝広河原＝北沢峠(8:10)→
藪沢大滝ノ頭(9:24)→小仙丈ヶ岳(10:22/10:34)→
仙丈ヶ岳(11:46/12:43)→小仙丈ヶ岳(13:27)→藪沢
大滝ノ頭(14:01)→北沢峠(14:58)＝広河原＝芦安駐
車場(16:30) <天候:晴>

今まで何度も計画し、登山口近くまで行くも天気やタイミングに恵まれず断念していた仙丈ヶ岳。今回ようやく願い叶って、妻と二人でのんびり登頂することが出来ました。終日、好天に恵まれ、大変すばらしい景色を満喫することも出来ました。特に稜線から見る富士山、北岳、間ノ岳の TOP3 の雄姿は圧巻です。ただし時期や曜日によって、駐車場から登山口までのアクセスには注意が必要です。

夜 12 時ごろ芦安の駐車場に到着するも、第 1P



～第 3P は既に満車状態。道を下った第 4P も埋まりつつある。車を降りて探してみると、第 3P トイレ近くの路肩に少し空きがあったので、そこに駐車することが出来た。

翌朝早めに起きて準備するも、あまりの人の多さに仰天。男性トイレも長蛇の列。案の定、始発のバスに乗れず、甲府駅から来た芦安 5:30 の第 2 便にたまたま空席があり、最後の 2 席に妻と二人で座ることが出来た。幸先良い。既にバスやジャンボタクシーが何台も広河原に向けて出発している。思った以上にたくさんの登山客が入山しているのがわかる。後発になったため、おそらく広河原の乗継でも苦勞するであろう。遅くとも 9 時前には登山を開始したい。帰りの最終バスに間に合わないのだけは避けたい。ようやく広河原に着くも、北沢峠行きのバスの切符売場の行列は 30m 以上だった。切符購入後再びバスの乗車待ちの列に並び直す。以前広河原に来た時は砂利道にテントが張ってあったただけだったが、今では立派な建物が建設され、アスファルトのロータリーが出来ていた。やっとの思いで北沢峠の登山口に着いたのは既に 8 時近かった。駐車場から登山口までの移動に 4 時間近くかかったことになる。既にかかなりのエネルギーを消耗した。

北沢峠のこもれび荘は水も豊富で、登山口横のトイレも立派である。頂上までの登山道も整備が整っていて歩きやすい。そして稜線から見る景色は、登山口までのアクセスの煩わしさを忘れさせてしまうほどすばらしい。頂上でのんびりお弁当を食べて下山した。

北沢峠に戻ると、タイミング良く広河原行きの臨時バスに乗ることが出来た。その後の乗継もスムーズで、予定よりだいぶ早く駐車場に帰ることが出来た。乗り換えたジャンボタクシーの中で聞いた話では、先週の海の日は今日よりさらに多くの登山者が入山し、行きも帰りも今日以上の混雑ぶりだったそうだ。

風雨に見舞われた 唐松岳&五竜岳

金子元希

山域山名：後立山連峰・唐松岳(長野県白馬村)、五竜岳(同)

期日：2015年8月16日(日)～17日(月)

参加者：7人 【泊まり】金子ほか会員外4人:30代男性2人、小4男子、小1女子

【日帰り】30代男性、40代男性

行程：※→交通機関、…山中の徒歩

【15日】

A:新宿駅西口・高速バスターミナル 23:00 バス出発→〈高速バス〉→〈車中泊〉

【16日】 晴れのち曇り(八方は一時雨)

A:→八方バスターミナル 6:00～7:40

残り6人:東京都(金子含む4人)2:50→〈車〉→〈途中B、Cと合流、五竜スキー場でD車と合流、車を1台デポ〉→ Gondola山麓駅 8:00→〈Gondola&リフト〉→八方池山荘 8:45 (1840m)/9:00(スタート/曇り)…八方池(2060m) 9:55/10:10…丸山ケルン(2430m) 11:10/11:25…唐松岳頂上山荘(2620m/晴れ)12:00/12:15…唐松岳山頂 12:30/12:50(曇り)…山荘 13:00

〈日帰り組〉 山荘 13:00～(昼食)～13:40…八方池山荘 16:05(ゴール/雨)→〈Gondola〉→駐車場 16:45→八方温泉→長野駅で解散

〈泊まり組〉 山荘 13:00(昼食)/13:35…最低鞍部(2301m)付近 15:15/15:30…五竜山荘(2490m) 16:15(ゴール/泊)～夕食 17:00～就寝 19:00
※累積登り標高差 1045m/行動時間(休憩含む)計 7

時間 15分

【17日】 雨

五竜山荘 起床・朝食 5:40(開始は 5:00～)

金子のみ:山荘 7:00…五竜岳山頂 7:30…五竜山荘 7:55

全員:部屋を出て待機 8:00/軽い昼食 10:00/11:20(スタート/11℃)…白岳…西遠見山(2268m/ガス)12:20…大遠見山 12:50 /13:10(2106m/ガス)…中遠見山 13:40(2037m/雨)…小遠見山(2007m/ガス)13:55/14:10…地蔵の頭 14:40(1673m/雨)…五竜テレキャビン・アルプス平駅(1515m/雨、ゴール)15:00→〈Gondola〉→エスカルプラザ 15:30～駐車場 16:20→B:JR 大糸線神城駅→D:五竜バス停→金子は白馬滞在

※金子のみ:登り標高差 324m、下り 1299m/行動時間(同)4時間45分、ほか4人:下り標高差 1026m/行動時間(同)3時間40分

夏の白馬とは相性が悪い。3年連続で夏のこのエリアを訪れたが、今年も三山を眺めることはかなわなかった結果となった。八方池に鏡のように映る景色を見られるのはいつの日か。

高速バスで先着したAは「朝は三山が見えた」と言ったが、全員が合流した頃には八方の兎平より上はガスに覆われていた。観光客の間を抜け、八方池を過ぎた頃から雲が切れ始めた。丸山ケルンからの稜線歩きは青空の下で、五竜方面は中腹より上は雲の中だった。唐松山頂に着いても、ほぼガスの中。別の仲間がこの日に白馬岳から不帰のキレットを歩いていたが、午前中は好展望だったという。

日帰り組と山荘で別れ、5人で五竜への稜線に入った。牛首の鎖場に備え、小学生にはヘルメットをかぶらせた。また、今回から8ミリロープ20メートルを用意し、簡易ハーネスで子どもをつないだ。岩場の通過時はガスは晴れており、それなりの高度感があった。運動能力、度胸とも兄に勝る小1女子の身のこなしは軽く、スイスイと歩いていた。

最低鞍部を過ぎる頃は一帯は厚い雲に覆われた。雨も心配したが、結局この日は夜まで雨は降らなかった。一方、八方組はリフトに着く直前に雨

に降られたと下山後に聞いた。

五竜山荘の夕食はカレーだ。子どもには辛かったようで、リクエストすると子ども用カレーをすぐ出してくれた。事前に「可能であれば甘口も」とお願いをしていたのだが、別パーティーで泊まっていた家族連れに小1女子がいたことも影響したのかもしれない。一方、テレビの天気予報は明日が荒天と伝えていた。小1と夫婦の3人パーティーは、1日目に八方→唐松、この日に唐松から五竜に至り、すでにピークを踏んでいた。「可能であれば、明日一緒に下山を」と声を掛けられた。なお、山荘では宿泊者に水は無料で提供されていた。

翌朝、予想通り風雨が小屋の窓をたたいていた。今後の行動をどうするか。フル活用したのは気象庁のサイトだ。ドコモの携帯は電波環境が良い。6時間後までの大まかな雨雲予測、1時間後までのより詳細な予測を見比べ、午前中の早い時間に強い雨雲がこの付近を通過すると解釈した。そこで、家族連れには申し訳なかったが、「別行動にしましょう」と告げ、しばらく待機を決めた。ただし、五竜のピークは踏みたかったのも、金子だけ単独で山頂を往復した。外に出ると、長野側から風が吹き上げ、顔に雨粒がバラバラと当たる。登山道は主に飛驒側を巻くようについていたので、うまく風の影響を避けて山頂に立った。当然、何も見えないのですぐに駆け下り、コースタイムの半分で山荘に戻った。

部屋は8時には出ないとならなかったのも、食堂に移って待機した。雨雲レーダーによると、午後には雨は弱まりそうだった。11時出発と決め、雨中の歩行を想定し、ラーメンをつくって早めの昼食を取った。

子どもには安全を考慮してヘルメットをかぶらせ、完全装備で出発した。小屋を出ると、雨は小康状態だった。遠見尾根は強風を覚悟したが、風も弱まり始めていた。予測は的中した。歩いているうちに雨具が乾くほどだった。朝早く下りていった家族連れを心配した。最後のピークの小遠見山を過ぎると、再び雨が降り始めたが、無事に五竜のゴンドラ駅に着いた。

白毛門

相澤健二

山域：上越・白毛門

山行形態：一般登山

目的：谷川岳周辺の初秋を楽しむ

日程：2014年9月24日（木）

行程：熊谷駅発JR(6:17)→高崎駅(6:55/7:10)→水上駅(8:14/8:24)→土合駅(8:34/8:45)→尾根取付き(9:00)→松ノ木沢ノ頭(11:10)→白毛門(12:00/12:10)松ノ木沢ノ頭(12:54)→登山口15:00→JR(15:15/15:34)→水上駅(15:46/15:53)→高崎駅(16:56/16:59)→熊谷駅(17:41)

参加者：相澤

土合駅の下りのホームはトンネル内にある。地上の駅舎まで階段を上る。ホームから見上げるが上部が見えない程の数。最後の階段に486と数字が記載されていた。駅を出ると空気は冷たく、今にも雨が降りだしそうな曇り空であった。土合橋バス停から駐車場入り、そこを通り抜けると登山入り口にぶつかる。そこに古文書のように描かれた谷川連峰の地図版が掲げられていた。東黒沢に架かる橋を渡ると登山道に入る。

樹林帯の中を登る。広葉樹林も混ざっているがまだ色づいていない。やがて登山道はきつい勾配になっていく。木の根っこが土から剥き出し登山道を被っている。足場を選んで登る。この根が階段のようになり登り易い箇所もある。この状態が続く。岩場にも根が張り出している。樹木の間から谷川岳方面をみるが、霧がかかり全容は見えない。ひたすら登っていると視界が開け、クサリの付いた大きな岩に出た。ここを登り終わると松ノ木沢ノ頭に着く。ここからは展望はよいが、霧がかかり視界が悪く、風もあり寒い。白い岩肌の白毛門の山頂が見える。ここから少し下るとやがてきつい傾斜の岩場となる。この岩場を越えてくとクサリの付いた岩場に。ここを慎重に登ると白毛門の山頂に着いた。

山頂は360度の展望であるがここでも霧が周辺を被い、景色を楽しむ事ができなかった。ただ山頂付近は樹々が色付き、紅葉が始まっていた。カ

エデの間間であらうか群生しており、この葉が赤く鮮やかに染まり綺麗である。風が強くなり空模様も怪しくなったので早々と頂上を去り、往路を戻る。急な勾配の登山道を下りに下る。松ノ木沢ノ頭を越え、クサリの付いた大きな岩を越えた所から樹林帯にはいる。樹々が風よけとなり、ここで軽く食事をとる。近くの樹木に目をやると木の葉に雨粒らしきものがついている。肌には感ないが、ザックカバーを付け出発する。平地の天気予報では午後から悪くなり3時頃から雨が降るとの事なので急ぐ。下り続けると沢の音が聞こえてきた。樹々の間から河原が見えて来た。あと少し、雨はどうにか免れたかと安心すると、ひざの疲れを感じ、急な下り坂がこたえてくる。やがて東黒沢の橋に、ここを渡り登山入口を通過する頃、小雨が降ってきた。土合駅へ急ぐ。

聖岳、赤石岳、悪沢岳 縦走

山域:南アルプス 聖岳 3013m、赤石岳 3120m、
悪沢岳 3141m

期日：2015年09月27日～30日（前夜発3泊4日）

参加者：高橋仁（单独）

27 日 (日) 晴

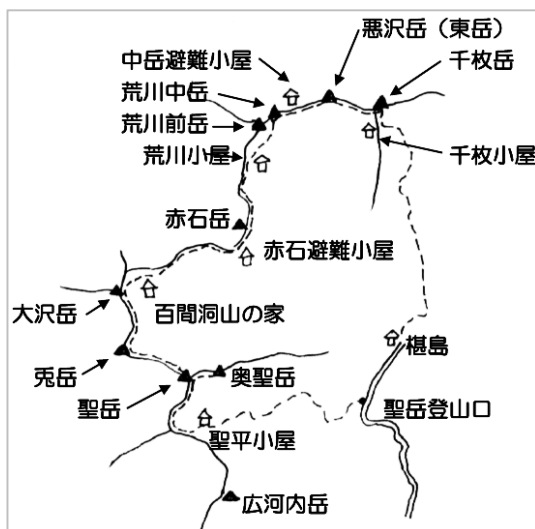
(前夜発) 熊谷 18:30＝畑薙臨時駐車場 23:30 (車中泊) 駐車場 8:00＝東海F バス＝聖岳登山口 8:45/8:55→造林小屋跡 10:40/10:55→吊り橋の先 12:00/12:38→聖平小屋 14:05

聖平登山口で下車は二人だけ。急な道を登り始める。聖沢に沿った展望の無いコースだ。滝見台手前で昼食。紅葉に彩られた滝を見て歩くと、沢に沿った緩やかな道になり、聖平小屋に到着。3日前に閉鎖され、自炊棟が冬季用に開放されている。宿泊は3人だけ。

28 日(月)晴

聖平小屋 4:55→小聖岳 5:50/6:01→聖岳 6:58/7:27
→奥聖岳往復 7:57→栗岳 9:42/11:12→中盛丸

山 12 : 25/12:53→大沢岳 13:20/13:30→百間洞山
の家 14 : 15



上河内岳から光岳への道を分けて、小聖岳で富士山の左から登る日の出を迎える。風が強く雲海が滝のように稜線を越えて流れる。急登を登った聖岳山頂は、赤石岳の雄姿とその奥に荒川岳、中央アルプス、南に上河内から光岳に続く稜線。雲海のかなたに富士山。素晴らしい展望を満喫し、奥聖岳を往復してから、大きく下って兎岳に登り返す。ここも360度の大展望。北岳と鳳凰を除く南アルプスが全部見える。ゆっくりと昼食を取り眺望を楽しんでから中盛丸山、大沢岳に向かう。富士山の両側に赤石岳と聖岳が大きくどっしりと構える。荒川岳、悪沢岳が一段と大きくなり、間ノ岳、塩見岳、甲斐駒、仙丈がはっきりと見えてくる。紅葉を見ながら大沢岳を下るにつれて赤石岳が大きくせり上がって来て、10間洞山の家到着。閉鎖されて二階が冬季用に開放されている。宿泊は二人だけ。満月と聖岳のシルエットがきれいな夜だ。

29 日 (火) 晴

百間洞 4:00→馬ノ背 5:40→赤石岳 6:55/7:07→荒川小屋 8:35/8:56→荒川前岳 10:08→中岳 10:26→中岳避難小屋 10:35/11:05→悪沢岳（東岳）11:58/12:05→千枚岳 12:57/13:16→千枚小屋 13:38

今日は千枚小屋までの長丁場。百間平で空が赤

く染まりはじめる。馬ノ背から山頂への急登は風が強く寒い。アラレがパラパラと当たるが、すぐに収まる。赤岳避難小屋・山頂は誰もいない。素晴らしい眺望をいつまでも眺めていたいが、強風が寒くてゆっくりできないので早々に通過。稜線散歩して小赤石岳から肩に出ると荒川岳・悪沢岳が迫り、見おろせば大聖寺平から荒川小屋への紅葉がきれい。小屋で休んでから、鹿よけフェンスを巡らせた、ザレた急坂を登って前岳、中岳に到着。いつか歩くつもりの前岳～三伏峠～塩見岳～蝙蝠岳～二軒小屋の稜線を確認する。中岳避難小屋で昼食、悪沢岳に向かう。深田久弥が「東岳と呼ばず、悪沢岳と呼んで欲しい。荒川岳東方にある一峰と見なし・・・荒川岳の続きと見るには余りにこの山は立派すぎる。南アルプスでは屈指の存在である」と書いているが、実際に歩いてみると実感できる。自分も「悪沢岳」と呼ぶことにした。積み重なる岩の上を下り、長かった縦走の最終峰となる千枚岳に着いた。コーヒを飲み、最後のパノラマを眺めて、余韻に浸ってから千枚小屋に下る。ここはまだ営業中で20人ぐらいが宿泊。生ビールを奮発して伝付峠から策ヶ岳の山を眺めて至福の時を楽しむ。今夜は星がきれい。

30日(水) 晴

千枚小屋 5:40→樺島 8:55/10:30＝東海F バス＝畑薙駐車場 11:30/11:35＝熊谷 17:00

朝食を済ませて日の出を待つ。昨日は見えなかった大菩薩や富士山が見える。裾野の山中湖が白く光っている。素晴らしい朝焼けから富士山の左に日が昇ると、周りで歓声が上がる。最後まで満足の山行を楽しむことが出来た。あとはコメツガの樹林の中を一気に樺島に下り、バス待ちのコーヒタイムを楽しもう。

上越朝日岳

宮田幸男

山域山名：谷川連峰・清水峠、朝日岳、白毛門（群馬県、新潟県）

期日：2015年9月30日(水)

参加者：宮田（単独）

行動記録：土合駅 663m(6:30)→紅芝寮(7:30/7:40)→<新道>→白樺避難小屋(9:10/9:20)→<旧国道>→鉄砲平(10:25/10:35)→清水峠(11:10/11:40)→J P (12:55/13:00)→朝日岳 1945m(13:10/13:30)→笠ヶ岳 1852m(14:15/14:30)→白毛門 1720m(14:55/15:10)→土合駅(17:00)

<天候：曇り後晴れ>

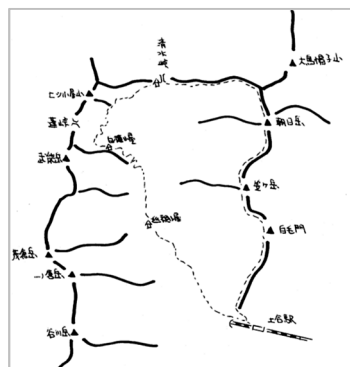
紅葉真っ盛りの上越朝日岳、白毛門を旧国道で清水峠を巡りながら周回してきました。

土合駅前に車を駐めて出発。国道から

林道に入ると、西黒沢橋はこの夏の集中豪雨で石に埋まり、隣を流れる湯桜曾川本流も水流は見えず、対岸のゼニレイ沢も溪相が変わってしまったようだ。昨今の集中豪雨の凄まじさを感じる。

辿っている道は、明治7年、時の政府が湯桜曾から新潟県まで開通させた清水街道。最盛期の明治24年には、上州と越後をつなぐ交易路として往復旅人9,153人も行き交っていたというのだから驚きだ。現代は何人がこの清水峠を越えるだろうか。芝倉沢出合にあるJ R 見張小屋には昔の標識や石積みもまだ残っている。芝倉沢出合からの堅炭岩と芝倉沢左岸の岩壁は、この街道のハイライトだろう。今日は、紅葉もプラスして素晴らしかった。ただ、稜線は今秋初めての寒気でしぐれ雲がまだ覆っている。

白樺避難小屋から武能沢を眺めて、その先の分岐から旧国道に初めて入る。元国道の名前から、緩やかな道を想像すると見事に裏切られる。蓬峠の急斜面山腹に付けられた道は崩落もあって悪路が続く、落ちないように慎重に進む。ほんな少しだけ国道の名残？でホッと空間はあった。鉄砲平には大きな鉄塔が立つ。ここは東京圏に電気を送る現代でも大切なライフラインの大動脈だ。



目指す清水峠はまだまだ彼方だ。東側には巨大な船のように朝日岳西面が横たわる。鉄砲尾根から清水峠の間は、穏やかな道が続きペースアップできた。監視小屋が建つ清水峠は、初冬の冷たい強風が吹き抜けていた。小屋の影で昼食を取る。その先の小さな建物の清水峠避難小屋は、2007年4月に土樽から朝日岳ナルミズ沢を滑って宝川温泉までスキー縦走した際に1泊したが、今でも5本の指に入る山スキーだった。

避難小屋からジャンクションピークを目指して急な尾根に取り付く。ここからが紅葉のピークで、素晴らしい景色の中を行く。たおやかな七つ小屋稜線の奥に急峻な大源太山はアクセントになり、巻機山から檜倉山、大烏帽子山にかけては、熊笹の緑に真っ赤なナナカマドが散りばめられ、まさしく錦秋という言葉がぴったりだ。

草紅葉の朝日ヶ原の奥には、尾瀬や日光の山々。

木道を詰めると、ほどなく朝日岳山頂へ。この3月にも山スキーでナルミズ沢を再訪したばかりだ。冷たい強風を避けて休憩するが、笠ヶ岳、白毛門と続く赤い稜線と、谷川岳一ノ倉沢と幽ノ沢の岩壁が素晴らしかった。

笠ヶ岳に向かって稜線に行く。朝日岳東面は山スキーヤー憧れのナルミズ沢、大石沢、ウツボギ沢と魅力的な斜面満載。唯一未滑降の大石沢の偵察をする。反対側の西面斜面は下部に行くほど急峻になり、湯桧曾川本谷の処理が課題だろう。強風の笠ヶ岳山頂からは、今日巡って来た旧国道の全容が眺められた。黄や赤で彩られた白毛門を越えて、急な尾根を延々と下って土合に出た。素晴らしい秋のロングルートを満喫しました。



コーヒータイム

趣味あれこれ

浅古 剛

趣味は不思議だ。世の中にはホントに多くの趣味がある。

例えばマラソン。東京マラソンに代表されるように、各地で大会が開催され、盛況だという。自分も登山のための体力作りとして走ることはしている。しかし、走るために走ろうとは思わない。お金を払ってまでマラソン大会に出ようとは思わない。だが、職場の同僚からの返事は『マラソンも登山も、同じじゃない?』

例えばゴルフ。私見だが、登山とゴルフを両立する人はいない。山あいを歩く行為は共通していても、ゴルファーが言いそうな「自然の中でプレーする健康的なスポーツ」の言葉に登山者は同意できないだろう。更に言うと。スポーツニュースでゴルフを見る。豪快なスイングでボールを飛ばすこと、狙った通りに打てたこと、グリーンで長いパットを決めること、これらがゴルフ

の楽しさなのだろう。しかし。ホールまで数センチが残ってしまったときの最後の1打。広大な空間にあって、小さな穴に小さなボールをバターで打って入れる瞬間。私はそのときに感じるであろう虚しさに耐えられない(たぶん)。

例えばパチンコ。開店前の行列を見かける度に思うのだ。それが平日なら「仕事は?」、それが休日なら「家族は?」と。しかし、彼らから見れば、ザックを背負って沢渡や扇沢で朝一番のバスに並んでいる我々登山者の姿は、同じに映るのだろう。何を好き好んで重い荷物を背負って山に行くのか?

いくつか例を挙げたが、趣味は人が好きでやっていること。趣味に貴賤はない。

いろいろと書き連ねてきたが、今のところ自分にとって趣味と言えるのは登山ということになっている(年に数回しか山に行っていないが)。同人に所属していると若手扱いだが、自分も40歳を超えた。トレッキング同人の諸先輩方を見習って、この先、もっと年をとっても山を歩き続けられたらと思う。

<山スキー編>

立山初滑り

宮田幸男

山域山名：立山・浄土山、雄山(富山県)

期日：2014年11月22日(土)～24日(月)

参加者：CL 宮田 SL 木下 新井久、橋本健、菅谷、井上(計6名)

行動記録：

11/22 北本(3:10)＝扇沢(6:20/8:30)＝室堂
2420m(9:40/10:25)→2720m(11:25/11:40)→浄土
山 2831m(12:00/12:25)～一ノ越下 2670m(12:35/
12:50)→一ノ越 2700m(13:00)→雄山 3003m
(13:55/14:45)～山崎カール 2650m(14:55/15:10)
～雷鳥平 2270m(15:35/15:50)→雷鳥荘
2380m(16:05)

<天候:快晴>



恒例の立山初滑りの時期は、不安定な天候が続くことが多いが、今年は天気恵まれ、パウダーと大展望を楽しんでできました。

毎度のこととはいえ、大混雑の一番バスに乗り込み、下車後はダッシュでダム上を歩く(飛脚は走っています)。俊足ランナーのおかげでロープウェイ「1番」の整理券をゲット…。室堂に着くまでにひと山登った気分…。になる。室堂ターミナルも(狂)ス

キーヤー達でごった返している。もうこれは‘お祭りだ’と思えば納得できる…。

ターミナルから外に出れば眩しいほどの快晴だ。積雪量は120cm。ここ数日はまったく降っていないが、まずまずの条件だろう。室堂から一ノ越には多くのスキーヤーが向かっている。我々は途中でルートを外れ、祓堂から誰もいない浄土山を目指す。カール底にいると感じないが、稜線上は時々雪煙が舞っている。風が強そう。雪質が硬くなってきたので途中でクートを付けて、シュカブラで覆われた浄土山頂に登る。剣岳はもちろん、南には黒部源流の山々から槍穂高、噴煙を上げる御岳山は今やすぐに確認できる山になった。

強風を避けられる稜線東側斜面で滑降体制へ入る。いざ、今シーズン1本目は浄土山東面カールへGo!。シュカブラ混じりのバックパウダー&アイスパーンと雪質変化は激しいが、カール底まで一気に滑る。山スキーシーズン開幕だ。

一ノ越下でアイゼンに履き替え、次は雄山を目指す。雪は縮まってアイゼンの刃がよく効く。山頂手前100m付近から急に空気が変わった。雪煙が舞い、強風で板が煽られて真っ直ぐ立っていかないほどのブリザード地獄の様相だ。社務所の影で何とかザックを下ろす。目出帽、ゴーグル、ヘルメットのフル装備で祠のある雄山山頂を往復する。

社務所の裏でスキーを履いて山崎カールヘドロップイン!。稜線直下はカリカリアイスパーンにエッジがはじかれながらのハードバーン滑降だったが、それもカール北側モレーンを越えたパウダー斜面に雄叫びを上げて飛び込むと、皆満面の笑みに変わった。

称名川に滑り込み、雷鳥平は色とりどりのtentの花が咲いたように賑やかだった。辛い登山を終えると、乳白色の硫黄泉とピッチャー生が待つ雷鳥荘へ。風呂と宴会で微睡んで就寝。

11/23 雷鳥荘 2380m(11:35)～雷鳥平
2270m(11:45/11:50)→室堂乗越(12:35/13:05)→
2440m(13:15/13:25)→2511m ピーク(13:45/
14:10)～2440m(14:15/14:30)～称名川(14:50/
15:00)→雷鳥荘(15:30)

気圧の谷の通過で明け方から小雪が舞う天気。斜面はどこもズタズタ、それに視界がないとすれば、無理して行動する理由はない。しばし、部屋で待機(ゴロゴロ)する。小屋締めを間近に控えて、雷鳥荘従業員が玄関前で山に感謝の礼を捧げていた。

雪も上がった昼前から行動開始する。それほど人が入っていないのと、奥大日岳の偵察も含めて室堂乗越を目指す。出発した頃は覆っていた雲も、次第に上がってきた。室堂乗越で大休止していたら、一気に雲が消えて快晴へ。目の前には迫力ある奥大日岳東面、背後には立山三山を従えた室堂が箱庭のようだ。天気も回復したので、奥大日岳に一番近い稜線上の2511mピークまで登ることにする。

ピークから見ると奥大日岳は、いったん大きくコルに下らなければならぬので近そうで遠いか。称名谷を挟んだ天狗平にはアルペンルートにバスが行き交う。雲に隠れていた剣もとうとう姿を現し、素晴らしい絶景をのんびりと眺める。

滑降は登路を外れ、2511m 東面のオープンバ
ーンを称名川へ滑り込んだ。シールで右岸をトレ
ースして、雷鳥平からいつもの辛い登り返して雷鳥
荘へ。今日もピッチャー生4杯を飲み干してしまっ
た。

11/24 雷鳥荘 2380m(7:30)～雷鳥平 2270m
(7:40/7:50)→大走り取付 2400m(8:05)→2500m
(8:45/8:50)→2650m(9:00/9:20)～称名川(9:40
/10:05)→室堂(10:45)

<天候:曇り>

最終日は定番の真砂岳&内蔵助カールを目指す。夕方から荒れ始める予報なのでどこまで行けるか。クトーを付けて大走り尾根に取り付くが、上部は雪面が硬く、どんどん風も強くなり、尾根の風下側には雪煙が舞っている。上空の雲の流れも速く、稜線はこれ以上の風だろう。滑落したら谷底まで落ちてしまうので、尾根中間部で登行断念を決める。

尾根から大走沢を滑降する。昨年に雪崩があった沢だが、今年は晴天続きで雪崩リスクはまったく

ない。沢中も雪質の変化は激しかったが、最後の滑りを楽しんだ。

シールを付けて室堂平へ登る。ターミナル前はガイドツアーが大盛況のようだ。恒例の激パウはなかったが、シーズン初滑りとしては十分だろう。今シーズンも安全に配慮して楽しみましょう。(宮田記)

立山初滑り<2 回目>

宮田幸男

山域山名：立山・浄土山(富山県)

期日：2014年11月29日(土)～30日(日)

参加者：CL 宮田 SL 栗原昌 栗原聡(計3名)

行動記録：

11/29 熊谷(6:00)=扇沢(10:15/11:00)=室堂
2420m(12:30/14:25)→室堂山 2668m(15:10/
15:20)→室堂(16:05)

<天候:霰のち 霧、夕方から雪>



2 週続けて立山へ向かう。午前中に寒冷前線が通過するので悪天率は 100%。早く室堂に入っても行動はできないので、今日は扇沢 11 時発のバスとのんびりだ。この週末を最後にアルペンルートは冬季閉鎖に入り、室堂で営業しているのは山小屋(ではないが)はホテル立山のみ。雨が降るダム上も誰も歩いていない。

室堂は完全なホワイトアウト。朝入りの山スキーヤーもどこにも登れず、ターミナルのロビーにたむろしていた。外に出て雪面チェックしたら、硬いバーンの上に大粒のあられが降り積もっていた。視界もせいぜい 10m とまったくないので、チェッ

クインを済ませてホテルの部屋でしばし待機する(これはホテル立山の特権)。何もせずに2時間経ったが、どこにも登らないのはもったいない…、空もいくらか明るくなった?…ので行動開始。出発前のほんの一瞬だけ青空が見えたが、再び足下も空も区別がつかない真っ白な世界となった。歩くだけで雪酔いしそうだ。

この条件で行けそうなのは室堂山のみ、GPSを頼りに何とか室堂山山頂に立つ。斜面の向きも足下の凹凸も全然分からないのでシールで戻るしかない。途中で雪も降り出し、さらに条件は最悪だ。ターミナル上の斜面だけは滑降した(ただ下りだけ)。

今回の楽しみはホテル立山に泊まること。この週末は悪天とパウダーなしでキャンセルがあったようで、ワンランク高い上階の広い部屋でホテルライフを満喫だ。食事は営業最終日なのでバイキング主体だったが十分満足し、窓を開ければ満天の星空に天の川、月夜に浮かび上がる立山を眺め、贅沢な夜を過ごした。

11/30 室堂 2420m(8:40)→祓堂 2600m(9:30/9:45)→2750m(10:05/10:25)→浄土山 2831m(10:40/11:15)～称名川 2410m(11:35/11:00)→山崎カール 2630m(12:40/13:05)～称名川 2380m(13:10/13:20)→室堂(13:35)

<天候:快晴>

朝陽に輝く剣と立山で目覚める。ホテルは素晴らしい。今日は快晴だ。朝食後にたくさんフルーツとコーヒーを飲んだ。不要な荷物はホテルの無料ロッカーに預けて出発(これも特権)。

昨日夕方の雪はすぐに上がったようで、新雪は申し訳なさそうにうっすらとあるのみ。11月の立山はパウダー目当てなのだが、こればかりは仕方がない。今日のメインは、白銀の北アルプス展望と写真撮影にしよう。人が映らない静かな立山はきっと今日だけだろう。斜面を登りながら時々強風に舞い上がる雪煙をアクセントに、何度もシャッターを押す。

ガイドツアーは一ノ越を目指しているが、我々は祓堂から浄土山を目指す。雪面はガチガチでクト

ーを叩きつける。最後の浄土山稜線へはアイゼンで登った。バックには盟主剣岳、雪煙が上がる立山、南には槍穂高から水晶岳、笠ヶ岳、黒部五郎、薬師岳、五色ヶ原と黒部源流の山々、その遙か先には煙を上げている御岳山。素晴らしい大展望を満喫する。

いざ、滑降へ。全山ハードバーンなので、エッジングターンで称名川ボトムまで滑降する。最終バスまでまだ時間があるので、山崎カールまでハイクアップする。もう昼なのに、まったく雪面は緩んでいない。クトーを効かせて、カール末端のモレーン上に登る。今日はカールに誰も入っていないようだ。称名川ボトムまで滑って、ブル道を登って室堂ターミナルへ戻った。最終2本前のバスに滑り込み、息つく暇のない臨時便に乗せられ約1時間で扇沢に着いた。

2回目の立山はパウダーが全くなかったが、ホテル立山と静寂の室堂を楽しめたので良しとしよう。

西大嶺

福田和宏

山域山名：吾妻山系・西大嶺

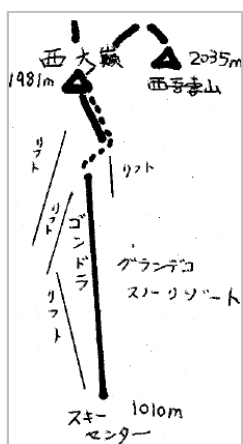
期日：2014年12月5日(金)

参加者：L宮田、福田(計2名)

行動記録：北本(4:00)＝グランデコススキー場(8:00)＝ゴンドラ駅 1390m(8:50/9:00)→リフト運休のためシール登行→第4クワッド終点 1570m(9:30)→西大嶺 1981m(11:10/11:25)～グランデコススキー場(12:35)

<天候:雪時々曇り>

前日の強い寒気は、東北地方にたくさんの降雪をもたらした。底冷えの北本を4時に出発し、会津に向かう。磐越道では雪が舞っていた。順調にグランデコススキー場に到着。前日に、今シーズンの営業が始まったとのこと。ゴンドラと、4つあるリフトの内1つのみの稼働である。平日でもあり、お客さんの姿もまばらで、スキーセンターに一番近い場所に駐車することができた。



スキーセンターで、登山届けを提出し、いざ人気の少ないゴンドラ乗り場へ。天候は雪、気温マイナス 3℃、積雪は 40 cm 程度である。6 人乗りのゴンドラであるが、スキーの幅が広いのと前後のカーブが急なため板を外付けすることができない。板とザックを持ち込ん

でちょっと窮屈ではあったが、2392m という距離を一気にかせがせてもらった。

リフトが動いていれば、もう 1 本お世話になれるところだが、本日はゴンドラ降場地点から歩き出すこととなる。踏み跡はない。おそらく、私たちが今シーズン最初のトレースをつけることになったと思う。もっとも、おこがましく私たちと書いてしまったが、私がラッセルを担ったのは数分間だったことは、皆さんの想像どおりであろう。よっぽど、私よりうさぎの方が頑張って雪面に効率の良いトレースをところどころにつけていた。

山頂はマイナス 9℃、積雪は 150 cm 程度。シーズン初めで、寒さが身にしみる。身体がまだ、寒さになれていない。霧が覆い展望には恵まれなかったが、風がそれほど強くないのが幸いであった。

雪質がやはり良かったおかげであろう。いよいよの滑降となるが、いつもより転ぶ回数が少なく楽しむことができた。宮田くんのヤッホーも懐かしかった。久々の山スキー、楽しかった。ただ、今回、個人的にヒヤッとしたことと、反省せねばならないことがあったので、最後に記しておく。

私のシールはブラックダイヤモンド製で、後ろをまず金具でひっかける。次に、後ろから板の面に貼り付けながら最後に板の先端にゴム付きの金具で固定する。そのゴムが、何かのはずみでちぎれてしまったのだ。シールが板からはずれてしまい、お手上げ状態だ。宮田くんから、テーピングで固定するよう指示されて、行動が継続できた。しかし、様々な状況があるなかでは、致命的な事態になる。

4 年目であるが、ゴムの劣化には要注意である。

いま一つもシールにまつわる反省である。前日に道具の確認と手入れをした。板の滑降面には汚れ落としをスプレーし、ワックスも塗った。試しにシールを取り出して板に貼り付けてみると、粘着力が衰えていた。そこで私がとった行動は、専用のチューブに入った粘着のりを、ところどころに補充して塗ったのだ。これでいいと思った私には、実際山でどんなことが起きるか想像できなかった。いざ、シールを板に付けて出発。登りは、粘着力については問題なかった。ゴムをのぞけばであるが。山頂で、シールをはずして滑り出す。急な斜面であったので気づかなかった。板の滑降面に、ところどころ、シールののりがくっついていて、緩斜面になって、異常をようやく感じた。板が滑らないのだ。雪のかたまりが、滑降面にひっついてかブレキをかけてしまう事態だった。つくづく手入れの大切さを感じた。また、同時にシーズン初期には念には念をとの思いを抱いた次第である。

小日向山

橋本健一

山域山名：白馬前衛・小日向山(長野県)

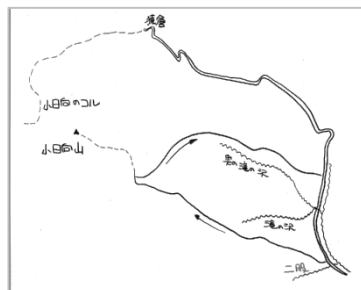
期日：2014 年 12 月 7 日(日)

参加者：CL 宮田 SL 木下 福田、橋本健(計 4 名)

行動記録：北本(4:30)→二股 830m(8:20/8:50)→取水口(9:30)→1508 尾根尾根 1244m(10:35/11:45)→下降点標高 1675m(12:40/13:25)～東尾根 1270m(14:10/14:20)～作業道(14:45)～猿倉林道 880m(15:30)→二股(16:00)

〈天候:小雪のちくもり〉

12 月初めだというのに真冬並みの歓喜…いや寒が入り、猿倉アメダスで積雪 160cm を超



えたというので、喜び勇んで小日向山へ。堀之内地区では地震で壊れた家があり、遊んでいることにやや後ろめたさを感じるが、これもまた復興支援、と割り切ることに。

二股の除雪終了点に 8:20 到着、遅めの到着であるがさすがにこの季節に小日向に入ろうなどという変わり者はいないのか、1 台も止まっていない。二股の積雪は 1m 弱程度か、さっそくセッティングして水力発電所の作業道経由で入山、尾根上を登る。

やや藪がうるさいが、行けないレベルではない。ただ傾斜がきついと、ヤブに掴まって体を引き上げるいわゆるモンキーラッセルを多用しつつの登りとなる。ラッセルはスーパーファットで平均すね程度、深いと膝上となり、休憩時にうっかり板を外して足をつくと、ももまで軽く潜ってしまう。スキーは偉大である。

登るうちに青空も出てきて、ぼんやりと八方尾根や白馬乗鞍方面も見えてくる。12:40 に標高 1675m 点に到達。この季節は日暮れも早く、下りの雪の状況も読めないで、本日はここからの下降とし、13:25 下降開始。半年以上ぶりのパウダーに歓喜の声を上げながら下る。ただしヤブが埋まりきっていないので、ヤブを避けて右往左往しながらの下りではある。

奥ノ滝ノ沢に誘い込まれないようにトラバース気味に 1263 水準点のある尾根を巻きつつ下る。小日向山の地形はけっこう複雑で、小沢が多くあり、いくつか小沢を巻きつつの下りである。下っていると福田さんの「前になにかいる!」との声。よくみるとカモシカが懸命にラッセルしつつ遠ざかっているのが見えた。カモシカも必死であろう。

標高 950m、下に猿倉への林道が見えるところからの急降下が今回の最後にして最大のヤマ場となった。雪が少なく斜面が埋まりきっていないので、岩や草付きが所々見える状態の急斜面。横滑りや時折ジャンプを織り交ぜつつ下って 15:30 無事林道に降り立つ。

いつもならモービルが走って轍のつく林道も、今日はさすがに静かである。ラッセルしつつ下って 16:00 二股帰着。今日は誰も入山しなかったようだ。

たぶん今スノーシーズン最初の来訪であったのであろう。

締め、飯森の十郎の湯に入り、長野稲里の牡丹荘で唐揚げを食し、大満足で帰路についた。

前武尊山

宮田幸男

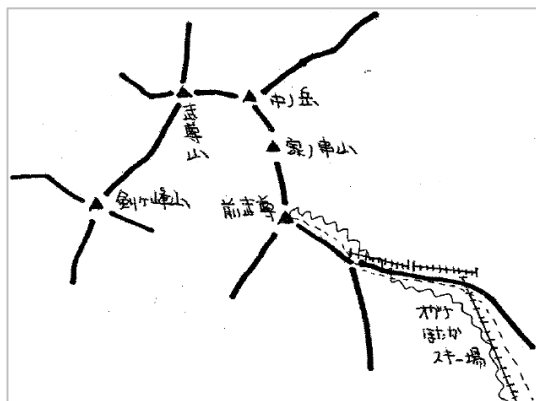
山域山名：上州武尊山・前武尊(群馬県)

期日：2014 年 12 月 17 日(水)

参加者：L 宮田、福田(計 2 名)

行動記録：オグナほかスキー場 BASE1240m (9:00)→第 7 ペアリフト 1580m (10:10/10:20)→ゲレンデ TOP1828m (11:15 /11:25)→前武尊 2039m(12:20/12:40)～ゲレンデ TOP1828m (12:55)→スラロームコース登返&滑降～スキー場 BASE1240m(14:00)

<天候:雪時々吹雪>



日本列島に 15 本もの等圧線がかかった猛烈な冬型の日。当初の計画は平標山だったが、赤城 SA で雪雲の状況を見て、強風の影響を受けにくい南東面からアプローチする前武尊に転進することに決定。

こんな日はとても便利になった椎坂トンネルを抜けてオグナほかスキー場へ到着。駐車場で準備をしていると、パトロールから「この天気のかな前武尊に行くの?まだスキー場はオープン前なので整備もしていない。スキー場の中でも何かあったら対応できないので、計画書を持って社長に聞いてほしい」と言われたので、センターハウスの

事務室へ。‘スキー場から入ったら困る’と言われるかと思ったが、「問題ないでしょ」とひと言。

あと3日もすればスキー場がオープンして、労力なしに前武尊直下まで行けるが、ベースから登ろうなんて普通ではない。それに山スキー計画書には、所属会の緊急連絡先はもちろん、ビーコン・ゾンデ・スコップ、ビバーク装備、ツェルトやヤッケの色、日の出と日の入の時刻まで入れているので、この辺りを見てのことだろうか。装備を整えてゲレンデを登ろうとしたら、たまたま外にいた社長から「たくさん楽しんできて」と意外な嬉しい言葉も掛けられた。

ゲレンデは縮まった雪の上に新雪50cm。スキー場ベースからいきなり膝下ラッセル。誰もいない、トレースもない、雪がしんと降りるゲレンデを登る。スキー場TOPまで標高差600m、ここまで約2時間。ラッセルが好きなんだとつくづく思う。ゲレンデから樹林帯に入ると積雪は150cmを越え、降ったばかりの新雪で膝上ラッセルはきつかった。

日本武尊像がある前武尊山頂は、気温-13℃と激寒。標高差800mフルラッセルで登ったぞ〜と万歳したい気分だ。午後からさらに荒れる予報が出ているので、急いで滑降準備に入る。滑降はもちろん粉雪の激パウダー。誰もいないゲレンデは、カッ飛び高速ターンで滑る。こんな宝の山を目の前に、このまま降りてしまう選択肢はない。スラロームコースをヤッホーと舞う。

パトロールに伝えていた下山時刻ちょうどに報告をする。パトロールからゲレンデと山の状況を聞かれのて詳しく伝えたら、オープンしたら遊びに来て下さいと言われた。一時期、遭難騒ぎが頻発したので山スキーヤーは歓迎されなかったが、最近経営が変わり、ローカルルールも出来て対応が変わったかもしれない。ただ、当然ながらスキー場に迷惑をかけないのが鉄則だ。

帰りに先輩馴染みのせみね山荘しんめいの湯に浸かって帰路に着いた。

西山イシゴネ沢

木下宏文

山域山名：尾瀬前衛・西山北方1778mピーク(群馬県)

期日：2014年12月20日(土)

参加者：CL 宮田 SL 木下 新井久、福田(計4名)
行動記録：戸倉ゲート(7:40)→車道→イシゴネ沢左岸尾根取付 1170m(9:10/9:25)→1778m ピーク(11:20/11:55)→西栗沢右俣源頭滑降&登り返し→イシゴネ沢源頭1740m(12:35/12:45)→左岸尾根滑降→車道(13:15)→戸倉ゲート(13:45)

<天候：曇り>

今年の12月は不思議なくらい良く雪が降る。片品エリアは通常1月下旬にならないと、まともな山スキーは出来ないのだ

が、今年は大丈夫だろうということでパウダーハンター4名は尾瀬前衛の山、西山へ向かった。

日本海に低気圧が入るため強い南風が吹き、午後からは雨の予報であった。戸倉から津奈木橋へ向かう林道は冬季閉鎖されており、そこから1時間の林道歩きがある。もちろん積雪は十分で、途中スキーを脱ぐことはなかった。

通常はイシゴネ沢出合より右岸の尾根を上がるのだが、この日はもう少し林道を進んだところから左岸の尾根に取り付いた。急傾斜の尾根は積雪十分で、ブナの斜面をキックターンを繰り返しながら上がっていった。稜線へ出ると傾斜が緩くなるが、この辺りは風が吹き抜けるためか雪が少なめであった。雪を纏った至仏山が間近に見えるが、所々黒くなっており滑降にはまだ早そうだ。

1773m ピークで大休止をとり滑降の準備をする。当初は北斜面を津奈木橋へ向かって滑り登り返す予定であったが、こちら側はまだ雪が少なそうであった。そこで、雪が溜まっていそうなイシゴネ沢を



滑ることとした。1773m ピークより斜面に滑り込むが随分と急傾斜である。日が当たったようで一部はモナカ雪になっている。どうもおかしいと地図を確認したら、イシゴネ沢より南側の西栗沢に入ってしまった。

そこからシールを付けて登り返しとなる。1773m ピークの少し手前で登高を終了。気を取り直してイシゴネ沢源頭の滑降とする。こちらは傾斜がやや緩く、とても快適なブナの疎林である。北東を向いているためドライなパウダースノーであった。歓喜を上げながら滑降する。途中から右岸の尾根に出るが、ここもまた快適であった。あっという間に林道へ下ってしまった。

ここから、登りのトレースを辿り戸倉のゲートへ。期待に違わず良い雪、良い斜面であった。12 月にこんな山スキーが関東近郊でできるなんて、これまで経験のないことである。

松手山

宮田幸男

山域山名：上越国境・平標山系松手山(新潟県)

期日：2014 年 12 月 23 日(火)

参加者：CL 宮田 SL 新井久 橋本健(計 3 名)

行動記録：火打峠 980m(7:50) → 別荘地 960m(8:15) → 1430m(9:30/9:40) → 松手山 1613m(10:05/10:15) ~ センノ沢 1400m(10:25/10:35) → 松手山直下(11:00/11:20) ~ 1250m(11:35/11:50) → 1411m ピーク(12:15/12:45) ~ 別荘地(13:00) → 火打峠(13:10)

<天候吹雪後晴れ>

今冬は 12 月から大雪続きで、上越国境稜線の中では比較的降雪量が少ない平標山周辺も、すでに 1 ヶ月先くらいの様相になった。午前中は吹雪の荒れ模様なので、



こんな日はパウダーツリーランに限る。という訳で、秘蔵ルートがある松手山に向かった。

登山口の火打峠でも凄い吹雪で、稜線はひどいことになっているだろう。斜面に取り付く前に別荘地の私道を行くが、潰れないか心配になるほど屋根上に雪が積もっていた。

いつもの場所から斜面に入り、沢沿いに登っていく。時々ゴーゴーという強風とともに雪が顔を叩きつける。そんななか、目の前を冬毛になった兎が駆け抜けていく。ブナ林斜面手前の急坂は腰まで潜りながら突破する。音も空気も雪もすべてが完全に冬山だ。見上げる☆五つ星☆斜面にほくそ笑むド M3 名は、ラッセルをものともせずガンガン高度を上げて松手山山頂へ。山頂の気温は -10℃。とても寒いが、それに比例して「粉」の状況もいいので気持ちは歓迎モードだ。

まずは松手山北面センノ沢へ向かって Go! 。ドライパウダーのフェイスショット連発で 3 名とも笑いが止まらない。至福の滑降だった。樹間が混んできた場所から登り返すが、雪温が低くてシールが効きづらい。山頂直下で休んでいると、吹雪も収まって時々陽が差すようになった。



2 本は国道 17 号を眼下に松手山西面斜面へ Go! 。素晴らしい激パウダーに雄叫び連発だった。午後に用事がある新井さんはひと足早く下山。二人は 1411 ピークに向かって再び登り返す。北向き斜面は強風で叩かれ、ラッセルはないが雪質変化が激しかった。鉄塔が建つ 1411 ピークは、送電線が強風に揺すられて不気味な音を発していた。

雪庇が張り出すピークは眺めがよく、対岸には苗場スキー場、火打峠に置いた愛車も見える。日差しを浴びて、今日初めてのんびりとする。3 本日

は1411ピークからガクンと落ちる西面にドロップ。出だしの急斜面は雪質変化が激しくテクニカルだったが、中ほどからは中斜面となり極楽パウダーを楽しみながら別荘地まで滑り込んだ。

12月とは思えない雪量と激パウを堪能し、今日も最高でした。

忘年山行、鬼面山

宮田幸男

山域山名：安達太良山系・鬼面山(福島県)

期日：2014年12月30日(火)

参加者：L 宮田 豊島、福田(計3名)

行動記録：野地温泉 1180m(8:55)→野地裏稜線 1300m(9:20/9:30)→旧土湯峠 1272m(9:35)→鬼面山 1481m(10:35/10:45)→稜線 1360m(11:20/11:30)→旧土湯峠(11:45/11:50)→野地裏稜線(12:00/12:15)→野地温泉(12:25)

<天候:雪>

朝、温々の野地温泉ホテルで目覚めると、珍しく風もなく、深々と雪が降っていた。野地裏のブナ林はいつもの膝下ラッセルだが、今年は雪が多く藪もすべて埋まっている。年末に十数回登っているが今までで一番多いかもしれない。霧氷の間を縫うように登ると稜線にある村越ツリーに一年振りの再会。幹の棚にエビスとみかん、先輩がお線香を立てる。



豊穰のブナ林を下ると旧土湯峠だが、微風程度とこも穏やかだ。夏道も判然としないほど雪が多い。氷化している急登の岩場も、夏

道が露出していたのはほんの少しで、シールのまま登行できた。藪で苦勞する灌木帯もほとんど難儀せず、鬼面山直下に出た。スキーを脱いで坪足で

山頂まで行くのが通例だが、今年は雪が付いていたので山頂までスキーで登る。

山頂の標識は、今冬の厳しさを現すようにエビの尻尾でびっしりだ。気温氷点下5℃、さすがに山頂は風が強く寒い。すぐに下山開始。今年の中腹から稜線東側に落ちる「第2熊落としの壁」でプチ激パウを楽しんでから村越ツリーへ戻った。

先生とエビスで乾杯、煙草をふかしてお別れをし、ブナ林滑降を堪能してホテルに到着した。

下山後は野地の千寿の湯、隣にある新野地相模屋の風呂巡りでまったり。夜に先生の教え子が集まって、賑やかに忘年会をして2014年を締めくくりました。



かぐら

大嶋博

山域山名：神楽峰・かぐらスキー場

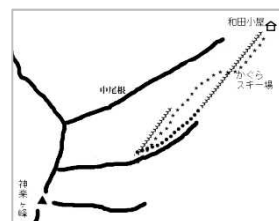
期日:2014年12月26日(金)

参加者：CL 大嶋 SL 石川 豊島

<行動記録>

熊谷市江南駐車場 6:00⇒みつまたロープウェイ駐車場 8:30 ⇒ かぐら頂上駅 10:00 → 第一ロマンスリフトトップ → 第三ロマンスリフトトップ 12:00→ 和田小屋(昼食)ゲレンデスキー → みつまたロープウェイ駐車場 15:00 → 熊谷市江南駐車場 17:00

今シーズン足慣らしのためいつもの「かぐら」に向かう。男衾のコンビニで昼食・行動食を購入する。関越に入り、赤



城高原 SA あたりから小雪となる。8 時 30 分頃みつまたの駐車場に着いた。チケット売り場に行ったら雪と強風のためかぐらは第一ロマンスリフトのみ運行と言われる。やむをえず 1 日券を購入する。ゴンドラとリフトを乗り継いで午前 10 時頃かぐら頂上駅についた。すぐに第一ロマンスリフトに乗りトップに着く。ここでシールをつけて登高を開始する。はじめ沢コースへ向かうが重い底なしの雪に阻まれる。ゲレンデの真ん中にコースを変えシール登高する。正味 1 時間位でロマンス第 3 リフトトップについたが、すでに 12 時頃になっていた。ここで休憩・間食をしてゲレンデの重いパウダーを滑り降りる。半分からは圧雪で軽快に滑って和田小屋で昼食とした。ウィークデーとあって席は空いていて快適であった。食後リフトを一本登りゲレンデ東側に入り、重い底なしパウダーに入ったがほとんどスピードが出なかった。シールをつけて登り返し、14 時には下山開始。みつまたで 1 本滑って午後 3 時には帰途についた。午後 5 時には熊谷市江南に到着した。

西山

栗原昌史

山域山名：尾瀬・西山(群馬県)

期日：2015 年 1 月 3 日(土)

参加者：L 宮田、木村、栗原聡、栗原昌(計 4 名)

行動記録：岩鞍スキー場ゴンドラ駅 1730m(10:40)→尾根上 1800m(10:55/11:10)～金井沢 1570m(11:30/50)→尾根上 1800m(12:40)→西山 1898m(13:20/40)～右の俣沢源頭 1680m(13:55/14:15)→尾根上 1800m(14:55 /15:05)～西山ゲレンデ 1370m(15:20)
(天候：雪)

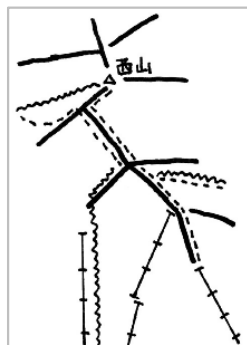
熊トレ山スキー定番となった西山ですが、今年も期待を裏切らない激パウダーを楽しめました。この日は冬型がまだ残っていて、山は強風状態。天気予報では午後には回復とあったが、結局終日風は強く、断続的に雪が降っていた。気温もほんとにここは群馬か?と思うほど低く(−13℃)、風が比較

でない尾根沿いから東側の沢筋では乾雪の安定したいいコンディション。逆に北西向きの斜面は風にたたかれて、この日は良くない状態だった。

事務所に登山届けを出すと、今年はまだ誰も山に入っていないとのこと。このままマイナールートであってほしい。ゴンドラ TOP からエントリーして、15 分ほど尾根上を登ったところから、まず 1 本目。金井沢源頭を 200m 強滑った。この季節ならではの無重力パウダーをしっかりと味わった後は同じところへ登り返し。50 分後に尾根上に達したあとは、そのまま稜線を経て西山山頂へ。途中先行者のトレースがあったが、山頂でも会わず。さらに先にいったのだろうか。

山頂から西南西の右の俣沢へ 2 本目。また 200m 程滑った後、1840m ジャンクションへ登り返し、しばし来た道に戻る。1 本目エントリーしたところから、今度は反対側の旧ゲレンデ側へラスト 3 本目。尾根沿いを下るとそのまま旧ゲレンデに出る。少し重めのゲレンデを流してスキー場に戻り終了。リフト 2 本乗り継いでゲレンデを滑る。ファットスキーはゲレンデ圧雪バーンに全く向いていないので、流すだけなのに疲れる。事務所に下山報告して駐車場へ。

帰りは高速渋滞時間をずらすために、鎌田のほっこの湯で汗を流した後、すぐ近くにある芳味亭という定食屋で夕食をとった。ものすごい量のから揚げ定食を食べて、満腹になった後帰路についた。



荷鞍山

宮田幸男

山域山名：尾瀬・荷鞍山(群馬県)

期日：2015 年 1 月 7 日(水)

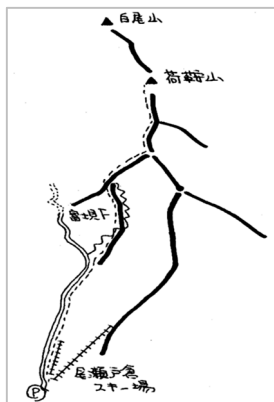
参加者：L 宮田、福田(計 2 名)

行動記録：戸倉スキー場 P1100m(8:50)→硫黄沢

橋 1260m(9:30)→1634m(10:35)→1800m(11:40/12:00)→荷鞍山 2024m(13:30/13:40)→1780m(14:55/15:05)→1680m(15:30/15:45)～硫黄沢橋(16:20)→戸倉スキー場 P(16:35)

<天候吹雪>

入山口の戸倉は時々ゴーゴーという音をたてて真っ白になる地吹雪。今年はこんな天気ばかりだ。戸倉スキー場の駐車場に駐めたので、スキー場パトロールに寄って計画書を出す。常設の登山ボス



トはなかったが、一応、受け取ってくれた。

ゲレンデ脇の林道から歩き出す。かすかなトレースは日曜日のものか。といっても脛まで沈むラッセルだ。硫黄沢に架かる橋のたもとから右手の尾根に取り付く。下の方だけはカラマツの植林で、想像したよりは傾斜も緩く登りやすい。南斜面は昨日の日射で薄いサンクラスト気味だが、陽が当たらない斜面はパウダーが温存されていた。

西側に標高の高い大行山があるので、尾根の間まではまともに季節風が当たらず静かだったが、それも尾根 1634m 地点に出ると一気にブリザードとなった。今日は強風との闘い必至か。1760 ピーク手前からは藪が濃い箇所がたびたび出てきて、ラッセルに加えてブッシュとも闘いだ。

黙々と細い尾根上を進む。1800m ジャンクション前で小休止。風の強さ、この先のルートとラッセル、残したスタミナを天秤にかけて、登頂モードにスイッチを入れる。今日は山頂目指してガンガン行くぞ。

顕著な 1975 ピークは西側から巻くが、密なブッシュと膝下ラッセル、おまけに風が抜ける地形で波打ったシユカブラ斜面が延々と続く。ルートも真っ直ぐ取れず、時々下降したりと消耗戦の様相だ。

アドレナリン全開でルートを延ばす。やっと吹雪の先に荷鞍山の斜面が見えた。最後の急斜面を登り切ると、ついに山頂に出た。展望はまったくない

が、厳冬期の頂きに立って感動モードに浸る。気温氷点下 12℃、風も強く厳寒だ。すぐに下山開始。吹雪がさらにひどくなってきたので急ごう。登りのトレースもほとんど消えて、下山もラッセルだ。

登りがなくなる 1680m でやっとシールを外す。林道までのパウダーランは今日のささやかなご褒美だった。硫黄橋から林道トレースを滑る。今日は他に入山者はいなかったようだ。日没前の 4 時半に下山。

滑走率は全体の 1 割程度で今日は完全なスキー登山だったが、充実感は滑降目的の山スキーより比べものにならないほど大きい。沼田市街も深々と粉雪が降っていた。

北東北遠征 秋田八幡平 後生掛温泉から 国見台・梅森・焼山

栗原聡子 宮田幸男 石川邦彦 橋本

義彦

山域：秋田八幡平・焼山、国見台

山行形態：山スキー、ワカン

目的：厳冬期の秋田八幡平周辺の山スキーと雪山を楽しむ

期日：2015 年 1 月 10 日(土)～12 日(月)

1/10 【秋田八幡平スキー場でゲレパウ】

大宮駅(6:58)=【はやぶさ 1 号】=盛岡駅(8:45/10:00)=花輪線=鹿角花輪駅(11:54/12:10)=送迎バス=後生掛温泉着(12:50/13:50)→秋田八幡平スキー場(14:00)

<天候吹雪>

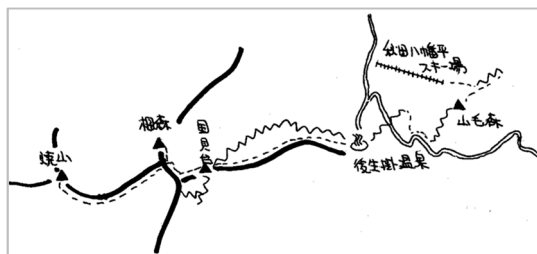
毎年恒例の北東北遠征、今年は後生掛温泉をベースにパウダーを楽しむこととなった。例年ならば車で東北道をひた走るところだが、初めて新幹線利用でのアクセスとなった。東北新幹線を盛岡ま

で乗るのは学生時代以来だが、岩手がこんなに近いとは・・・駅弁食べてちょっとウトウトしたらもう盛岡だった！ 乗り継いだ花輪線はローカルな風情たっぷり、頭の中で NHK 小さな旅のテーマ曲がずっと流れていた。

後生掛温泉に着くやいなや急いで荷を解き、徒歩 15 分ほどの秋田八幡平スキー場へ足慣らしに向かった。雪の降りが激しいためかスキー客の姿は殆どなく、ほぼ我々の貸切状態だった。リフト 1 本・2 コースと 15 分で飽きそうなレイアウトに見えたがなんのなんの、前が見えない程降りしきる雪にさっき滑ったシュプールはすぐにリセットされていく。総員奇声を上げて広くもないゲレンデで散り散りとなり、営業終了間際まで互いの姿を確認することはなかった。

ゲレンデパウダーを数本流した後、ゲレンデ脇の森の中に入って見たらさらに軽い雪がたっぷりでかなり楽しめた。私はあまりの寒さに回数券を 2 枚残してギブアップしたが、他のメンバは全て使い切ったそうだ。初日は全員が十二分に足慣らしができたようだった。

(栗原聡記)



1/11 【焼山、梅森、国見台】

メンバー<Aチーム>:CL宮田 SL栗原昌 新井久、橋本健、栗原聡(計5名)

後生掛温泉 970m(9:10) → 国見台直下 1250m(10:25/10:40) → 毛せん峠 1280m(12:55) → 梅森分岐 1350m(11:20/11:35) → 焼山 1366m(12:20/12:30) → 梅森 1359m(13:00/13:05) → 南峰 1350m(13:20/13:35) → 東面滑降 1250m → 国見台 1322m(14:05/14:15) → 国見台西面滑降&登り返し → 国見台 1322m(14:35/14:45) → 北東面滑降 → 後生掛温泉(15:15)

<天候:小雪後曇り>

後生掛 2 日目はメインの焼山へ。後生掛から国見台や梅森まではたくさん報告があるが、厳冬期に焼山まで登った記録はほとんど見かけない。宿に聞いたらすでに 2 月の積雪量とのことで、焼山稜線はどうなっているのだろうか。

今日は日本海中部に低気圧が発生したので、北東北の天候はまずまずだ。焼山山頂に立つぞ！ とメンバーに伝えて出発。登山口は湯治棟の廊下から。みちのく情緒たっぷり。橋があるはずだが見つからない…。え？、この雪の下に埋もれていたのか。登り出す前にスコップで階段作り。

いきなりの急登ラッセルに汗が噴き出す。振り返れば雪に埋もれた後生掛が素晴らしい。尾根になるまでは小沢が入りこんで複雑な地形のようだ。尾根下部はきれいなブナ林。

1150m 辺りからはアオモリドマツへ。北東北らしくなってきた。先に国見台の斜面が見える。モニター地帯へ。登りが終りトラバースに入ったところで B チームに道を譲る。(いや、トレースついてきただけで登ってはいかんので、ラッセルに参加してもらった)

毛せん峠は火山特有の異様な雰囲気。国見台西面は立ち枯れの樹がたくさんあった。焼山の噴火のせいだろうか。登りになったので、再び A チームがラッセル。たまには～と、自分も撮ってもらった。

梅森稜線はブリザード。

B チームはここまでで引き返す。気温は氷点下 12℃。さすがに風が強い。おぼろげに 1354 ピークが見える。1354 ピークの登り。いったん鞍部に下る。再び小ピークの登り。今シーズンはどこへ行ってもラッセルばかりしていたが、今日はラッセルメンバーがいるので体力的には楽チン。山頂まであとわずか。ここだよ～と声を掛ける。

立ちました～、焼山の頂です。焼山の広い稜線に戻る。北側は大雪庇だ。避難小屋が見える。鹿角花輪観光協会に聞いたら、一昨年の大雪で傾いて使用不能らしい。ちなみに北側の鬼ヶ城にポツカリ火口があって、いまでも水蒸気が出ているとのこと。1354 ピークの下りは雪面が硬かった。

せっかくだから梅森山頂にも回る。イエ～い。稜

線を南下して梅森南峰へ。国見台西面。今日 1 本目は梅森南峰東面斜面へ GO! 最高のパウダーをいただきました。トラバースして、再びパウダーゲット。フェイスショット浴びて～最高!

沢を横断して国見台西面を登る。また時間もあるので、国見台西面も滑ろう。独特の雰囲気でした。また登り返し。国見台山頂。北東沢に滑り込む。標高差はあまりないが、ドライパウダーを満喫しました。

B チームのトレースをボブスレー滑降して下山。正面には八幡平。後生掛へ到着。まさしく秘湯だ。橋を渡って宿の中へ。すぐに乾杯! ～蒸し風呂～乾杯! ～泥風呂～まったく～みんなで夕飯。ワカン散策組は、トレースを急坂登りきった先まで行ったとのこと。今日も十分過ぎる夕食。鱒の塩焼き。今日は「ブナの森」をいただきました。

今年は偵察のつもりだったが、天候にも恵まれて焼山の頂きに立つことができた。最高でした。(宮田記)

1/11【国見台】

メンバー<B チーム>:CL 石川 SL 木村 大嶋、橋本義、駒崎(計 5 名)

後生掛温泉 09:19→11:21 毛せん峠 11:28→12:33 国見台 12:52→13:16 1165m 地点 13:24→(登り返し)→14:04 国見台 14:18→15:23 後生掛温泉

<天候:曇り時々雪>

後生掛温泉湯治部の喫煙部屋から外に出た所が焼山登山口です。まず旅館脇の堀に架かる橋を渡るのですが、2m 近い雪にこんもり覆われていて踏み外しそうで怖い感じ。何とかスコップでステップを切り、橋を渡った所でスキーを付けて出発。30m 程急斜面を登ると北東北らしいなだらかな斜面になりました。

曇りで時々雪が舞いますが、さほど風はありません。先行した A チームがどんどん進んで行きます。膝丈くらいの深さのトレースを進みますが、ラッセルしている A チームになかなか追いつけません。少しずつブナ林の中を進み、標高 1200m あたりからアオモリトドマツの針葉樹林帯に変わる頃、休憩していた A チームにやっと追いつきました。

ここから、ラッセルを交代し、国見台を北側からほぼ水平に巻いて毛せん峠・焼山方面を目指します。後から「高度を下げないで! もっと左! !」の聲がかかり、何とかがんばって毛せん峠に到着しました。急に雪・風共に強まり目出し帽などの防寒装備を補強し、バンなどかじってエネルギーを補充しました。

焼山に向かう A チームとは別れ、我々はこちらで引き返すことにしました。毛せん峠から国見台の山頂へは標高差 50m の登りでした。山頂では雪も降り続きあまり展望が利きません。シールを外していいよ滑降の準備です。ピークから北東方面の谷へ 1600m 付近までを目標にふかふかの深雪バーンを思い思いに滑ります。すぐに先ほどの自分たちの付けた登りのトレースと交差しさらに下って、斜度が緩んだ 1650m 付近で小休止。まだ宿に戻るには時間も早いので、もう一度国見台へ登り返す事にしました。2 回目の新雪滑降を楽しんだ後は、登りのトレースをたどって全員無事後生掛温泉に戻りました。

(石川記)

1/12【山毛森】

後生掛温泉(8:40)=秋田八幡平スキー場トップ(9:10)～蒸ノ湯温泉方面滑走&登り返し→山毛森 1200m(10:00)～後生掛温泉(11:20)

後生掛温泉発(13:00)=送迎バス=鹿角花輪駅(14:45)=盛岡駅(16:41/17:50)=

【はやぶさ 28 号】=大宮駅(19:38)=熊谷(20:30)

<天候:雪>

10 日に比べると風は弱いですが細かな雪が行動中ずっと降り続けていた。3 日目は A、B パーティーともに同じコースで行動した。

装備を付けてまず秋田八幡平スキー場へ歩いて行く。雪の降りが強く視界が悪い。祝日だが滑る者はいない。1 本だけのリフトに乗りトップまで行く。かつてゲレンデがあったという、そこからの東斜面を滑走する。A パーティーが滑り、B パーティーも続く。傾斜が急で新雪が深い。150m も滑らないうちに「下は崖だ!」と聞こえる。そこは地図上から蒸ノ湯に通じる道路の上だったと思われる。視界

が利き下の温泉の建物が黒々と見える。屋根の雪が厚く丸く積もっている。

ここからはシールを付けての登返しである。急登で、距離は短いが汗をかく。登りきって平坦な場所を南に 100m ほど進み方向を西に変える。林間、降雪で視界は効かない。地図とコンパスが頼りである。地図上では途中で 1078m の小さなピークがあるのでそこを目指す。広葉樹の樹林内の新雪を快適に滑る。気持ちがいい。やや南に方向が向いていたためかアスピーテラインの道路に出てしまう。この道路は除雪してないので新雪が深い。道路上はラッセルし、2 回道路のカーブ部分をショートカットする。道路でシールを付け 1078m の緩い斜面を 300m ほど登り返す。西に滑走し、道路を横切り後生掛温泉に滑り込んで今回の山スキーを終了にした。

冷えた体を温泉で温め、昼食を摂り、帰りのバスに乗った。列車を乗り継ぎ午後 8 時過ぎに熊谷に着いた。(橋本義記)

2015 山スキー訓練・赤倉山

山城山名：妙高山系・赤倉山(新潟県)

期日：2015 年 1 月 18 日(土)

参加者：L 宮田 石川、高橋仁、橋本義、平岡、新井久、駒崎、花森、福田、橋本健、栗原聡、菅谷、栗原昌、金子(計 14 名)

行動記録：江南(5:30)=妙高池の平スキー場 P(8:20)=カヤバゲレンデ TOP1430m(9:50)→林道 1590m(10:30)→赤倉山前衛 1920m(12:00/ピットチェック/12:35)～

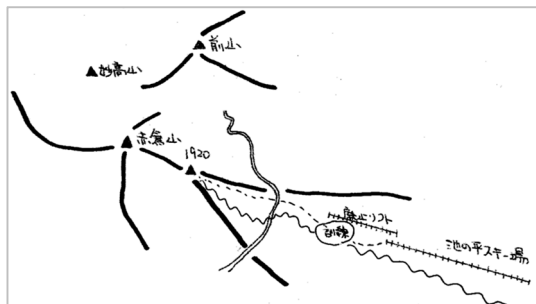
旧カナメゲレンデ(13:00)・・・ビーコン訓練(13:30～16:15)・・・池の平スキー場 BASE(16:30)

<天候:朝くもり後晴れ>

……訓練総括……宮田幸男

2004 年から毎シーズン実施している熊トレの山

スキービーコン訓練。今年は 14 名が参加して、場



所は昨年同様に妙高池ノ平スキー場の閉鎖ゲレンデ(カナメコース)で実施しました。

今回の訓練目的はいつもの「ビーコン訓練」と「ラッセル技術習得」、そして「山スキーリーダー養成」を据えました。

熊トレ山スキーチームは昨年実績で 22 名だが、リーダーはそれほど多くはなく、固定化の傾向と高齢化が進んでいるので、若い会員のリーダー養成が急務となっています。

【午前 1920m ピークを目標にラッセル訓練】

出発前に各パーティーの CL と SL にリーダーの注意点を伝える。

- ・効率的な登路ルートの選択
- ・下山(今回は訓練場所)時刻を逆算したタイムマネジメント
- ・危険箇所の把握と常に地形図で現在地を確認
- ・斜面方向別の雪質チェックと雪崩リスクマネジメント
- ・パーティメンバーの行動観察
- ・登りながら滑降ルートの選定
- ・滑降技術を考慮したオーダー配置と先行するリーダーの停止ポイント
- ・天候判断……などなど。

参加者 14 名を 4 人と 5 人ずつの 3 パーティーに分けて出発した。

A パーティー・・・L 石川、SL 栗原聡、平岡、新井久

B パーティー・・・L 菅谷、SL 駒崎、高橋仁、宮田、金子

C パーティー・・・L 栗原昌、SL 花森、橋本義、福

田、橋本健

約束事は、

- ・ 1920m ピークを目標にパーティーごとに登る。
- ・ 他パーティーのトレースを絶対に使わず、あえて自分たちのルートでラッセルして登る。

閉鎖されたカナメコースを登り始めるが、前日の大雪でラッセルは膝下、しかも密度の濃い重雪。先行者のトレースはなく、訓練としては「最高の条件」か。パーティーごとに適宜交代しながらラッセルして高度を稼ぐ。パーティーリーダーから初心者にはラッセルのコツを教える。ルートとラッセル交代の指示が飛ぶ。

中層を覆う雲も次第に消えて晴れ間が多くなり、頭上の霧氷が美しく輝く。今年は豊富な積雪で、藪は一切埋もれていた。ピークしたの少し急な斜面を登っているとワッフ音がした。すぐ下と前方にブナの木があり、すぐに周囲を見回したが、亀裂などの変化はなかったが、メンバー全員に無木立斜面には入らないよう伝えた。

3 パーティーが前後するように順調に進み、約 2 時間で 1920m ピークに立つ。この深雪ラッセルを全員がこなして標高差 500m を 2 時間で登った。全員のラッセルする様子を観察していたが、この訓練でラッセルのコツを掴んだメンバーもいた。この条件のなか 3 パーティーとも登れたのは、なかなか誇れることだと思う。

1920m ピークでピットチェックを行う。隣の前山では昨日行方不明になった山スキーヤーを捜索するヘリが飛んでいたのも、より緊張感をもってテストした。安全な南斜面を 80 cm ほど掘ったが、前日大雪前の下層は確認できなかったが、雪面から 20 ~ 30 cm とその下層に、顕著ではないが弱層と滑り面になりうる層があった。直下でワッフ音もあり、判断は要注意。

そのうちに外国人パーティーとすぐに日本人パーティーが登ってきたので我々は下山する。リーダーを先頭に滑降開始。日射で少し重たくはなったが、雪質は良好でディープパウダーを楽しんだ。

【午後はビーコン訓練】



昼食を取った後、閉鎖グレンデのカナメコース最上部でビーコン訓練を実施した。基本的に午前のパーティーごとに行動する。

まずは、予備ビーコンを雪面において、各メンバーが電波誘導法で目標のビーコンに向かう。あえて発信ビーコンを雪面上の見える位置において、捜索者のデジタルビーコンの方向と距離を声を出して、お互いに確認をしながら近づいた。

- ・ 真っ新な雪面には導かれた軌跡が残るので、ビーコン電波の向きを確認する。
- ・ 概ね楕円形になるはずだが、ビーコンを置き方によっては、ほぼ直線になったパーティーもあった。
- ・ デジタルで表示される距離は、直線距離のたいだい 1.5 倍となることを確認。

次は、幅 20m × 長さ 30m の仮想デブリを作り、そこにビーコン 1 個を浅い場所に埋めて、ザックを背負った状態でシールで登行中に 1 人が埋没したという想定でのビーコン探索訓練を行った。待機した場所は、デブリ上端から 10m ほど離れた場所。

- ・ 一番先に行くことは状況分析。

雪崩を目撃したメンバーは、埋没者がどこで巻き込まれて、どこまで流されたか、見えなくなったのはどこか、雪面に出た残置物はないかを確認する。

- ・次に、ビーコン探索。
- ・そして、ケアと応急措置。

リーダーから「雪崩！！」の大声の後、「サーチモード」の指示で速やかに全員がビーコンスイッチを受信状態にする。ある程度の間隔を取って埋没者に近づく。

直線で 30m 以上離れていると、ビーコンの機種によっては最大受信距離を超えているため、検索モードにしてもすぐには反応はない。電波を受信したら、他メンバーに聞こえるように距離を大声で叫びながら、ビーコンの指示方向に向かって埋没者に近づき、数字が約 2m になったら直角法で埋没箇所を発見する。

結果は、1 分 10 秒から遅くとも 2 分程度で発見。

次は、ビーコン 2 個を埋めて複数者埋没を想定した。搜索者の位置によって、電波を受信するビーコンが違ふ。お互いに声を掛け合うことが必要。ひとつ目は 1 分から 2 分、ふたつ目は 3 分から遅くとも 7 分で発見。ひとつ目を発見したら、ロック機能を活用する。(電源をオフしてもいいが、再び雪崩が起きた際には搜索不能になる恐れがある)

ひとつ目を発見した後の埋没者掘り出しと二つ目のビーコンの搜索を同時にできればベストだが、どのように分担をするか。訓練全般を通して、ビーコン搜索が早い者とそうでないもののレベル差が非常に大きいので、掘る者と探す者を分担した方が早いかもしれない。(ただし、現場でそんな余裕があるだろうか)

最後は、滑降中に雪崩で埋没したと想定。ボーゲンでストックを持ちながらビーコン操作して、信号をキャッチしながら近づいていかなければならないので、スキー技術とビーコン操作のより高度なテクニックが必要である。

結果は、1 分 10 秒から遅くとも 2 分程度で発見。これも発見者は変わらず。

気になることがあった。2 人のメンバーが arva 3Axes を使っているが、サーチモードの切り替えスイッチが搜索している時に送信モードに戻ってし

まい(おそらくかんだ時に押されて)、搜索が混乱したことが 2 度あった。使用者は何らかの対策をする必要がある。

ビーコン探索訓練全般として、

・サーチモードに切り替えるのに手間取るメンバーがまだ多い。オーバー手袋をした状況でも、いかに切り替えられるか。

・電波受信が遅れた背後のメンバーへの指示と、スコップ&ゾンデの準備をいかに早くできるか。

・スキーを履いたままでの直角法はかなり難しいので、どこでスキーを脱ぐか。

・リーダーの指示を待つのではなく、自分のいる位置から何をすべきなのか、瞬時に判断して動かなければならない。

・今回はビーコン探索に経験の浅いメンバーがいたので、ビーコン操作を行ったが、掘り出しにも技術と分担(V 字コンベアベルトメソッド)と何よりパワーが必要となる。

・メンバーがいろいろな機種を使っているので、電源のオンオフのやり方は確認する必要がある。

他パーティーの訓練状況を見ることは、いい点、改善すべき点がよく分かる。

1 分 1 秒でも早く埋没者を発見するために、これからも個々に技術を磨かなければならない。今後も訓練を継続していきましょう。

【山スキー訓練に参加して】

《A パーティー 平岡寛》

今回の山の目的は、池の平スキー場から赤倉山前衛 1920m までの間で、ラッセル訓練を含めたビーコン訓練でした。参加者 14 名スキー場のリフトを 2 回乗りゲレンデ終点に着く。天気は前日から風雪が強く午後からは晴れる予報でした。天気はスキー場近くなると、曇り気味で小雪が舞う天気でした。午後からは晴れ、絶好の登山日和になりました。

スキー場は朝からかなりの混雑、スキーブーム再来?それはボードブームなのかもしれません?リフト券を買うのにチケットボードを覗きこむと何と

回数券のシルバー割引が有るではないですか！これは何だか得した気分になり、粋なスキー場だなと、朝から満足になる。

リフトを降りるとそこは一面の新雪、騒がしくなる前の静寂が残っている。そこで、参加者 14 は宮田チーフからの注意事項等の説明を受け、参加者 14 名 3 班に分かれ自分はシルバーチーム入る。

準備を完了させチームごとに出発、チームメンバーは 4 名、新人なのでビーコン訓練は初参加です。チームは赤倉山前衛に向けて出発、他のチームのラッセルの後トレースは使わないルールになる。ラッセルの順番が回って来ると長く続かない自分がそこに居るのにいつも驚く。チームシルバーの A さんは何だかとても早い、この日の為に??

今回のラッセル訓練ではアルバイトが余りできなかったですが、約 2 時間位で前衛 1920m に着く。休憩を挟んで雪崩判定弱層テストに入る。コンプレッションテスト・ハンドテストを実施したが今回は余り問題無さそうとの結論ですが、いずれにせよ難しい判断です。実際はなかなかやる事が無いので参考になりました。

弱層テスト完了後、スキー実技試験今回は、1920メートルの前衛からスキー場上部までの実技滑降です。1550m 付近のスキー場リフト跡まで一気に滑り込む。本番なのに余りうまく滑れないのは、どうも毎度の実力のようです。

休憩後今度は、ビーコン訓練実際に雪面での訓練は初めてです。これも午前の 3 パーティーに分かれて訓練の開始、20～30m 離れたところからビーコンを埋めて置き、その場を目指して探しに行く、シールを付けた状態での搜索訓練・2 台埋めそれを順番に搜索する訓練等。訓練は何度でもやることに意味がある。職場等における防災訓練がいい例であるように、訓練をしておくと言うことは手順に慣れることも必要ですが機器の使い方、行動手順、山の中での歩き方、スキーにシールを付けて歩けるのか。雪面等での行動のしかた(ビーコンに距離と方向等)その時のチームワーク等々でいかに早く探す(救助)が必要になる。

今回のビーコン訓練は初参加でしたが、機会があれば是非毎年参加したい。スキー場を営業時間

ギリギリに滑降して下りた。参加者 14 名が満足した一日を過ごして帰宅したことでしょう。この訓練の機会を与えてくださった会に感謝して一夜の眠りに着いた。

《B パーティー 高橋仁》

昨年に続いて二回目の山スキー訓練に参加させてもらった。最初はリフトトップから 1920m までの 500m 差のラッセル訓練。昨年より積雪が多くて思うように進めない。宮田さんから「スキートップを上げて前に出し、踵でテールを押し付ける。歩幅はなるべくせまく、まっすぐに。リズムカルな動きをする」とアドバイスをしてもらって頑張ったが、傾斜が急になると息が上がってしまった。今年は参加メンバーの最高齢となってしまった私が、パーティーの平均年齢を引上げ、平均速度を引下げてしまった。

1920m 地点でエネルギー補給。天気が回復して麓のゲレンデや、高妻山、乙妻山が良く見えて、気持ちが良い。ここで弱層の有無をテストする「ピットチェック」を体験した。スコップの大ききくらいの雪柱を残して周りを掘り出して「ピット」を作る。目視、スコップを当てて、手のひら 10 回、肘先で 10 回、肩から 10 回と順次叩いて行き、ピットが弱層で滑り始める様子を見る。これで雪崩の危険性を判断する。但し、すぐ近くに二か所作ったピットは、弱層の位置が違っていった。斜面の違い、風の具合、日射による気温の違いなど、条件が違えば、当然結果も違うので、あくまで判断の参考にするが、過信は出来ないとのことだ。

次は閉鎖ゲレンデまで滑走して昼食を取ってから、ビーコン訓練開始。

①、更雪の上に発信ビーコンを置き、5 人でサーチビーコンの指す方向を追いながら搜索して行くと、雪面のトレースでビーコンが発信する電磁線の円弧の形がわかる。

②、デブリを想定して踏み固めた雪面に、5 人グループで「雪崩！」の号令でサーチモードに切替えて搜索開始、ビーコン埋設点を特定してスコップで掘出す訓練。昨年はビーコンをポーチから取出す

のに手間取っていたが、今回は少し早く取り出すことができた。

③、ふたつの発信ビーコンを埋めて搜索、搬出する訓練。これは難しい。二つの電波を拾ってしまうので、距離と方向の表示が急に極端に変化してしまう。

私は今回も、スキー技術、ビーコンの習熟度で他のメンバーに及ばず、埋設点に先行した人が、搬出作業に入れるように、スコップを出して、排雪作業の準備に移る役割に徹してしまった。しかし、これは現実的な分担でもあると割り切って役割をこなす。

訓練終了後は、一気に駐車場まで滑降。足は疲れたが、楽しい一日だった。メンバーのみなさんありがとうございました。

《B パーティー 菅谷孝道》

今回はリーダー養成訓練との目標を頂き、初めて5名パーティーのリーダーを務めさせて頂きました。コースは昨年同様、閉鎖グレンデより妙高赤倉山前衛を詰めるというものですが、立場が変わると同じコースを進んでいても、見え方や感じ方が変わってくることを実感しました。

昨年はラッセル隊長を任せられ、とにかくぐんぐん頑張っって進む力を付けることが目標でした。どちらかという自己主体のトレーニングの様な感じです。ところが今回は、リーダーとしてパーティー全体のペース配分を考えながら目標地点に行き、設定時間内に安全に下山するのが課題でした。

いざ自分がやってみると、とても難しいです。最初に感じたのはメンバーそれぞれの技量が分からないことです。ラッセルを一巡するころには何となく様子が分ってきますが、パーティーをコントロールするのは別物だと実感しました。体力や経験値の高いメンバーが先頭になると、ぐいぐいラッセルして進みますが、他のメンバーとの間隔はしだいに広がっていきます。調整のため先頭の交代を願いますが、折角リズムに乗って調子良く進んでいるのに水を差すようで申し訳なく感じます。また、あまり慣れていない方が先頭になると、自分もそうでしたが、何とか進もうと頑張りが過ぎてしまい、

必要以上に体力を消耗してしまいます。山行途中で体力の限界に達してしまうと、危険リスクもさらに高まってしまう。休憩する場所やタイミングの取り方を決めるにしても、臨機応変に状況判断する必要がありますがありました。

リーダーとしてパーティーに加わっていると、次の行動を判断するにあたり、雪質の変化や地形、危険箇所について、いつも以上に敏感に情報を得ようという気持ちになりました。耳も澄ますようになりました。この先はどうなっているのか、雪質はどうなるのか早く知りたくなりました。こんな感じでリーダーはせっかちになるのでしょうか…(笑)

滑降の際は、先頭を滑りました。なるべくメンバーが滑りやすそうな雪質やコースを選ぼうとしましたが、なかなか上手く行きません。つい自分が滑りたいコースに滑り込んでしまいました。止まってメンバーを待つ場所にしても上手く選べませんでした。

このようにして、シール登行にしてもスキー滑降にしても、リーダーをやってみて初めて、今までとは違う視点で周囲を見ることが出来ました。実際に体験してみて、自分には何が足りないのか、今後の課題が少し分かったような気がします。

パーティーを安全にかつ楽しく目標地点まで進めることは、自分の登山や滑降の技術を磨く事に合わせて、メンバーの技量をしっかり把握し、さらにパーティーのバランスコントロールを客観的に出来るようになる必要があると感じました。

ビーコン訓練については、さらに雪山での実地訓練が必要だと実感しました。緊急事態に咄嗟に対応するには、繰り返し訓練をして直接身体で覚え、次に何をすべきか自然に動けるようになる必要があると思いました。

《B パーティー 金子元希》

本格的なラッセルは10年以上のブランクがあった。最年少という期待に応えられたとは言えない。目標のピークに着くころには筋肉が悲鳴を上げていた。

ビーコン訓練は、リアルな遭難を想像しながら取り組めるかが肝心だろう。防災訓練と似ている。

だから、「雪崩！」の音が掛かるまで、ビーコンには手を触れず、ウエアのチャックも閉じておいた。「突然のできごと」にどんな心理状態になるかをあえて試したかった。

掘り出し作業に課題を感じた。1つは、スコップをどうパッキングするか。登りであれば、スコップをザックの外側などにくりつければ、取り出しやすい。だが、今回のような深い新雪の滑走では、転倒時にストックすら見失うこともある。紛失のリスクを考えると、ザックの中の方が良いのだろうか。また、外側につけるとすれば、スリングなどで固定をすることになる。頑丈にすれば、取り外しに時間がかかる。今回は、ザックの中に取り出しやすさを意識しながらパッキングしたので、「掘れ！」からは10秒程度で取り出せたと感じている。

一方で大きな問題もあった。使ったビーコン(アルバ社製の構造だ。このビーコンは、検索モードに切り替えるとき、機械の一端を外側にスライドさせる。手に持ったの検索に問題はなかったが、一心不乱にスコップを振るうちにビーコンが腹部にはさまれ、発信モードに押し戻されてしまった。これが、「掘っても掘っても見つからない」という騒動を招いた。では、どうすればいいのか。発覚後の訓練では、掘り出す場面では思い切って電源を切った。だが、二次災害を考えると危険だ。工夫の必要性を痛感した。

●こぼれ話～公共交通機関を使う～

今回、都内からの往路で、新宿から長野までは夜行の高速バスを使った。バスの予約には「ハイウェイバス ドットコム」というサイトを多用している。予約・変更・取り消しが簡単で、決済(入金)期限も概ね1時間程度前までなので、予定を読むにくいときに重宝する。なお、妙高方面には、都内からの直通バスもあったが、1週間前までの予約が必要だった。

一方、新幹線などJRの場合は「えきねっと」が便利だ。1カ月前から予約が可能で、「トクだ値」として「35%割引」と「15%割引」の設定がある。この「トクだ値」であれば、ネット上で列車や日付、席を何度でも変更できる。ただし、割引の販売枚

数は限りがあり、週末の便利な時間帯は35%割引はすぐに埋まる。入金期限は乗車の直前だが、予約の時点で、キャンセルには1席あたり300円の手数料が発生する。でも、ポイントでの還元もあり、グループでまとめれば手数料分の埋め合わせもできる。

《C パーティー 橋本義彦》

訓練前日の1月17日の例会でのビーコンの学習に引き続き、翌日1月18日には実地の訓練を実施した。今回は私にとっては山スキー2シーズン目、訓練も2回目となった。前日に妙高やその周辺でBCスキーヤー等が雪崩の事故に遭う、行方不明になるニュースが報道されていた。訓練中も付近を搜索と思われるヘリが飛んでいて緊張感が漂う中での訓練となった。

1 ラッセル訓練

スキー場トップからはシールを着けてのラッセル訓練をした。参加前には、シールの管理が不適切だったせいか、シールの糊がスキー滑走面に付き、やっとふき取りワックスを塗って滑れるようにした。実際の訓練以前に用具の性質やその適切な管理が大切だと感じた。訓練時、シール糊面に雪が付着し、シールがはがれている者もいて、用具の適切な管理を再度感じた。

ラッセルで新雪であり、相当な力を要した。スキートップを雪面に出し、踏み出してスキーのテールで押さえるように踏み込むとシールの摩擦が効いて、効率よく進めるように感じた。ラッセルをすると林間は沈み込みが大きく、尾根筋は木も少なく、沈み込みは少なく、場所が違くと積雪の状態が違うこともよく分かった。グループでの行動なので疲れたら無理しないで交代するのも大切である。ラッセルを行う者がルートを設定することになるので周囲の地形をよく見ながらルートを選ぶ必要がある。急坂、木の周りの穴等を避け、目指す地点に向け効率よく登るのが大切だと感じた。

2 ビーコン訓練

ア. ビーコンのサーチモード

ビーコンのサーチモードで表示の方向に進むことを行う。矢印の方向に進むと半楕円の弧を描くように目的の場所を指し示すことが分かる。

イ. シールをつけての搜索訓練

シールを付けての登高中に雪崩にあった場合を想定。全員サーチモードにする。ヤッケの内側に付けているのでファスナーを開け、サーチモードに手袋を着けたままする。スイッチが小さくスイッチが入れにくい。練習を重ねる必要を感じた。同時に機器の改善も必要だと感じた。

救助者 5 人が同時に声をかけられても、搜索には当然遅い速いが生じる。先行の 1~2 名が埋雪者付近に到達している場合、後続の者は、掘り出しのスコップの準備など次に必要な行動に移ることが必要である。ポイントは雪崩遭難—救助の手順の共通理解とパーティーとしての分担である。リーダーが遭難することもあり、救助する者はお互いに指示をし、救助をパーティーとして進める。急を要するが、慌てて行動して転倒し、余計に時間がかかることもあり、落ち着いて行動する。救助者が負傷することは避ける。また、1 人は、救助者の二次的な雪崩遭難を避けるため周囲の様子を見ていることも大切である。

ウ. スキーでの搜索訓練

スキー滑降中に雪崩遭難になった場合は、埋設者がいると思われる場所よりも上の者は滑り下りすぎないことが大切である。

前武尊山

石川邦彦

山域：前武尊山

期日：2015 年 1 月 23 日(金)

参加者：CL 石川 大嶋

行動記録：熊谷 6:30=水上 IC=オグナはたかスキー場 8:30=リフト終点 1810m 11:00→前武尊山直下 2000m 付近 12:25=オグナはたかスキー場 12:55=スキー場下 13:20

=熊谷市江南 16:20

<天候 雪・強風>

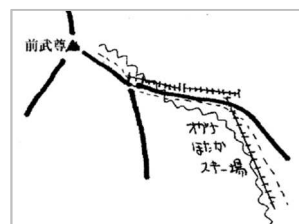
ニセコ遠征前、新しい板に慣れるためもあり久しぶりに前武尊山へ向かいました。

オグナはたかスキー場は、以前は国設武尊スキー場という名前だったようで、個人的には 20 年以上前、故村越会長に誘われ初めて山スキーに来た思い出深い場所です。道具は全て村越氏のお古でした。初めてのスキー登山で何とか登り、何とか滑り降りて、特段感激できるほどのスキーの腕(足)まえてもなかったのですが、その後もなかなか上達せず、ずるずる続けているのはごらんの通りです。

登山届けを提出しようとパトロールの事務所へ出向くと、スキーセンターのロビーに提出用ポストがあるからそこへと指示され、用意した計画書を提出しました。リフト券売り場では上部のリフト 2 本が強風で運休中とのこと。一回券を 2 枚購入し、2 本分はシールで登ることにしました。ところが最初に乗るリフトを間違え、結局 3 本乗って第 7 ペアリフト上部へ。そこからシールを付け、吹きさらしのゲレンデを登り始めました。

リフト山頂駅の標高 1820m を過ぎて、急斜面に取り付き、いよいよ山の中のルートへ。ところが、新品のシールの片方の糊が利かず、テープで巻く事になりました。この吹雪の中を先行するスノーシューのボーダーが一人、相当深雪に苦勞しているようです。結構斜度もあり、膝下ぐらいのラッセルでした。山頂まであと少し、斜度の緩んだところで風も相当強くなり、本日はここで終了し引き返すことにしました。

山頂から見て右手の沢には入り込まないようにロープがあり、左方向の十二沢方面へ。やや重い雪で、モ



ナカ雪になっているところもありましたが、無木立の斜面を避けなるべく樹林帯を選んで、慎重に滑り、リフトトップへ。その後、誰も滑っていないゲレンデをリフト 2 本分降りて最後にはスキーセンターまで無事に着くことができました。

今回は板に慣れたこと、シールの不具合がわかったことが個人的には収穫でした。

日光白根山

宮田幸男

山域山名：日光白根山(群馬県)

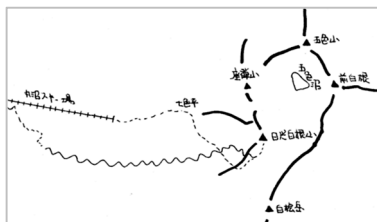
期日：2015年1月25日(日)

参加者：L 宮田、菅谷(計2名)

行動記録：丸沼高原スキー場 TOP2000m(9:20)→七色平(9:50)→大広河原上部(10:00)→2420m スキーデポ(11:15/11:30)→日光白根山 2578m(11:55/12:15)→2420m(12:35/12:50)～大広河原 1820m(13:30/13:45)→旧おおひろゲレンデ(14:00)→スキー場(14:15)

<天候朝小雪、のち晴れ>

1月下旬恒例の丸沼ゲレンデスキーで自分は前日に丸沼高原入り。さすがに3



日連続ゲレンデにいと飽きるの、中日は丸沼周辺の山に登るのがここ最近のパターンとなっている。今回は早朝に菅谷さんが合流し、二人で日光白根山を目指した。

昨年2月にも五色沼を経由して日光白根山に登ったが、登山口の二荒山神社鳥居の埋まり具合を見ると、今年の方が断然雪が多い。入山者も多いようでトレースもしっかり踏まれていて、ラッセルはまったくない。針葉樹の隙間から望める白根山は、弱い気圧の谷が通過中で雪雲に覆われていて見えない。七色平で五色沼方面と西面ルートの分岐があるが、ほとんどの登山者は後者を選択していた。我々も今日はそちらへ入る。

西面ルートは一番大きな大広河原をはじめ、何本も振り子状の沢を横断していく。トレースはほぼ夏道に沿って付けられているが、樹木が密になった急傾斜面に行き詰まり10mほどスキーを担ぐ。トレースはさらに急斜面を巻いていくので、我々はルートを直登に取った。再びシール登行するが、まったくテンションのかからない乾燥雪に何度も足

をすくわれる。

繊細なシール操作で急登を登り切ると、霧氷に覆われたダケカンバ帯に出た。天からの贈り物の景色に思わず足をとめてしまった。岩が露出して雪面も硬くなった森林限界2400mでスキーデポして、ここからはアイゼンで登る。アイゼンの刃がよく効いて快適な登行だ。振り返れば、関東平野は雲海に埋め尽くされて、錫ヶ岳が雲の北上をブロックしている。

稜線が上がってから、火口を覗きに少し遠回りして山頂の神社に出た。気温-5℃、風も弱く厳冬期としてはとても穏やかだ。三角点のある中央ドームに立つと、五色沼に落ちるルンゼが目にとまる。山頂で話したガイドパーティはこのラインを狙っていた。次に白根山に登る時はこのルンゼを滑ろう。男体山と中禅寺湖を眺めながら、しばしのんびりした。

スキーデポ地まで下って、滑降体制に入る。霧氷エリアを縫うように滑り、今日狙っていた西面のオープンバーン上へ出た。日射によるサンクラストはまったくなく、ドライパウダー滑降を堪能する。そのまま振り子沢に滑り込んでパウダーラン。滑っていくと幅が狭くなったので、スキーヤーズライト側にある樹林帯をトラバースして大広河原にエントリー、ここも軽い粉雪ゾーンだった。

1820mで滝上に出たのでシールで右岸の急壁を強引に登る。樹林を抜けると10年ほど前に閉鎖されたおおひろゲレンデを横切り、ひと登りでスキー場のゴンドラルートに合流した。あとは賑やかなゲレンデを滑るのみだ。

日光山域は山スキーには不向きな印象があるが、地形図を見ればまだまだいいルートがある。日光白根山西面パウダールートは新たな発見だった。

ニセコ遠征

豊島千恵子

山域：羊蹄山

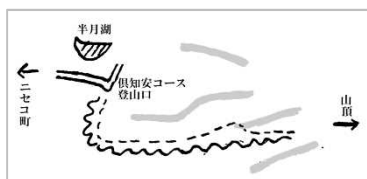
期日：2015年1月31日(土)

参加者：SL 大嶋、CL 石川、豊島、駒崎(4 名)
行動記録：半月湖 P 325m 付近(8:30)→尾根上
470m 付近(9:50)→940m 付近(11:42/12:06)→
600m 付近(12:23/12:45)⇄760m 付近(13:36/
13:49)→半月湖畔(14:26)

<天候:曇り>

北海道東部の天候は大荒れたが、こちらは風が強い程度で比較的穏やか。予定通り今日は羊蹄山へガイドツアー。

「ニセコパウダーガイド」からガイドが車で迎えに来てくれる。



一人ひとり誓約書に記入サインして 8 時 10 分宿を出発。アスファルトの露出する道を 20 分ほど走り半月湖畔の駐車スペースに到着。シールを付けて身支度をし、サポートガイドの到着を待って出発。

ガイドの佐々木さん(30 歳前後の男性)のすぐ後を「ゆっくり」とお願いして私が歩くことに。出だしは畑の上らしく平らな雪原。急登の尾根を南に巻いて緩い登りコースに入る。雪は暫く降っていないようだ。ラッセルは全くなく、舞い上がるパウダーは望むべくもないが、アカゲラの声を聴きトドマツの林を気持ちよく歩く。40 分ほどして小休止。サポートのマックさんを初めて確認。ボードを背負ってニコニコ、精悍な 20 代の青年だ。少しずつ傾斜を増し尾根に取りつく。雪質は小刻みに変わる。ぬかった雪を登り切り展望のよい尾根に出る。1000m より上だろうか、重く雲がかかり風も強そうだ。580m 辺りまで広い雪原を登り、急登に入る。ニセコは頂上が見えている。ジグザグに高度を上げ 750m 辺りで小休止。「あの林の切れている上まで行きましょう。」佐々木さんの声に励まされ最後の急登を必死について行く。「ここまでにしましょう。」940m 本日の最高地点だ。南側のすぐ側に鉛筆の頭のような形の巨大な岩が突き出ている。これが目印。

いよいよ滑降。ちょっとドキドキするも滑り出せば気分は上々、雪煙は無いけれどそれなりの技術でも滑らかに走る極上の雪だ。樹林帯に入る少し手前で休憩。「もう一度登り返して滑りましょう。」その前に昼食。手際よく立派なテーブルが出



来上がり、持参のパンとコーヒーでほっと一息。

風は冷たいが、時折薄日の射す穏やかな昼下がり、私は待機を申し出て、皆の出発を見送る。滑り降りたコースより北側を快調に登ってゆく。樹林の向こうに皆が消えた後、ゆったりと幸せなひと時を過ごす。760m 付近まで登り返したとのこと。

2 時近く、樹林の下に人が現れたと思ったら、あっという間に私の周りに集合。大急ぎで気持ちも滑りモードに切り替え、皆と一緒に樹林帯に入っていく。半月湖に近づくとほとんど傾斜が無くなるが、それでも何とか滑って到着。最後まで羊蹄山の頂上は見えなかったが、気持ちのいい二人のガイドのお蔭もあって、一日充分楽しめた。

草津白根山

石津硫黄鉱山跡ルート

宮田幸男

山域山名：草津白根山(群馬県)

期日：2015 年 2 月 1 日(日)

参加者：CL 宮田 SL 木下 福田(計 3 名)

行動記録：北本(4:00)＝嬬恋村 今井仙之入
1080m(7:20)→1441m(8:45)→石津硫黄鉱山跡
1520m(9:20/9:40)→赤川 右岸 尾根 1850m
(10:40/10:50)→稜線 2130m(11:55)→本白根山
2171m(12:25/12:40)→稜線直下 2090m (13:00
/13:15)→石津硫黄鉱山跡 1530m (13:45/14:05)
→1441m(14:30/14:50)～仙之入 1080m(15:15)

<天候:雪、稜線はブリザード>

草津白根山は、湯釜のある白根山 2160m と鏡池がある本白根山 2172m の二つの大きなピーク



で形成されているが、山頂のすぐ下まで志賀草津道路と草津温泉、万座温泉、表万座と三つのスキー場リフトもかかり、一般的には登山の対象としては魅力が薄い。しかし、地形図をよく見ると、標高差千メートル級の尾根が南面に何本も延びていて、いつか山スキーで

登ってみたいと狙っていた。今冬の高雪と南岸低気圧の降雪後も強い冬型で、草津白根にも新雪がたっぷり積もり、このチャンスを逃す手はない。冬季や山スキーの記録がない嬭恋村今井から石津硫黄鉱山跡を経由するルートで、本白根山に登ってきました。

登り出しはいわゆる登山口ではなく、一般の人が生活している普通場所。車を駐める場所を探したら、ちょうどよいトイレがある公共駐車場があった。今日もまた強い冬型で雪が舞う。地平線から橙色の太陽が吹雪の合間に一瞬だけ覗く。少し車道を行く間にも、キャベツ畑上に積もった雪が強風で舞い上がり、容赦なく顔を叩く。ショートカットしようと雪原になった畑を横断するが、ネットの柵を越えたり急な道路法面を下りる羽目になり…急がば回れか。

冬季閉鎖中のパノラマラインから農道に入る。キャベツ畑にいたキツネが我々を見ていた。畑を囲む2本線は動物避けの電気柵だろう。右往左往して時間がかかったが、段々となった一番上の畑を越え、やっと山に入ると意外やそこは白樺林だった。里山の雑木林を抜けて作業林道を横切り、途中で電線跡の切り通しを見つけたのでペースが上がる。森の中はカモシカの足跡がたくさんあった。

再び林道に出て進むと石津硫黄鉱山跡地へ出た。石津鉱山は昭和7年に北海道硫黄株が建設し、最盛期には2000人～3000人が暮らして小中学校もあったらしいが昭和46年に閉山。跡地には大東大のセミナーハウスが建設されたが、今はその建物

もすべて壊されて、跡地は自然に還りつつあるようだ。車道脇には案内板が外された大きな石が残されていた。このあたりにセミナーハウスがあったのだろうか。深い雪で埋もれているので定かではないが、朽ちかけた送電施設だけが確認できた。整地された跡地を抜けてさらに進むと、深い雪の中にとんと流れる川?があった。近くに行くと硫黄の匂いがプンプンする温泉だった。土中に埋められた配管から流れ出ていて、温度は体温より少し高い37～38℃くらいか。すぐ隣には、丸太で塞がれた坑道?の入口があり、雪の穴が開いた下にはコバルトブルーの温泉(有毒な鉱毒水)が沸いているらしい。

すっかり熊トレ探検隊になってしまったが、やっと山スキーらしく赤川右岸尾根に取り付く。なかなかの斜度と樹間でいい尾根だ。1750mくらいから針葉樹に変わり、1850m上斜面はたつぷりと新雪が積もったパウダーゾーン、下山が楽しみだ。膝上ラッセルで小尾根に上がり、下降点を探しながら雪底の尾根を登る。森林限界を超えると、体を煽られるような突風に襲われる。稜線を辿るのは危険なので、一旦、火口に降りる。平らな火口原はどこが雪面がはっきりしない完全なホワイトアウト。GPSをたよりに山頂方向に進み、登りやすそうな場所を地形図で読んで稜線に上がる。最後は波打った雪底上を進むと本白根山山頂だった。

気温はマイナス13℃。吹雪で展望はないが、草津白根の最高峰に立った満足感でいっぱいだ。下山はトレースも消えたので、GPSの軌跡を辿る。樹林帯に入ったところでやっとシールを取る。樹林帯はメローなパウダー、夏道尾根の雪底の切れ間からボール状斜面にドロップイン。ドライパウダーゲットの至福のターンだった。登路の尾根には上がらず、そのまま沢をクルージングすると、温泉沢はすぐだった。登り返しがあるので再びシールを貼る。1411ピークからシールオフして、切り開きターンと農道にスキーでお絵かきをして今井集落に下山した。

地形図を見ながらルートを探り、鉱山跡で歴史を感じ、ドライパウダーも満喫できて、とても楽しい一日だった。

角間山

木村哲也

山域山名：角間山(長野県)

期日：2015年2月7日(土)

参加者：L 駒崎 新井浩 木村

行動記録：鹿沢温泉駐車場(8:45)→角間峠(10:15/10:35)→角間山肩(11:05)→角間山山頂(11:35/12:15)→角間山肩(12:30)～1691m(12:55/13:05)→1797m(13:30)～1719m(13:40)→角間山肩(14:35)～鹿沢温泉(15:40)

鹿沢温泉手前の駐車スペースに車を置いて出発。登りは湯ノ丸山寄りの南廻りの夏道に沿って登って行きます。快晴で、景色を楽しみながらのんびりペース。ほぼ夏道どおりに、1650mで東屋に出た後は沢を回り込むように進んで、牧柵に突き当たったら柵沿いにゆるやかに登って角間峠に出ました。

角間峠で小休止の後、角間山への急登に取り付きます。角間山南面は硬い層の上に10cm程新雪が積もっていて、シールが少々効きづらく登りづらい。30分程の頑張りで角間山の肩に出ました。ここで、今日は時間に余裕もあるので、今まで行った事の無い角間山の山頂に行ってみようという事になりました。登れるところまでスキーで登って、最後の30m程を密な針葉樹林の中をつぼ足で登り上げると山頂に飛び出しました。

山頂はこの樹林のイメージから展望は無いものと思いついていましたが、意外や360°の大展望。視界も良く、乗鞍から朝日までの北アルプス、頸城山群の高妻・火打・妙高が屏風の様です。東には越後三山から日光男体山も見えています。

山頂で昼食休憩の後、肩まで戻り、シールを剥がして北面に滑り込みます。始めトラバース気味に左へ進んで、疎林になった所で沢中にドロップイン。軽くて滑りやすい雪質を1700m付近まで滑降しました。あっという間でしたが満足の1本でした。この熊トレの山スキープライベートゲレンデは毎回期待を裏切りません。(本日山スキーで角間山に入っていたのは我々だけ。他につぼ足5人パーティーのみでした。)

ここから右岸の尾根を登り返します。このオーブンバーンも良さそうだったので、80m程だけおかわりをして肩に戻りました。肩からは日差しで悪雪となった南面を慎重に滑降していきます。南東に伸びる尾根に沿って行ける様、樹間のなるべく広い所を縫いながらなるべく左の方へと滑って行き、うまく鹿沢温泉に出ることが出来ました。鹿沢温泉で汗を流した後は、吉井でジャンボギョーザを食べてお腹も満足し、帰路に就きました。

大戸沢岳

菅谷孝道

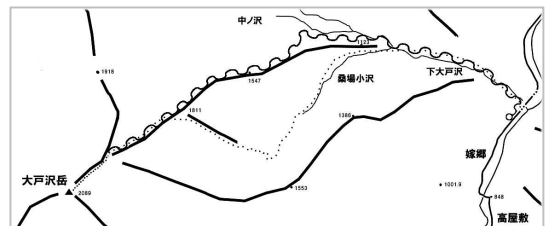
山域山名：南会津・大戸沢岳(福島県)

期日：2015年2月7日(土)

参加者：CL 宮田、SL 新井久、福田、菅谷(計4名)

行動記録：北本(3:30)＝檜枝岐嫁郷 840m(8:10/8:25)→下大戸沢→二股 1020m(9:10)→桑場小沢 1430m(10:10/10:20)→北北東尾根 1811m(11:20)→大戸沢岳 2089m(12:10/13:00)→北北東尾根 1547m(13:25/13:35)→中ノ沢 1150m(13:45)→嫁郷 840m(14:00)

<天候:快晴>



昨年の厳冬期会津駒&三ツ岩岳に続き、本年は大戸沢岳。この時期の南会津の粉雪は素晴らしい。頂上から麓まで標高差約1,200mのロングラン滑降が楽しめ、快晴にもかかわらず、パウダースノーを満喫することができる。それは同時に、辛いラッセルと厳しい冬の気候に耐えることも意味している。CL 宮田さんの提案で、今回は北北東尾根と中ノ沢の間に位置する北北東尾根を、桑場小沢から詰上げるルートで進むことになった。これなら人気の大戸沢岳といっても、我々だけの貸切山行を楽

しむことができるだろうとの理由からだ。

2/7 早朝、新井久さんと西那須野塩原 IC を出てすぐのコンビニで待合わせ、遠回りにはなるが道路状況の良い国道 299 号線を利用し、登山起点となる檜枝岐嫁郷の下大戸沢スノーシェード脇の駐車スペースを目指した。

幸先良い。2 台しかない駐車スペースは空いている。急いで支度をするが、放射冷却の朝の冷え込みは厳しい。下大戸沢スノーブリッジを渡り左岸を進む。単独トレースがあったが北東尾根に進んでいた。予想の通り、ここから頂上まで我々だけだった。

正面に中ノ沢と三ツ岩岳に続くピークの稜線が綺麗に見える。ラッセルの中、日が出ると厳冬期とは思えないくらい暑い。ヤッケを脱ぎ薄着になるが、汗が噴き出す。少な目に持参した水が頂上までもつか心配だ。二股を桑場小沢に進む。沢は雪で埋まっているが、両岸には豪雪が積もり、崩れた跡がいくつもある。沢を進むと日陰となる。汗が一気に冷え、先ほどまでの暑さが嘘のように凍りつく。

北北東尾根の支尾根の取りつきから急斜面が始まる。尾根上に出るとまた日差しが戻った。少し休憩して、再び膝下のラッセルを交替しながら進む。1600m まで厳しい急登が続いた。対岸の北東尾根の稜線に、単独ラッセルで進むボーダーを見た。少し急斜が落ち着き樹林を抜けると、後方に那須連峰の素晴らしい景色が広がる。また、右手には雄大な中ノ沢源頭、三ツ岩岳が巨体を現す。くっきり分かれた青と白のコントラストに、頂上へと進む我々の長いトレースが一本だけ浮かぶ。森林限界を越えると空がさらに近づく。

ジャンクションピークまで、再びきついラッセルの急登だ。CL 宮田さんと SL 新井久さんは、再び火がついたようにスピードを上げる。二人のシルエットが太陽に近づき空に吸い込まれて行くようだ。「追いつけない…。」心の中で寝不足や仕事で運動不足の言い訳が湧いてきたが、歯をきつく食いしばり噛み砕く。「さあ、行くぞ。」胸の鼓動が鳴りやまないまま、ジャンクションピークを登り詰めると、守門や浅草、日本海側の頂の景色が広がった。2 人のトレースは平らな稜線をさらに奥へと向かって

いる。

西からの厳しい寒風に顔面を叩かれながら、後を追ってさらに頂上へと進む。正面には会津駒ヶ岳。中ノ岳や越後駒も見えた。頂上は平らな稜線上に不意に現れる。風が強い。写真を撮り防寒対策をして、すぐにドロップポイントまで戻る。風の弱まる場所を見つけ、素晴らしい景色を見ながら皆で揃って昼食を取った。次第に元気が蘇る。

下りの斜面には今年一番のパウダースノーが約束されている。きつくバックルを締め、無木立の大斜面に 4 本のシュプールを刻んだ。皆で振り返りシュプールを見上げる。あまりの爽快さに感極まって笑いが止まらない。登りの辛さが吹き飛ぶ。福田さんのシュプールが一番細かいターンだ。良質のパウダースノーはまだまだ続く。青と白が眩しい。40 度の急斜面はオーバーヘッドのパウダースプレーに興奮した。中ノ沢まで下りると、単独ボーダーが後ろから降りて来た。ここから登山口まではなだらかな雪田を滑る。今日は最高の日だ。山にも天気にも一日中恵まれた。

下山後は小豆温泉窓明け湯で汗を流し、SL 新井久さんは翌日の山行に向け、一路長岡に向かった。我々 3 名は途中の道の駅で旨い蕎麦を食べて帰路に着いた。

(所感)

完全燃焼でした。おかげさまで、最高に素晴らしい山行ができました。またとない環境の中、3 名の先輩方と山に刻んだトレースとシュプールは、自分の思い出の中にもしっかりと刻まれました。ありがとうございました。

霊仙寺山

福田和宏

山域山名：飯縄山系・霊仙寺山(長野県)

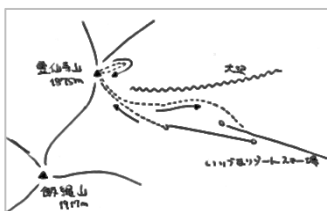
期日：2015 年 2 月 11 日(水)

参加者：CL 宮田 SL 橋本健 福田 栗原聡 菅谷 (計 5 名)

行動記録：江南(5:00)=いいづなりリゾートスキー場 (7:50)=スキー場 TOP1480m(9:20)→霊仙寺山

1875m(10:15/10:55)～屏風沢源頭 1740m 滑降&登り返し→霊仙寺山(11:35/11:55)～1280m(12:30/12:40)～スキー場

<天候:晴れ>



天気の良い祝日の早朝、熊谷市江南のローソンに5人が集合。キャリアにスキーが4台

しか積載できないので、橋本さんが持ってきてくれた1台用のアタッチメントをプラスして装着、便利なものですね。これで5台のスキー板をのせて、『いいづなリゾートスキー場』へと向かうことになります。祝日ではあったものの、順調に高速道路も流れていました。

スキー場の駐車場も混雑することなくスムーズ。リフトの運転開始をレストルームでゆったりと待ちました。パトロール詰所に、宮田チーフリーダーが登山届けを提出し、リフト2本を乗り継ぎました。

いよいよシールをつけて登山を開始。穏やかな晴天に恵まれ、誰もまだ入っていない展望の良い尾根を一步一步登っていきます。リフトの力は偉大ですね。おかげで、霊仙寺山山頂までは標高差400m弱です。一気に山頂に到着です。ラッセルは多少の差は大きかったのですが、1回はそれなりに全員が担うことができました。頑張ったものの、一番距離と高さをかせげなかったのは私であることはご想像の通りです。

雪の質も良かったです。樹木が密になっていない楽しそうな東面を一本、皆がそれぞれのスタイルで楽しみました。滑降時間が実質最も短い直線的な滑りは菅谷さんでしょうか。綺麗なシュプールを残すのは栗原さん。アルペンにはない華麗な足さばきを披露してくれたのは橋本さん。今回も雄叫びが山にこだましていたのは宮田さん。ボーゲンで最も大回りをするのが私です。

登り返して、もう1本いきたかったところですが、今回は半日行動なのでゲレンデへと下山します。山スキーに良さそうな斜面を見つけながらスキーを走らせました。また、次回が楽しみです。

一汗かいたあとの温泉もまた格別でした。私たちが半日行動した斜面が湯船からも望めます。心身ともにさっぱりとして、帰路につきました。

今回は、私事で夕刻までに帰宅せねばならず、行動時間を大幅に短縮する登山計画をつくってもらいました。好条件がそろっていたので、皆さんもっと山をたっぷり楽しめたかったことと推察します。恐縮しながらも、中身の濃い時間を過ごさせていただいたことに感謝です。お世話になり、ありがとうございました。

稲包山

宮田幸男

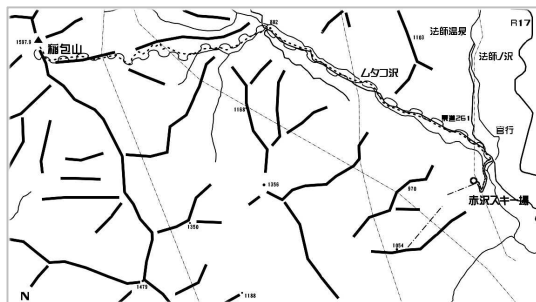
山域山名：上越国境・稲包山(群馬県)

期日：2015年2月14日(土)

参加者：L 宮田、菅谷(計2名)

行動記録：行田(4:30)＝官行 774m(7:30/7:55)→ムタコ沢林道→秋小屋沢橋 882m(8:45/8:50)→鉄塔東尾根 1310m(10:20/10:30)→第2鉄塔 1430m(11:05)→頂上直下 1582m(11:30)→稜線下 1520m(12:00/12:25)～秋小屋沢橋(13:10/13:15)→官行(13:35)

<天候:雪のち曇り>



上越国境稜線にある稲包山には、2010年1月に今日と同じく上州側の官行からと、昨年2月に苗場スキー場奥の湯ノ沢橋からの2回登っている。アプローチが長く、取り付く尾根も急で、ルートファインディングや他人のトレースもあてにできないため、35度超斜面の深いラッセルに耐えなくてはならず、ごく限られた山スキーヤーしか入っていない。その静けさが最大の魅力で、稲包山は自分にとって

お気に入りの山のひとつ。熊トレに入会して4シーズン目となった菅谷さんのラッセル修行も兼ねて、今冬でも最強の寒波襲来で吹雪となった官行から入山した。

駐車スペースを探したが、今日は大雪で除雪車の作業に邪魔になっては迷惑がかかるので、一段坂を上がった赤沢スキー場駐車場に駐めて出発。人が住む集落を過ぎると除雪はなくなり、林道をラッセルして進む。旧橋の上には積雪 2m 以上、今冬は寒気の芯がしっかりしているのか、上州側まで雪雲が流れてきている。林道脇の大きな岩?の隙間に動物の足跡が消えていた。覗き込むと、カモシカもこちらを見つめていた。巣穴の奥には集めてきたと思われる草が敷き詰められていた。人間だけでなく、動物も厳しい冬を越すのは大変だ。

さらに進むと秋小屋沢橋へ。ここから支沢左岸沿いに付けられた作業道に入る。順調に高度を上げて、ちょうど 1000m から巡視道がある切り開き斜面に取り付く。新雪下に硬いサンクラスト層があって、エッジが流れるのでクローを装着する。これがあるとないのとは雲泥の差だ。30 度以上はある急傾斜にラッセルトレースを延ばす。「今日はラッセル修行だぞ」と伝えてあったので、菅谷さんもいつにも増してがんばっている。一番辛い第 1 鉄塔まで標高差 200m を交代なしで登り切った。山スキーヤーはラッセルができなけれな一人前とは言えない。

登りながら雪質を確認していたが、今日はかなりヤバイ感じた。登りでもオープンバーンには入らないことを確認する。濃密な樹林帯に入り、急斜面の登行を続けて菅谷さんが先頭でキックターンを終えたところで、ワッフ音が聞こえた途端に足下の雪面がゆっくりと下に流れ出した。「雪崩だ」。立ったままズルズルと流され、止まらないと思い、下を見ると 2 本の中木があるので、板を平行にして木で止まろうとしたがテールが下に流され出したので、両手で木を掴む。流されるのは止まったが、雪が体を迫り上がるように厚みを増して、腰から胸、顔を覆いだした。何も見えなくなったところで体を押す雪の圧力が弱くなり、すぐに慌てて顔の雪を払い除けた。目の前に立っていた菅谷さんも雪を払

いのけていた。お互いの無事を確認。約 5m は流されたが、怪我をしないでよかった。菅谷さんのパンツは、雪の圧力で押しつけられて樹脂の茶色が付いていた。粉雪でさえ、雪崩れの圧力はすさまじい。

破断面を見上げると、キックターンをした場所から 15m ほど上部で、幅は 20m ほどに渡って雪面が切れていた。木に引っ掛かった雪崩層の厚さは約 30 cm。下山時にデブリを確認したが、長さは 50m くらいはあっただろう。濃密な樹林帯は樹木がアンカーになるので安全(だろう)と思っていたが甘かった。スラブを形成していない乾雪だから起きえた。そして点発生ではなく、微妙な結束性で面発生を引き起こした。上部で破断した箇所は、傾斜が変わる凸状になっていた場所だった。滑り面となりうるサンクラスト上に昨日から新雪が降り積もり、斜度 35 度以上の急傾斜の不安定な斜面での登行、キックターンが新しい積雪層にストレスを与え、凸状の弱い層で引っ張り破壊を起こした。

この斜面を登るのは 2 回目だが、前回 2010 年の時は降雪後数日経ち、気温も上がって不安定要素はほとんどなかったので無木立斜面を登行している。ルート確認時に地形図ですぐ上部が一番傾斜がきつくなっているのは認識していたのだが、まさかこの樹林で雪崩が起きるとは想像できなかった。八甲田でも苦い経験をしているのにだ。雪崩事故はこういう場所で起こる、山の神様からの警告だった。この先の行動に細心の注意を払うことになった。すでに気持ちは山頂下斜面の処理に集中した。

第 2 鉄塔を過ぎた辺りで、雪の中ぼんやりと稲包山が姿を現す。前回に見られなかった巨大な雪庇と、東面には大きな雪崩の跡が見える。今日はリスク最大だ。稜線に上がり、問題の山頂直下の斜面に出た。2010 年とはまったく雪の付き方が違う。現在地の標高は 1582m、山頂まで 15m を残すのみ。どのラインで登るか。今立っている斜面は風が抜けるのか、クラストで新雪はほとんど乗っていない。まっすぐ登りたいが、雪庇の踏み抜きが怖い。斜面の幅を使うスキーをデポして、坪足で少し左側に回り込むように登ることにする。5m ほどは雪質

に変化はなかったが、次第に新雪層が厚くなり太腿まで潜るようになった。これ以上は進めないと思った瞬間に、下方からワッフ音が聞こえて、下をよく見ると雪煙が上がった。やばい。撤退だ。トレースの足跡をゆっくり戻り、下山を伝える。

斜度が平坦な場所まで、板を担いで下りる。スキーを履いて、雪崩れた斜面を観察。破断面を見ると、30 cmから厚いところでは7, 80 cmはあるだろうか。ちょっとした斜面の違いで新雪層の厚さがまったく違う。この場所も凸状斜面で起きた。しかも末端方向は谷に落ちる斜面で巻き込まれたら、ただでは済まなかっただろう。



滑降前にお互いのビーコンチェックを行い、スコップもセットしてザックに入れる。必ず見える場所で一人づつ滑る、しっかりと姿を目視することを確認して滑降へ。緊張感ある滑降だったが、激パウを堪能した。往路の作業道を下って秋小屋沢橋へ出た。ムタコ沢林道はほとんど漕ぎだった。

今回は雪の状態が非常に不安定で、至る所で面発生雪崩が頻発し、頂上目前15mで引き返す判断をした。今日は頂上に立てる日ではなかったと戒めた。これも冬山だ。生きて帰ってくることが大事である。

セバトノ頭

宮田幸男

山域山名：上越国境・セバトノ頭(新潟県)

期日：2015年2月21日(土)

参加者：L 宮田、木下(計2名)

行動記録：湯ノ沢橋 940m(7:45)→旧三国スキー場

ベース 1150m(9:10/9:20)→西沢ノ頭肩 1590m(10:50/11:10)→湯ノ沢 1450m(11:25/11:35)→スノーブリッジ 1500m(11:55)→JP1820m(13:00)→セバトノ頭 1890m(13:30/13:55)→JP1820m(14:10/14:25)→スノーブリッジ 1500m(14:40 14:50)→湯ノ沢 1450m(15:10)→西沢ノ頭肩 1590m(15:25/15:45)→旧三国スキー場ベース 1150m(16:05)→湯ノ沢橋 940m(16:25)

<天候:快晴>



昨年1月の西沢ノ頭、2月の稲包山を単独でトレースしながら、ひと際輝く真っ白な山容を眺めてから、次は湯ノ沢源流域に入りたいと思っていた。雪が締まったザラメ期には、一部の雪山登山者がこの山域に入っているが、厳冬期の記録は希だ。一日好天が約束されたこの日、メジャーな山域の喧噪が嘘のように、湯ノ沢源流域は人間の匂いはまったくしないだろう。5時間を超えるラッセルは辛かったが、狙いどおり、セバトノ頭の頂きは静寂そのものだった。

冬型が解消した放射冷却の朝は冷える。気温-11℃。ロッジ街からさらに除雪はされているが、奥に駐車スペースはないので苗場スキー場日帰り駐車場に駐める。今年から、休日のみ料金(500円)を取られるようになったが、お金を払えば逆に堂々と駐められる。

除雪最終点のプリンスホテル焼却場からラッセル開始。今日も真っ新な雪面には、先行者のカモシカトレースだけだ。林道(みただが立派な国道353号)のカーブミラーは、今年のも雪で埋まっていた。約1時間半かけて三国スキー場跡地へ。シンボルのちょうちん岩がまぶしい。

刈り払われたグレンデ跡地を登る。背後には、平標山やカイ沢が正面に見える。人気エリアは、大

拳山スキーヤーが押し寄せているだろう。その右の仙ノ倉山は意外とどデカイ。尖ったエビス大黒ノ頭と万太郎山、大源太山の奥の先鋒は川棚ノ頭。西稲包山の尾根は雪庇だらけだ。この景色はいつみても素晴らしい。コルから尾根を登り西沢ノ頭肩に上がると、やっと真っ白な山が見えた。西沢ノ頭からセバトノ頭の間に連なる 1852m 峰だ。よし、あの沢をつめるぞ。

肩から湯ノ沢までは 150m のブナ林滑降。今年は雪が多いので湯ノ沢は完全に埋まっているかと思っただが、しっかりと水が流れていた。沢の状況をみながら左岸をトラバース気味に登る。斜面には両手を広げたような立派なダケカンバが、横綱の土俵入りをしているようだ。1490m のブリッジで右岸側に渡る。その先の 1500m 二俣は広場で、奥には大雪崩で斜面がズタズタになった 1852m 峰が見える。

ダケカンバの影絵を踏み、シュカブラで波打った沢を抜け、デブリをいくつも越えて、いよいよ源頭らしくなってきた。背後の西沢ノ頭はまるでピラミッドのような三角錐だ。湯ノ沢をつめ上げると、上越国境稜線だ。遠くには浅間山、右手には苗場山と神楽ヶ峰、そして間近に見える稜線は、左から上ノ間山、忠治郎山、上ノ倉山。その奥には白砂山も見える。この稜線もスキーで巡ってみたい。

大展望を楽しみながら、素晴らしき国境稜線に贅沢なトレースを刻む。人の背丈もある波打った巨大シュカブラを越え、針葉樹林帯を最後のラッセルしていくと、ついにセバトノ頭に立った。きっと、今シーズン初の登頂でしょう。5 時間を超えるラッセルの末の頂きに、ふたりで感慨に浸る。

稜線はアップダウンがあるのでシールで下る。JP でシールオフして滑降モードへ。右手に広がる上州側の木根宿沢源頭も素晴らしい斜面だ。落ちていきたいが、時間がないので今日は尾根を下る。1766 ピーク下から狙っていた北面ドライパウダーをゲット。今日のご褒美は一瞬で終わり、沢底まで下りるとサンクラストモナカとなった。シールを付けて西沢ノ頭肩に登り返す。昨年トレースした西沢源頭ルートも行きたかったが、今日は時間がおしていたのでパスしよう。

肩から黄蓮沢源頭斜面にドロップ、良質のパウダーが迎えてくれた。旧三国ゲレンデに合流し、リーゼンから未滑降のしゃくなげコースを滑る。最後は、嫌になるほど長い国道 353 号ボブスレーコースでロッジ街に滑り込んだ。

今日は、静寂の湯ノ沢源流をトレースできて最高の一日だった。

博士山

菅谷孝道

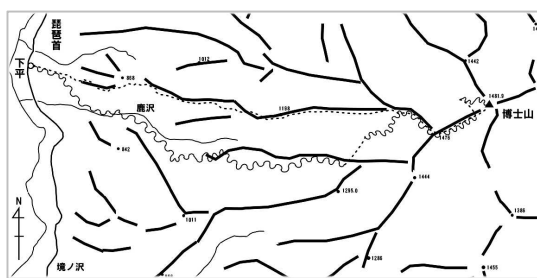
山域山名：南会津・博士山(福島県)

期日：2015 年 2 月 28 日(土)

参加者：CL 宮田、SL 栗原昌、栗原聡、菅谷(計 4 名)

行動記録：羽生 PA(4:40)=琵琶首下平 650m (8:45/9:10)→868m 尾根(9:40)→鹿沢右岸尾根 1000m(10:15/10:25)→1476m 尾根稜線(11:50 11:55)→博士山頂上(12:05/12:45)～大谷滝沢源頭 1360m 地点(12:55/13:05)→1476m 尾根稜線(13:30/13:40)～鹿沢源頭 1250m 地点(14:05/14:10)→鹿沢左岸尾根 1330m 地点(14:25/14:55)～琵琶首下平 650m(15:40)=会津若松=湯野上温泉

<天候:曇のち晴れ>



再び寒気到来で、東北地方や日本海側では未明まで大雪となった。安全を考慮して、ブナ林の美しい博士山で、今季最後になるかもしれないパウダースノーを満喫すべく、早朝に自宅を出発し南会津を目指した。翌日仕事のため、私一人日帰りの予定で参加。先輩方三名とは東北道羽生 PA で待ち合せた。西那須野塩原 IC で一般道に下り、凍結した庄雪路の R400 を会津田島経由で R401 へ進み、

県道 32 号を琵琶首下平まで行く。道路脇の除雪スペースに数台駐車できるスペースがある。既に乗用車が一台駐車してあった。

取り付け点には、杉に囲まれた小さな社があり分かり易い。平坦な雪原をしばらく進み、正面にある支尾根に取付く。まずは 868m ピークを目指し、単独の先行者のトレースを追うように進む。下部は痩せ尾根で、急斜面が連続する。新雪の下はクラストしていて登りにくい。大汗をかきながら進む。雪質も良く変わる。風に叩かれたのか、硬いクラストの斜面や、柔らかい新雪もあり、雪底の踏み抜きに注意する場所もある。1000m 付近まで薄着で来たが、だんだん周囲も雪化粧したブナ林へと変わり、雪質も良くなってきた。気温も低めで、風の音が心地よい。雲の隙間から日が差すと、ブナ林の神秘的な空間がキラキラと輝きだす。1476m のピークに来ると、博士山の頂上をすぐそこに見ることが出来る。稜線でようやく先行者に追いついた。沢胡桃に所属する女性だった。途中で拾ったオーバーグローブを見せると、この女性が落としたようで喜んでた。私も肩の荷が下り、ホッとした。無木立の稜線を大きな雪庇に注意しながら進むと、すぐに頂上に着く。360 度の素晴らしい景色が広がる。今秋登った二岐山も良く見える。那須連峰から会津若松、尾瀬隧や会津駒まで。

頂上で景色を楽しみながら昼食を取った後は、大谷滝沢源頭の北西面を 120m 程滑る。さすが南会津。期待していた通りのパウダースノー。不安定な雪質と地形を避け、再び稜線に登り返す。霧氷に覆われたブナ林はとても綺麗で、まるでアナが魔法で創ったようだ。稜線から南東に見える 1455m ピークや黄金沢源頭部も魅力的で、CL 宮田さんの次回のターゲットとなったようだ。博士山には面白そうな斜面が沢山ある。雪質も良いので期待は大。今度は鹿沢源頭まで、およそ 230m パウダースノーを楽しむ。再びシールオンして、対岸の鹿沢左岸尾根にトラバース気味に登り返す。少し休憩してから、尾根上を鹿沢に沿って下る。高度を下げるると急斜面の悪雪となり、密な樹林帯を自然のトラップに注意しながら滑る。怪しげなスノーブリッジを無事に渡り、地図に出ていない林道にたど

り着く。これもリーダーの読み通り。平坦な林道を漕ぎながら下り、橋を渡り、最初の雪原に戻ると、起点の神社と県道脇に駐車した乗用車が見えた。既に単独女性の乗用車は出発していた。おそらく登ったルートを滑り降りたのだろう。

帰りの準備を整え、気合を入れ直し、一人帰路に着こうとしたが、眠気と戦いながら悪路の長距離運転は自信がない。せめて温泉でさっぱりしてから帰りたい。本日、湯野上温泉に宿泊予定の先輩方は会津若松経由で宿に向かうという。良かったら、一緒に宿泊して翌朝早い時間に帰宅したらどうかとお誘いに、つい甘えてしまった。宿に確認して下さったので、図々しいとは思いながらも、飛入り参加させて頂くことにした。これがとても良い選択だった。名湯、湯野上温泉の宿は、温泉も料理も素晴らしい。先輩方からお酒もご馳走になってしまった。すっきり熟睡した翌朝、元気に宿を後にした。幸い道路状況もすっかり改善していた。

博士山とは不思議な名前ですが、お陰様で気持ちの良いブナ林の山スキーが出来ました。湯野上温泉にも宿泊させて頂きありがとうございました。

小野岳

栗原聡子

期日：2015 年 3 月 1 日(日)

山域山名：南会津 小野岳

メンバー：L 宮田、栗原昌、栗原聡(計 3 名)

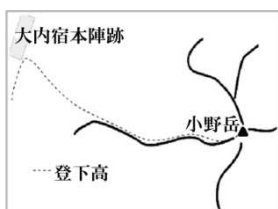
行動記録：大内宿 650m(8:55)→西尾根鉄塔 820m(9:50)→970m(10:10/10:20)→1097m(10:40)→1200m(11:00/11:10)→小野岳 1383m(11:30/12:00)→大内宿 650m(12:50)

<天候:曇り>

湯野上温泉の民宿で朝食をたっぷり食べた後(つやつやのご飯が美味しかった!)、大内宿へと向かった。湯野上温泉側から見た小野岳は、威圧的に立っていてとてもスキーで登れそうにないが、大内宿側からはゆるやかに尾根が延び優しい里山の雰囲気表情を変えていた。大内宿の無料駐車スペースは除雪があまり進んでおらず、邪魔になら

ないよう配慮して
駐車した。

午後から雨予報
のため昼頃に下山
予定としたが、地
形図では効率よく
高度が稼げそうに



見え楽勝でしょ〜♪とこの時は思っていた。まずは
西尾根の鉄塔を目指し、無数の小動物の足跡を眺
めながらのんびり広い田んぼを横切った。田んぼ
が切れたところから斜面に取り付いたが、斜度が急
なうえに樹林も密なため、ひとまず尾根に乗り上げ
るまで担ぐことに。しかしツボになったとたん腰ま
で雪に潜ってしまい、ほんの5メートル程進むのに
暫くジタバタもがいてしまった。こりゃたまらん! と
シール&クトーで何とか急斜面を縫うように登りあ
げた。

汗だくで登りあげた西尾根は、地形図からイメー
ジしていた様子とは異なり、段差や穴が無数にあり
なかなか真っ直ぐには進ませてくれなかった。雪
質も全く楽しめる状態ではなく、復路の滑降を思う
と当初の楽勝気分はどこへやら……。山頂直前ま
で殆ど眺望のない樹林を進んだが、山頂はぼっか
り広く開けていて向こうに会津若松の街が見えた。

滑りは予想通りの展開となり、恥ずかしながらシ
ュテムとキックターンと木の葉で全て下ってしまっ
た。転倒しなかったのは奇跡的と言えよう。修行と
しか表現できないが、色々な経験ができて勉強に
なった山行だった。油断してただけに「修行系
小野岳」の印象が強烈で、前日の素晴らしかった
博士山の記憶が吹っ飛んでしまった事だけが残念
でならない。

下山後は大内宿でお蕎麦と天ぷら(饅頭の天ぷら
が美味!)を食べ、再び湯野上温泉でゆっくり汗を
流してから帰路についた。雪山も食も温泉も、とて
も充実した南会津の旅だった。(栗原聡記)

県連山スキーネット 四阿山

木村哲也

山域山名：四阿山(長野県)

期日：2015年3月8日(日)

参加者：CL 宮田

A パーティー SL 石川 SL 橋本健 橋本義 平
岡 新井浩 木村

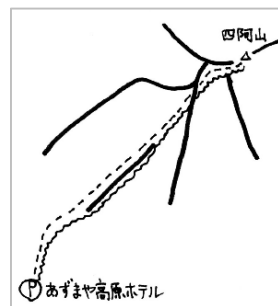
B パーティー SL 木下 SL 栗原昌 高橋仁 駒
崎 花森 栗原聡 金子

アルパインクラブ NPO さいたま 上野 泉 森田
(A パーティー)

登攀クラブ岩つばめ 目崎 森田 (B パーティ
ー)

行動記録：あづまや高原ホテル駐車場
1450m(8:25)→牧場(8:55)→1820m(9:45/9:55)→
2100m(10:40/10:50)→四阿山山頂(11:45/12:30)→
あづまや高原ホテル(14:10)

2015年3月8日
(日)、山スキーネット
交流山行が四阿山
にて行われました。
今年はアルパインク
ラブ NPO さいたま
より3名が初参加、



また岩つばめより以前にも参加された2名、所沢
ハイキングクラブの方は体調不良とのことで残念
ながら不参加でしたが、熊谷トレッキング同人の
14名を合わせて合計19名の大人数となりました。

あづまや高原ホテルの登山者用駐車場に全員集
合し、自己紹介の後、出発しました。人数が多い
ので、パーティーを2つに分けて行動しました。
天候は曇りで思ったほど悪くないようでひと安心で
すが、気温が高くすぐに汗が噴き出してきました。
林道を30分程進むと牧場に出て、広い雪原の中を
夏道の尾根を目指して登っていきます。ガスがか
かり展望はほとんど無いので黙々と進むしかあり
ません。途中2回休憩を挟みながら順調に高度を
稼ぎ頂上稜線の一角に出ました。ここから山頂ま
では尾根が細く、スキーを脱がなくては厳しいかと予
想していましたが、今年は雪が多く山頂までスキー

のままで全員到達することが出来ました。

山頂で昼食休憩を摂った後、いよいよお楽しみの滑降です。この時期は晴れると重雪に悩まされる事が多いのですが、今日は曇りのため雪が腐らず程良い締まり雪で快適な滑降が楽しめました。NPO さいたまの皆さんはショートスキーで、雪稜を登攀して帰路スキーで滑降してくるスタイルとの

こと。そういう楽しみ方もあるわけですね。途中では偶然にも N 氏とも遭遇しました。最後まで雪質はまずまずで滑降を楽しんで、全員無事下山となりました。

初参加の会もあり、楽しい山行でした。



コーヒータイム

福井の休日

青木 理

10 月の人事異動で、平日の飲み仲間・休日の遊び友達が福井を去ってしまい、暇を持て余さないために山登りに出かけた。目的地は福井県唯一の百名山荒島岳。コースタイムが 6 時間くらいのため、山経験がない友達を誘うのは気が引け、なかなか登れずにいた。

10 月初めの土曜日に、福井のアパートを 6 時前に出発。1 時間弱で勝原スキー場後の駐車場に到着、車は 20 台ほど。人の少ない福井にいと、車の数は多く感じる。ほとんどが県外ナンバー、自分も熊谷ナンバーなのでその仲間か・・・。6 時 45 分に駐車場発、ゲレンデ跡地のコンクリートの道を直登する。30 分ほどでスキー場最上部へ、そこに荒島岳登山口の標識がある。一汗かいた後なので、登山口という標識には若干違和感を感じる。

ブナ林の中を快適に登り、トトロの木なるブナの木をわきに見る。白山の眺望がある場所には休憩用のベンチがある。きつめの尾根を登り切るとシャクナゲ平、小荒島岳との分岐点だ。荒島岳へはあと 1.5 km。前荒島岳手前の急な登りに入るとガスの中に入ってしまうが、ナナカマドの赤い実が映える。山頂着は 8 時 35 分、うつすらと紅葉が始まっているが、残念ながら眺望はゼロ。頂上の標識と祠を写真に収め即下山。ガスの下に出ると、大野と勝山の街がよく見える。一人なので走るように下りる。山岳部時代はこういうのをバーゴンって

呼んでたな～。駐車場着は 10 時 15 分、調子に乗って走り下りたのでもが痛い。

まだ時間があるので、もう 1 か所行きたかった場所、刈込池に向かう。勝原駅から林道を 30 km ほど進むと、登山口である小池公園キャンプ場の駐車場に到着。ここから 700 段弱の階段を 50 分登る。ものの筋肉が限界でつる寸前なので、休み休み・・・。刈込池は願教寺山の山麓の幅ヶ平にできた高原性の湖沼で、標高 1140m にある周囲 400m の池。周りの木々と三ノ峰が水面に写り、絵葉書のような景色。紅葉の時期はものすごく混み合うようで、2 週間後の福井新聞には 1 面に刈込池の紅葉が掲載されていた。(ネットで「刈込池 紅葉」と検索すれば見られますよ～)

帰りに林道の途中にある鳩ヶ湯温泉に立ち寄り、汗を流す。2 年前に主人が急逝し廃業したが、岐阜の会社経営者が買い取り営業再開予定だったが、昨冬の雪で宿部分の建物が倒壊。風呂の建物のみは倒壊を免れ、先日のシルバーウィークより日帰り入浴で営業を再開したという、災難続きの冷鉱泉だ。最初に入った時に先客が 1 名いたが、その後は昼過ぎだったせいか 1 時間弱一人でじっくり入浴する。さすが福井、人が少ない。こうして、奥越の 3 つの名所を満喫した 1 日でした。

翌日は、職場の人にチケットをもらったので、片山津ゴルフ倶楽部へ日本女子オープンゴルフを見に行ったが、ものすごい筋肉痛でくねくねしがらビール片手にゴルフ場を歩き回った。小松空港の真横なので飛行機も真下でたくさん見られたし、充実した休日だったな～～

佐渡山

福田和宏

山域山名：北信・佐渡山(長野県)

期日：2015年3月12日(木)

参加者：L 宮田、福田(計2名)

行動記録：北本(4:30)=大橋 1140m(8:10/8:35)→林道分岐 1270m(9:25)→佐渡山 1827m (11:45/12:20)～西面滑降 1610m 登り返し→山頂稜線 1780m(13:05/13:25)～林道分岐(14:00)→大橋(14:10)=戸隠神社中社お参り&神告げ温泉入浴・食事=北本

<天候:雪>

今シーズン最後のパウダースノーを求めて佐渡山に出かけてきました。昨日までに新雪がおよそ 30cm 積もり、粉雪を十分堪能してきました。気にかけていたアプローチの道路状況も問題はありませんでした。風次第で、飯縄山南面を視野



に入れていたそうですが、佐渡山を選択し、行動中も微風・無風そして粉雪……。大正解の山スキーとなりました。毎回の事ながら宮田さんのルート選択はすごいですね。神のお告げでもあるのでしょうか。

1140m 付近、大橋のそばの空き地に駐車します。5 台程度は停められるスペースには一台も車はありません。天気は曇りでしたが、この日、下山後にもどっても朝の状態のままのプラドが一台あるのみでした。さあ出発です。昨日の物と思われるトレースがうっすら残っていました。宮田さんは、先頭でいつも雪をかきわけながら進みます。なおかつ休憩を時折いれながらの状態であっても、私はいつもはるか後方です。ラッセルを担う前に大きく離され、先頭に立つ事がめぐってこない状況です。でも、今回は、傾斜がほとんどない林道がしばらく続いてくれたおかげで、ちょっとだけ、役にたったかも知れません。ただ、その分ペースは大幅に

ダウンしてしまうのですが……。

山頂はマイナス 6℃、雪が多少舞っていましたが、視界は確保されていました。風も穏やかで、ここで昼食。そして、滑降を楽しむ準備をします。山頂の東面は、登っているときから見えていましたが、大きく雪庇が張り出しています。踏み抜いたら奈落の底へ落ちてしまうでしょう。そこで、西側の高度差約 200m の斜面に飛び込みました。この滑りが、もしかしたら私の山スキーの経験の中で、3 本の指に入るであろう素敵な雪質でした。滑りながら、自分が巻き上げた粉雪が顔面の視界を奪ってしまうヘッドオーバーの連続です。初めての経験でした。静寂な山中にあって、聞こえるのは、宮田さんの激パウダーを滑降する際の雄叫び。そして、私が、木に激突しそうな時の悲鳴のみでした。

滑りを十分堪能した分、次に待っているのは登り返し。でも、いい滑りをした分、自分の刻んだシュプールを見ながら辛い斜面もシールでなんとか頑張れます。往路にもどり、しばらくしてもう一本、短いながらも滑降を楽しみました。今度は、往路にもどるのに、シールを付けない状態でのトラバース。これは、なかなか辛いものがありました。まさに、人間ラッセル車といった感じです。板をはいた足を体重をかけて前に動かすのですが、雪の何とも重いこと。膝程度の深さですが、私のももの筋肉は悲鳴をあげていました。高校時代、宮田さんとともにわかんをはいて腰まで雪に埋もれながら上州武尊で一日数百 m もがいて、五日間もかけて踏破した頃を懐かしく思い出した山行でした。あの頃は若かった。

スキーと温泉と料理を堪能した至福のひとつとき。お世話になりました。ありがとう。

妙高前山

新井浩二

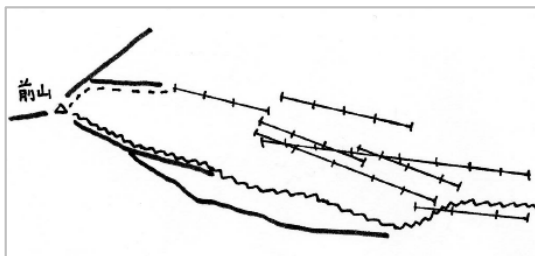
山域山名：妙高前山 滝沢尾根

期日：2015年3月15日(日)

参加者：木村、駒崎、新井浩

行動記録：江南(5:00)⇒赤倉スキー場(8:00)→

TOP(9:25)→前山 1932m(11:00/11:40)→滝沢尾根
→スキー場(13:10)→赤倉温泉→黒姫蕎麦→江南
(19:40)
<天候:快晴>



3月の雪は重くて滑りにくい。ということで敬遠をしていたが、今シーズンの調子の良さから行くことに。ゴンドラ、リフトを乗り継ぎスキー場 TOP へ。雲ひとつない快晴。暑くなりそうなので、上着を脱いでシルを張って登り始める。日が当たって雪が重くなってきている。しかし、しばらく登るといい感じになってきた。

写真を撮りながら1時間半で前山山頂へ。妙高山と地獄谷の噴気、眼下に広がる景色をみながらのんびり。地元のスキーヤーが登って来てしばし雑談する。滝沢尾根のはじめは狭いが、ちょっと滑ると幅広い快適バーンで雪もこの頃としてはなかなかよく、樹間を適度に飛ばす。スキーがうまくなったような感じがするのは気のせいかな。

途中ブナの大木のところで小休止。快晴できれいなブナ林は写真が映える。後半は雪が重くなってきたが快適に高度を下げる。高度を確認しながらスキー場への渡渉点を探しながら滑り、無事スキー場へ。ちょっと物足りないが、満足満足。この後、赤倉温泉の旅館で温泉に浸かり、黒姫蕎麦を食べてから帰路につきました。

蓬沢

宮田幸男

山域山名：上越国境・蓬沢(新潟県)

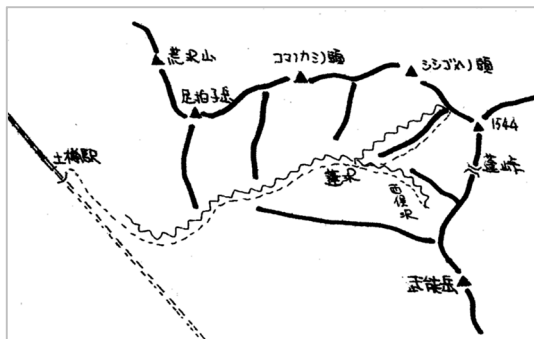
期日：2015年3月15日(土)

参加者：L 宮田 福田、菅谷(計3名)

行動記録：北本(3:00)=土樽駅 600m(5:40/6:05)→

蓬沢 940m(7:40/8:00)→シシゴヤ頭東方稜線
1450m(9:30/10:00)～蓬沢 940m(10:40/11:20)→
西俣沢 1250m(12:05)・・・雪崩埋没救出・・・右岸尾根
1150m(13:00)～土樽駅(14:00)

<天候:快晴>



3月も中旬となり少しづつだが雪山も春めいてきた。そろそろ長いツアーをしよう、ということで蓬沢越えを目指し、夜明けの土樽駅に到着した。まだ、三日月が明るいなか林道を歩き始める。谷川連峰随一の名山とっていいだろう、万太郎山が朝陽を受けて輝いている。万太郎谷に向かう道と分かれて、左の蓬沢へ向かう。蓬沢の道は、足拍子岳、クロガネノ頭、コノカミノ頭と標高は1500m 足らずと低いが、急峻なピークが北側に続く。バックには平標、仙ノ倉のたおやかな稜線は、上州側から滝雲が流れ落ち風が強そうだ。沢の中も時折、強風が抜けていく。

先行トレースは蓬沢を詰めているようだが、稜線下で視界が遮られそうで、雪崩が出たら避けられないので、セーフティなシシゴヤノ頭稜線ルートを取る。尾根取付に張り出した大きな雪庇に注意しながらルートを切る。樹林帯の急坂を登り切ると、雪面はウィンドバックシュカブラで、見上げるシシゴヤ稜線は雪煙が舞っている。対岸の武能西尾根も雲に覆われている。国境稜線はどんな風が吹いているだろうか。時々突風が吹き抜ける、その都度耐風姿勢を取りながらルートを延ばす。無木立の斜面を登り、最後の雪壁を突破して稜線へ。

深く切れ込んだ北沢の向こうに、急峻な大源太山が目飛び込む。上越のマッターホルンと呼ばれるだけある。七ッ小屋山から谷川岳に連なる国境稜線は相変わらず黒い雲に覆われている。午後から回復の予報は出ているが、今の風の強さ、上州側

の視界、雪面の状況など諸々を考えて、今日の峠越えはやめよう。

では、ドロップ開始。眼下のバックパウダー斜面にシュプールを刻む。左の小尾根が登路ルートだが、シシゴヤ南面偵察も兼ねて、スキーヤーズライトの斜面へ。バックパウダー、ハードシュカブラ、アイスバーンと雪面がめまぐるしく変わる。滑りやすいラインを探してトラバースして、3回目に止まった数秒後に雪崩誘発。5, 6mほどズルズル流されて、こんもりとした平場の樹林で止まった。20m先の沢地形の雪崩は一段下まで流れていた。破断面は幅 100m 弱、スキーカットした斜面から 10m 上部、おおよそ 5m 以上うしろにいた二人は巻き込まれなかった。破断最上部はスキーカットした場所より上に延びている。ハードスラブだったので、遠くまで伝播していた。二人は雪崩の流れ方をよく見ていて、二波落ちたと言っていた。写真でよく見ると、破断面は二層になっていた。最初に厚い層が落ちて、続けて、下層の薄い層が落ちたのだろう。奥の大きなデブリは二波目だったらしいので、走路の長い本流が遅れて流れた際に、合わせて薄い層が落ちたのかもしれない。感覚的にすぐ下に樹林がある場所で止まる癖が染みついているので、それほど流されずに済んだが、これも運なのかもしれない。無用なトラバースは禁物だ。今日はどこで雪崩れてもおかしくない。

シシゴヤ南面は回避して、安全なルートを選んで蓬沢まで滑降する。沢には滑降シュプールがあったので、先行者はすでに下山したようだ。時間はまだ十分あるので、午後は蓬沢の偵察へ向かう。二俣でイ沢に行くか、西俣沢に行くか思案。稜線まで行くつもりはないので、広い西俣沢を覗きに行くことにする。稜線から吹き下りる風で、沢の中にウインドシュカブラができていた。支流からは大きなデブリもあり、ここも条件が悪そうだ。

昼食休憩中に登っていった単独スキーヤーが、我々の上の西俣沢を登っていた。どこまで行くのだろう、と思っていたら、(自分は見えていなかったが)後続の二人から雪崩に流されたようだ…との話があった。マジか?と歩を早めるが、トレースは消え、シュカブララッセルもあって、ペースが上がる

らない。デブリを見ていくと、黒い点が動いたので、何とか彼は這い出たようだ。とりあえず、できるだけダッシュで登る。近づいてみると、ザックからスコップは出したものの、片方のスキーとストックを失い、腰上から下が埋まり解放していないスキーが体と逆方向に向いているようで、自力ではスコップで掻くこともできず、動けない状態のようだった。

登っている最中からスコップ指示を出していたので、すぐに掘り出し開始。板を掘り当て、金具から足を解放する。ただし、TLT はレバーを上げて靴をロックから外すので結構ひと苦勞した。この点はディアミールの方が有利だ。このあと、外れて失ったスキー板とストックを見つけて掘り出す。怪我もなく、無事に救出できてよかった。もし、骨折でもしていたら、ヘリを要請だろう。

単独行はいつもにも増して、細心の注意と警戒心が必要だ(再認識)。破断面は左岸の側壁で、吹きだまった側面ごと落ちてきたようだ。シール登行中だと、逃げようにも逃げられない。

救出したあとは、すぐに安全な尾根樹林帯に移動。今日はいろいろあった。間食をとって、下山開始。我々のトレースも、すでに風でバックされていた。蓬沢に合流し、土樽を目指す。朝にはなかったデブリが至る所に出ていた。林道の除雪点でスキーを脱いだら、峠越えのあと乗るはずだった土合からの電車が通過していった。今日は不完全燃焼だったが、これもよしとしよう。土樽からは来週目指す仙ノ倉山北面が見えていた。

仙ノ倉山ダイコンオロシ沢

宮田幸男

山域山名：上越国境・仙ノ倉山(新潟県)

期日：2015 年 3 月 21 日(土)

参加者：CL 宮田 SL 木下 福田(計 3 名)

行動記録：火打峠 980m(8:30)→ヤカイ沢 1390m(9:30/9:40)→左岸尾根 1650m(10:15/10:25)→仙ノ倉山 2026m(11:50/12:35)～シツケイ

の頭 1740m(13:00/13:15)～大根下シ沢 1090m
(13:50/14:10)～仙ノ倉谷～群大ヒュッテ(14:25)～
毛渡橋 554m(15:00/15:25)=<タクシー>=湯沢駅
(15:40/16:00)=バス=火打峠(16:35)

<天候:快晴>



今日は絶好の快晴、仙ノ倉山北面のダイコンオロシ沢を目指す。3月下旬というのに、登山口別荘道の雪壁はまだ高い。通い慣れたいつものヤカイ沢に入る。ヤカイ右沢はまだデブリがなくきれいだ。左岸尾根手前で雪面が硬いのでクートを装着。今年は雪が多く、稜線直下のブッシュの上を歩くことはなかった。

平標山はパスして仙ノ倉へのコルに向かう。稜線コルから仙ノ倉山頂の間の前衛 2021 ピークは、北側の波打ったガチガチ斜面を巻く。最後の急斜面を登ると仙ノ倉山頂だ。シッケイ沢や東ゼンを狙う山スキーヤー、仙ノ倉北尾根をトレースする登山者がいて、さすがは岳人を引きつける好ルートを擁する仙ノ倉の頂きは賑やかだ。しばし 360 度の絶景を眺める。一番の勇姿は毛渡沢を挟んで対峙する万太郎山だろう。

次々と岳人が各ルートに散っていく。では、我々も行こう。まずは、北方の三ノ字沢頭に移動して、眼下のシッケイノ頭を目指す。北面バーンはシュカブラ混じりの波打ったガチガチアイス、斜度は 40 度あるので、絶対に転倒は許されない。微妙なエッジングと横滑りの技術を駆使する厳しい下降だった。250m 標高を下げると、やっと雪面も緩んで気持ちのよいターンを刻む。シッケイノ頭から見上

げる仙ノ倉山は圧倒的だ。

頭からは仙ノ倉北尾根をトレースして、ダイコンオロシ沢のエントリーポイントの 1627m ピークへ。細い稜線の東側は巨大な雪庇とクラックが入っているので、西側斜面にルートを取る。まだ日射が当たらず、ここもアイスバーンでこの処理が核心部だった。

眼下には仙ノ倉谷まで一直線のダイコンオロシ沢が見える。今年の多雪と急に気温が上がったためか、沢は源頭部を除いてほとんどデブリで埋め尽くされていた。源頭部のフラット斜面をかつ飛んだ後は、右岸側からデブリラインを何本も乗り越える。上部からの新たなブロック雪崩にも要警戒だ。下部は気温もあがりグサグサの重雪へ。汗びっしょりになってデブリ末端の沢底に下りる。そこらじゅうの側壁から落ちる雪崩は恐ろしいほどだ。

大休止したあとは西ゼンからのトレースに合流し、仙ノ倉本谷を流す。群大ヒュッテ下から振り返ると、仙ノ倉北尾根とダイコンオロシ沢エントリーポイントが見えた。林道の除雪はまだ始まっておらず、スキーを脱ぐことなく毛渡橋に下山した。

タクシーを呼んで湯沢駅まで移動し(運賃 3030 円+板代 100×3 本)、駅そばを食べてから苗場行バスに乗り込む。平標登山口までは、運賃 600 円+板代 100 円。シッケイ沢のような雄大な大斜面滑降はなかったが、眺望抜群の北尾根を下降して、変化のあるルートだった。

浅草岳と坂戸山

新井浩二

山域：新潟県 浅草岳(1,585.5m) 坂戸山(634m)

期日：2015 年 4 月 18(土)～19 日(日)

参加者：L 木村、橋本義、豊島、駒崎、新井浩、花森(4/19)

4/18(土)坂戸山

江南(7:00)⇒六日町 IC⇒坂戸山駐車場(9:20/9:40)
→鳥坂神社(9:45)→薬師尾根→坂戸山
(11:45/12:30)→薬師尾根→駐車場(13:45)⇒民宿
(魚沼市須原)(14:50)→酒蔵見学

<天候晴れ>

去年に引き続き、1 日目は春の花ツアーで、坂戸山でカタクリをみるという計画。坂戸山はスカイツリーと同じ 634m で、春のカタクリが有名な山です。鳥坂神社の駐車場が一杯で、少し離れたところに駐車となりました。すでにたくさんの人たちが準備をしています。城坂コースを登りに使おうかと考えていましたが、残雪がかなりあるようなので、往復薬師尾根コースを取ることにしました。

尾根に登ると、桜はまだ蕾、カタクリも早いようでちらほしか咲いていません。まだ早かったかと落胆していると、イワウチワが咲いていました。登るにつれいっぱい咲いているので安堵。残雪もところどころに残っています。マンサクが登山道の両脇にびっしりとまるで錦糸卵のような黄色の花を咲かせています。タムシバもちらほら。かわいい花たちにカメラを向けているので、まったく前に進みません。結局 1 時間のコースタイムのところを 2 時間掛けて山頂到着。

眼下にはあぜ道だけが出た真っ白な田んぼが広がっています。今年は雪が多いのだろう、金城山もまだ雪深そうです。山頂でのんびりして、同じ尾根を下りました。この後、去年お世話になった民宿へ向い、近くの酒蔵で試飲(これも目的の一つ)。

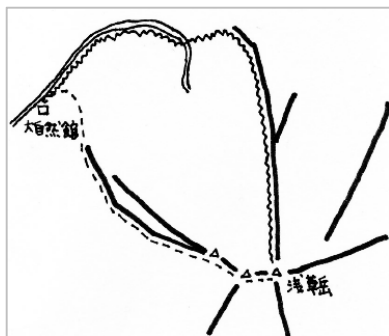
4/19(日)浅草岳(晴れ)

民宿 6:00⇒旧大自然館前駐車(6:30/6:55)→嘉平与ポッチ(10:55)→浅草岳(11:40/12:30)→早坂尾根→林道(13:40)→駐車地点(14:30)

<天候晴れ>

5 時過ぎに朝食、昨日見せてもらった、摘んできたというふきのとうの味噌和えは美味でした。民

宿を 6 時に出発。登山口の旧大自然館の前は長蛇の路駐。少なくとも 20 台はくだらないであろう。



人気のほどがうかがい知れます。

白崩沢まで板を担ぎ、シールを貼って登行開始。ヤジマナ沢を左手に見ながら尾根を登るコース。雪庇とクラックに注意しながらツアーの団体と抜きつ抜かれつ、ゆっくりとしたペースで登る。晴れて暑い、気持ちのいい尾根です。後ろには去年滑った守門岳がでかい。やがて嘉平与ポッチを過ぎると、左手に大きな緩やかな尾根、今日滑る早坂尾根が見えて来ました。地図でみた通り、尾根の西側は崖になっているようで、末端まで行かないと降りられないようです。



前岳を過ぎ、浅草岳に到着。鬼ヶ面山の絶壁、田子倉湖、越後の山々が絶景。景色だけでも来たかいがありました。昼休み後、シールを剥がしていよいよ滑降。尾根の入り口はちょっと藪だが、抜けると超広大なバーン。思い通りのルートで尾根を滑る。楽しい滑りはあっという間に終わる。尾根の後半は、だらだらと平らで漕がなくてはなりませんでした。西へ降りるポイントを探しながら汗をかく。降り口の見当を付け、楽しい樹林滑り。こりゃ楽しい。T さんがクラックで出来た段差に落ちたようだが、けがなく良かった。最後は細く複雑な沢をかつ飛ぶ。やがて平地になり、いつの間にか林道に乗っていました。

長い林道滑りで疲れる。やっと今朝登り始めた白崩沢に到着、板を担いで駐車地点まで戻りました。この後、浅草山荘にて温泉に浸かって帰途につきました。

今回の早坂尾根は、思ったよりも斜度が少ない。登りに使った尾根を戻るルートも面白そう。また来てみたい。

鳥海山

栗原聡子

山域山名：鳥海山(秋田県、山形県)

期日：2015年4月18日(土)～19日(日)

参加者：L宮田、橋本、栗原昌、栗原聡(計4名)

行動記録：前夜発(21:00)=東北道山形道=寒河江道の駅(25:00)

4/18(土)寒河江(7:00)=三の俣(8:45/9:00)=鳥海高原ライン 640m(9:35/10:05)→1100m(11:25 11:35)→滝ノ小屋 1280m(11:55/12:45)～湯ノ台林道 640m(13:15)

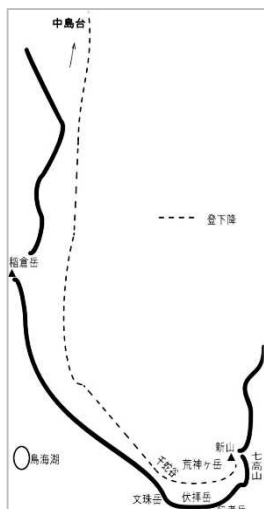
<天候：曇のち上部霧>

前夜に埼玉を発ち、途中仮眠をとりながら遠路はるばる山形遊佐へ。桜満開の庄内平野の向こうに大きく翼を広げるように鳥海山が見えた。三の俣ルートから月山森を目指す予定で登山口のスキー場に到着すると、今年は雪解けが早かったらしく見渡す限り芽吹き始めた草原が広がっていた。仕方なく湯の台ルートへと転進し、鳥海高原ラインのヘアピン下に車を止めた。月山森の上空には雲が垂れ込め怪しげな空模様だが、ひとまず滝ノ小屋を目指すこととした。

しばらく車道をショートカットしながら進みやがて緩い尾根に上がると、昨日は雪が降ったようで湿った新雪がうっすらと積もっていた。ガスがどんど

ん下りてきて次第に稜線が見えなくなり、小屋に到着した頃にはもうすぐそこまで迫っていた。今日はここまでだろうと半ばホッとしながら小屋にさがり大休止。小屋内部は整頓されおり柱は艶々と磨かれ、地元の人に大切に手入れをされている様子が窺えた。

のんびり小一時間



休憩をとり外へ出てみると、辺りはガスで真っ白になっていた。暫くは互いの位置を確認しながら慎重に下り、100mほど高度を下げるとようやく視界が開けてきた。下りは宮様コースと呼ばれる切り開きを滑走、まるでゲレンデの初中級林間コースのようだった。振り返ると山は黒い雲にすっかり覆われていたが、何とか雨に降られる前に車へ戻ることができた。

湯の台温泉でのんびり温まった後は観光モードに突入。イヌワシみらい館で猛禽類の生態について学習し(予想外に面白かった)、奥羽本線遊佐駅舎内で人気の遊佐野菜カレーを食し、吹浦駅で鉄ちゃんに付き合っ二ワカ鉄となり、あちこち気の向くままに寄り道をしながら今宵のお宿松本旅館へと到着。

贅沢にも宿の裏に荒波打ち付ける岸壁があり、日本海に沈み行く夕日をビール片手に眺めることができた。お楽しみの夕食も天然鮑に鯛に蟹に鮫鰯にと海の幸満載、お腹一杯料理を堪能し、明日の長丁場に備えて十分英気を養うことができた。

4/19(日)

参加者：L宮田、新井久、橋本、栗原昌、栗原聡、他1名(計6名)

行動記録：中島台 460m(6:25)→吊り橋(6:35)→あがりこ大王(6:55)→カラ川左岸尾根取付 730m(7:30/7:40)→鳥越川大水場 930m(8:10/8:20)→1280m(9:05/9:20)→1870m(10:40/11:20)→大物忌神社 2160m(11:55/12:10)→新山 2237m(12:15/13:15)→1260m(13:55/14:05)～カラ川左岸尾根 780m(14:25/14:30)～あがりこ大王(14:45)～吊り橋(14:50/14:55)→中島台 460m(15:10)

<天候：晴れ時々曇>

朝食なしで早朝宿を発ち(ありがたい事に女将さんが温かいおにぎりを持たせてくれた)、近くのコンビニで超人新井さんペアと合流。目の前には朝日を背に鳥海山が大きく広がり、今日は絶好の登頂日和になりそう。しかしどう見ても山頂は遙か遠く、あそこまで日帰りするのかと思うと気も遠くなった。

中島台の駐車場から暫く板を担いで森の中を歩

き、吊り橋の先からスキーを履いた。少し行くとブナの奇形木があちこちに現れ、なかでもひと際目立つ巨木があがりこ大王だった。緑生い茂る時期にはさぞかし立派だろう。気持ちの良いブナ林の中を沢を越え尾根を登り暫く進むと、突然視界が開け迫力ある絶景が目の前に広がった。右手に稲倉岳の屏風のような岩壁が鳥越川に沿って続き、その遙か先に新山の頂が見えた。

他のメンバーはあっという間に小さくなってしまったが、こちらはできる限りの力で何も考えず歩くのみだ。行けども行けども景色は変わらず、ずっと山頂は見えているが一向に近づかず、終いには頭の中が真っ白になり休憩の度に我に返る有様だった。そうはいっても右足と左足を交互に動かし続ければ何とかなるもので、いつの間にか稲倉岳は眼下となっていた。

千蛇谷手前でクートを装着、そこそこ急登だと思いが何しろ斜面が広大であり斜度感がない。千蛇谷に入ってから一定斜度の登りが延々と続き、変わらぬ景色にも飽きて俯いて黙々と歩くのみだった。時々気分転換に辺りを見回すと、猛禽類と思われる鳥が空を舞っていた。イヌワシか?と思い目を凝らしたが恐らくあれは鳶だろう、早くもイヌワシみらい館での学習が生かされた。谷を奥に進むにつれ徐々に雪面が固くなり、谷の両壁は冷たく凍り付いていた。山頂直下の急斜面でアイゼンに変更、最後のひと登りは雪面が硬く電池切れ寸前の足に堪えた。皆さんを大変お待たせしてしまったが、何とか山頂に辿りつく事ができてホッとした。

北面滑降の新井さんペアを見送り、我々も千蛇谷へ。スノーブリッジから出だしのアイスバーンは安全重視でやり過ぎしたが、少し標高を落とすと極上ザラメの大斜面がどこまでも続いていた。ヨーロッパの氷河ばりに壮大な景色の中、止まるのが惜しいほど良く走るザラメに皆が歓声をあげてかっ飛んでいった。苦労した登りのご褒美は、記憶に残る爽快な滑走だった。途中で北面滑降を終えた2名と合流し、まだまだ続く大斜面を十二分に堪能した。朝来たブナ林に入る頃にはさすがに足が悲鳴を上げていたが何とか雪を拾いながら滑り、吊橋で板を外して水芭蕉など眺めながら遊歩道をとことこ歩

いて駐車場へと戻った。

息も絶え絶えではあったが、初鳥海山をロングルートで辿ることができ大満足の山行となった。文句なし☆5つの素晴らしいルート、しんどかった記憶が薄れた頃にぜひまた行きたい。

至仏山

花森正雪

期日：2015年4月25日(土)

参加者：新井(浩) 駒崎 木村 花森 (計4名)
行動記録：熊谷市江南駐車場(5:00)=戸倉駐車場(7:00)→鳩待峠(8:00)→至仏山山頂(10:55/12:00)→ワル沢滑走→ワル沢(12:35)→鳩待峠(13:55)=熊谷市江南駐車場(17:30)

<天候：晴れ>

朝から晴天で楽しい山スキーになりそうです、気分よく尾瀬に向け車を走らせる。高速、R120とも混雑もなく戸倉駐車場に着く。駐車場は7割ぐらい埋まっている状態で混雑はなく、鳩待峠に向かうタクシーも待たずに乗車できました。鳩待峠に向かう途中、数台の路上駐車があり、鳩待峠の駐車場は満杯状態であることが想像できる。鳩待峠に着きますと、わりとにぎわっている感じで大半が山スキー組です。

私たちも支度をして至仏山山頂に向かいます、晴天、風なし、寒くなし ベストコンディションの山スキーです。特に混雑もなく順調に高度が上がります、途中からは山頂を目指す人の列や尾瀬ヶ原、燧ヶ岳が目を楽しませてくれます。

至仏山山頂と思いスキーを脱いで上がると少し離れた所にもピークがあり、チョットした間違えに気づきました。ほとんどの人が間違えているのでしょう。山頂は風もなく気持ちいいのでゆっくり目の休憩を取りました。休憩後はワル沢へと滑走です。

雪質はくせのないザラメで、楽しいスキーができる雪質です。ざ〜と滑って35分で終了でした。後は温泉に入り早めの帰宅となりました。

秋田駒ヶ岳

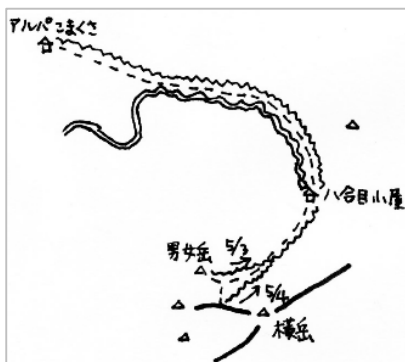
駒崎裕美 高橋仁

山域山名：秋田駒(男女岳)・烏帽子岳(乳頭山)

参加者：CL 大嶋 SL 木村 駒崎 高橋仁 新井 浩 豊島 平岡

現地集合・八木・栗原(宿泊場所・乳頭温泉郷黒湯温泉)

私達7名
は羽生
IC(5:30
発)(東北道)
近くのコン
ビニ集合し
憧れの秋
田駒・乳頭
山のスキ
ーに出か
けたのである。



この連休後半の天気は予報では4日が心配でしたが行動中は雨に降られることもなく行動が出来たことに感謝、楽しいゴールデンウィークだったことを御報告申しあげます。

2台の車は盛岡ICを降り国道46号線を秋田方面へと進み雫石町の道の駅で休憩をし、これから登るであろう秋田駒はどこだろうか。それにしても雪が付いて無いとか話が盛り上がり、田沢湖駅近くのスーパーマーケットに向け車を飛ばしたのである。

スーパーでは駒崎さんのテキパキした指示により山行中の我々のお腹を満たしてくれる食材を買い出し中に、もう1台の車が電車組を田沢湖駅に迎えに行きスーパーまで来る。2名も合流し買い物も終わり、2台の車に分乗し今夜の黒湯へと向かったのである。途中アルプの里に立ち寄り、秋田駒の雪の状態を確認したり、登山客の様子を伺いながら明日の計画を心配している参加者でした。

黒湯温泉到着は家を出てから約12時間後PM4時である。荷物搬入班と雪が少ないので明日の偵察班に分かれる。その後は夕食の準備と、温泉後

の宴会岳の標高はかなり高くなった。スキー前日の夜は、温泉の癒しと、ビールで、夜のとばりへと吸い込まれた。

5月3日(日)秋田駒ヶ岳報告

アルパこまくさ P7:50 発→8 合目小屋 10:50/11:15
→アミダ池手前 12:20→山頂 12:50/13:30→8 合目
小屋 13:55→アルパこまくさ P15:45

5月3日(日)は秋田駒へと出発、アルパこまくさに駐車し、スキー場を小屋に向かって歩くスキー場には雪は無くザックに板を付け歩き出す。スキー場中ほどから雪が出て来たのでシール歩行に切り替える。小屋までは道路に沿って歩く。小屋に着くが誰も居ず、何人かの人は冬季小屋の中を確認していた。

休憩後いよいよ本格的なシール歩行になる。目指すは、そこに見えている山頂です。コースの確認をし出発する。しばらく行くと尾根道になり、スキーを抱えて3分ぐらい歩くと夏道に雪が付いて来る。またそこでシール歩行に切り替えると直ぐに駒の北東面の斜面に出るのでトラバースをするとアミダ池の手前に出ると山頂が右上に見える。山頂には登山道沿いに登ると着くことが出来た。天気は良く周囲を見渡せた。

休憩後の滑りは広いゲレンデをアミダ池に飛び込むようにと思い思いに滑る。アミダ池近くで集まり、下りはコース取りが良く8合目の小屋へと滑り混んだ。ここまでは、雪もザラメ状態で各自満足のスキーが出来たようです。わずか25分の時間ですが大満足の25分でした。

その後は、ゆっくりと来た道を降り、途中国外人を含む小屋泊まりの人達に合い情報交換をし駐車場に着く。温泉へと帰り食事の準備をし、温泉へ入り今夜も宴会岳の標高は高く続くのであった。(平岡記)

5月4日(月) 曇から晴のち雨

この日は3組に分かれて行動することになりました。

①駒ヶ岳スキー組(木村、新井浩、駒崎)

昨日と同じコースを登り、八合目から横岳に登り滑降。

②乳頭山ハイキング組(大嶋、平岡、豊島、高橋仁)
孫六湯～田代平山荘～乳頭山(烏帽子山)を往復、
下山後水沢温泉へ。

③山麓散策組(八木、栗原幸)

黒湯周辺を散策、午後はハイキング組と水沢温泉へ

①駒ヶ岳スキー組

参加者：新井浩、木村、駒崎

行動記録：黒湯 P(7:20)＝アルパこまくさ(7:35/7:50)
→8 合目小屋(10:15/10:30)→阿弥陀池避難小屋
(11:35/12:20)→横岳下(12:35/12:50)→8 合目小屋
(13:15/13:30)→アルパこまくさ(15:15)

<晴れ>

乳頭山のスキーは無理ということで、昨日男女岳を登ったときに見た横岳からの稜線下の大斜面がよさそうでしたので、再度秋田駒へ行って来ました。(実は乳頭山に登れる靴で来ていなかったの)

昨日と阿弥陀池小屋下までは同じなので、ルートは問題なかったです。初め山頂付近はガスに包まれていましたが、阿弥陀池小屋に着くころから晴れ出して、横岳下の稜線に着くころには、すっかり晴れて、大展望と滑降を楽しむことが出来ました。天気も下山のアルパこまくさが見え始めた3時ごろから雨が降り始めましたが、本降りにならなくて大丈夫でした。

出会った人も6人のつば足グループと8合目下で滑ってきた単独だけで静かな山でした。

初日、雪の無い秋田駒を見た時はどうなるかと思いましたが、2日間しっかり歩いて滑る事が出来て良かったです。

(駒崎記)

②乳頭山ハイキング組

黒湯 7:30→田代平分岐 9:25→田代平山荘
9:30/9:50→乳頭山頂(昼食)10:20/10:50→田代平分岐 11:35→黒湯 12:30

駒ヶ岳スキー組を見送ってから、孫六湯に下り、乳頭山への尾根道に入る。少し登ると雪が出てきて、1000m 位から上はずっと雪面のトレースを辿って登る。大嶋、高橋は運動靴で、平岡、豊島は

宿で拝借したゴム長での登山となったが、これがまた、結構快適に登れる。

田代平からの稜線が近づく頃にはガスも晴れてきて景色も見えてきたが、駒ヶ岳の山頂部だけはガスの中で、なかなか顔を見せてくれない。樹林が開けて広い田代平分岐を過ぎるとすぐに田代平山荘だ。二階建ての広く立派な小屋で、毛布などの寝具も手すりに掛けてある。八幡平から縦走してきたと云う単独の若者が出てきて、これから乳頭山を越えて駒ヶ岳の阿弥陀池小屋まで行く予定だと云う。

田代平山荘からはずっと山頂を見ながら尾根に登る。国土地理院の地図は「烏帽子岳(乳頭山)」と表記されているが、山頂部分の盛り上がった岩隩は、まさに乳頭(乳首)または烏帽子(えぼし)の形をしている。

樹林限界を超え、雪のないガレ場を登り詰めて山頂に着く。先ほどの若者とシャッターの押しっこしてから分かれる。阿弥陀池小屋に着くまで雨になれば良いが・・・

下山は往路に戻る。所々で駒ヶ岳の写真を取ったりブナの新緑を楽しんだりしながら、湯治客でにぎわう孫六湯に到着。橋を渡って黒湯で八木・栗原さんと合流して、車で水沢温泉に足を延ばす。ブルーの湯量豊富な熱めの湯に浸かり、途中でそばを食べて宿に戻る。スキー組の帰りを待って宴会と、また温泉に入って一日が終わる。

5月5日(火)曇りから晴

黒湯 8:30＝道の駅あねっこ＝盛岡 IC＝前沢
IC11:10＝菅生 IC13:00＝安達太良 IC14:20/15:00＝
佐野藤岡 IC18:50＝R50 コンビニで解散

5時起床。昨夜の雨は止んで、風が吹いているせいか、石やコンクリートは乾いている。まず温泉に入り、朝食(うどんとオジヤ)を食べて、もう一度温泉に浸かってから帰り支度。宿のエンジン付キャリアで荷物を駐車場に運び、車に積み込んで出発。(鶴の湯に寄る案もあったが、帰路の渋滞を考慮してまっすぐ帰ることに。八木・栗原さんは宿の送迎でバス、電車で帰る。)

道の駅あねっこで、土産を買いこんで、東北道

盛岡 IC へ。当初は順調に流れていた東北道は、岩手県を過ぎて福島県に入ると断続的渋滞が始まり、栃木県に入ると連続渋滞となった。コースを変更して佐野藤岡 IC で下りて、R50 で帰ることにして、佐野市内のコンビニで解散をした。黒湯から行田まで 11 時間のロングドライブとなった。(高橋仁)

GW 白馬岳周回

金子元希 橋本健一 栗原昌史

山域山名：北アルプス・白馬岳、旭岳、雪倉岳(長野県、富山県、新潟県)

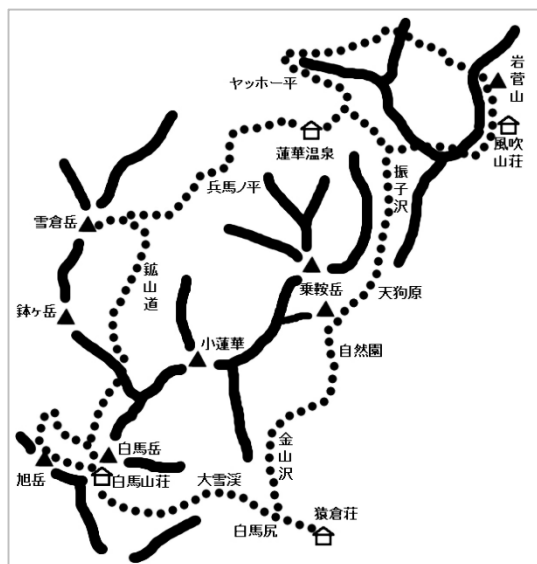
期日：2015 年 5 月 2 日(土)～5 日(火)

参加者：L 宮田、木下、福田、橋本、金子、栗原昌(計 6 名)

行動記録：

5/2 猿倉 1230m(7:20) → 白馬尻上 1620m(8:30/8:40) → 大雪溪 2310m(10:35/10:55) → 2460m(11:25/11:55) → 白馬山荘 2850m(12:50/13:45) → 旭岳 2867m(14:40/15:05) ～北面滑降～ 柳又谷源頭 2490m(15:20/15:30) → 白馬山荘 2850m(16:05)/後発組 16:40

<天候快晴>



快晴の空に早朝の白馬三山が輝いていた。当初計画した常念岳・大天井岳は雪が少なく、直前にルートが変わった。ただ、振り返ってみれば、3

日目こそ雨に降られたものの、行動の負荷と時間を考えれば絶妙のタイミングだった。天候と条件に恵まれた 4 日間のツアーが幕を開けた。

1 日深夜、新宿駅の中央線の特急用ホームに行くと、雪山を目指す人たちが独特の空気が漂っていた。予約済みの「ムーンライト信州」に乗り、一人出発した。本隊は埼玉を車で出ており、現地で合流となる。電車なので時間には正確だが、安眠を考えると夜行バスに軍配は上がる。ときおりの停車と効き過ぎの冷房で浅い眠りにとどまった。

白馬駅で無事にピックアップを受け、買い出しをして猿倉に向かった。八方尾根スキー場は上部に雪を残すのみだった。駐車場で全員が合流し、シールで出発した。ということは、帰りも最後まで滑り降りることが可能であることを意味する。常念であれば、相当の夏道歩きを強いられただろう。

連休初日とあって、大雪溪は多くのスキーヤーと坪足組が稜線を目指していた。最終日のメインイベントである金山沢の状態を眺め、黙々と高度を稼いだ。順調に歩いてきたが、葱平に向けて斜度が急になると、恥づかしながら技術の未熟さがあらわとなり、シールの足を滑らせては、転ぶ場面が相次いだ。他のメンバーがアイゼンに切り替える場所に至るまでに、かなりの差が開いてしまった。

雪がほどよい柔らかさなのでアイゼンを履けば、滑るリスクは消えた。だが、いったんパーティーから遅れると、緊張感がなくなり、ペースについていけない。頂上宿舎を左に見ながら雪の残る稜線の東側をたどって、ようやく白馬山荘にたどりついた。

8 人定員程度の部屋を使うことになり、余裕のある滞在となりそう。不要な荷物を置いて、旭岳にすぐに出掛けた。山荘から見えた斜面は急だったが、シールとクトーで難なく頂上に着いた。自分のクトーはディアミールペンディング用で、足を上げると歯も上がるタイプ。クライミングサポートを使うと、ほとんど歯が雪面をかまない。このため、サポートを上げずに、クトーの歯をかませることを優先させるようにした。

ピークからは 360 度の絶景が広がり、日本海も遠く望むことができた。一段下りたところから、待ち

に待った今ツアーの「1 本目」。柳又谷に向けて北面の大斜面を滑り降りた。快適な大回りも束の間、雪面は深い縦溝に覆われ、減速を強いられた。標高差にして 400m 近くを降り、白馬岳側にトラバース。再びシールをつけ、山荘までの登り返しとなった。最後の気力を振り絞り、先頭から 40 分遅れて到着した。この日、累積で登った標高差は 2100 メートル。想定していたとはいえ、長い長い 1 日だった。

宿泊客は 100 人程度だった。バックカントリーチームも手伝ってか、若い世代も目立つ。手洗い用の水が出ないかわりにウエットティッシュが使い放題。乾燥室はストーブが強力で、シールが温まりすぎるほどだった。夕食を食べながら食堂から望む夕日が美しかった。(金子記)

5/3 白馬山荘 2840m(7:55)→(柳又谷)→鉢ヶ岳稜線 2490m(9:00/9:25)～<鉱山道>～神の田圃 1920m(9:55)→2294m(11:20/12:10)→雪倉山頂 2611m(13:00/13:40)～<通常ルートの 1 本南の谷>～瀬戸川下降ポイント 1500m(15:00)～瀬戸川ブリッジ(15:30)～兵馬の平 1325m(16:20)→蓮華温泉 1450m(17:10)
<天候晴れ>

朝 4:30、ご来光を見るために小屋の裏に出かける。風も強く、さすがにジャケットを着ていないと寒い。4:50、山々を赤く染めながら、太陽が登ってきた。白馬鎧や剣が染まっていく。荘厳な時間だ。時が経つのも忘れて見入ってしまった。朝食前に今度は白馬山頂まで散歩。2 号雪渓や、杓子ルンゼ、白馬沢を見て、「どう滑ろうか」と考えてみたり、剣や小蓮華、雪倉の展望を楽しんだり。

小屋に戻って朝食を食べ、7:55 出発。ColorSports のツアーの人達も雪倉に行くようで、ほぼ同じタイミングで柳又谷にドロップしていく。昨日の緩んだ縦溝とは違って、さすがに朝は硬く、ターンもままならない。なるべく標高を落とさぬよう右へ右へとトラバースをかける。

標高 2490m で鉢ヶ岳稜線を超えると、眼前に鉱山道の斜面が広がる。縦溝はそれほど無いようだ。9:25、神の田圃に向かって滑りだす。気持ち良い

ザラメに雄叫びがあがる。右は小蓮華、左は雪倉、大斜面に囲まれながらの至福のひとつ。あっという間に 500m 下って神の田圃。ここから 700m アップだ。シールが効くか効かないかのギリギリの斜度をクトーを食い込ませて登る。2294m 点を過ぎると、ノーマルルートと合流し、程なく雪倉山頂へ。

山頂で朝日や白馬乗鞍、白馬岳の展望を楽しんだら、鉱山道に向かって滑りだす。ノーマルルートよりやや右へ、快適にターンを刻む。と思ったら突然板が外れて転倒した。あれっと思って板を見るとテレマークビンディングのハードワイヤーがない! 外れたか、と思って周辺を探したら福田さんが発見してくれた、が、なんと切れている! これは参った。針金で応急処置して、これ以降はワイヤーに負荷のかかるテレマークターンは封印して、アルペンターンで下る。(悲しいことにアルペンターンのほうが楽でスムーズに下れたりするのだが・・・)

ノーマルルートから南に外れ、1800m 付近の鉱山道合流に向かって降りてゆく。ノーマルルートに引けをとらないほど美しい大斜面が続く。誰も滑っていないので雰囲気は抜群だ。結局 1500m 付近の瀬戸川渡渉点が越えられず、ノーマルルートに合流してブリッジで瀬戸川を超えることになったが、なんとも素晴らしいルートで、今後雪倉に来ることがあったら再訪したい。

ブリッジから蓮華温泉までは、通常だと何本もの沢をトラバースで越えていくのだが、厄介なので今回は兵馬の平まで 180m 下ってしまうことにする。そしてその後 120m の登りだ。この日は湿った雪でシール脱着を繰り返したので、糊がダメダメになり、最後はトップとテールの金具でかろうじて付いている状態になってしまったが、うまくごまかしながら登って 17:10、蓮華温泉に到着。早速ビールで乾杯。

とても広い個室が充てがわれ、温泉にも入れ、水もふんだんに使え、ビールも安く、昨日とは打って変わって快適な宿となった。(橋本健記)

追記:橋本は翌 5/4、天候が崩れる前に下山しようと、朝食を取らずに 5:20 蓮華温泉を出発、天狗の

庭、船越の頭經由で金山沢にドロップし、猿倉に10:40に到着。雨に降られることはなかったが、金山沢の縦溝地獄に翻弄され、2015のGWツアーは終了となった。

5/4 蓮華温泉 1470m(7:15)→振子沢湿原 1650m(8:05/8:15)→フスブリ山 1944m(9:20/10:35)～風吹山荘 1780m(11:00/11:15)→神の田圃 1820m(11:50/12:00)～ウド川源頭 1500m(12:20/12:30)→角小屋峠 1600m(12:45/12:55)～林道 1480m(13:10/13:20)→蓮華温泉 1470m(14:40)

<天候曇り時々雨>

3日目は天気は今ひとつということもあって、半日の周回コースとした。小屋で朝風呂の後、朝食を取り7時過ぎに出発。まだ青空も見えていた。振子沢のトレースをしばらく進む。湿原が出てきた辺りでトレースを離れ、沢をひとつ越えて湿原を横断し、フスブリ山の西側から直登する。山頂へはいくつかルートがありそうだが、地図を見る限りどこからでも山頂には問題なく行けそうだ。一番斜度の緩そうな沢を選んで登り始める。出だしはそうでもなかったが、途中から斜度がきつくなり、堪らずクローをつける。その先も地図を見ただけでは判らない、等高線以上の急斜面が何箇所もあったが、根性でシールのまま登りきった。やがて斜度が緩くなり、程なく山頂。白馬乗鞍側の眺めが良い。しかしその後急速に雲が降りてきて、5分後には天狗原は雲に包まれた。風吹方面へ少し歩いたところで大休止。

ここで宮田さんのビンディングに異常発見。先ほどの急登が原因だろうか、先端部が壊れていた。去年のGWで私のビンディングが壊れたのと似たような状況。1時間程かけて何とか応急処置を行い、とりあえず滑走には問題なさそうだ。

風吹山荘を目指して木地屋へのツアーコースにもなっている尾根を滑っていく。風吹大池はその奥の風吹岳他と合わせて箱庭のような、なかなかいい景色。池はまだ凍っていた。池の畔に赤い屋根の小屋が見える。近づくと意外にも立派な小屋で驚いた。

小屋の前でシールをつける。この頃には雨も落ちてきて、時間も押してきたので山頂はパス。池の畔を進み、またツアーコースに合流。予定のドロップ地点には雪がついていなかったの、神の田圃の少し奥からエントリーして、ウド川源頭へ少しトラバース。樹林帯のこの斜面は縦溝も少なく、快適な斜度で今日一番の滑りが楽しめた。しばらくすると大きな沢に誘い込まれて斜度が緩み、それからほぼ水平移動で角小屋峠の取り付けに達する。

標高差100mを登って峠に到着。シールをはずして、反対側の林道まで滑り込もうと思いきや、ここも出だしに雪が無い。仕方なく担いで雪がついているところまで50mほど下る。他の4人はシールをつけたまま担いで下っていったが、私と木下氏は最後の林道歩きを出来るだけ短くしたかったので、板を履いた。しかし結果的に稼げた距離はほんの100mほど。

林道上でこの日4回目のシールをつける。塗れてしまってもう殆ど粘着力がなくなっていた。他の人も似たような状況で、最初からテーピングで補強していた。1時間20分の長い長い林道歩き。対岸に蓮華温泉が見えてからが長かった。

小屋に着いて、食堂で乾杯していると後続も続々帰ってきた。あらためて皆で乾杯。今日は半日行動のはずが、たっぷり1日楽しめた。外湯は天気が悪いので今回はパス。蓮華温泉に初めて来たという金子氏だけが見聞のため外湯へ。小屋は昨日に比べ宿泊客も少なく、のんびりした雰囲気。夕食も昨晚より豪勢に感じた。

5/5 蓮華温泉 1470m(7:15)→振子沢湿原 1670m(8:15/8:30)→振子沢 2072m(9:35/10:05)→白馬乗鞍岳 2456m(11:15/12:35)～自然園西 2070m(13:10/13:25)～金山沢 2060m(13:50/14:05)→金山沢 2110m(14:10/14:25)～林道 1400m(14:55)～猿倉 1240m(15:10)

<天候快晴>

最終日はまた天気が回復して、今日は暑くなりそうだ。2泊お世話になった蓮華温泉に別れを告げ、昨日と同じトレースを辿る。今日はコース通りに天狗原方面へ進む。湿原を過ぎ、振子沢を詰め

ていく。一箇所滝が出ていたが、この辺りは比較的残雪が豊富なようだ。

出発して3時間あまりで天狗原に到着。ここまで来ると人も多く、ほとんど白馬乗鞍方面を目指しているようだ。スキーヘリも忙しそうに上空を飛んでいた。天狗原を横断し、急登を経て、11時過ぎには白馬乗鞍山頂に到着。後続は遅れているようなので、周囲をしばし偵察したり、昼食を取ったりして過ごした。大雪溪側の景色は雄大で素晴らしかった。

時間が予定よりおしてしまったので、船越の頭をキャンセルし、ここから自然園方向へ下り、大トラバースして金山沢へというルートに変更。ドロップポイントまで移動し、さあ、素晴らしい景色を正面に大斜面を滑ろう。斜度は30度強ぐらいか、縦溝の少ないザラメの今回一番の快適バーンで、雄たけびをあげながらあっという間にトラバース地点まで滑る。標高差400mの最高の斜面だった。

ここから金山沢までは途中多少の登りもあったが、シールをつけずになんとか行くことができた。ほとんど標高を落とさずに金山沢の合流地点へ到着。沢の中は日帰りのツアー客らしき人達で大盛況だった。ただ目の前の枝沢は雪が下までつながってなさそうだったので、シールをつけて200mほど横切り、ブッシュの向こうの本筋へ移動する。

金山沢も予想よりは縦溝が少なくおおむね快適な滑走を楽しめた。小休止を入れて30分ほどで渡渉地点へ到着。あとは林道を滑るだけ。猿倉まで雪が繋がっていたので、板を脱ぐことなく駐車場まで滑り降りられた。

4日間の長丁場だったが、おおむね天候に恵まれて、ほぼ予定通りのスケジュールをこなすことが出来、白馬周辺の山を存分に満喫できた。ありがとうございました。

(5/4,5 栗原昌記)

飯豊本山本社ノ沢

宮田幸男

山域山名：飯豊連峰・飯豊山、地蔵岳(山形県)

期日：2015年5月17日(日)

参加者：CL 宮田 SL 新井久 橋本健、ほか会員外3名(計6名)

行動記録：大日杉 600m(5:00)→ザンゲ坂(5:20)→長之助清水(5:45/5:55)→御田 1000m(6:00)→山靴デポ 1200m(6:20/6:40)→地蔵岳 1538m(7:35/8:00)～大又沢 1160m(8:20/8:30)→大又沢本社ノ沢出合 1130m(8:35/8:50)→二俣 1370m(9:20)→左俣 1800m(10:10/10:25)→本山小屋 2102m(11:25/11:30)→飯豊山 2105m(11:35/11:45)→本山小屋 2102m(11:55/12:25)～二俣 1370m(12:45)～水補給(12:45/12:50)～大又沢本社ノ沢出合 1130m(12:55/13:10)→大又沢 1160m→地蔵岳 1538m(14:15/14:40)～山靴デポ 1200m(15:00/15:15)→大日杉 600m(16:10)

<天候:快晴>

GWも終わり5月半ばになると、山スキーができる山域も限定されてくる。いや、この時期だからこそ、狙う山がある。2008年残雪期に石転沢で地元の岳人に、「飯豊本山に素晴らしい沢があるからぜひチャレンジして」と教えていただいた飯豊本山本社ノ沢だ。タイミングがなかなか合わずチャレンジできずにいたが、昨年は悪天で本社ノ沢には入れなかったものの御秘所沢をつめて本山小屋までトレースした。この時期の地蔵岳と飯豊本山東面の沢の状況と経験をしっかり積んで、今シーズン残雪期のメインと踏んでいた飯豊本山に向かった。北本を夕方5時発、東北道、磐越道を經由して喜多方から大峠トンネル、狭隘な山道を走って330km、夜10時過ぎに大日杉に到着し仮眠。

夜が明けた午前5時に大日杉小屋を出発。明け方に他の車が3台来たが、山菜採り、溪流釣り、坪足単独で、意外や今日の山スキーヤーは我々だけだった。ザンゲ坂は雪で埋まっていて、朝の硬い雪にステップを切って登る。一番上の鎖は去年と同じく露出していた。

山はすっかり春! で、尾根にはまったく雪がない。黙々と歩を進めるのみだ。しばらく登った長之助清水はしっかり流れていた。去年を水を取りに危うい足場を行ったが、今年は水を3Lも持参したので行く必要はない。御田の杉手前でやっと雪田が出て

きたが、すぐに消えたのでまだスキーは履けず。この急登を登ればどうか、



ダメ～、次は?が何度も続き、結局は去年と同じく1200m 地点で山靴からスキーにチェンジ。やっと重荷から解放された。

ここからずっとシールで、とはいかず、また藪を突破する。だまし地蔵の巻きからやっと飯豊本山が姿を見えた。地蔵岳の斜面はブッシュが出て、去年より雪がかなり少ない。大又沢は大丈夫か?と不安がよぎる。飯豊も稜線の雪消えは極端に早いようだ。

地蔵岳の頂きからは、ドカーンと飯豊本山と本社ノ沢。いつみても威風堂々の山容に、モチベーションが高まる。本社ノ沢をしっかりと観察する。デブリは右俣に見えるが、それ以外はきれいだ。今日は稜線の風が強いので、左俣登行、右俣滑降に決定する。ただし、本社ノ沢に入れるかが問題だ。地蔵岳南側の小ピーク先から枝沢に滑り込もうとしたら、ガーン～雪が消えて深い藪が立ちちはだかっていた。スキーヤーズライトの尾根からアプローチする。少し藪は漕いだが無事に沢に入れた。しかし、斜面はガタガタで、枝も落ちていて快適度ゼロ。もう斜面の木々はすっかり新緑だ。

大又沢に合流し少し滑ると問題の割れ箇所がある。先週の報告より雪が減っていたが、通過は出来そう。落ちたら沢にドボンでただでは済まない。右岸側をアイゼンで通過。100m ほど先に行けば、待望の本社ノ沢だ。

出合は意外と狭くて平凡だった。ここから本山小屋稜線まで1000mの登りだ。すぐに沢は大きく広がる。沢のなかには風がまったくなく暑い。右俣を見送り、そのまま左俣をつめる。それにしても本社ノ沢はデカイ。斜度もどんどん急になっていく。ノドを越えたボール状の底で休憩し、右手の尾根にルートを取る。雪が途絶え藪を漕ぐ前にアイゼンに変更。急斜面の藪漕ぎはアイゼンが有効だ。その時、

ガラガラドカーンとすごい音がした。対岸の斜面のブロックが崩壊し、さっき休んでいた底に大きな雪塊が落ちていった。休んでいる時だったらやばかった。

斜面にはクラックが大きな口を開けていたので、クライムダウンで避けて、あとは正面の急斜面を登るのみだが、これだけ行動した後の急登はしんどい。1歩1歩ステップを切って高度を上げると、右手に本山小屋が見えた。振り返る眼下の本社ノ沢右俣はヨダレがでそうな超特大斜面だ。藪を抜けて夏道へ出た途端、まったく沢登行時には想像できない烈風地獄の稜線だった。尾根ルートを取っていたら、とてもここまで上がって来られなかっただろう。左俣登行の選択は正解だった。

本山小屋はちょうど1年ぶり。時間もあるので飯豊山の頂へ行こう。烈風の飯豊山頂に立つ。大日岳、北股岳、ダイクラ尾根を展望し、本山小屋に戻る。

風が避けられる小屋の脇でシールオフ。いよいよ滑降だ。出だしは緩斜面だが、すぐに本社ノ沢へ吸い込まれていく。フラットな面ツル斜面は最高の条件、素晴らしいの一言。解き放たれたように、山スキーヤー6人衆は爽快にターンを刻んでいく。山スキー総合力と体力の限界に挑むこのルートを登り切った者だけが味わえる至福の時間だった。下部はデブリで荒れている箇所があったが問題なく二俣に合流し、左岸側壁に落ちる小滝で水補給して大又沢の出合へ。

その途端に羽虫の襲来にうんざり。アイゼンで地蔵岳まで標高差500mの登り返しスタート。時々本山を振り返りながら、黙々と黙々と心に鞭を入れて登る。辛い登り返しを終えて地蔵岳から本山を振り返ると、我々の登りと滑降のシュプールが見える。さっきまであの頂きにいたのか、あの沢を滑ったのか、来てみないと味わえない充実感に浸る。素晴らしかった。

地蔵岳からテクニカルな藪スキーだったが、最後に尾根北側を巻きながら山靴デボ地へゴール～。山靴に履き替えていると、メンバーから「何コレ?」との声。雪面の小穴を覗き込むと、ぬいぐるみのような小さな動物が雪の中で冬眠中?あまりの可

愛さに笑ってしまった。スキー板とスキー靴でまたズシッと肩にくるザックを背負い、花を見ながら夏道を下りた。

下山後には昨年と同じく、白川温泉に浸かり、ダム湖畔から飯豊本山を眺めて帰った。感謝。

参考:距離 22. 2km、累積標高差 3154m。



コーヒータイム

パリの街角で

菅谷孝道

パリの中心地、オペラ座のあるイタリアン通りのひときわ目立つ一等地に、ミラノ発祥でワールドワイドに店舗を構えるボッジ（紳士服専門店）が数年前にオープンした。こちらのブランド、残念ながら日本ではまだあまり見かけない。ここは世界のファッションの中心地パリ、スタッフもフォーマルやカジュアルなボッジスタイルを身に纏い、すりと長い手足を真っ直ぐに伸ばして自らモデルのように店内を歩き回る。ピカピカに磨き上げられたウインド越しに見る彼らの表情は、パリジャンとパリジェンヌそのもの。日本語で「こんにちは～」と明るく声を掛けながら店に入ってみた。

春先に着るカジュアルなジャケットが欲しくて探していたところ、嬉しいことに店の奥でちょうど良い物に巡り合えた。普段、山用のスポーツウェアしか着ないので、こんな素敵なジャケットをいつ着るのか知らないが、とにかく前から欲しかったのだ。ジャケットを手にしてあれこれと想像していると、少し日に焼けたスタッフが近づいてきた。「こんにちはとは日本人ですね。最近、パリは中国人の買い物客だらけですよ。」人懐こそうな笑顔で声を掛けてきたのは、自分と同世代くらいのパリジャン風。日本だけでなく、パリでも中国人の爆買いとマナーの悪さが話題になっているようだ。一見して自分も中国人と間違えられたらしい。気さくに話しかけてきた店員は、フランス訛りの英語ではなく独特のイタリア英語だ。どうやら彼はパリジャンではなくナポリ人らしい。さすがボッジ。ヨーロッパはボーダレス。なんとスタッフ全員イタリア人とのこと。皆本国から赴任しているらしい。そう、ここはパリのイタリア通り。

それではと、ナポリ人スタッフとイタリア語で話

していると、変わった日本人がいるとスタッフが段々集まって来た。ひとり生真面目そうな若いスタッフが、うちの新人が接客でしつこく迷惑かけていませんかと真顔で聞いてきた。彼によると私と同世代っぽいナポリ人の店員は、転職してまだ入社三ヶ月の見習社員。この若い店長がそろそろ彼の評価を査定する段階とのこと。もし接客に問題があればイタリアに戻すかどうかの判断時期らしい。そんな重要なことを軽々しく答えられるはずがない。「いいえ、とんでもない。とても親切ですよ。」余計な質問しないで欲しいと思いながら自分も真顔で答える。すると、そこにいた全員大爆笑。あれ？ やられた…。そうだ、彼らは皆イタリア人。笑い好きの楽道家だ。すっかり一本取られてしまった。実はあべこべで、ナポリ人の彼が店長で、話しかけてきた生真面目そうな若い店長が見習だったらしい。仕事中でもジョークを絶やさないのがイタリア流。「お客さん、今の冗談分かりましたか？」笑えずに引きつった顔をしていたので、心配になったようだ。「ええ。良くわかりましたよ。私も昨日まで3日間イタリア観光してきましたから。イタリアの方は明るくて大好きです。」ほっとしたのか、また陽気な雰囲気に戻った。

「ところでお客さん、イタリア語上手ですが、イタリアで長く勉強されたのですか？」と店長。「いいえ、昨日までの観光の3日間で喋れるようになりました（笑）。」と私。また全員どっと大爆笑。ナポリ人の店長も「これはやられました。」と大笑い。ちょっと笑いのツボが日本と異なりますが、笑顔は万国共通のようです。今日もイタリア観光がおまけで付いたような、パリの街角のひと時でした。満足顔で店を出てから、隣できょんとしていたイタリア語の分からない妻にひと通り説明すると、「仕事なのに、随分イタリア人らしいわね。楽しく笑わせた分、ちゃんと値引きはしてもらったの？」とジャパニーズジョークで一喝された。

<個人山行記録>

三国山

宮田幸男

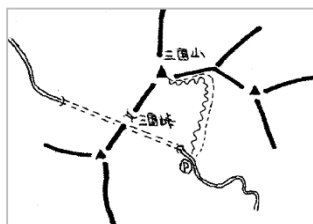
山域山名：上越国境・三国山(群馬県)

期日：2014年12月27日(土)

参加者：宮田(単独)

行動記録：国道17号上州側登山口1070m(10:30)
→旧街道1290m(11:30/11:40)→三国山1636m
(13:25)→東側肩(13:40/13:55)～国道17号(14:10)

<天候吹雪後晴れ間>



12月に入って数日おきに強い冬型のパターンが続く。昨日から今朝にかけて寒気の底で、日本海側

はまたドカ雪が降ったようだ。前夜までどこに行こうか迷ったが、上越国境の三国山に決める。自宅を出るのが遅かったので、赤城ICでチェーン規制90分の大渋滞。前橋から下道で行くもやっぱり渋滞で、沼田から庄雪路になりノロノロで、三国峠には午前10時少し前に到着した。

天候は吹雪。稜線は強風必死で、越後側はより厳しいだろうから上州側登ることにする。夏道の尾根取り付けは防護壁の切れ目から入るが、雪に埋もれていたのでスコップで掘り出す。すぐ脇を車が頻繁に通るので怖かった。車に戻りザックを背負って出発。登り出だしから太腿ラッセルの苦行だ。参ったな～と思ったが、行けるところまでがんばろう。

急斜面を抜けると雪面は風の影響を受けて締まり、膝くらいになった。でも、雪は風に叩かれている分、高密度で重たい。黙々とラッセルすると旧三国街道が通ってるあたりに来た。尾根が小段になっている地形で、なるほど～と納得。吹雪は幾分収まり、時々薄日が差すようになった。風が抜ける箇所は雪庇があったが、総じてブナ林の緩斜面が続く。山頂東側の肩に立つと、1546ピークと大笹山が見える。なかなかいい斜面だ。

あとはこの稜線を行けば三国山の頂きだ。山頂まであと50m程という所で、「モワッ」と音がしたと思ったら、雪庇を踏み抜いてしまった。落ちた高さは2m。板を外して雪壁にステップを切って這い上がり、その場所を確認する。切れた雪庇は長さ15m、破断は2m。肩には雪庇があったので注意したが、斜面下に生える樹林の枝がほぼ目線に見えていたので、このポイントはノーケアだった。夏に確認するつもりであるが、扇状にえぐれているのかもしれない。雪庇自体は小さなもので、落ちた斜面も緩く、落ち方もそのままストンと尻から雪面に落ちたのでケガはまったくなかったが、もし氷のブロック(見た目は雪であるが、硬く締まった氷状の固まり)が体の上に落ちてきたら…、場所が場所だったら…と反省。雪庇を踏み抜いたのは2回目だが、もう3回目はなしとしなければいけない。

三国山頂は気温-7℃。風も強く視界もないので長居は無用。稜線は小さなアップダウンがあるのでシールのまま肩に戻る。滑降はもちろん底なしパウダー。ラッセル3時間を10分超で下り、アツというまに国道に出た。スキーは偉大だ。南面なので賞味時間は短い、吹雪の日は楽しめるいいルートだった。

伊吹山

林貴志

山域：伊吹山(1377m)(滋賀県・米原市)

期日：2015年2月15日

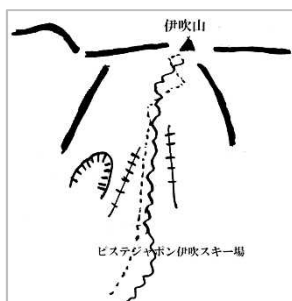
参加者：林(単独)

行動記録：自宅5:30→伊吹山登山口駐車場着7:40
→登山口8:20→6合目11:08→山頂到着13:30→6合目14:30→下山(15:20)

東海道新幹線を西へ向かっていると関が原近くで一際目立つ独立峰が見えてくるのが、日本百名山の一つ伊吹山だ。冬になると真っ白く雪を纏い、標高はさほど高くないものの、その山姿に圧倒される。かつて日本観測史上最大積雪量を誇ったという記録もあるらしい。

アイスクリームをスプーンですくったような、一枚壁とも言われるほどの立派な斜面に魅かれ、旧ピステジャポンスキー場(伊吹山スキー場)(※2010年に廃業)から山頂へと登山道をひたすら登っていくことにする。

米原までは高速使って1時間半ほど。



また渋滞もほとんどなく、1時間半程度でついてしまうアクセスの良さは単独行動としてはありがたい。登山道入り口につくと、早朝に関わらず、民宿の方が駐車場誘導に精を出している。「私のような山スキーの人がそんなにいるのか?」と思っていると、話を聞くとどうやら伊吹山は関西屈指の雪山登山のメッカらしい。確かに登山口まで進むと、5~6人で編成されている登山グループが4, 5組ほどいたのと、スキーヤーが2, 3組ほどいた。(どこでもそうだが、スプリットボードはやっぱり珍しがる。

そのせいか登山道がしっかり整備されていて、一合目までは板を担いでツボ足で進む。一合目につくと、旧スキー場跡の全容が見えてきた。そこから山頂へはほぼ一直線。約1,000mを直登していくことになる。天気が良ければ、1合目からでも山頂が見えるようだが、この日は朝から生憎の小雨模様。少々残念気味な気分のなか独り、もくもくと足を運ぶ。

登山道としては非常にシンプルな一直線ルートなのだが、登山者が踏み固め、ポコポコ気味の雪道に加え、水分が多い雪質は登るのにやたら時間が掛かってしまう。シール登行ではなくスノーシューにすれば良かったかな?と半分後悔しつつ、身軽な登山者に次々抜かれてしまってしまう。登り始めて3時間弱で6合目に到着。避難小屋があったので、小休憩を挟み、一昨週の寒波の影響でガチガチになった雪用にクランボン(クトー)を準備する。6合目を過ぎた辺りから、天候が一気に変わり、立ち堪えるのも大変なほどの強い吹雪に見舞われた。山頂目前の8合目半辺りまで頑張ってきたが「こ

れ以上は進みそうにないので、断念して降りようか?」と滑降準備をしていると、不思議なことに晴れ間が見え始め、吹雪も若干和らいだ感があった。周りも見渡しても登山者も一気に上り詰める体制で明らかにペースが速まったのがわかった。それに続けと私も最後の一踏ん張りを見せて、無事登頂。予定タイムより大幅に時間が掛かってしまったが、それでも吹雪の中での登頂に達成感がすごく感じられた。

天候が良ければ山頂からは琵琶湖や日本アルプスも一望できる絶景らしいが、こんな天候なので、満足に景色を眺めていられる余裕も無く、昼食も早々に滑降準備に入る。

登りが苦勞しただけあって、下りは非常に楽チンだった。雪質はやや重めの新雪が膝下位まで積もっていたので、浮遊感はそのそこだったものの、ほとんど誰も滑っていない大雪原を山頂から3合目までを一気に滑り降りる。ボーダーにとっては、ひたすらまっすぐ下りていく(落ちていく?)だけなので、登りのキツさを忘れるほど、ただただ気持ちが良かった。

下山後に、民宿のおじさんに「どうやった?」と感想を聞かれた。なんでも一昨週前まではほとんど雪が解けてしまっていたのが、あの強烈な寒波でずいぶん雪が付いたらしい。ちょうどタイミングが良かった様だ。おじさん曰く、伊吹山は1月~2月の一週目辺りがベストシーズン。2月中旬に入るともう雪が緩み、滑るのも大変らしい。スキー場が廃業してしまうのもなんとなくわかる気がした。

(今回の反省点)

装備と緊張感が不十分だった山行となった。シールとクトーがあればそこそこ登っていけるだろうと過信していた為、結果稜線に出るまでの急登で1時間半近くもタイムロスをしてしまった。アイスバーンを登るのは容易ではなく、まだまだ技量が足りないなと痛感。加えて、滑走中は滑りに夢中になってしまい、自分の位置を正確に把握しないままであった。そのため道迷いをしてしまい、登り返するロスも生じた。幸い大事には至らなかったけど、判断が遅れていたら危なかったかもしれない。

個人山行で、初めての山を滑るという緊張感が

足りなかったと、いい経験ができました。

森吉山

石川邦彦

山域：秋田県森吉山

期日：2015年3月3日(火)

参加者：石川(単独)

行動記録阿仁ゴンドラ山頂駅 09:28～09:55 石森～
10:15 阿仁避難小屋～10:44 森吉山～11:01 森吉湿
原～11:33 森吉山～11:57 阿仁避難小屋～12:10 石
森～12:23 阿仁ゴンドラ山頂駅



この日は青空が広がり絶好の樹氷原散策日和になりました。ゴンドラ山頂駅を降りるとそこはもう樹氷原で、直径 200m ぐらいの周回コースが整備されています。そのコースの途中から境界に張られたロープをまたいで、まず石の森を目指します。緩い登りで尾根状になったルートです。石の森はこんもりと雪に覆われた岩?が目印です。

ここから北へ向かうと森吉神社、一ノ越へと続き、南東へ行くと森吉山方面です。一旦少し下ってから進路を北東に変え、また登りとなって雪に覆われほとんど屋根だけ出した阿仁避難小屋に着きます。あたりは様々の姿をしたモンスター達が目を楽しませてくれています。ここまでは坪足のご夫婦とほぼ同一行動でしたが、ここから先行し少し我慢して登っていくと山頂に着きました。標識を覆った氷結した雪を削り落とし写真を撮るなどしている内に、後から山スキーの 5 人ほどのパーティーも到着しました。

滑降は北東側の森吉湿原まで標高差 100m 程降りてみましたが、斜面が波打ち、雪質も堅く期待したほどではなかったです。静かな雪原で一人昼食をとりました。

森吉山へ登り返してみるともう誰もいません。さっきの 5 人のパーティーは、後でわかった事です。登りのルートより右側、真東に進んで 1250m の顕著な谷まで行ったようでした。地元の方々なのか一番いいルートをとったようです。私は初めてでなおかつ単独ということもあり、誰もいない山頂からほぼ登りのルート沿いに帰りました。

なお阿仁スキー場のゲレンデに戻り、第 2 ロマンスリフトの左右のぶな林で今回最高のパウダースノーを楽しむことができました。

宝川源流ナルミズ沢 (大烏帽子山・朝日岳)

宮田幸男

山域山名：上越国境・宝川源流ナルミズ沢、大烏帽子山、朝日岳(群馬県)

期日：2015年3月28日(土)

参加者：宮田(単独)

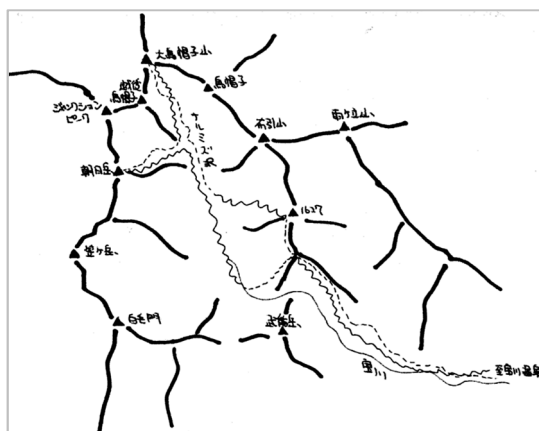
行動記録：宝川温泉 700m(5:50)→観測所 787m(6:45)→板幽沢 870m(7:05/7:20)→布引山稜線 1540m(9:00/9:10)→布引山 1627m(9:45/10:00)～ナルミズ沢 1340m(10:15/10:30)→大烏帽子山 1819m(11:40/12:25)～ナルミズ沢 1470m(12:40/12:50)→朝日岳 1945m(13:55/14:20)～広河原 1190m(15:00/15:20)→布引山稜線 1520m(16:10/16:35)～観測所 787m(17:10)～宝川温泉 700m(17:40)

<天候:晴れ>

週半ばに季節外れの 50 センチを越える新雪が降って、毎日積雪状況をチェックしていたが、雪も沈んで安定したようなので、以前から狙っていた宝川源流に向かった。

宝川温泉奥の駐車場から林道に行く。駐車場は日帰り客用に除雪しているようだ。2.5 kmほど行くとある短いトンネルがあるが、雪崩の壁を下りて中へ入ると見事な氷柱が 4, 5 本地面からぬくつと立っていた。

約 1 時間で無積雪期駐車場がある観測所へ。朝



早く雪が硬かったので、ここまではあまり潜らなかった。さらに林道を行くと、見晴らしのよい場所で小休止。振り返ると端正な笠ヶ岳が見える。あの斜面もいつかは。つづらの林道をショートカットしようと樹林に入ったら、これがグサグサ板が潜って消耗する。これはダメだと忠実に林道をつめることにする。林道のほぼ終点から布引山南尾根に取り付く。日射で雪面が緩み、クラストを踏み抜くようなラッセルはしんどい。

標高を上げていくと、樹の間から上州武尊、右手にはきれいな真っ白な三角錐ピークの雨ヶ立山が美しい。雨ヶ立には2003年2月に登ったが、翌日は大雨に降られた。おそらく2000から2005年くらいまでが一番、気温が高かった気がする。そういえば、夜はテントの外にテーブルを作って、チーズフォンデュを食べたな。樹林が濃かった尾根も1450mで森林限界となり、一気に宝川源流の山が目前に広がる。白毛門の奥に谷川岳と一ノ倉岳、無木立の朝日岳東面が素晴らしい。遠くには浅間山、雨ヶ立の肩には平ヶ岳が輝いていた。

このまま尾根をトレースしたら距離が長くなるので、布引山1627m峰から眼下のナルミズ沢にドロップしよう。今週半ばの新雪がモナカになっていて滑降は難儀なので、部分的にわずかに残るパウダーを拾って何とかラインにする。ナルミズ沢に降り立つと、目前には大きな越後烏帽子(地藏ノ頭)、奥にはこれから目指す大鳥帽子山だ。沢中は風がまったくなくサウナ状態で暑いなの。左手にはナルミズ沢左俣流域になる朝日岳北東面が輝く。この斜面は2007年4月に土樽から清水峠避難小屋泊

で宝川までスキー縦走したときに滑ったが、これまでに5本の指に入る最高の斜面だった。

樹木がない斜面はまるで雪砂漠のようだ。目標物のない斜面は、大鳥帽子山が近づいてきたように見えたが、これがなかなか遠かった。黙々と大斜面を登ると、大鳥帽子山の頂きだ。素晴らしい絶景が広がる。越後烏帽子、JPの奥に朝日岳。北面はガチガチアイスバーンだ。その右手には先週トレースした仙ノ倉山北尾根と苗場山が見える。湯桧曾川を囲むように谷川連峰、蓬峠、七つ小屋山、標高は低いが上越のマッターホルン大源太山が仁王立ちしている。大鳥帽子山から北には、檜倉山、柄沢山、巻機山へと続く国境稜線、その奥には下津川山、丹後山、大水上山と連なる利根川源流の山と越後三山。そして、平ヶ岳と尾瀬燧ヶ岳、至仏山。誰もいない頂きで優雅な時間を過ごす。



では、ナルミズ沢に向かって滑降しよう。大斜面に自分のシュプールのみだ。いや〜、最高でした。ナルミズ沢は山スキーパラダイスだ。このまま下山してもよかったが、登りながら見上げた朝日岳北東斜面をみたら、まだ時間はあるし、今日の天候はまったく問題なし、雪も緩んだ好条件を逃すことはない。朝日岳も登っちゃえ。上部は次第にクラストになった。朝日岳直下で今日初めて人にあった。山頂から下りてきたのは、RSSA会員でよく記録を拝見していた澤井さんだった。昨日、宝川に車をデポして、今朝、白毛門から尾根を登って来たとのこと。登山口にあった車が澤井さんのだった。

もの凄いシュカブラ帯を抜けると朝日岳山頂だ。ここも絶景だ。笠ヶ岳稜線と谷川岳一ノ倉沢、芝倉沢はシュプールがたくさんだ。ここも贅沢な時間を

過ぐす。では、いざ滑降へ。いや～素晴らしい。トレースを挟んで、澤井さんのシュプールと自分のシュプールをきれいに並べる。ワンダフルな滑降だった。斜度の緩いナルミズ沢は、魚止めの滝を初め、3カ所ほど滝が出ていた。広河原からシールを付けて、布引山南尾根まで300mの登り返した。澤井さんのトレースを追うが、雪温が上がって重雪ラッセル苦行のようすだ。稜線下で追いつき、ほんの少しだったがラッセルを交代する。

南尾根から最後の滑降へ。といっても、林道までも500mはある。陽は傾いていたが、気温がまだ高く、モナカにならず助かった。林道に出ればあとは直滑降、雨ヶ立にはスキーと坪足で数パーティーが入ったようだ。宝川温泉に着く頃には、谷の奥に見える上州武尊が赤く染まっていた。記憶に残る素晴らしい一日だった。

蓬峠イイ沢、コマノカミ沢

宮田幸男

山域山名：上越国境・蓬峠イイ沢、コマノカミ沢（新潟県）

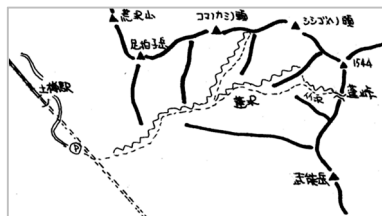
期日：2015年4月4日（土）

参加者：宮田（単独）

行動記録：土樽除雪最終点 620m(6:05)→蓬沢 940m(7:20/7:35)→イイ沢左俣→蓬峠 1529m(9:00/9:40)～イイ沢滑降～茶入沢出合 1150m(9:45/9:55)→右岸尾根 1320m(10:35/10:50)～コマノカミ沢出合 880m(11:05/11:20)→コマノカミ沢→稜線コル 1380m(12:20/12:50)～蓬沢～土樽(13:25)

<天候：曇り後晴れ、稜線は霧と強風>

今日は熊トレの定例会がある日だが、例会が始まる夕方までに



熊谷に戻れる場所…ということで、すぐに高速に乗れる蓬沢に向かった。関越トンネルを出た時には小雨が降っていたが、下道で土樽に戻る頃には雨も

上がった。土樽駅から少し奥に入った除雪最終点（ゲート止め）に車を駐めて出発。土樽パーキングへの作業道は除雪してあるが、左の林道は手つかずのままだ。

蓬沢には3月15日にも来たが、先週の高温で一気に雪解けが進み、積雪は2mくらい雪が減ったか。斜面から流れる沢が横切る場所でスキー板を2カ所脱ぐ。沢側壁の急斜面はすべてブロック雪崩となっていた。西俣沢もズタズタで、武能岳稜線の雪はほとんど消えたようだ。蓬沢本流は凄いデブリランド。

万太郎山稜線は上州側から雲が流れていて、今日も風が強そうだ。正面の蓬峠稜線も黒い雲で見えない。茶入沢を左に見送りイイ沢に入り、左俣を登る。クローを付けて、シール登行限界の斜度だ。3月までの不安定な時期は雪崩るだろう。稜線直下で深い霧に包まれる、ヒュッテもおぼろげと見えた。

霧で濡れるし、強風で寒くて堪らないので小屋に逃げ込む。小屋に入るのは昨年11月以来だ。午後は回復傾向に向かうので、少し待ってみたが、まったく風も収まる気配なし。これではどうしようもない。またも武能岳はお預けか。登路のイイ沢左俣を忠実に滑り茶入沢出合へ。さて、まだ時間は早い。昨シーズンまで愛用したラディウムを今シーズンからまた買い直したので、アイゼンサイズチェックも兼ねて尾根を登ることにする。前爪だけで登る斜面も結構あったが外れずにOKだった。

再び深い霧に包まれた尾根を逃げるようにまた滑降へ。夏道尾根末端の雪庇もずいぶん小さくなっていた。さて、まだ下山するには少し早いしもったいない。ふと見上げたコマノカミ沢を登ってみるか。沢の中はほとんどデブリ跡だが、だいぶ融けたので、ちょうどいい感じ。沢は急な斜度がずっと続く。真冬や雪質不安定な時期はとても入る気がしないが、ザラメ期なら楽しめそう。沢は右に折れて、最後のツメを登って尾根上へ。再び深い霧に包まれた。

稜線のコルは強風地獄で長居はできず、すぐに50mほど下げた場所に避難だ。休んでいたら坪足登山者が稜線から下りてきた。あまりの風にシシゴ

ヤの頭では山頂標識にしがみついたらしい。そうでしょう。では、自分もこれで下山だ。滑降は快適快適、コマノカミ沢は今日一番の滑りだった。蓬沢に下りたら、あとは直滑降で流す。

振り返るとまだ稜線は黒い雲、今日の稜線はダメだな。関越トンネルを抜けた水上側はしっかりと雨が降っていた。

妙高山

宮田幸男

山域山名：頸城山群・妙高山(新潟県)

期日：2015年4月26日(日)

参加者：宮田(単独)

行動記録：笹ヶ峰 1350m(6:55)→黒沢出合 1580m(7:35)→黒沢→黒沢池 2020m(8:50/9:0)→大倉乗越 2140m(9:20/9:35)～カルデラ 1970m(9:40/9:55)→妙高山 2454m(11:20/11:45)～大正池～カルデラ 2090m(12:45/13:10)→三田原稜線 2300m(13:45/14:15)～涸沢～車道 1340m(14:45/15:50)→笹ヶ峰(15:10)

＜天候:快晴＞

GW 前半は単独での妙高山本峰がターゲット。このところ暖かさが続いたので、大倉乗越からの雪付き状況次第では、定番の火

打山南面への転進もありで笹ヶ峰に向かう。まだ半分ほどしか除雪されていない駐車場はすでにいっぱい、路肩に駐車する。

出発準備をしている人を見ると若者が目立つ。ずいぶんと様変わりしたものだ。自分も準備を整えて出発。登山口の東屋もまだほとんど埋もれていて、残雪はいつもより多い。山スキーを始めて間もない若者と話しながら歩く。彼は火打から惣兵工落

谷に行くというので、ルートアドバイスをする。昨日も雨飾荒菅沢を滑ったそうで、とりあえず山スキーで百名山トレースが目標とのこと。若さは素晴らしい。

黒沢の橋は出ていたが、周囲の雪の量から黒沢の滝はまだ大丈夫だろう。そのとおり滝は完璧に埋まったままで、どこが滝壺かまったく分からなかった。三田原山からの下降に使える沢をチェックしながら登行する。1850m 二俣は左にとる。バックには白馬岳から槍穂高まで北アルプスが屏風のようだ。沢もいつしか樹林斜面に変わり、黒沢池の大雪原に出た。今日はここまでノンストップだった。

雪原を横断し、小尾根を回り込むと黒沢池ヒュッテが下に見える。小屋明けはいつからだろうか。樹林の斜面を登ると大倉乗越へ。ドカーンと妙高本峰が鋭く、「どーだ」と言わんばかりに高い。何とか稜線近くまで雪がつながっていそう。大倉乗越からカルデラまでは、なかなかの急斜面。稜線下にクラックが入りかけていたが、ご機嫌のターンを刻めた。カルデラから振り返ると、坪足2名が大倉乗越の急斜面に取り付いていた。

カルデラを進み、夏道が付いているU字状谷を詰める。雪が途切れ途切れで、藪を何度も突破。北向き斜面のため雪面はガチガチで、雪があるところまでクローとウィペットでシールで登り上げる。板をデポして、岩と樹根じりの急な草付き斜面を登って夏道を見つけ、アイゼンで山頂直下の崩れそうなナイフリッジを登る。眼下には前山と北地獄谷、高度感抜群だ。

最後の斜面を登れば妙高山の頂きへ。火打山は、登山者と山スキーヤーで人だらけだったらしいが、妙高本峰には誰もおらず、静かな山頂を満喫した。眺めを楽しんだ後に下山開始。慎重にデポ地点まで下降する。登路の藪斜面を避けて、雪がつながっているスキーヤーズレフトの岩基部ラインに移動する。見た目は良かったのだが、雪面はガチガチガタガタでターンできずに、横滑りに終始。膝が泣いた。

雪が緩んでからはターンを描きながら、カルデラに降り立つ。外輪山の雪庇と雪壁、雪崩デブリがすさまじい。カルデラを地獄谷方面に進み、三田原



山稜線に登り返すポイントを探す。どこも急斜面だが、ここしかないだろうというラインを登る。急斜面を一気に登って息が切れたが、三田原稜線までくれば安全地帯だ。

しばし妙高山本峰を眺めて滑降へ。稜線下のダケカンバ帯から涸沢をクルージング。涸沢自体は斜度 20 度ほどだが、1800m 当たりから木がなぎ倒されていて、滅多にない大雪崩が出たのだろう。走破距離は、車道のすぐ上まで 2 km はあった。すごい破壊力だ。後半は密な樹林帯を滑って車道へ、あとはテクテク駐車場まで歩く。

山スキールートとしてはグレードが高いが、超メジャーな火打山の隣にあって、嘘のように素晴らしいバーンを一人占めして楽しかった。

羊蹄山・積丹岳

石川邦彦

山域：北海道 道央・後志

日時：2015 年 4 月 27 日(月)～5 月 1 日(金)

参加者：石川(単独)

行動記録：

4 月 27 日 自宅＝羽田＝新千歳＝ニセコ

4 月 28 日 羊蹄山

ニセコ町の宿 7:30＝羊蹄山自然公園・真狩登山口 08:17＝外輪山 1832m 13:08/13:35～14:42 真狩登山口 天候：曇りのち晴れ

8 時に真狩村の羊蹄山自然公園に着く。登山口駐車場には 1 台も車無し。準備していると札幌から来たという男性が現れる。これから登るコースなど見上げながら話をする。

先に出発。しばらく樹林の中を歩く。50～60m 先にキツネさんが横切って行った。羊蹄山を外周する国道&道道から見上げたときに感じた山頂付近の

畏れ多い急斜面は、近づいていく内にそれほど急には感じなくなり、あの程度ならと行ける思えてくる。

1000m テラスの右端をかすめて神社の沢に出る。しばらくそのまま登り、斜めに神社の沢を横断して、幾分斜度の緩い沢の左にコースをとる(気のせいかな)。

1200m、早めにスキーをザックに付け坪足に。足が流れるのでアイゼンもすぐに付け足す。さらに右手のストックはザックに付けピッケルに持ち替える(左手はストックのまま)。急斜面では、ピッケルは雪面にしっかり食い込むので安心感が違う。持ってきて正解だった。

1500m を過ぎてペースが落ちる。進んでは立ち止まって休むの繰り返し。なかなか頂上が遠い。でもこのまま行けば行けると確信。1800m、雪が切れ地肌(火山礫)が出ている。ここでスキーをデポし、ザックだけしよって外輪山へ。やはり風が強い。お鉢を覗く。山頂から京極下山口にかけて人影が見える。薄曇り、遠くは春霞なのかクリアな展望ではないが上ってきたコースや真狩村、羊蹄山と同じような円錐形で、一回り小さい尻別岳がわかる。

山頂標識までは、雪が緩み、踏み抜きが多く、また雪のない岩場はルートがわかりづらく、安全策を取って断念した。

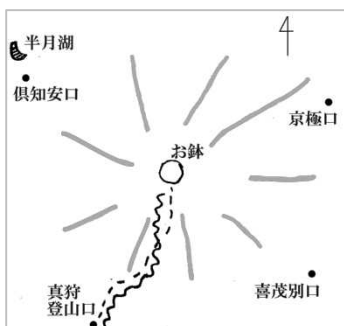
さて、滑降だ。出発してから誰にも逢わず、抜いていく人もいなかった。逢ったのはキツネさんだけ。広い神社の沢を思い通りに滑る。1100m で真狩コースの夏道に合流。後はのんびりと、途中樹林帯で一本入れて登山口に戻った。

4 月 29 日 余市岳

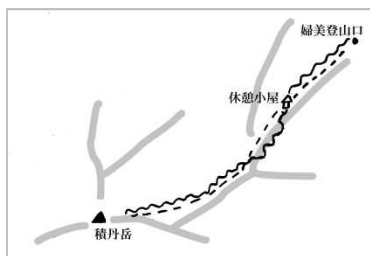
キロロゴンドラ山頂駅 10:32～11:32 見晴台～余市岳 12:46/13:02～14:00 見晴台～14:54 ゴンドラ山頂駅

4 月 30 日 積丹岳

婦美地区登山口除雪終了点 08:35～積丹岳休憩所 09:19/09:25～10:17 五合目～ 1200m 山頂直下 11:59/12:25～12:47 五合目～積丹岳休憩所 13:05/13:14～13:47 登山口 天候：晴れ



GW 祝日の狭間の 30 日、小樽を 7 時に出てきたが、登山口に着く頃には 8 時をだいぶ回ってしまった。まだ 1 台も車はない。日本海に突き出た積丹半島の中心に位置する積丹岳。麓からはなだらかな女性的な山に見える。最初はスキーを担ぎ 15 分ぐらい歩いただろう



か。スキーを付けてから快調に進む。

麓から見える通りなだらかな山容で、全コース通して急なところはない。600m を超えて尾根状の台地に出ると風が強まり、かぶっていた帽子が飛ばされてしまうので、持って行ったヘルメットを代わりにかぶる。

P971 付近から山頂に続く尾根の背の部分はハイマツが露出。尾根の北側の雪面を登る。尾根に遮られていくらか風が弱まる。それでも時折対風姿勢が必要なぐらいだ。強風と強風の合間をぬって進み、何とか頂上直下まで行き、ハイマツの陰に逃げ込む。ここで昼食。

風は一向に収まらず、坪足で山頂にトライしたが、まともに 20m も進めず敗退。

帰りは、900m 位から下の広い尾根状のダケカンバの疎林は方向をつかみづらい。なんども GPS で確認しながら下りた。この間誰にも会わず全くの貸切り状態でした。

最後に林道を歩いていると、車が 2 台。1 台の方は強風のため途中で引き返したとのこと。もう 1 台の方とは逢いませんでした。別のコースを行ったのかも。

山頂に行けなかったのは残念でしたが、上部は最高のザラメ雪で楽しめました。手を広げると強風を受けてヨット状態、少しの斜度なら登っていけるほどでした。

尾瀬・笠ヶ岳

宮田幸男

山域山名：尾瀬・笠ヶ岳、小至仏山（群馬県）

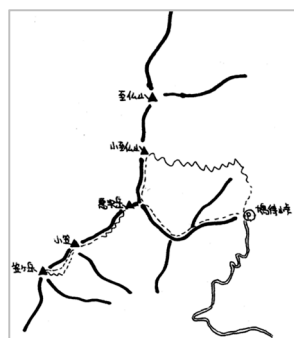
期日：2015 年 4 月 28 日(火)

参加者：宮田（単独）

行動記録：鳩待峠 1591m(10:45)→悪沢岳 2043m(11:50/12:00)→鞍部 1910m(12:15/12:25)→笠ヶ岳 2057m(13:05/13:40)～小笠鞍部 1930m(13:45/13:50)→悪沢岳→小至仏山 2162m(14:55/15:15)～ワル沢滑降～オヤマ沢ブリッジ 1490m(15:30/15:40)→鳩待峠 1591m(15:55)

<天候：快晴>

朝に熊谷で用事を済ませてから鳩待峠へ。駐車場が開いているか不安だったが、運良くちょうど 1 台分のスペースがあった。早朝発の山スキーヤーがちらほら



下山し出した頃、峠から出発。さすがにもう昼前とあって暑い。振り返ると荷鞍山が見える。この真冬に山頂に立ったが、吹雪のなか辛かった最後の急登を思い出す。

悪沢岳からは稜線を小笠コルまで滑る。再びシールで笠ヶ岳に向かう。最後の斜面を登ると雪が途切れたので山頂まで藪を漕ぐ。時間も遅いのでそそくさと滑降へ。短かったが山頂直下の斜面は気持ちよかった。シールで再び悪沢岳への稜線に戻る。時間は午後 3 時、今日は小至仏山までとする。眼下の広いワル沢源頭斜面はフラットな緩斜面で、何も考えずに飛ばせる。岩が出た斜面のトラバースや、尾瀬ヶ原からの長い登山返しがあるムジナ沢にあまり人が入らないのがうなづける。樹林帯を流すとオヤマ沢に出た。ブリッジも問題なく渡り、15 分の登りで峠へ。お手軽ツアーだったが、笠ヶ岳に登れたので満足。

鎌田の物産館かたしなやで、満開のサクラを見

て〜と勧められて、花咲の湯の奥にある天王桜へ。太い幹からたくさんの枝が出てすごい。樹齢は300年超、高さ10m、幹回り5.2m、枝の幅は17mもある見事な巨木サクラでした。温泉に入った後、ライトアップされた天王桜からは、幹から溢れる活きる力、パワーを感じました。

燧ヶ岳一筆書き

宮田幸男

御池〜燧〜ナデッ窪〜尾瀬沼オンダシ〜硫黄沢〜東田代〜御池

山域山名：尾瀬・燧ヶ岳(福島県)

期日：2015年5月11日(月)

参加者：宮田(単独)

行動記録：御池 1500m(6:50)→熊沢田代 1986m(8:20/8:30)→燧ヶ岳俎嵯 2346m(9:40)→柴安嵯 2356m(10:05/10:50)〜ナデッ窪滑降→尾瀬沼 1670m(11:25/11:50)→オンダシ沢→1950m(13:10/13:20)→ミノブチ岳 2234m(13:40/14:05)〜硫黄沢左俣 1640m(14:25/14:40)→東田代 1819m(15:15/15:40)〜車道(15:50/16:00)→御池(16:15)

<天候快晴>

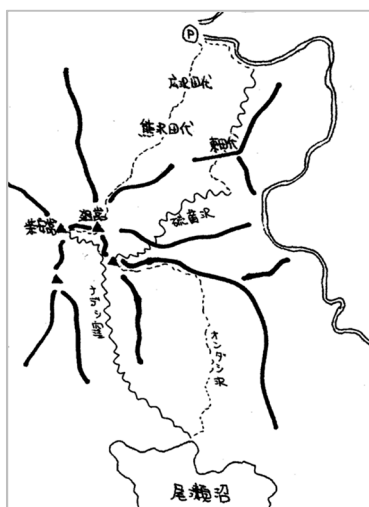
幾度もトレースしている燧ヶ岳。今回は、御池から俎嵯、柴安嵯に登り、ナデッ窪を滑って尾瀬沼に下りて、再びオンダシ沢からミノブチ岳まで登り返して、燧一番の硫黄沢左俣を滑降、東田代を経由して御池に戻るという、燧一筆書きスキーを完成させました。

今朝の御池は、-2℃と久しぶりの冷え込みだ。雪解けは異様

なペースで進んでいるが、御池の残雪はまだ多い。広沢田代下斜面は雪面も硬くアイゼンで登る。広沢田代はシールで、熊沢田代の急登は再びアイゼンに履き替える。熊沢田代まで登ると雪が減って、木道が露出していた。今冬の尾瀬はここ10年で最も多雪だったが、強風で雪があまり積もらない稜線は春からの高温で一気に融雪が進んで地肌が露出し、中腹の樹林帯はまだ残雪が多いという現象になったのだろう。この傾向は、白馬周辺の北アルプス北部や妙高でも同じだった。

正面に燧ヶ岳北面が見えるが、縦に延びるブッシュがいつもより大きい。裏燧斜面も雪が少なく、いつもの5月下旬頃の様相だ。シールで俎嵯まで登り、ザックを下ろさずそのまま柴安嵯へ。夏道を下りて鞍部からアイゼンで急斜面を登る。今日は気温も低く視界もクリアー、富士山もクッキリだ。上州武尊の奥に八ヶ岳、眼下には尾瀬ヶ原と至仏山、その右手にはまだ真っ白な平ヶ岳から越後三山、浅草、守門、会津朝日と名山がズラリ。あまりの素晴らしい景色に、ちょっとのんびりし過ぎてしまった。

では、滑降へ。急斜面下に登山者がいたので、トレースを崩さないように滑る。意外や南面は雪がべったりで、スキーを脱がずにナデッ窪にエントリ。中間部からは小枝や石で荒れ気味だった。下部からは樹林帯に入り、尾瀬沼湖畔へ。せっかくなので、沼の水にもタッチ。



再びオンダシ沢沿いに登り返す。雪がなくなれば、緩やかな流れだろう、オンダシ沢源頭もなかなかいい斜面だ。ミノブチ岳まで登り上げる。小休止の後、まずは硫黄沢左俣源頭斜面にドロップ。

好斜面がまだまだ続くが、下部には滝があるので右俣に乗り換えなくてはならない。雪が付いていれば何の問題もないが、雪が消えてブッシュがしまりの今日はそうはいかない。目の前の状況と地形図をチェックし、小尾根を越えて、硫黄沢右俣源頭斜面へ。完璧なルート取りだった。硫黄沢右俣へGo～。溝もなく、快適なザラメだ。右俣は3本に分かれているが、小尾根を越えて、一番北側のラインへ。

下部はさすがに荒れ気味だったが、最高でした。

小沢を登って東田代を目指してまた登る。お気に入りの東田代は天国のようだ。東田代からは樹林帯の急斜面滑降。最後はブナの花粉?油のような成分で板が滑らず真っ黒になってしまった。あとは車道を歩いて御池へ。これで一筆書きが完成した。

乗鞍岳

宮田幸男

山域山名：北アルプス・乗鞍岳（長野県）

期日：2015年6月6日(土)

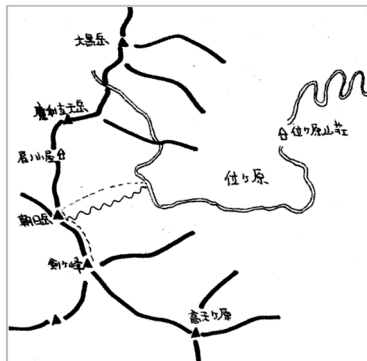
参加者：宮田（単独）

行動記録：乗鞍観光センター(9:40)=肩の小屋口 2610 m (10:30/10:55) → 朝日岳直下 2950 m (11:40/11:50) → 剣が峰 3026m (12:00/12:10) → 朝日岳 2976m (12:20) → 直下(13:00) ~ 肩の小屋口 (13:05/13:20) → 朝日岳直下(14:20/14:40) ~ 肩の小屋口(14:50/15:26) = 観光センター(16:10)

<天候：霧>

飯豊本山以降、3週間も空いてしまった。寒気が入って前夜から北アルプス稜線は降雪となり、今日も寒気が抜けきらない感じで回復が遅れ

そう。北アルプス南部の内陸に位置する乗鞍岳なら、白馬方面より早く晴れるだろうと、久しぶりにスキ



ーバスが出発する観光センターへ向かう。係員に聞いたら、夜には雨に変わって路面も問題なしだったので、第1便は定刻どおり2台出たらしい。それでも雪解けが早く少雪だからか、いつもより乗客は少なめとのこと。自分は最初から第1便に乗るつもりはなく、天候の回復が見込める第2便に乘車。第2便も2台出たが、半分近くは登山者と観光客だった。

案の定、大雪渓は深い霧。若者はそんななか、コブで遊んでいる。それにしても縦溝がひどい。例年よりかなり雪が少なく、いつもは広いバーンの朝日岳だが、すでにノド状に狭くなっている場所もある。朝日岳稜線に出るが、ここもすっかり雪が消えていた。視界が悪く、どこに雪があるのか、どうつながっているのかさっぱり分からないので、とりあえず山頂を踏むことにする。稜線はそうでもなかったが、山頂に出た途端に烈風地獄となる。標識に寄りかからないと飛ばされそうなくらいだった。



朝日岳山頂に戻ってしばし待機。雲は山を這うように流れているので、上空は青空だが、なかなか取れない。待って見たがっこうに変わらないので大雪渓まで1本行こう。上部は状態がいい斜面で、気持ちよくターンを刻む。下部は鬼の縦溝。一瞬だけ、いくら視界も回復か?と思ったが、すぐに深い霧に覆われる。縦溝がひどいので位ヶ原に下りる気にはなれず、すぐ出発する下山3便バスに乗るのもったいない。摩利支天斜面も縦溝がひどそうだし、仕方ないので朝日岳にもう1本いくか。2本目は大雪渓より南側のラインを滑る。最後は筋状の雪を拾って車道に出た。

アプローチが良すぎて、滑降距離も短かすぎて、人もたくさんで、ゲレンデ春スキーに似た感じ。バスが観光センターに着いたら、一気に天候も回復。ま、こんなもんでしょう。

白馬岳

宮田幸男

山域山名：白馬岳（長野県）

期日：2015年6月17日(水)

参加者：宮田（単独）

行動記録：猿倉 1230m(5:40)→白馬尻 1500m(6:25/6:40)→大雪溪 2310m(8:25/8:40)→2460m(9:20/9:25)→白馬山荘下 2760m(10:15/10:25)→白馬岳 2933m(10:45/11:00)→白馬山荘下(11:10/11:30)→白馬尻(12:15/12:25)→猿倉(13:00)
<天候：曇り、稜線霧>

先々週の乗鞍岳では物足りなさが残り、今シーズン最後の滑り納めで白馬



岳に向かう。夜半までの雷雨はあがり、麓から白馬鎗と杓子がおぼろげに見える。今日は平日、しかも登山シーズンとしては6月はオフ、ましてや寒気による大気不安定で午後から大雨の予報が出ているので、猿倉にはほかに登山者はない。長走沢の橋を渡ると、白馬尻下には初夏の花、サンカヨウやシラネアオイが咲き始めていた。

大雪溪末端でスキーを履く。この時期としては例年並みのようだ。ほぼ組み立てが終わった白馬尻小屋の脇を抜けて大雪溪を登る。さすがにこの時期になると、落石が多い。人の大きさぐらいの岩もゴロゴロあって、こんなのが雪の上を音もなく滑ってきたら堪らない。視界がない大雪溪は怖い。2号雪溪支尾根から土砂混じりの崩壊があり、いつものことだが杓子側からは頻繁に白い花崗岩がカラカラ落ちている。

葱平突端で夏道に上がる。足下にはシナノキンバイ。夏道が消えた上部はアイゼンで登る。30mほど登り小雪溪トラバースに入ると、この時期はステップが切っているのでありがたい。斜度が緩んだ斜面から、再びシールで登る。霧の間から沢で切れた雪溪が見える。沢の右岸のガレ場を登る。

足下にはハクサンイチゲがたくさん。雪溪を再び登り、何とか雪がつなげて村営頂上宿舎へ。ここはいつも雪がないところ。小屋番が雪溪末端の雪解け水にポンプアップ用のホースを突っ込み、小屋の水場を作る作業をしていた。

白馬山荘下にある最後の雪田を登り、一番上にスキーをデポして山頂を目指す。登山道脇にはオヤマノエンドウと、礼文島と本州では八ヶ岳とここ白馬岳にしか咲かないウルップソウ。花好きはこれを見にここまで登ってくるらしい。

今日はガラガラの白馬山荘を素通りして白馬岳山頂へ。もちろん誰もいない。信州側から絶えず沸く霧で視界は悪いが、黒部側は時々視界があって、旭岳と清水岳が少しだけ見えた。昨年と同じ時期、旭岳の向こう側レンゲ谷と中央ルンゼを滑ったが、今日は午後に崩れそうなのでパス。来年はあの清水岳に行くぞ。

デポ地点に戻ったら、雷鳥のつがいが散歩していた。空も暗くなってきたので、下山を急ごう。葱平の急斜面は岩も出ていたので慎重に滑降する。大小の岩と雪の中に沈んでいる石が非常にやっかいで、ターンするたびにスキー板が悲鳴をあげる。落石地獄を突破してほっとひと息だが、雪面は硬い凸凹雪で、雪溪末端まで忍耐系滑降だった。それでも標高差1000mを滑って満足。やっと板納めをする気分になった。

猿倉に着いて、片づけていたら雨が落ちてきて、突然どしゃ降りに。ドンピシャの下山でした。(了)

私たちの山旅

第24集

発行日 2015年12月12日

発行者 熊谷トレッキング同人

URL <http://kumatrek.jp.org>